

# 粕屋町 基礎調査報告書

令和6年10月

# 目次

Agenda

ベンチマーク都市・・・・・・・・・・・・・・3

I.人口・・・・・・・・・・・・・・4

II.産業・経済・・・・・・・・・・・・・・30

III.子育て・教育・・・・・・・・・・・・・・70

IV.医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・104

V.生活環境・・・・・・・・・・・・・・113

VI.行政・・・・・・・・・・・・・・135

# ベンチマーク都市

## ベンチマーク都市について

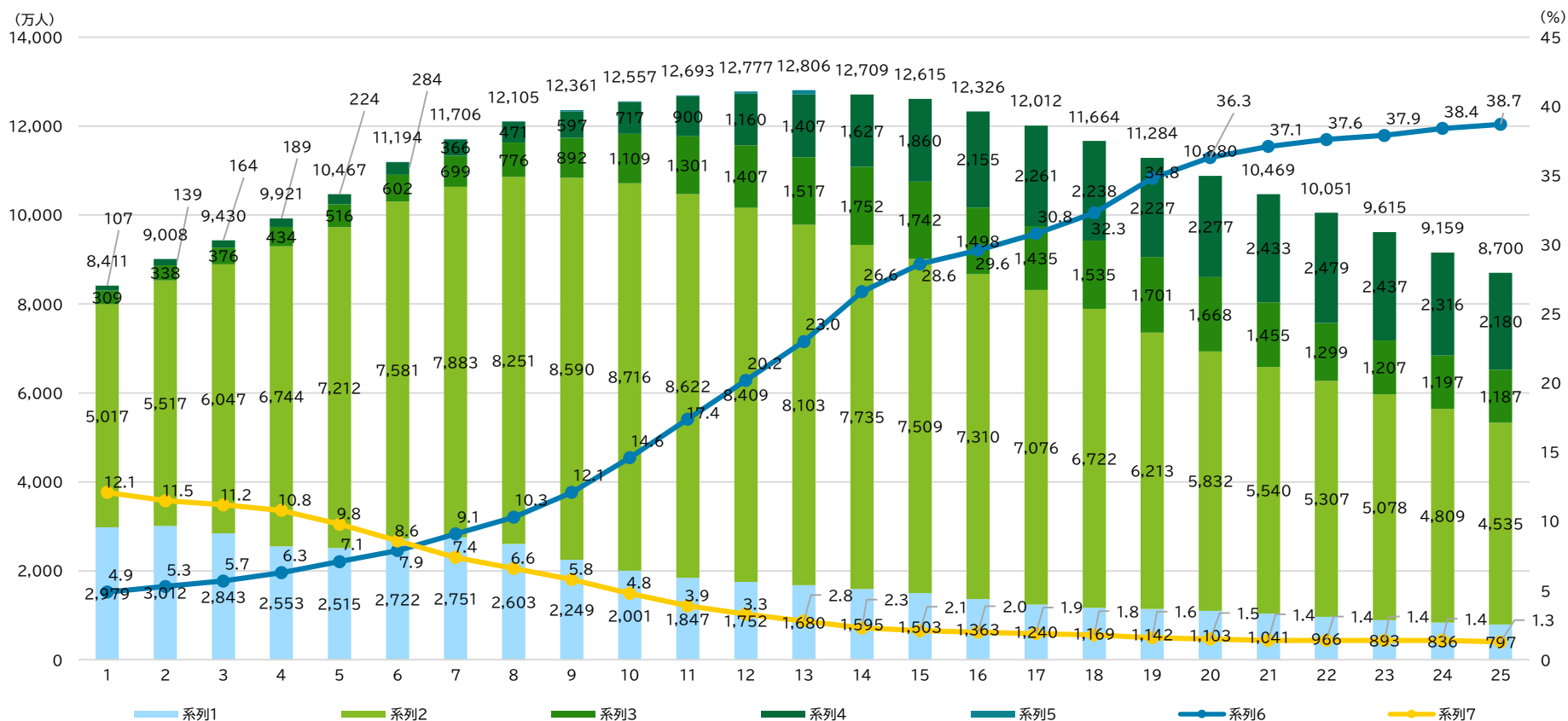
✓下表のとおり、粕屋町の各データとの比較対象として、ベンチマーク都市を設定した。

NO.	都道府県	団体名	備考
1	福岡県	古賀市	糟屋地域
2	福岡県	宇美町	糟屋地域
3	福岡県	篠栗町	糟屋地域
4	福岡県	志免町	糟屋地域
5	福岡県	須恵町	糟屋地域
6	福岡県	新宮町	糟屋地域
7	福岡県	久山町	糟屋地域
8	福岡県	筑紫野市	福岡都市圏
9	福岡県	春日市	福岡都市圏
10	福岡県	大野城市	福岡都市圏
11	福岡県	宗像市	福岡都市圏
12	福岡県	太宰府市	福岡都市圏
13	福岡県	福津市	福岡都市圏
14	福岡県	糸島市	福岡都市圏
15	福岡県	那珂川市	福岡都市圏、人口が粕屋町と同規模かつ人口増加率がプラス
16	茨城県	阿見町	人口が粕屋町と同規模かつ人口増加率がプラス、近年人口5万人を達成
17	福岡県	福岡市	グラフの一部で比較

# I.人口 | 1.将来人口推計

## 日本の人口推移

- ▶ 少子高齢化の進行により、日本の生産年齢人口(15~64歳)は1995(平成7)年をピークに減少しており、2050(令和32)年には5,540万人にまで減少すると見込まれている。
- ▶ 生産年齢人口の減少により、労働力の不足、国内需要の減少による経済規模の縮小など、社会的・経済的課題の深刻化が懸念される。

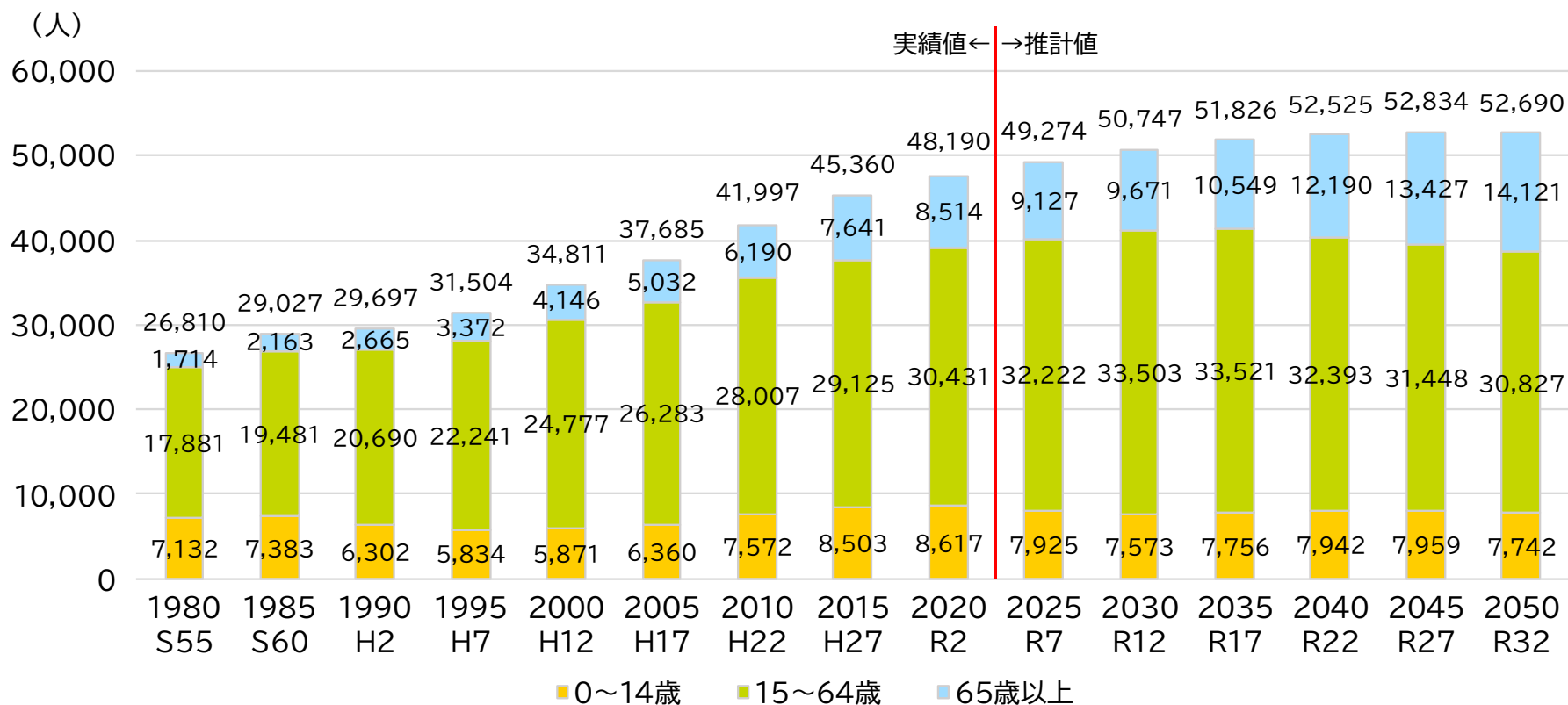


出典:内閣府「令和6年版高齢社会白書」

# I.人口 | 1.将来人口推計

## 総人口と人口構成の推移

- 町の人口は1980(昭和55)年以降、一貫して増加しており、2045(令和27)年まで増加し、2050(令和32)年はやや減少する見込みである。
- 15～64歳人口は1980(昭和55)年以降増加が続いており、2035(令和17)年まで増加し、その後減少していく見込みである。
- 65歳以上人口は一貫して増加しており、2045(令和27)年には13,000人を超え、全体の4分の1以上となる見込みである。



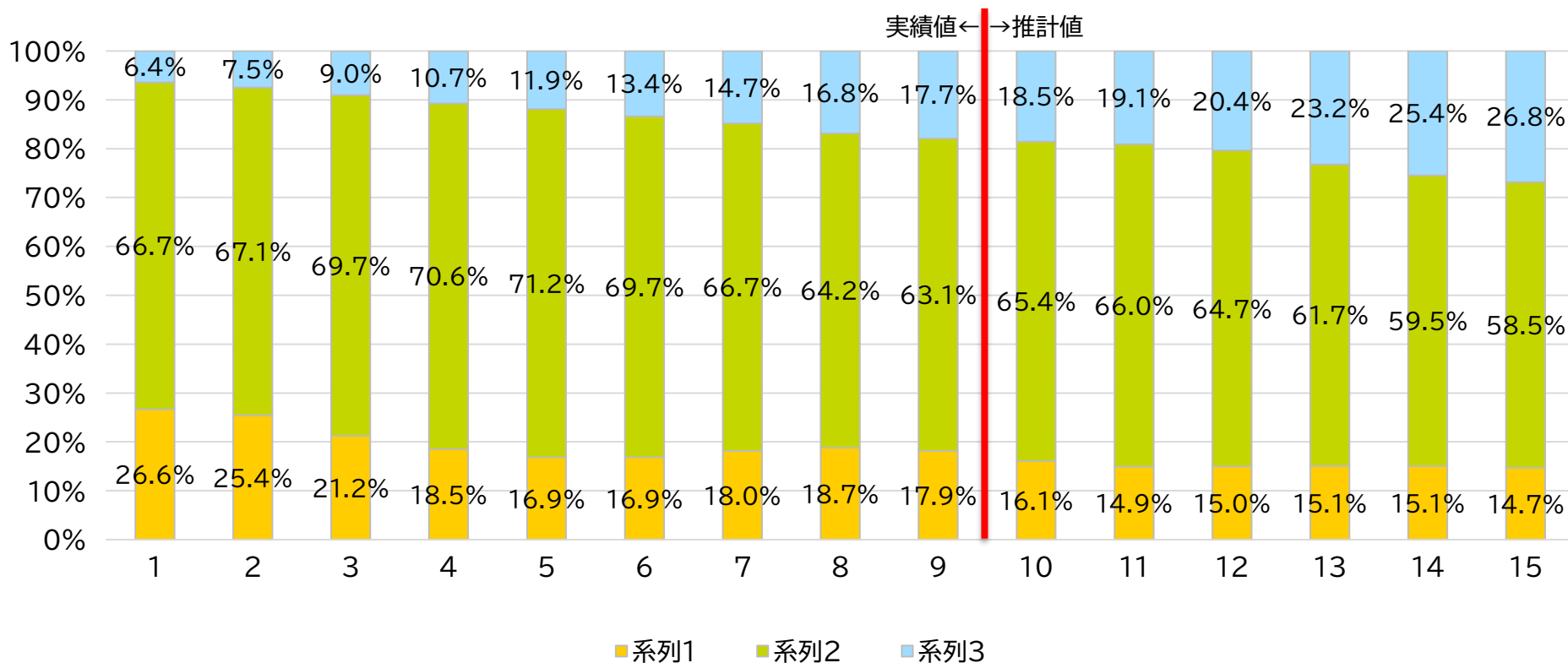
※総人口は不詳人口込みの数字ため、各年齢別人口の合計値と総人口は必ずしも一致しない

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

# I.人口 | 1.将来人口推計

## 人口の年齢構成比の推移

- 0～14歳人口割合は2005(平成17)年まで減少傾向にあり、2010(平成22)年と2015(平成27)年には増加したが、以降は再び減少傾向となり2030(令和12)年以降は15%前後を推移する見込みである。
- 15～64歳人口割合は2000(平成12)年以降減少しており、2045(令和27)年から60%を下回り、以降も減少する見込みである。
- 65歳以上人口割合は一貫して増加しており、2045(令和27)年には25%を超える推計となっている。



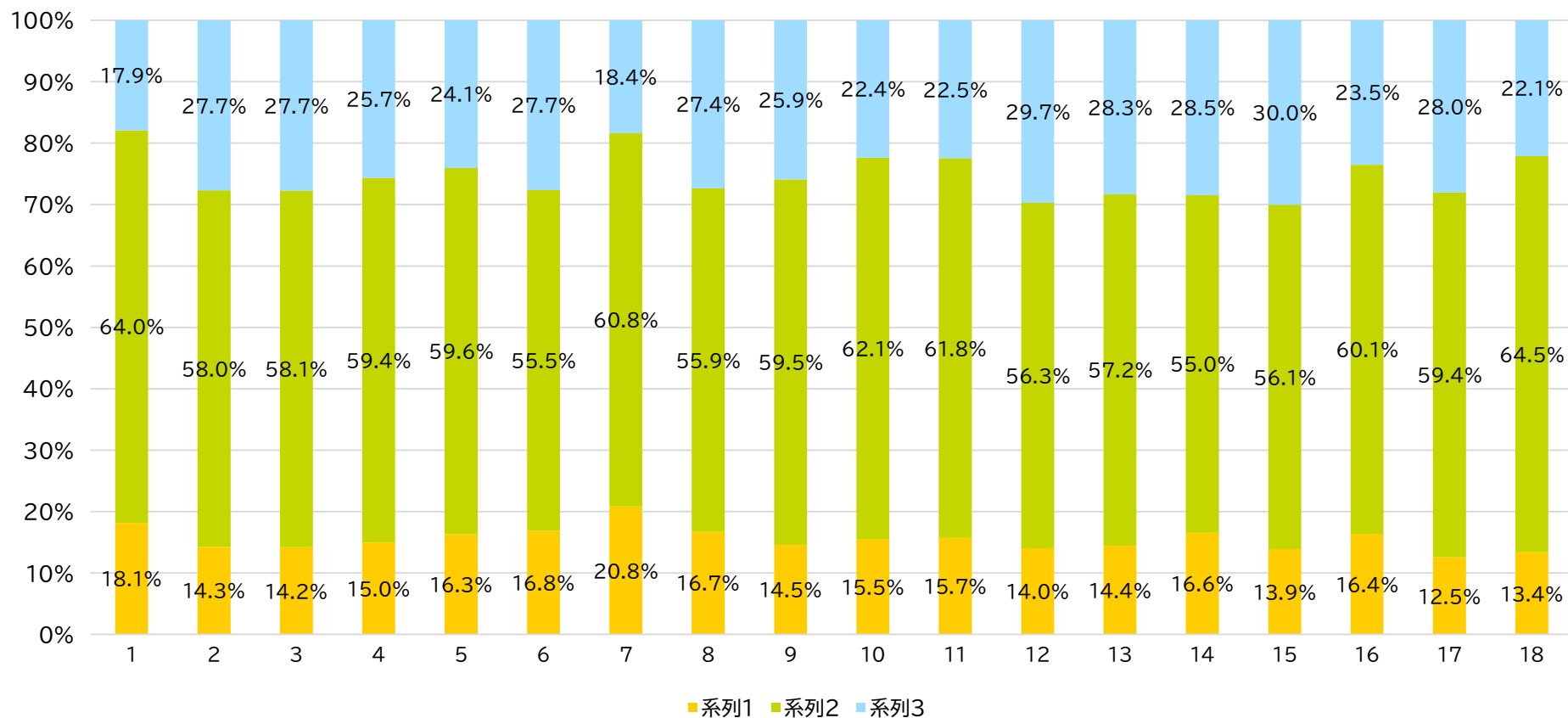
※データの算出に不詳人口を加味していないため、各年齢別人口割合の合計値は必ずしも100%とならない

出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 1.将来人口推計

## 人口の年齢構成の比較(2020年)

- 人口の年齢構成を比較すると、粕屋町は15～64歳の生産年齢人口の割合が64%と、ベンチマーク都市の中で福岡市に次いで2番目に高い。0～14歳の年少人口割合も18.1%で新宮町に次いで2番目に高い水準となっている。
- 65歳以上の老年人口の割合は17.9%でベンチマーク都市の中では最も低く、粕屋町は少子高齢化の進行が他都市よりも比較的遅いと考えられる。

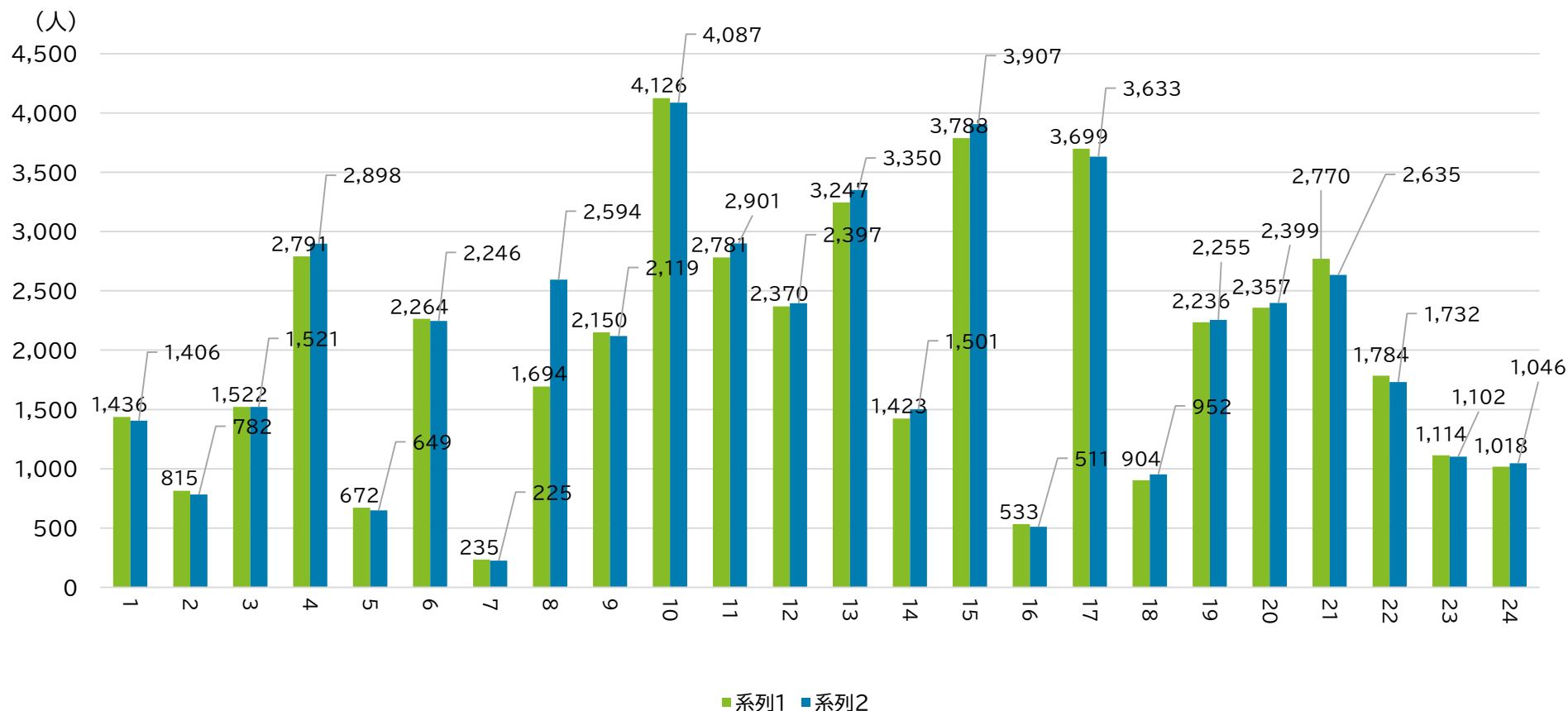


出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 2.地区別人口

## 地区別人口の推移

- 粕屋町の人口を行政区別にみると、2019(令和元)年と2024(令和6)年の比較で人口が大きく変化しているのは、酒殿地区のみであり、その他の地区はほぼ同じ人口規模となっている。
- 酒殿地区は2019(令和元)年から2024(令和6)年にかけて900人程度の増加となっている。



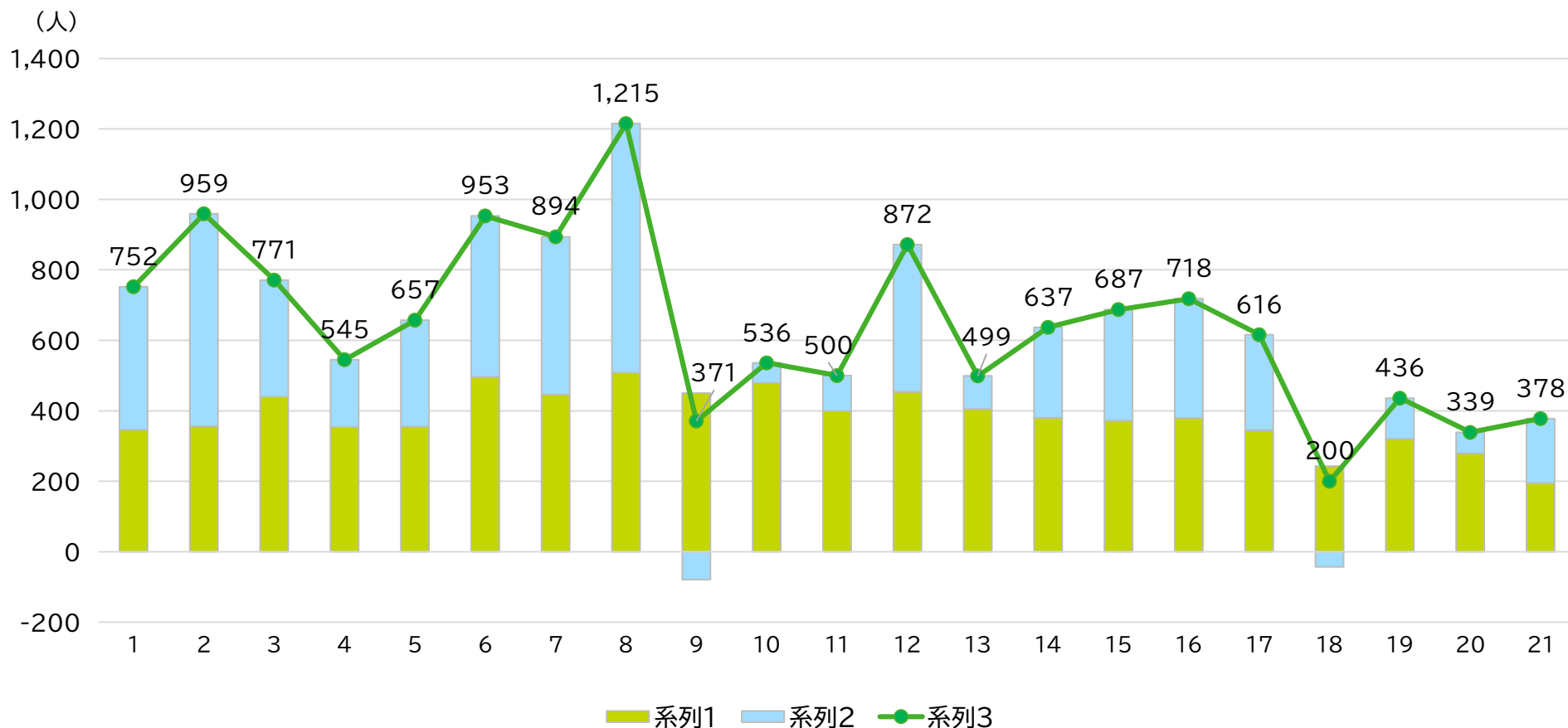
出典:粕屋町ホームページ



# I.人口 | 3.自然増減・社会増減の推移

## 自然増減・社会増減の推移

- 粕屋町の人口は自然増減・社会増減ともにプラスの状態が継続しており、2010(平成22)年と2019(令和元)年のみ社会増減数がマイナスとなっている。
- 自然増減数は、2020(令和2)年以降徐々に減少してはいるが、未だプラスの状態であり、自然増が継続している。

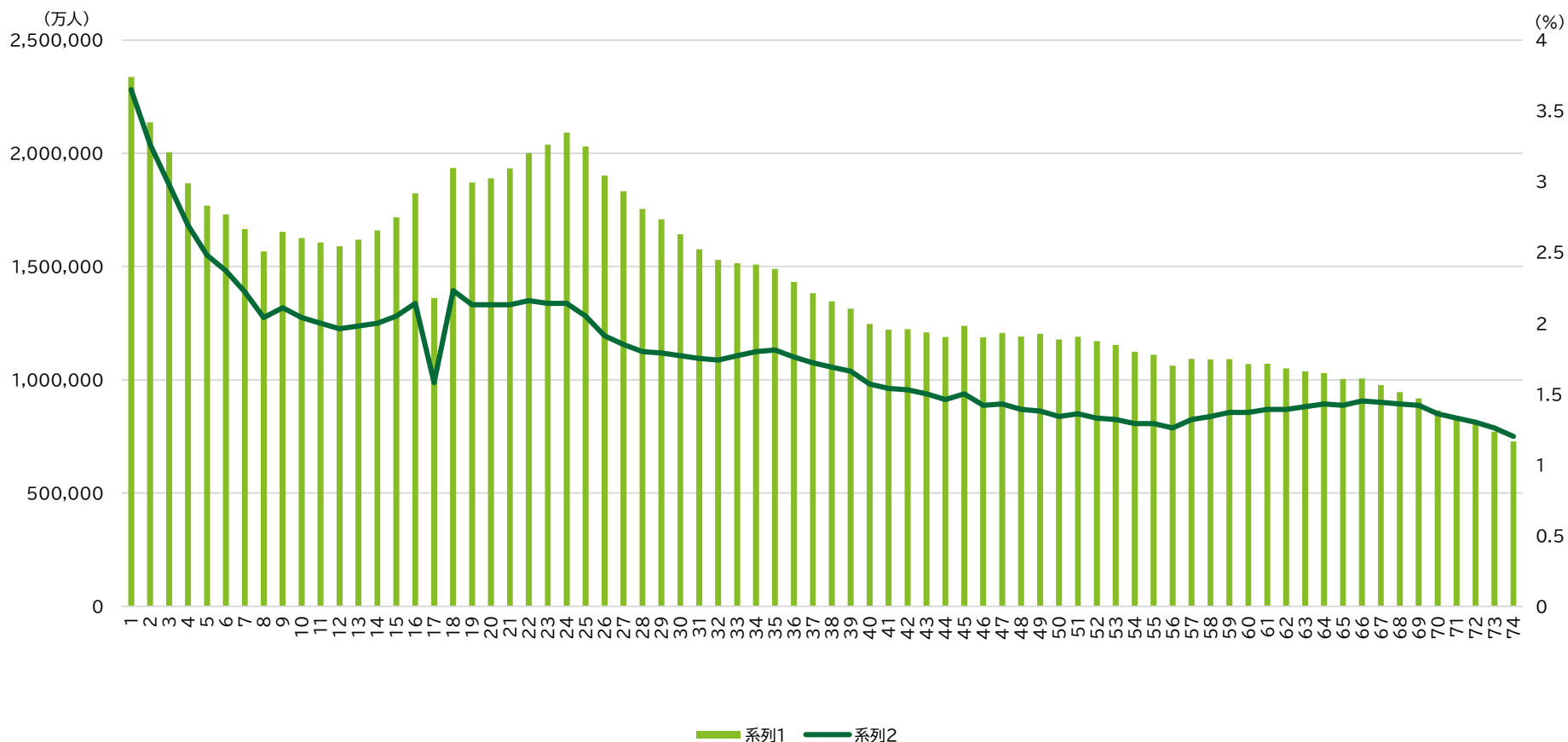


出典:総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

# I.人口 | 4.自然増減

## 日本の出生数・合計特殊出生率の推移

- ▶ 日本国内の出生数と合計特殊出生率の推移をみると、出生数は1973(昭和48)年以降一貫して減少し続け、2016(平成28)年には1950(昭和25)年以降の統計で初めて100万人を下回った。
- ▶ 合計特殊出生率もそれとともに低下していたが、2005(平成17)年以降は微増傾向に転じ、1.4前後を推移している。しかし、2015(平成27)年以降は出生数と合計特殊出生率ともに減少が続き、合計特殊出生率は2019(令和元)年に1.4を下回った。

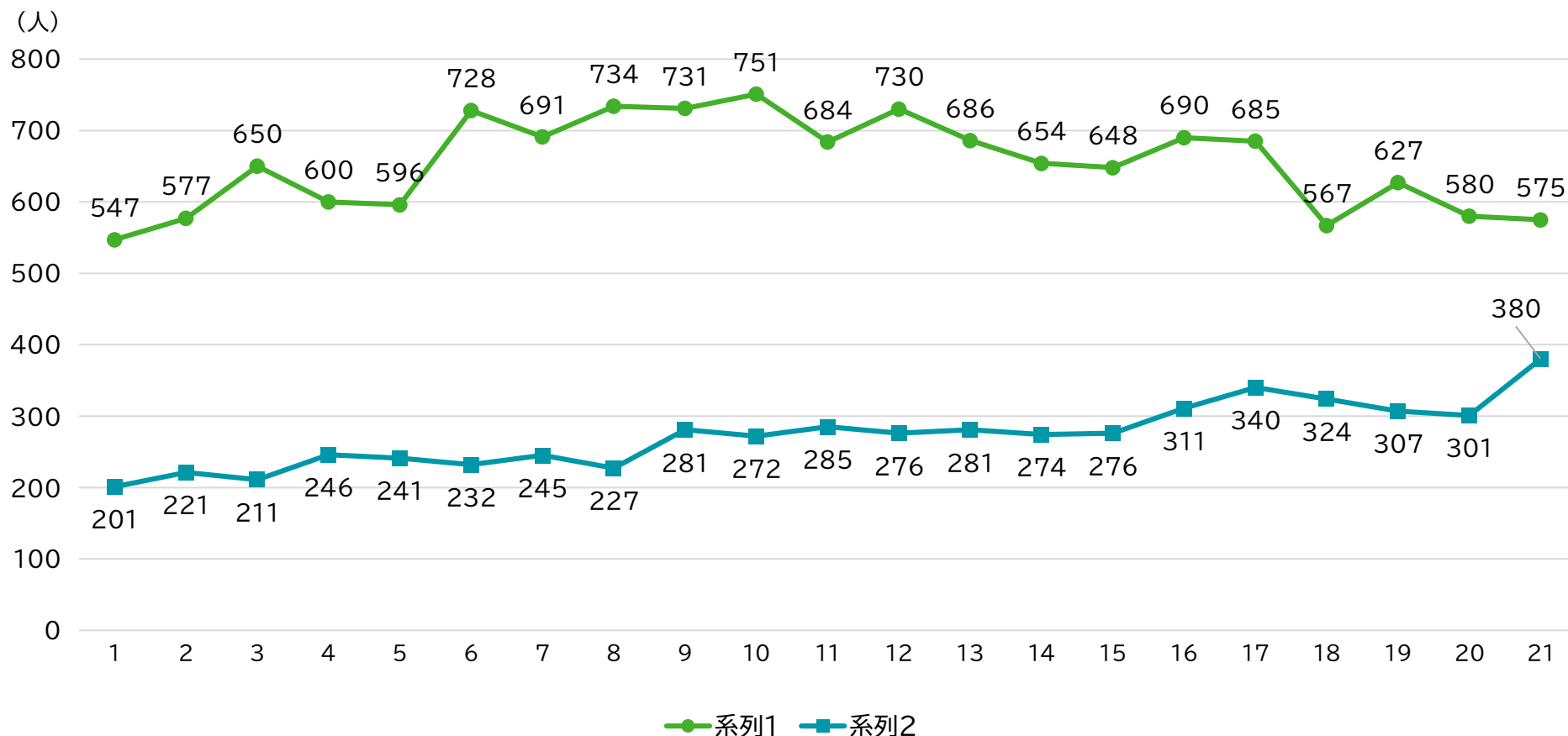


出典:厚生労働省「人口動態調査」

# I.人口 | 4.自然増減

## 出生数・死亡数の推移

- ▶ 出生数は2002(平成14)年以降増加傾向が続いていたが、2011(平成23)年をピークに減少傾向に転じ、2022(令和4)年には575人となっている。ピークからみて減少はしているものの2000年代と同水準である。
- ▶ 一方、死亡数は一貫して増加傾向が続いており、2017(平成29)年以降は300人台となっている。
- ▶ 少しずつ出生数と死亡数の差が縮まっており、今後死亡数が出生数を上回る自然減となることも考えられる。

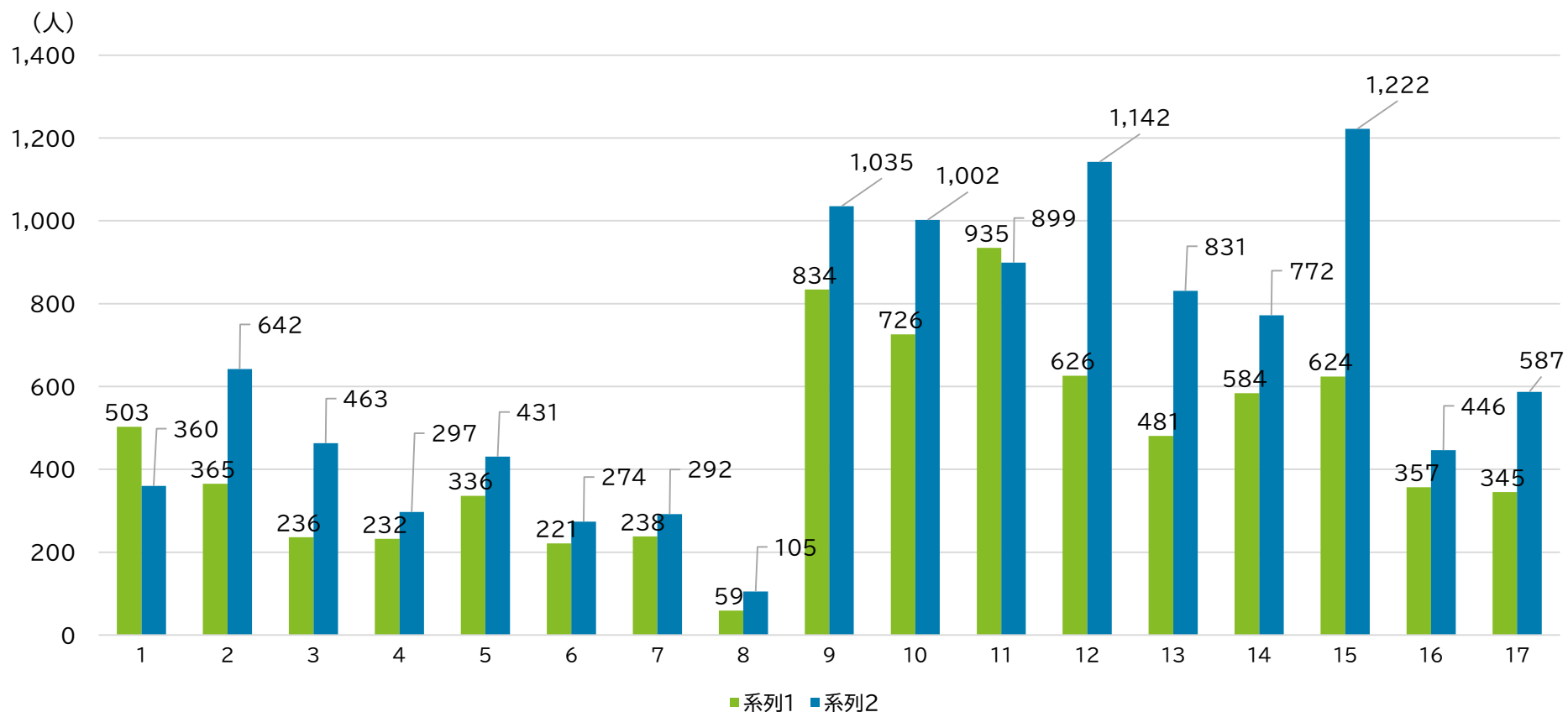


出典:総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

# I.人口 | 4.自然増減

## 出生数・死亡数の比較(2023年)

- 粕屋町は出生数が死亡数を上回る自然増の状態であり、ベンチマーク都市の中で自然増となっているのは他に大野城市のみである。
- 死亡数が出生数の倍程度になっている市町もある一方で、粕屋町は出生数が死亡数を140人程度上回っており、他都市よりも出生数が多く、死亡数が少ないことがわかる。

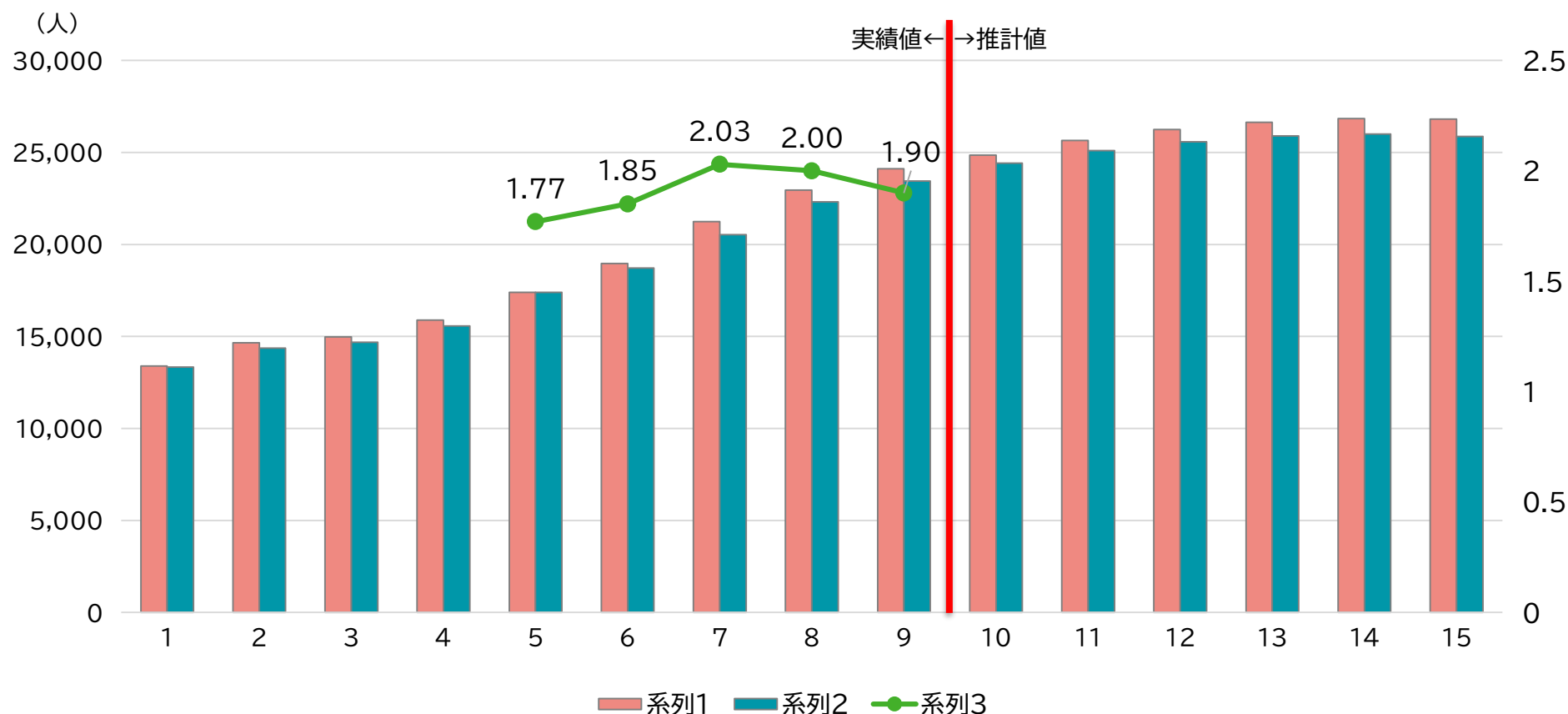


出典:厚生労働省「人口動態調査」

# I.人口 | 4.自然増減

## 男女別人口推計と合計特殊出生率

- 人口は男女ともに一貫して増加傾向にあるが、2020(令和2)年以降は増加幅が小さくなり、2050(令和32)年頃に減少傾向に転じる見込みとなっている。性別で見ると女性の人口の方が常に若干多くなっている。
- 合計特殊出生率は2000(平成12)年以降増加し、2010(平成22)年と2015(平成27)年は2以上となっていたが、2020(令和2)年には1.90に減少している。

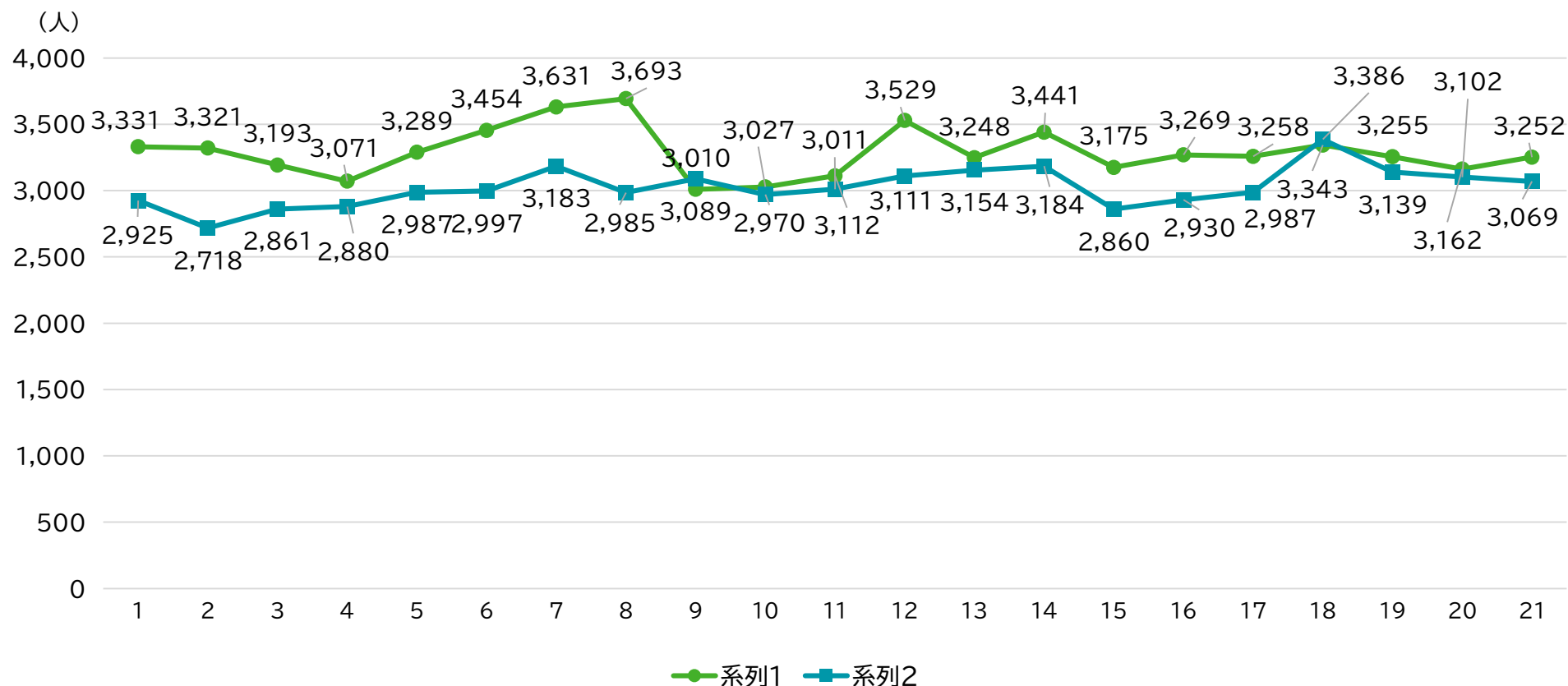


出典:総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

# I.人口 | 5.社会増減

## 転入数・転出数の推移

- 転入数は2005(平成17)年から2009(平成21)年まで増加したのち、2010(平成22)年以降は3,000から3,500人前後を推移している。
- 転出数は2002(平成14)年以降、一貫して増加傾向にあり、2016(平成28)年に一度減少したもののその後再び増加している。
- 2002(平成14)年以降において、転出数が転入数を上回った年は、2010(平成22)年、2019(令和元)年のみである。

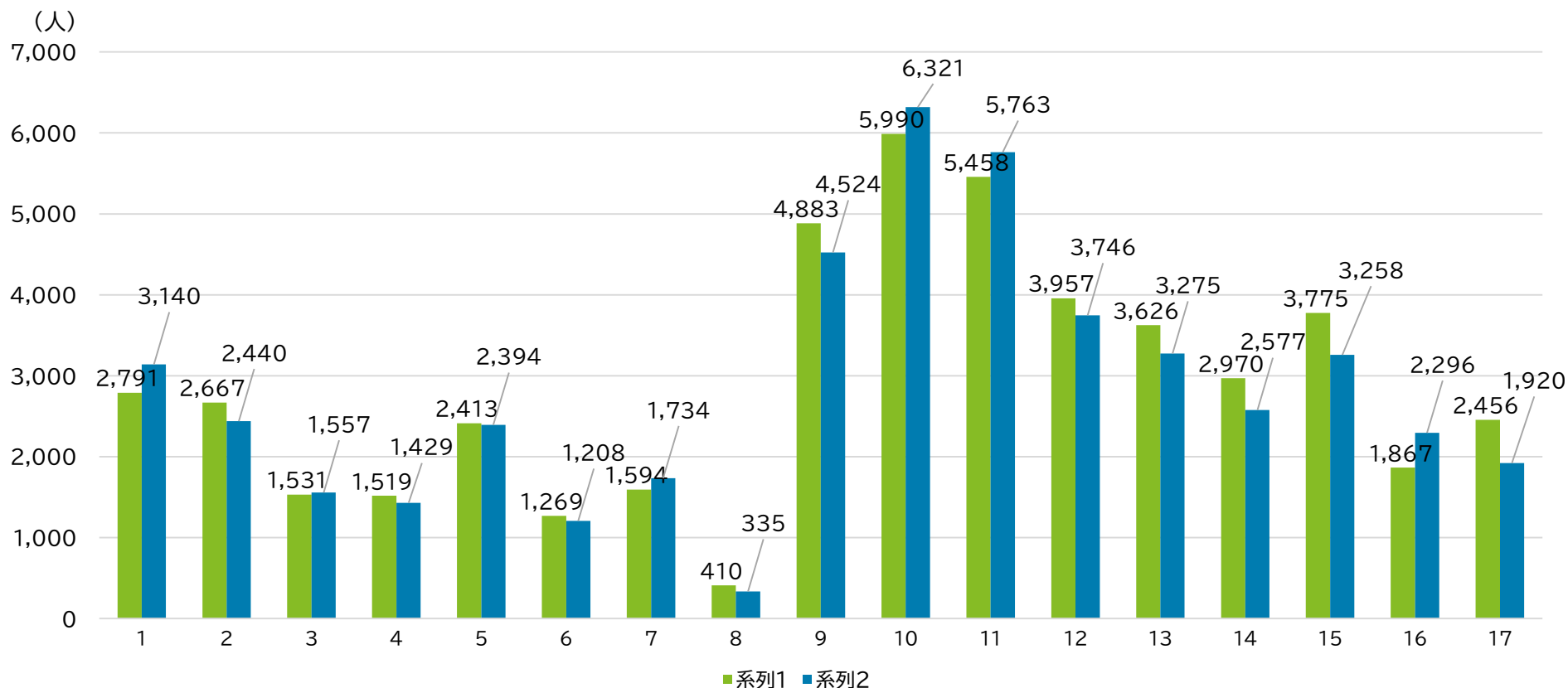


出典:総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

# I.人口 | 5.社会増減

## 転入数・転出数の比較(2023年)

- 粕屋町は2023(令和5)年時点では転出数が転入数を上回る社会減の状態であり、糟屋地域の中では他に宇美町と新宮町が社会減となっているが、粕屋町は転入数と転出数に約300人の差があり、社会減の影響は大きいといえる。
- 福岡都市圏をみても比較的社會増になっている都市は多く、自然増が強い粕屋町において社会増減は今後課題となる可能性があると考えられる。



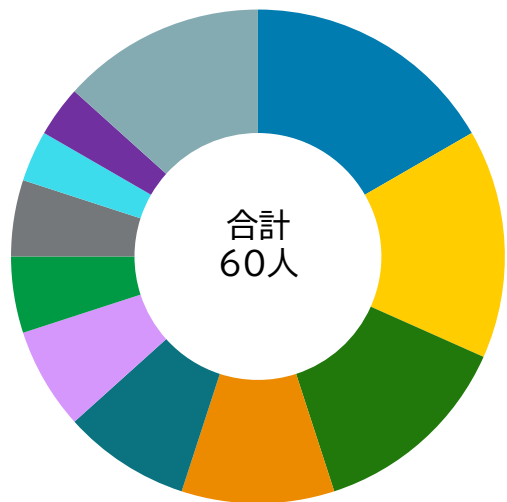
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# I.人口 | 5.社会増減

## 転入・転出数の地域別内訳(2023年)

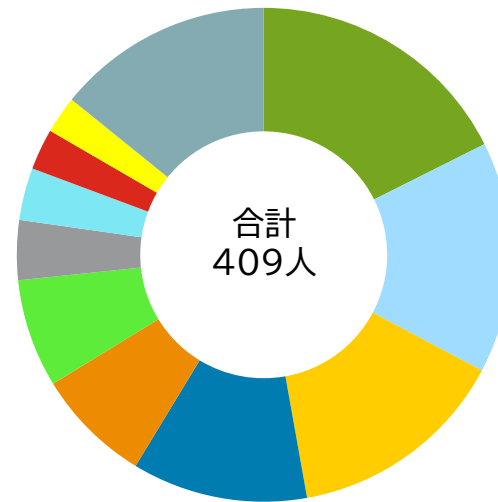
- 転入超過数の多い地域としては、長崎県長崎市、大分県大分市、大阪府大阪市など、比較的離れた主要都市が多いが、転入超過数自体は少なく、転出超過数を大きく下回る状態となっている。
- 転出超過数は、転出先として福岡市が最も多いが、須恵町、志免町、宇美町など周辺の糟屋地域も多く、転入超過数では糟屋地域からの転入はあまり見受けられないことから、糟屋地域への人口流出が起こっていると推察される。

転入超過数



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

転出超過数



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

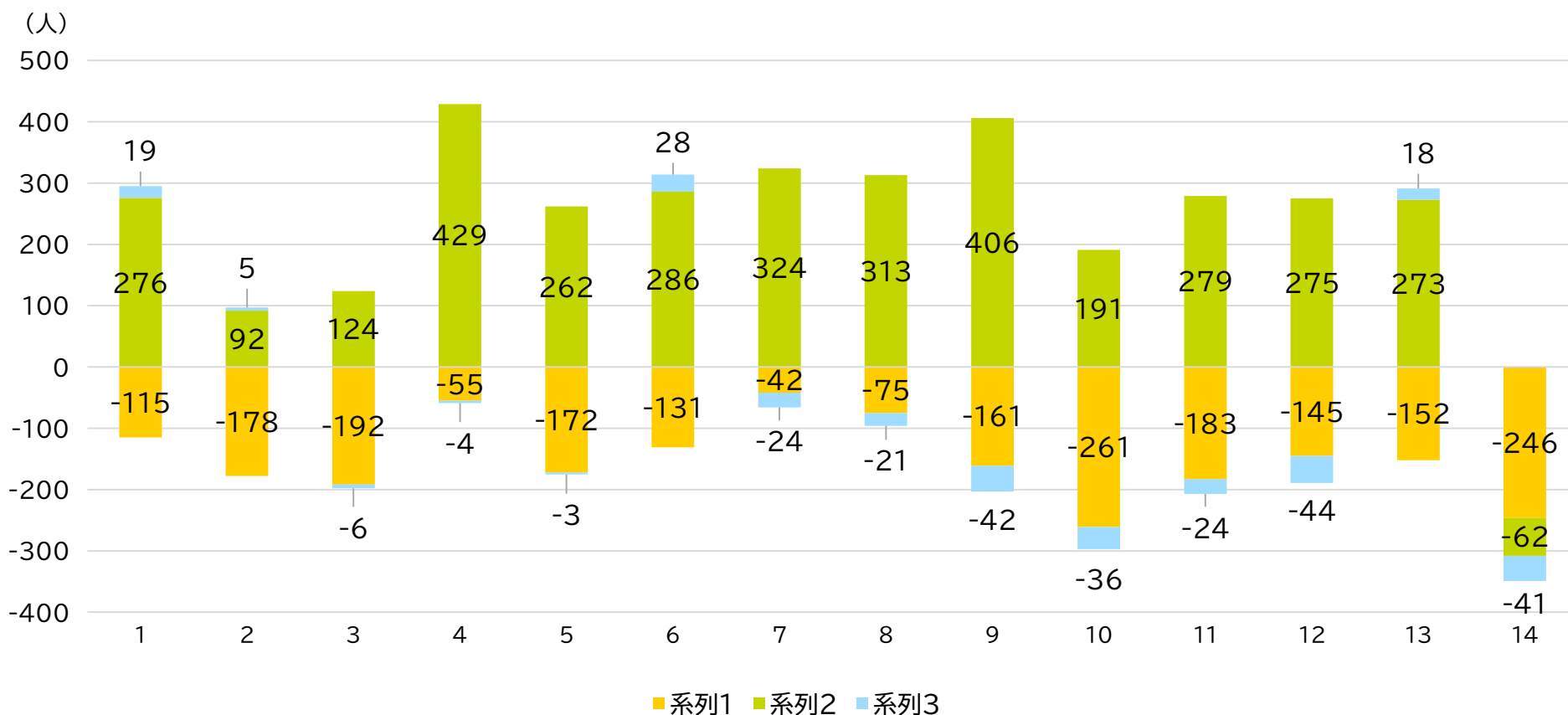
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」



# I.人口 | 5.社会増減

## 年齢階級別人口移動の推移

- 年齢別で人口移動をみると、2010(平成22)年以降一貫して転出超過となっているのは0～14歳の年少人口であり、2019(令和元)年には261人の転出超過となった。15～64歳の生産年齢人口は一貫して転入超過傾向が続いていたが、2023(令和5)年に2010(平成22)年以降初めて転出超過となっている。
- 2022(令和4)年までは全体的に転入超過傾向であったが、2023(令和5)年に一気に転出超過に転じており、2024(令和6)年以降の動向を踏まえた社会減少対策を取る必要があると考えられる。



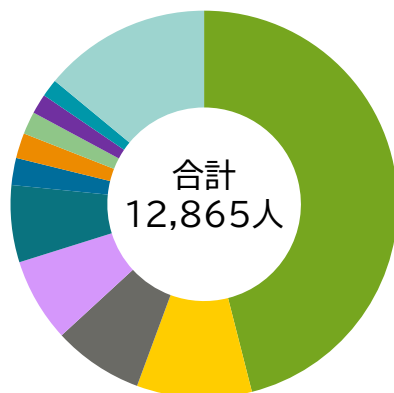
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# I.人口 | 5.社会増減

## 流入・流出通勤者数の地域別内訳(2020年)

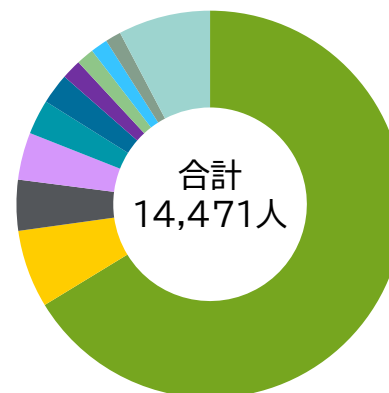
- ▶ 2020(令和2)年の通勤者の流出入状況を見ると、流入通勤者数より流出通勤者数の方が1,500人程度多い。
- ▶ 流入通勤者の流入元地域としては、福岡市が最も多く、約50%と半分を占めている。流出通勤者の流出先に関しても最も多いのは福岡市で、60%を超えている。その他の地域は志免町や篠栗町、須恵町など糟屋地域が多く、流入元・流出先で大きな差はない。

流入通勤者数



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

流出通勤者数



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

※通勤者とは、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者を指す  
テレワーク勤務が半数以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない

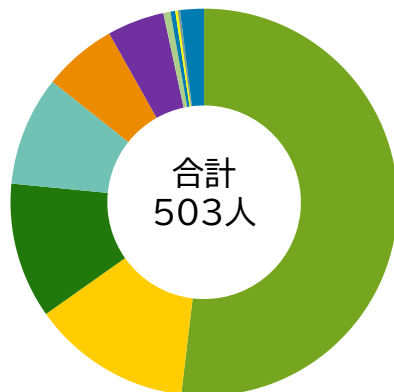
出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 5.社会増減

## 流入・流出通学者数の地域別内訳(2020年)

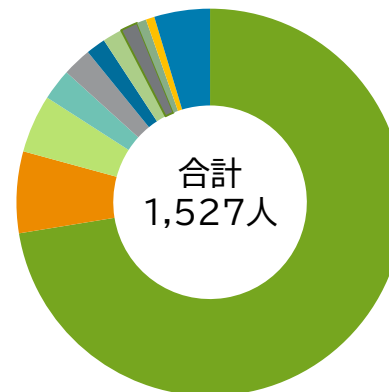
- 2020(令和2)年の通学者の流出入状況を見ると、流入通学者数より流出通学者数の方が1,000人程度多い。
- 流入通学者の流入元地域としては、通勤者同様に福岡市が最も多く、半分以上を占めている。流出通学者の流出先に関しても最も多いのは福岡市で、約70%と、粕屋町から町外に通学している学生はほとんどが福岡市へ通学していることがわかる。その他の地域はこちらも通勤者同様、志免町や篠栗町、須恵町、新宮町など糟屋地域が多くなっている。

流入通学者数



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

流出通学者数



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

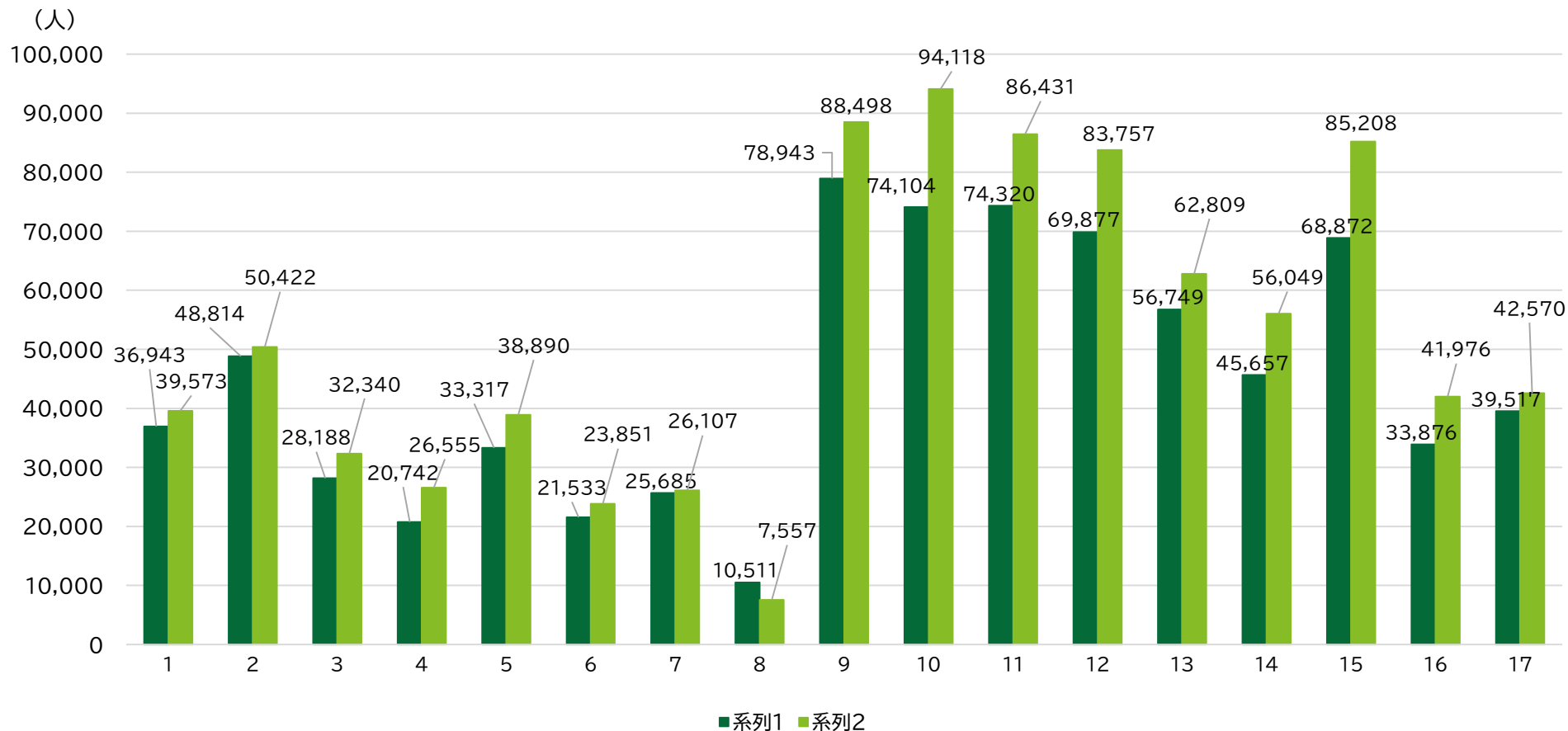
※通学者とは、15歳以上の主に高等学校や専修学校、各種学校に通学する者を指す

出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 5.社会増減

## 昼間人口・夜間人口の比較(2020年)

- ▶ 粕屋町は昼間人口より夜間人口の方が多く、日中は通勤・通学等で町外に出ている人口が多いことがわかる。
- ▶ ベンチマーク都市は久山町を除く全ての都市で昼間人口を夜間人口が上回っており、糟屋地域や福岡都市圏の地域は福岡市や北九州市などの大都市へのアクセスが良いことから、日中は流出超過になりやすいと推察される。
- ▶ 阿見町においても、東京や水戸市まで約1時間の距離に位置していることもあり、町外に通勤・通学している人が多いと考えられる。

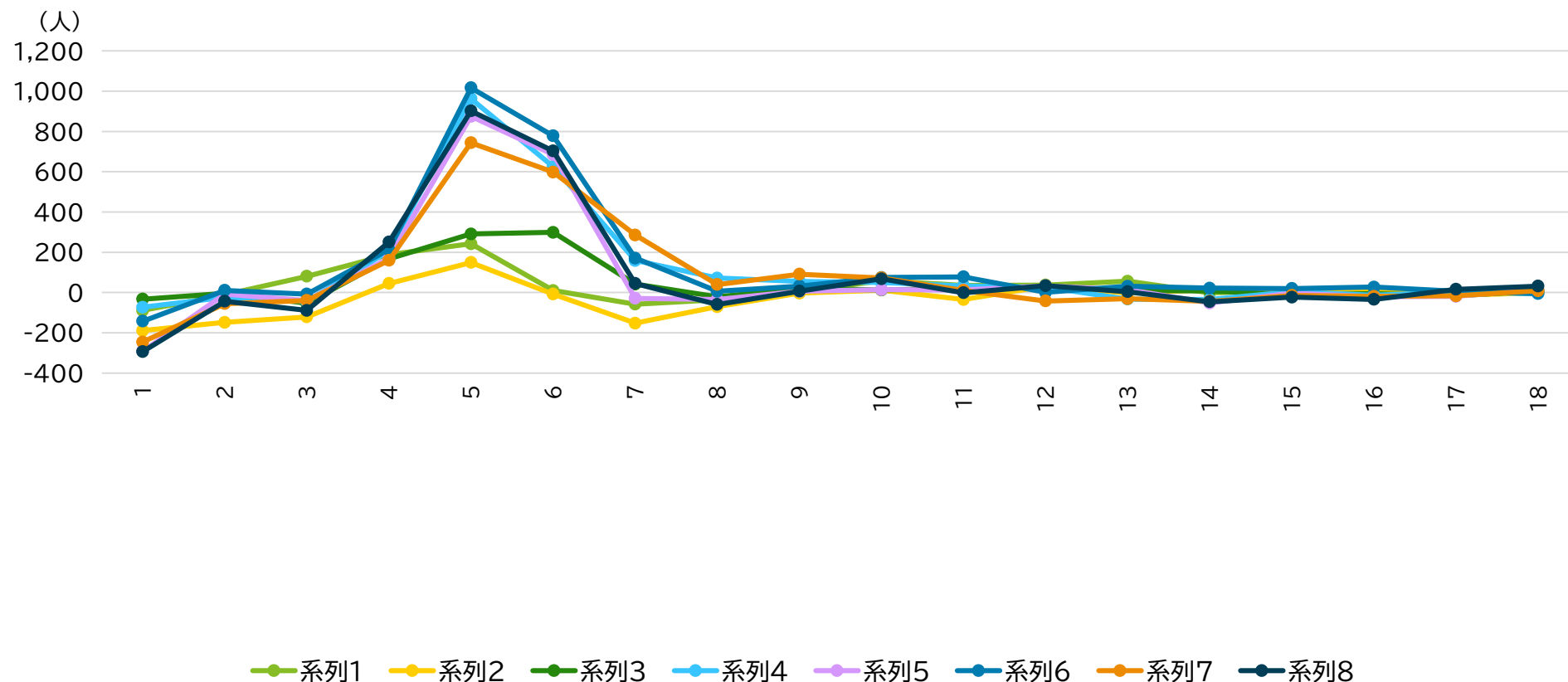


出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 5.社会増減

## 年齢階級別人口移動の長期的推移

- ▶ 粕屋町は多くの地域で転出超過となりやすい10～14歳→15～19歳と15～19歳→20～24歳の階級で社会増減がほぼない、もしくは社会増となっており、進学や就職を理由に転出する若年層が比較的少ない傾向にあることがわかる。
- ▶ 一方で、20～24→25～29歳、25～29→30～34歳の階級では大きな転入超過となっており、就職や結婚、子育てを機に粕屋町に転入する人が多いと推察される。また、この世代の転入超過は1995(平成7)年以降急激に増加しており、2000(平成12)年前後から粕屋町への転入数が大幅に増えたと考えられる。

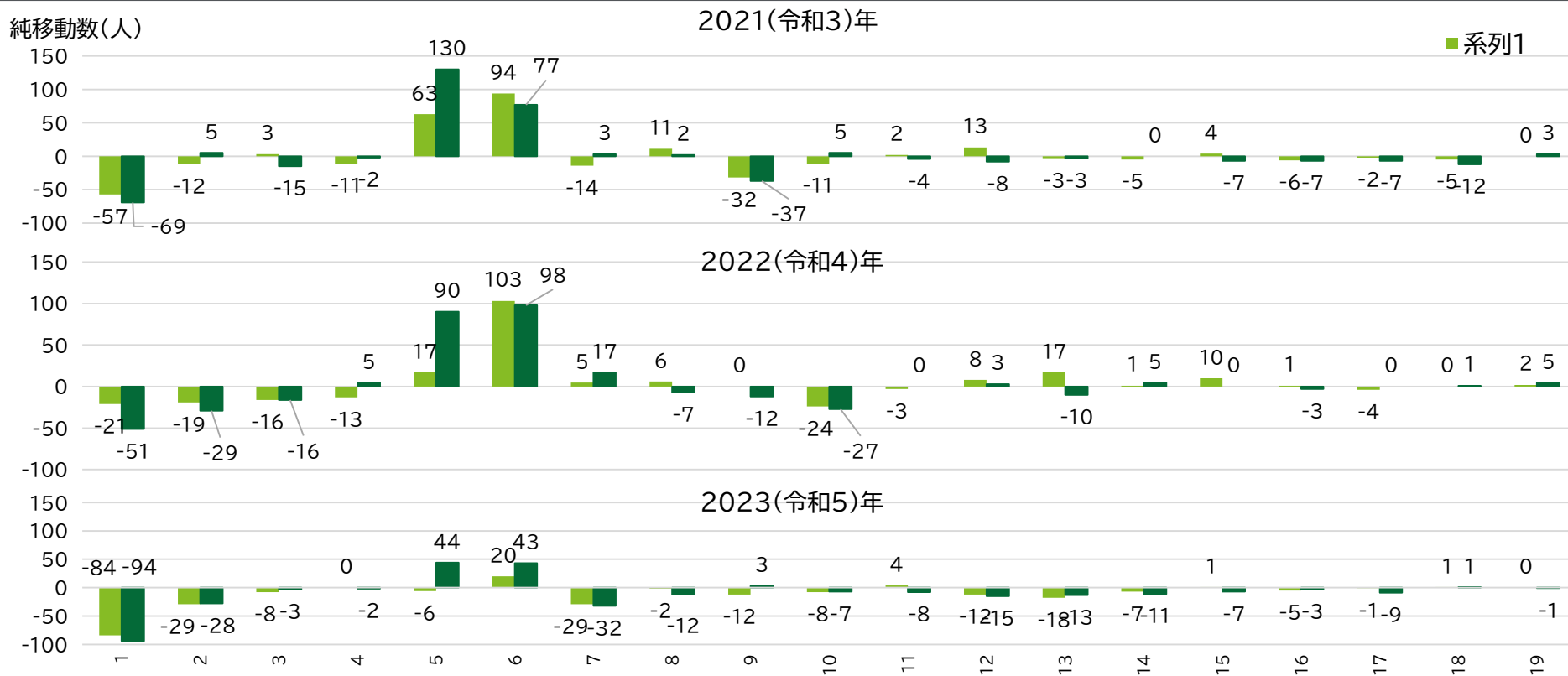


出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

# I.人口 | 5.社会増減

## 性別・年齢階級別人口移動の短期的推移

- ▶ 直近3年間の推移で見ると、19歳以下の転出超過傾向はあるものの、若年世代の進学や就職によって転出超過が起きやすいと考えられる20代で転入超過となっているのは粕屋町の特徴的な傾向だといえる。
- ▶ 一方、2023(令和5)年には転入超過の幅が大きく減少しており、30代やその他多くの年代で転出超過がみられる。
- ▶ 2023(令和5)年の転出超過傾向が一時的なものであるかどうか、今後の動向を確認する必要があると考えられる。

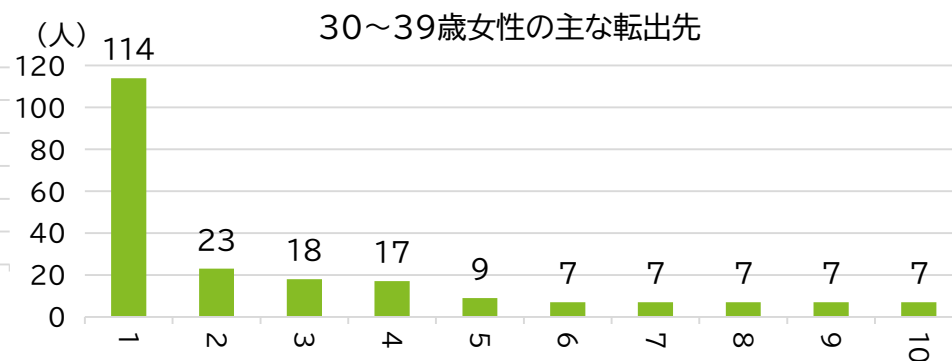
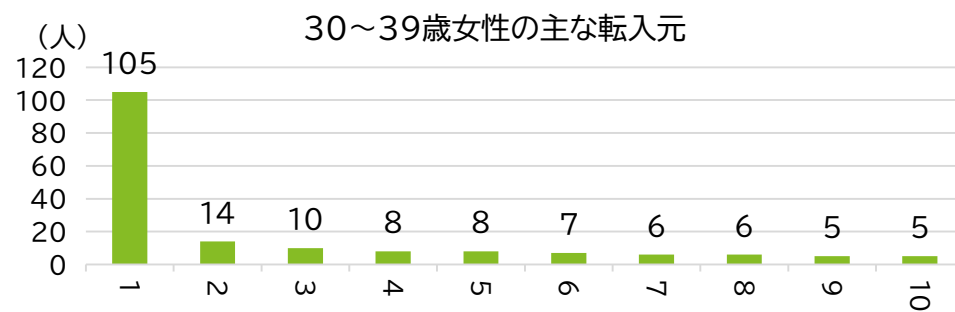
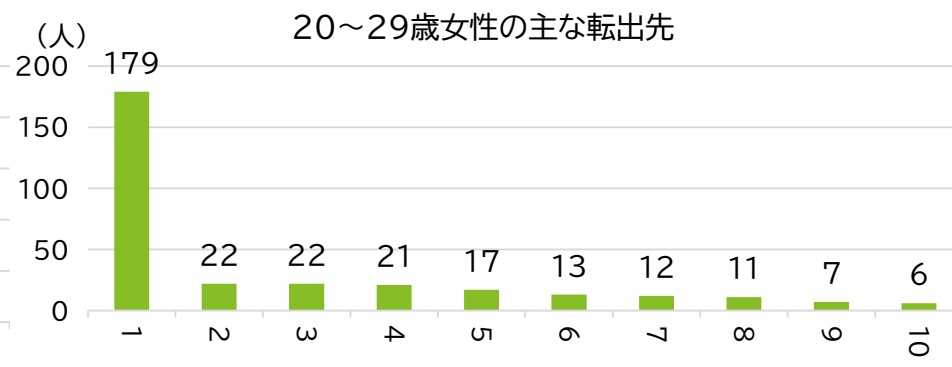
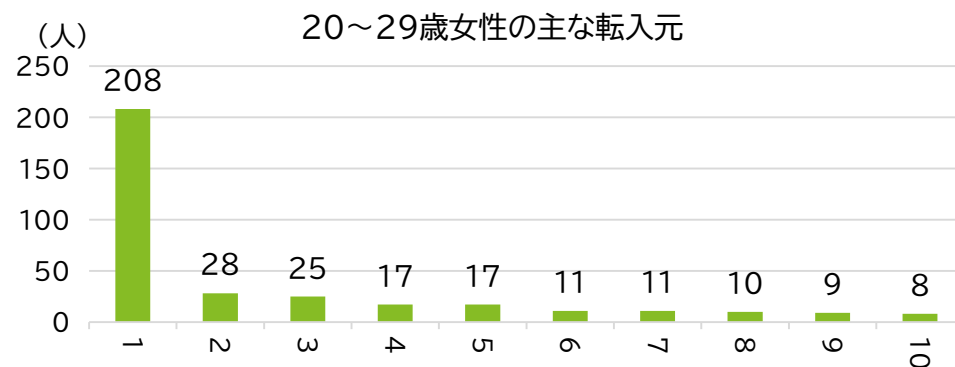


出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# I.人口 | 5.社会増減

## 若年層及び子育て世代の人口移動の比較(2023年)

- 20～30歳代の女性に焦点を当てて、2023(令和5)年の人口移動動向をみると、転入・転出ともに最も人口移動が多いのは福岡市で、他市町とは大きな差がある。
- 20代は転入超過、30代は転出超過傾向にあるが、転入元・転出先に大きな差はなく、転出数に関しては20代、30代でほとんど同程度となっているため、30代の転出超過は転出数の増加も考えられる一方で、転入数の少なさが影響している可能性もある。

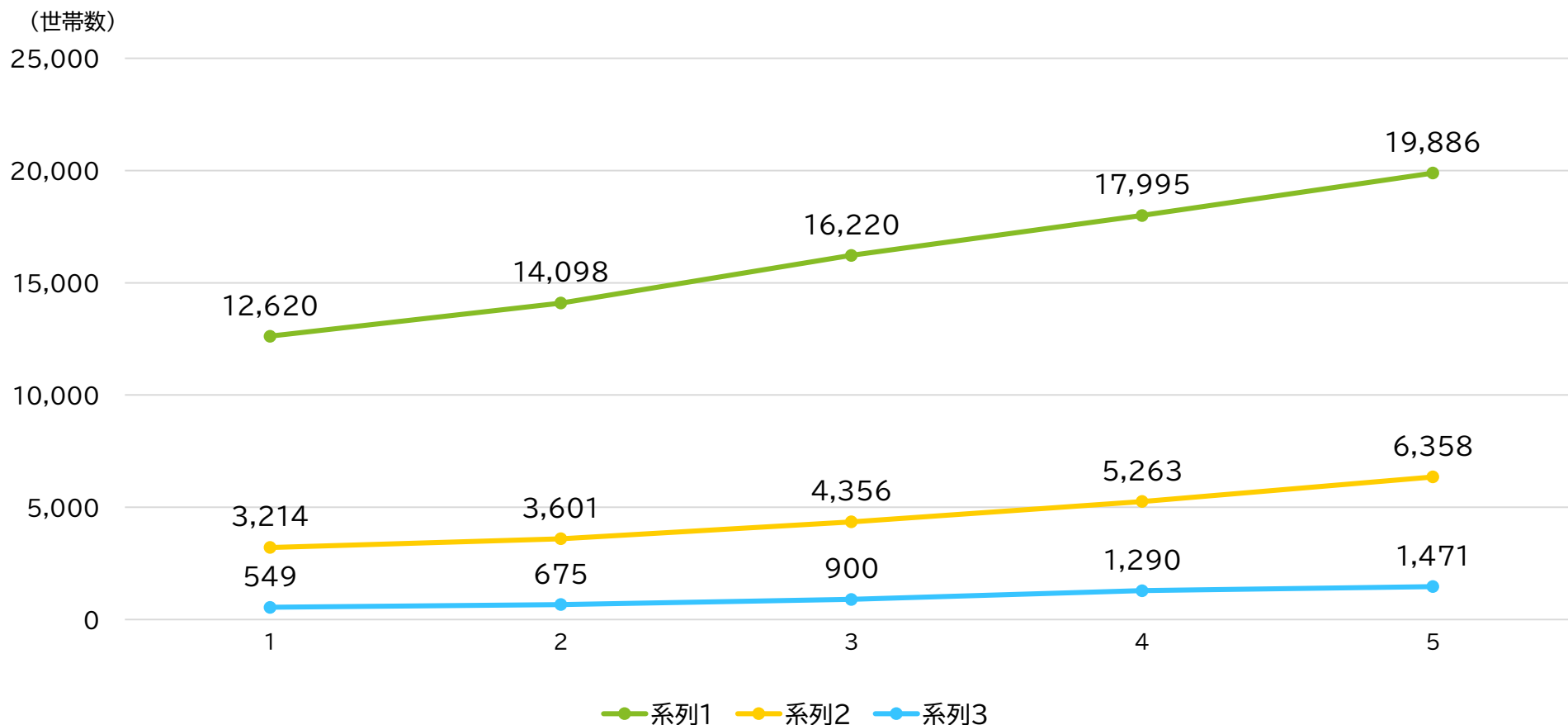


出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# I.人口 | 6.世帯数

## 一般世帯、単独世帯、高齢単身者世帯の推移

- 粕屋町の世帯数は一貫して増加傾向にあり、一般世帯数は2020(令和2)年に約2万世帯と、2000(平成12)年より約7,000世帯の増加となっている。
- 単独世帯、65歳以上の高齢単身者世帯も同様に増加しており、65歳以上の高齢単身者世帯は、20年で倍以上増加している。



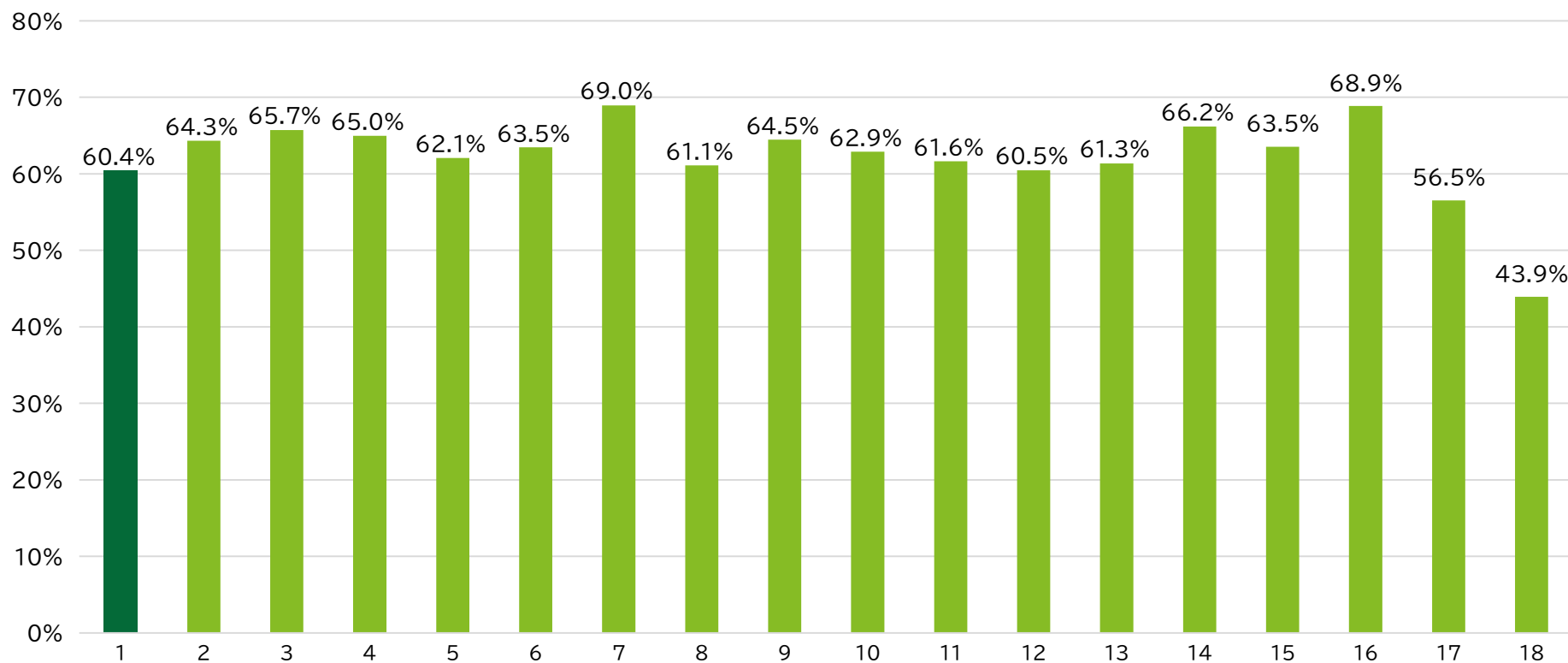
出典:総務省「国勢調査」



# I.人口 | 6.世帯数

## 一般世帯に占める核家族世帯の割合(2020年)

- 一般世帯のうち核家族世帯の割合は、粕屋町で60.4%であり、ベンチマーク都市の中では福岡市、阿見町に次いで3番目に低い。
- 最も多いのは新宮町で69%であり、福岡市を除くベンチマーク都市間でそれほど大きな差はないといえるが、粕屋町は比較的核家族世帯の割合が少ないと考えられる。

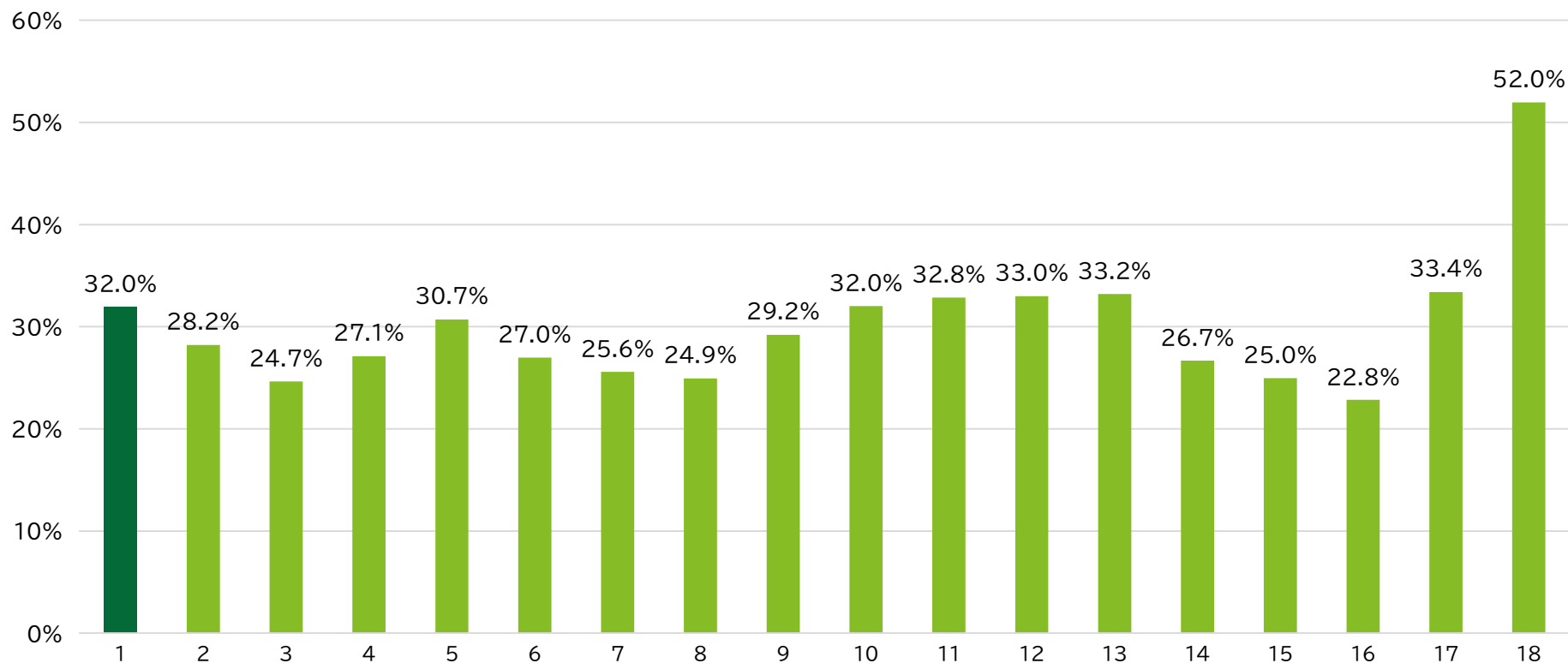


出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 6.世帯数

## 一般世帯に占める単独世帯の割合(2020年)

- 一般世帯のうち単独世帯の割合は、粕屋町で32%であり、糟屋地域の中では最も高く、福岡都市圏の一部地域や阿見町とも同程度の水準といえる。
- 粕屋町は核家族の割合は比較的少なかったものの単独世帯の割合は比較的多く、ベンチマーク都市と比べると1人で住んでいる人の割合が比較的多いことがよみとれる。

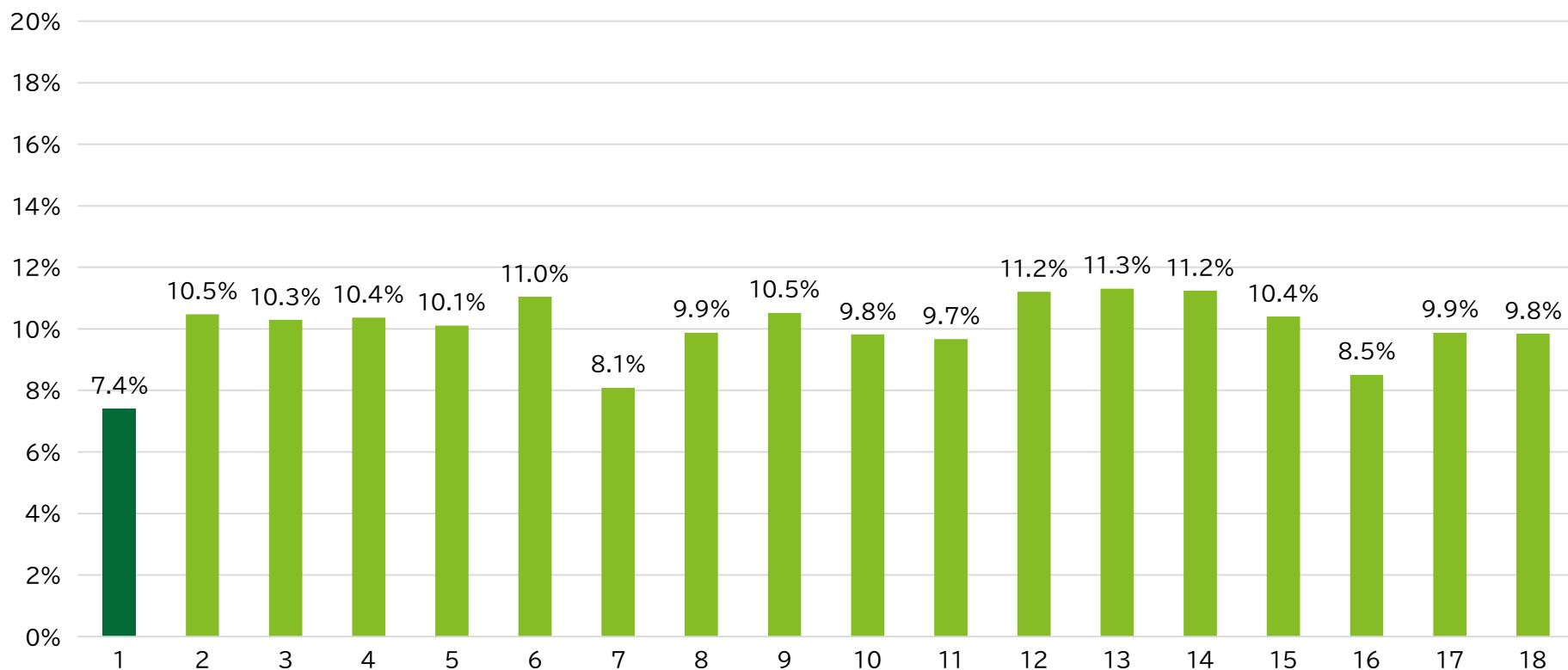


出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 6.世帯数

## 一般世帯に占める65歳以上の高齢単身者世帯の割合(2020年)

- 一般世帯のうち、65歳以上の高齢単身者世帯の割合は粕屋町で7.4%で、ベンチマーク都市の中では最も低い。
- 10%を超えている市町が多く、新宮町や那珂川市においても8%台と、粕屋町の高齢単身者世帯の少なさがよみとれる。
- 高齢人口の割合自体も少ない粕屋町では、1人で住む高齢者の割合も少なくなると考えられる。

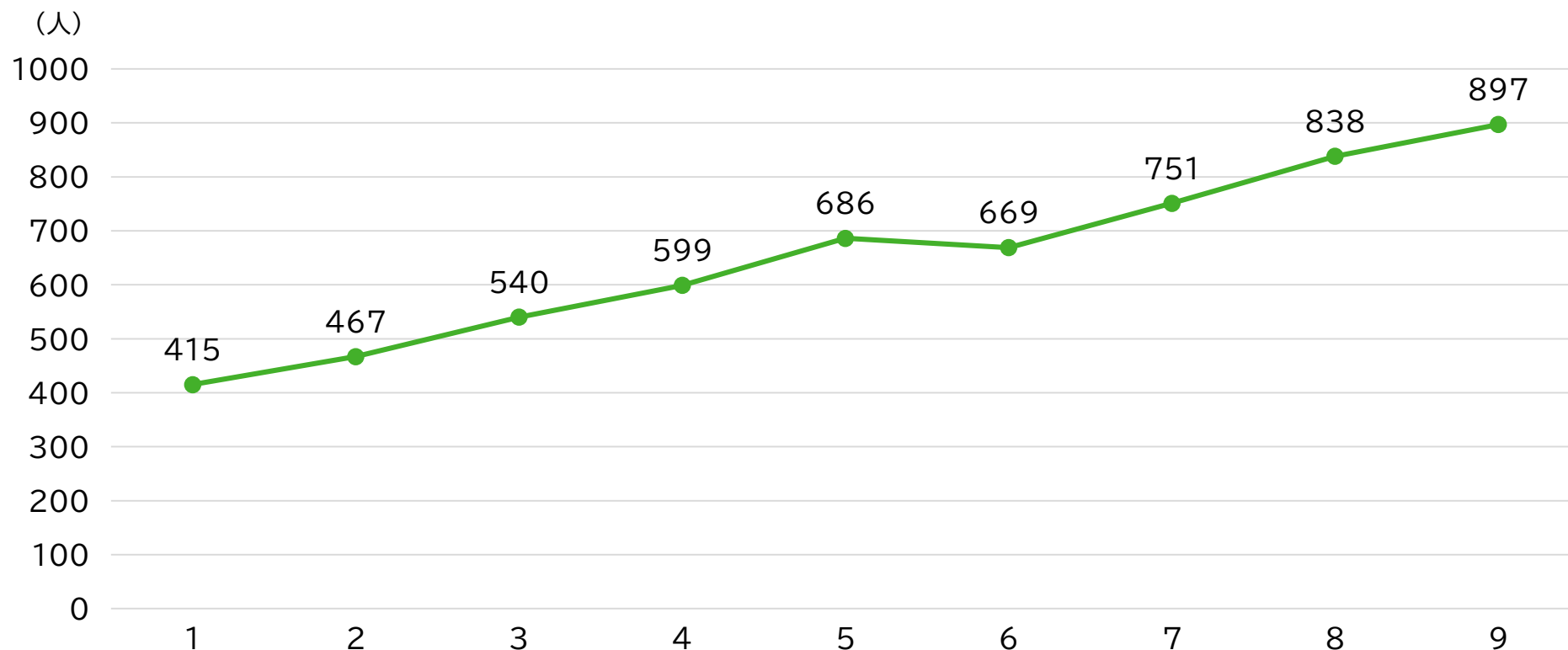


出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 | 7.外国人人口

## 外国人人口の推移

- 外国人人口は2015(平成27)年から2019(令和元)年にかけて年々増加しており、270人程度増加した。
- 2019(令和元)年から2020(令和2)年にかけては新型コロナウイルス感染症の影響と考えられるが、20人程度減少している。
- 2020(令和2)年以降は一貫して外国人人口が増加しており、2020(令和2)年から2023(令和5)年にかけて230人程度増加している。



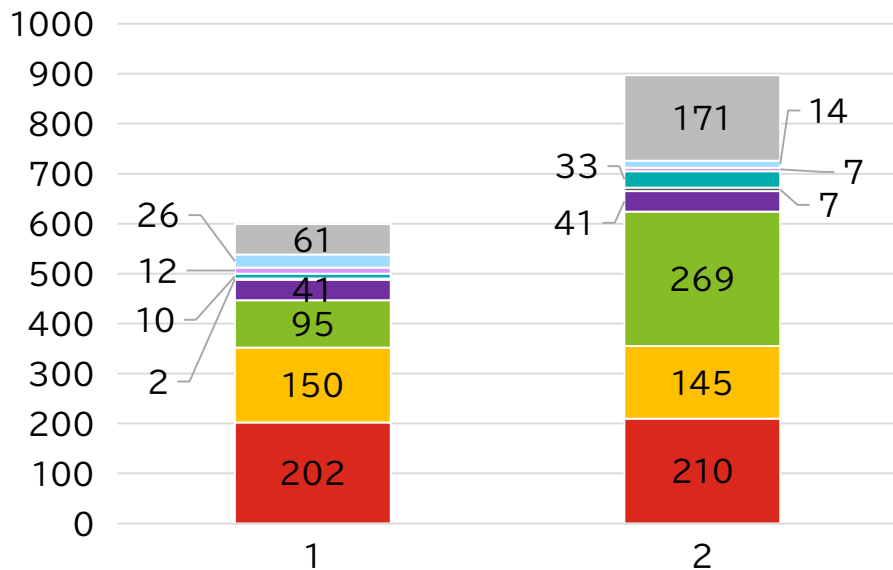
出典:法務省「在留外国人統計」

# I.人口 | 7.外国人人口

## 外国人人口の国籍別内訳

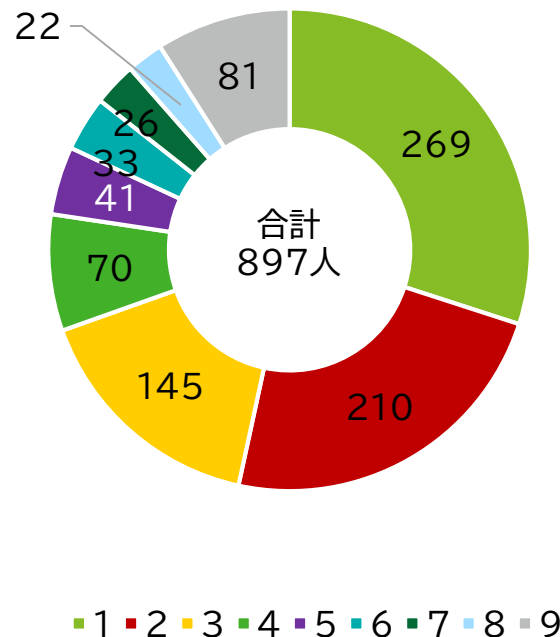
- ▶ 2018(平成30)年と2023(令和5)年のデータを比較すると、ベトナム国籍が170人程度、ネパール国籍が20人程度増加しており、全体としても外国人人口は増加している。
- ▶ 国籍別人口を見ると、ベトナムが最も多く全体の30%を占めている。また、中国や韓国といった東アジアや、インドネシア、フィリピンといった東南アジア、ネパールなどの南アジアの人口も多くなっており、外国人人口の90%以上がアジア圏で構成されている。

2018(平成30)年～2023(令和5)年の国籍別内訳  
(国内の国籍別人口上位8カ国を表示)



■ 系列1 ■ 系列2 ■ 系列3 ■ 系列4 ■ 系列5  
■ 系列6 ■ 系列7 ■ 系列8 ■ 系列9

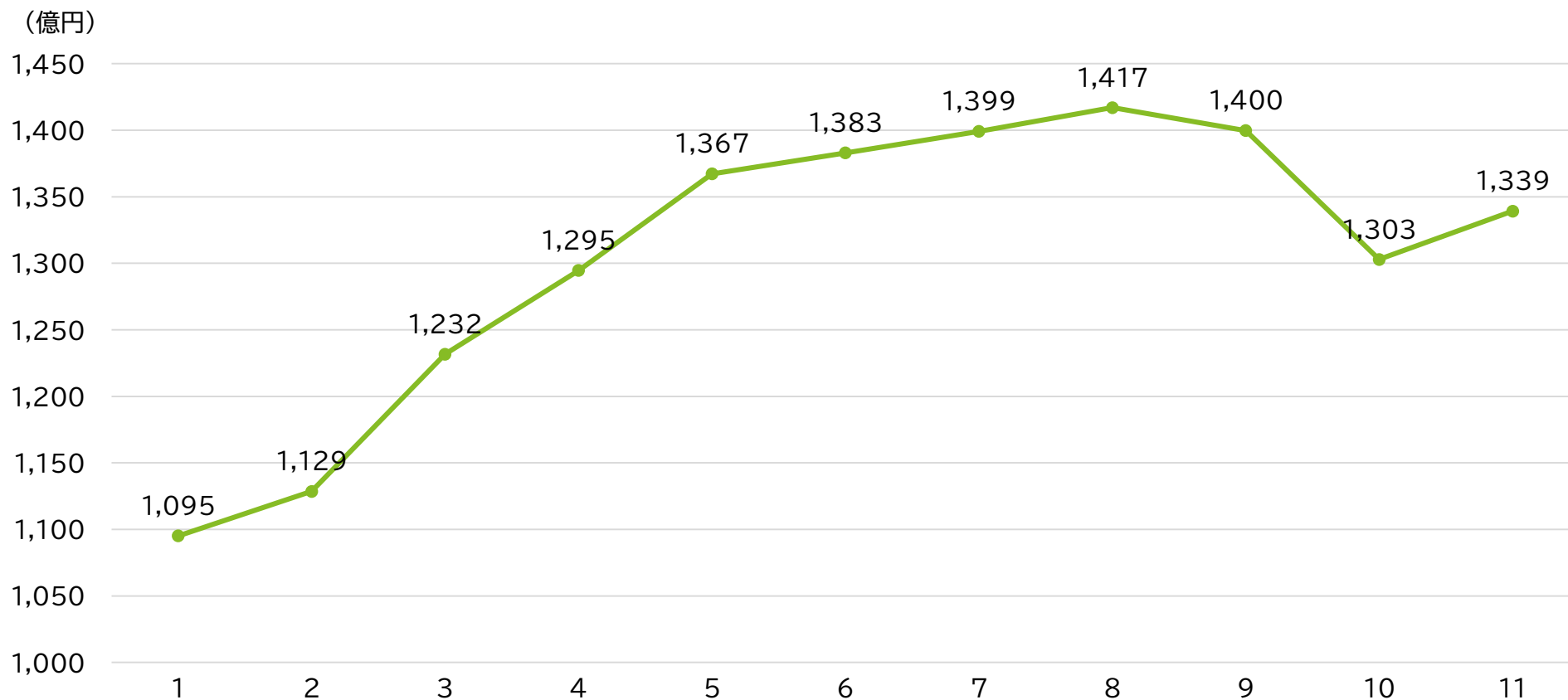
2023(令和5)年12月時点の国籍別人口の内訳  
(国籍別人口上位8カ国を表示)



## Ⅱ.産業・経済 | 1. 生産額・所得

### 町内総生産額の推移

- 粕屋町の町内総生産額は2011(平成23)年の1,095億円から2018(平成30)年の1,417億円にかけて大きく増加しており、322億円の増加となっている。
- 2019(令和元)年以降は一度減少し、その後回復しているものの2018(平成30)年の水準には戻っていない。

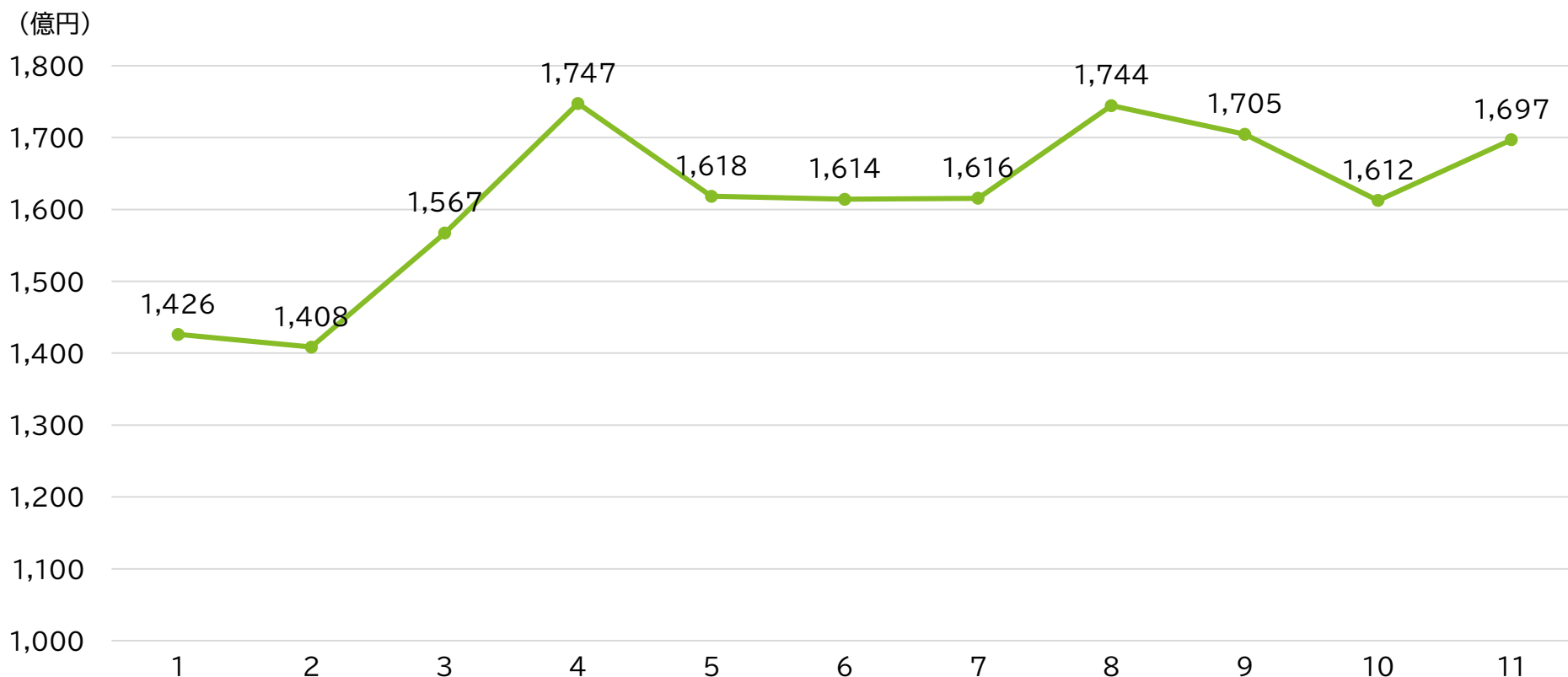


出典:市町村民経済計算

## Ⅱ.産業・経済 | 1. 生産額・所得

### 町民所得の推移

- 町民所得は2012(平成24)年から2014(平成26)年にかけて大きく増加し、その後2017(平成29)年にかけては横ばいで推移している。
- 2018(平成30)年からは減少の傾向にあったが、2021(令和3)年には約1,700億円まで回復した。

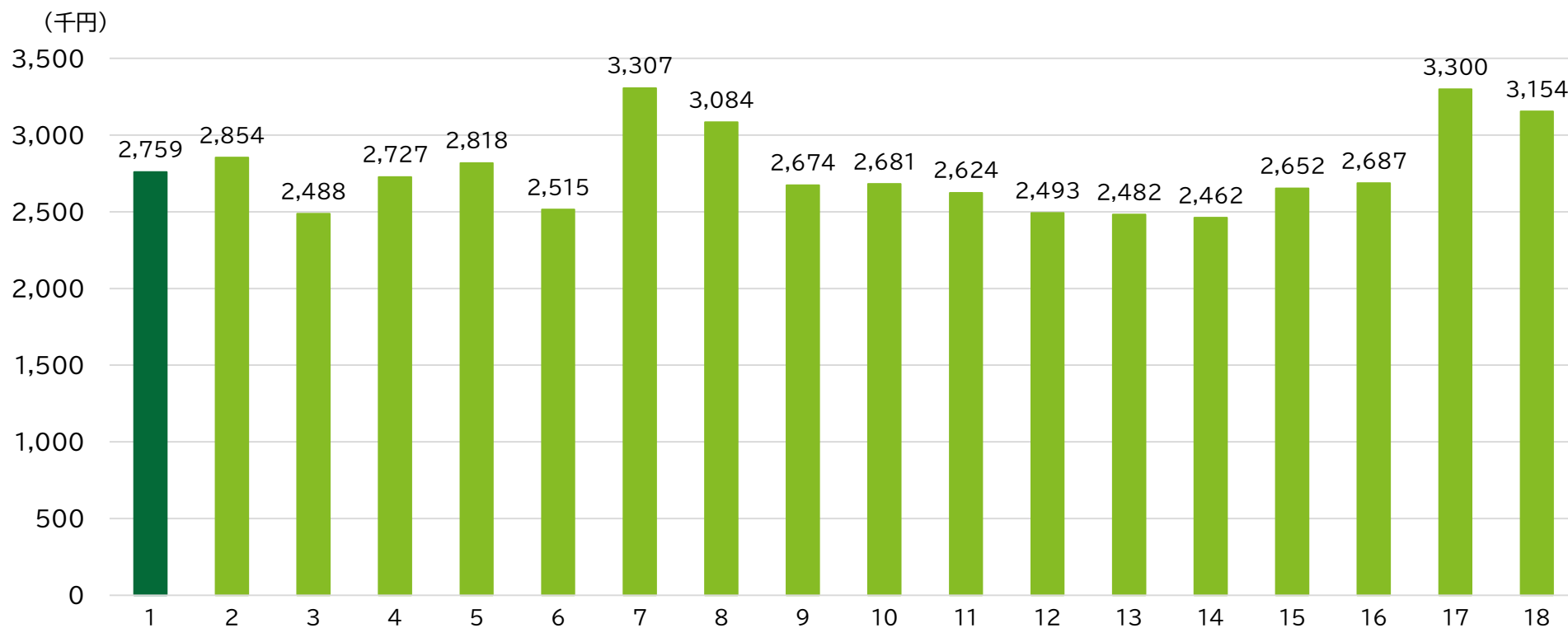


出典:市町村民経済計算

## Ⅱ.産業・経済 | 1.生産額・所得

### 1人当たり市町村民所得の比較(2021年)

- 粕屋町の1人当たり市町村民所得は約276万円であり、糟屋地域では平均的な水準であるが、福岡都市圏の地域と比べると比較的高い水準であることがわかる。
- 1人当たり市町村民所得が最も多いのは新宮町で、次いで阿見町、福岡市となっている。一方、最も少ないのは福津市である。



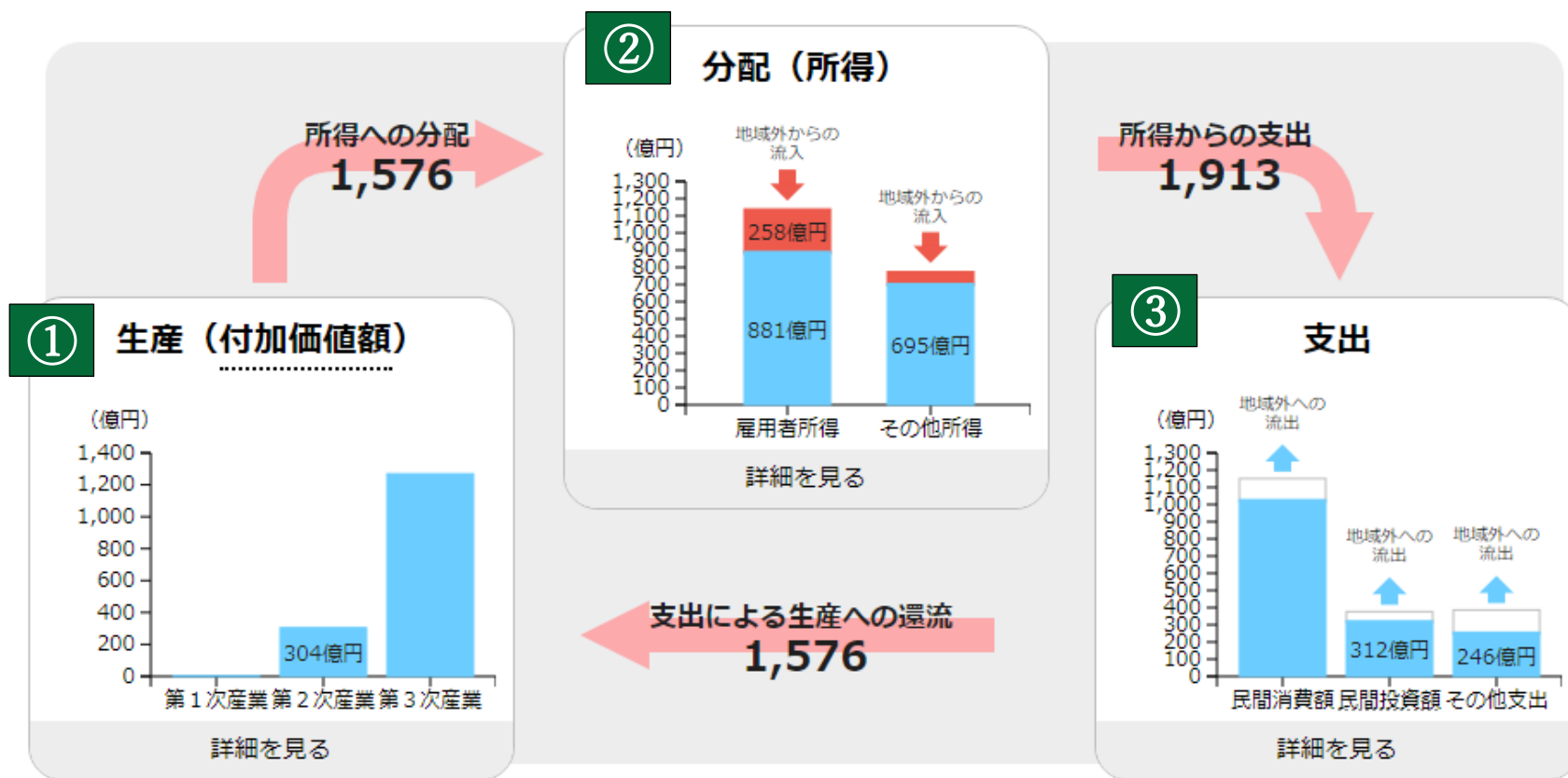
出典:市町村民経済計算



## Ⅱ.産業・経済 | 1.生産額・所得

### 地域経済循環図

- ▶ 地域経済循環図は「①生産」、「②所得」、「③支出」の3つの面から地域内のお金の流れ全体を示している。
- ▶ 粕屋町は分配において所得が流入しており、所得を域内の生産で補完できていないため、他地域からの所得に依存している傾向があると考えられる。

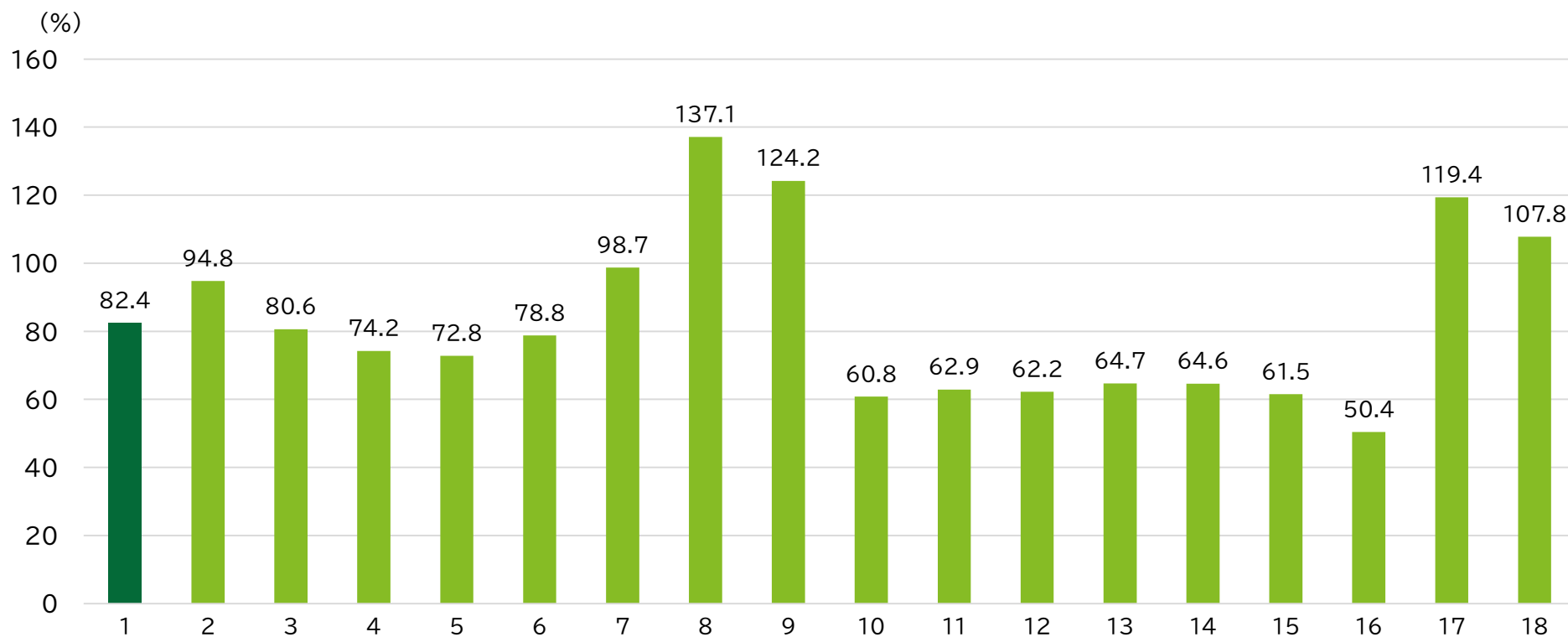


出典:環境省「地域産業関連表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

## Ⅱ.産業・経済 | 1.生産額・所得

### 地域経済循環率の比較(2018年)

- 「①生産」を「②分配」で割った値である地域経済循環率は、地域経済の自立度を表し、一般的には100%前後で付加価値額と所得のバランスがとれている状態が望ましいとされている。
- 粕屋町は、2018年時点で82.4%となっており、経済循環の自立度は福岡都市圏に比べると高いが、古賀市や新宮町と比べると低い水準となっている。

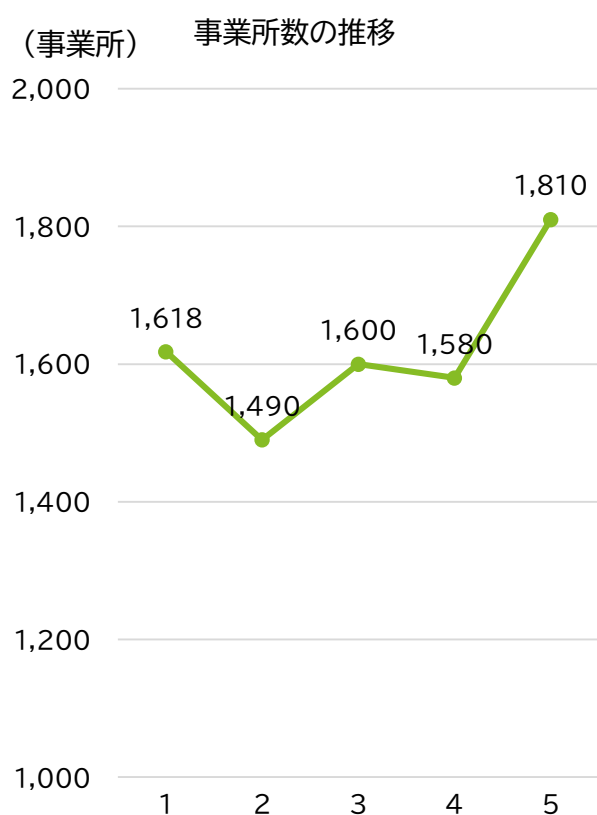
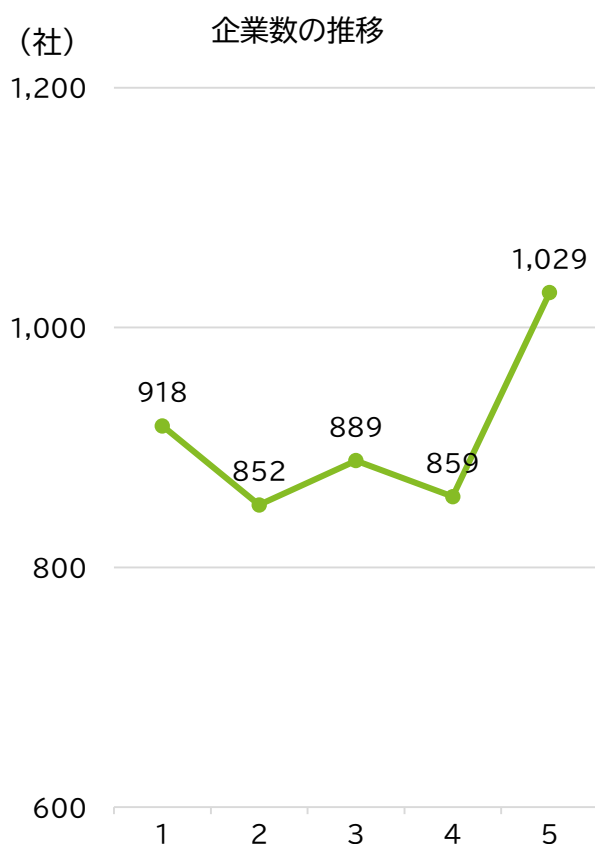


出典:環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

## Ⅱ.産業・経済 | 2. 産業構造

### 企業数・事業所数・従業者数の推移

▶ 企業数、事業所数、従業者数は同様の傾向で推移しており、増減を繰り返しながら2021(令和3)年には企業数、事業所数、従業者数すべてにおいて2009(平成21)年以降最も高い水準となっている。

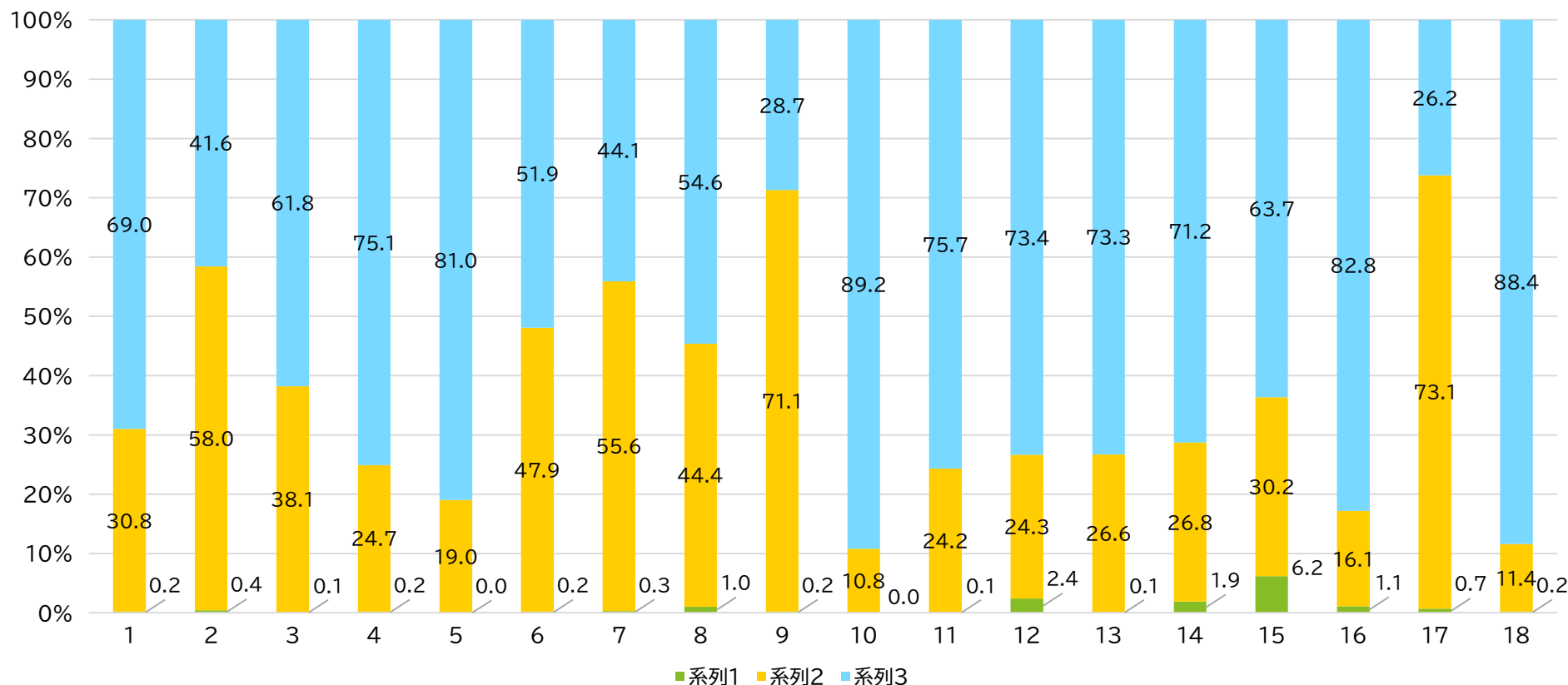


出典:総務省・経済産業省「経済センサス-基礎調査・活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 2. 産業構造

### 地域内産業生産額の構成割合の比較(2018年)

- 粕屋町は第1次産業が0.2%、第2次産業が30.8%、第3次産業が69%となっており、第3次産業が主要な産業であることがわかる。
- ベンチマーク都市の中で粕屋町と同様の産業構造となっているのは宇美町や大野城市、太宰府市である。
- 福岡県内は第3次産業が主要産業となっている市町が多いが、古賀市や新宮町、筑紫野市は第2次産業が50%を超えている。
- 阿見町は第2次産業の割合が73.1%と最も高く、製造業等が盛んな町であることがわかる。



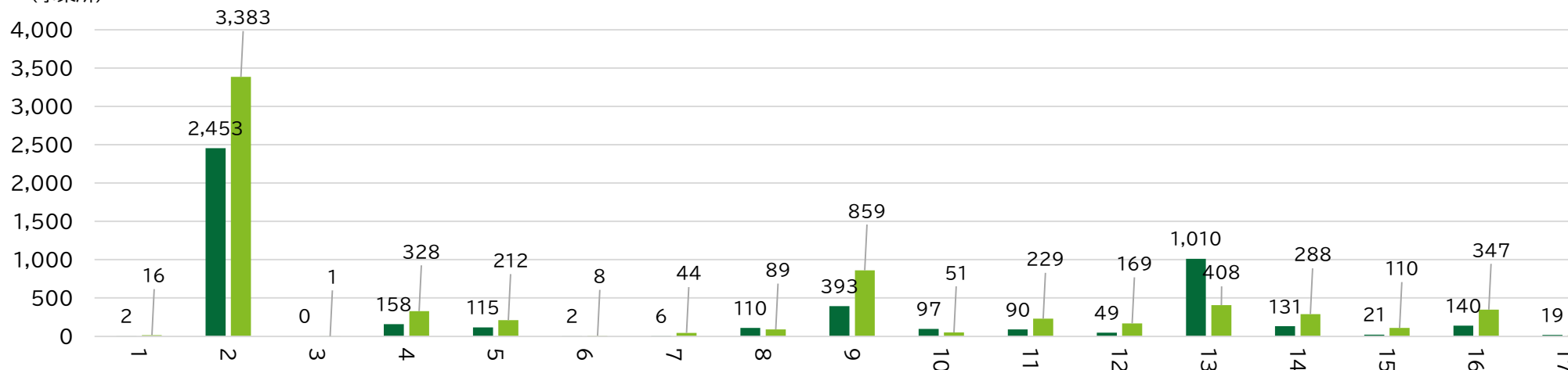
出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

## Ⅱ.産業・経済 | 2. 産業構造

### 産業大分類別事業所数の比較(2021年)

- 産業別の事業所数で福岡県平均を上回っているのは、運輸業・郵便業、金融業・保険業、宿泊業・飲食サービス業、複合サービス事業であり、特に宿泊業・飲食サービス業は県平均の倍以上となっており、県内において比較的事業所数が多いことがわかる。

(事業所)



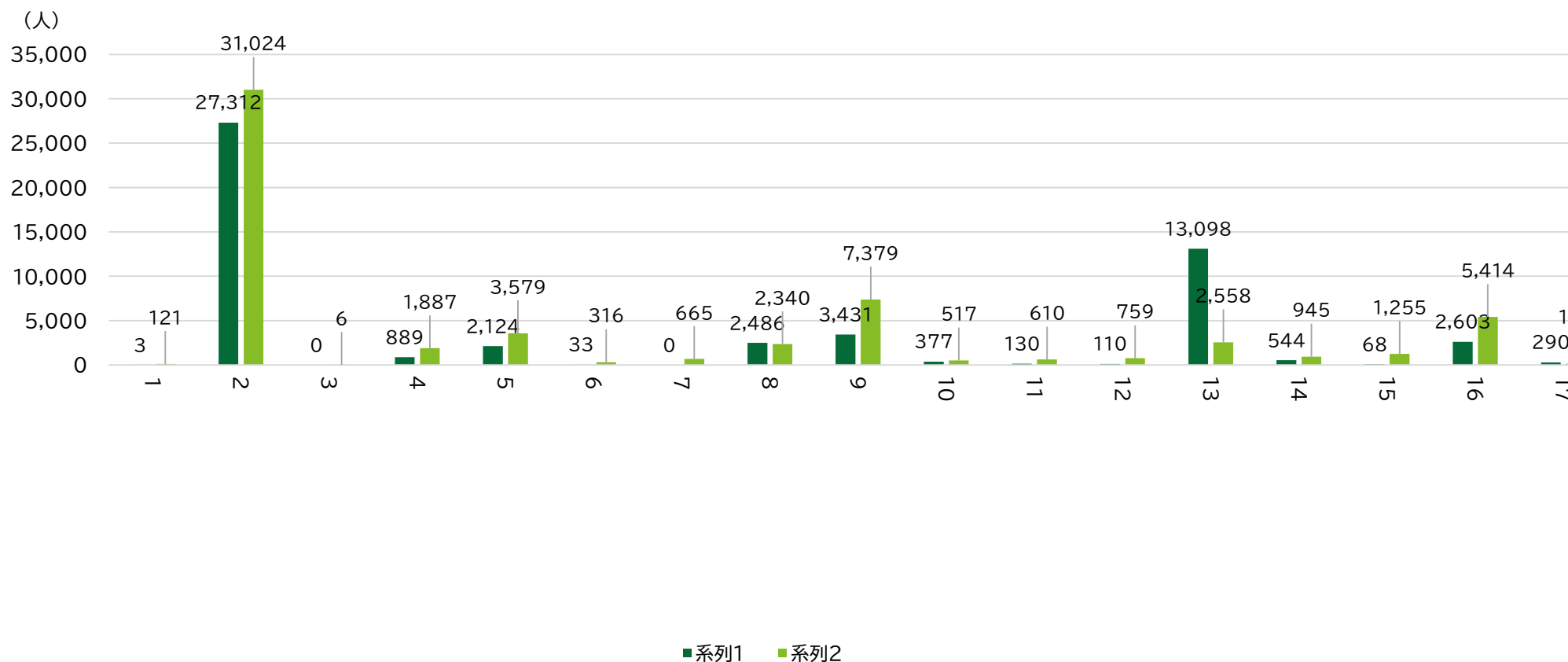
■ 系列1 ■ 系列2

出典:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 2. 産業構造

### 産業大分類別従業者数の比較(2021年)

- 産業別の従業者数で福岡県平均を上回っているのは、運輸業・郵便業、宿泊業・飲食サービス業、複合サービス事業であり、特に宿泊業・飲食サービス業は事業所数同様に県平均を大きく上回っている。

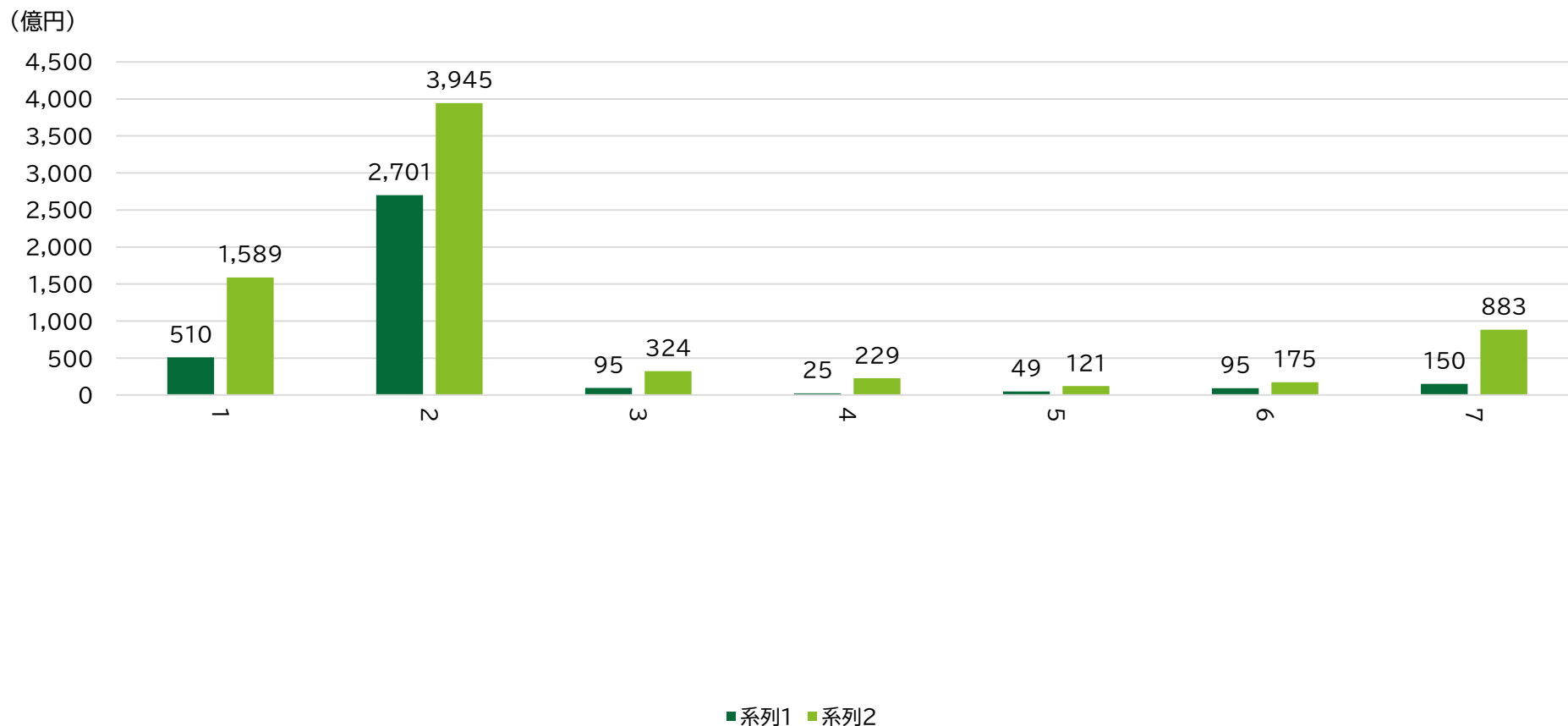


出典:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 2. 産業構造

### 産業大分類別売上金額の比較(2021年)

- ▶ 産業別の売上金額はどの産業においても福岡県平均を下回っている。
- ▶ 卸売業・小売業の売上金額が最も多く2,701億円となっており、他の産業を大きく上回っている。

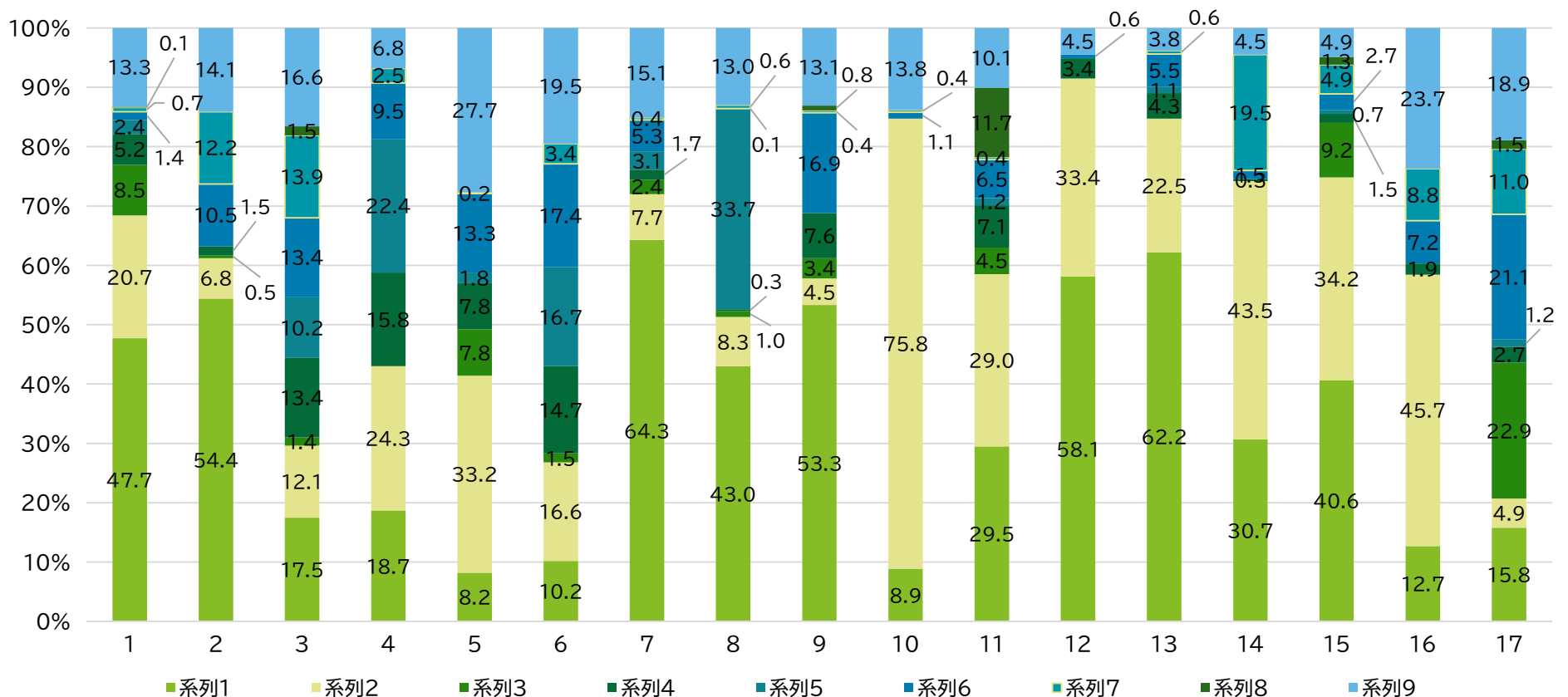


出典:総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 第2次産業生産額の構成割合の比較(2018年)

- ▶ 粕屋町は第2次産業の中で食料品・建設業が盛んであり、食料品は約50%、建設業で約20%を占めている。
- ▶ 粕屋町の第2次産業生産額の構成に最も近いのは糸島市である。
- ▶ 福岡県内は食料品製造業が多くを占めている市町が多く、新宮町や太宰府市では60%を超えている。



出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)



## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

- ▶ 製造業の事業所数は増減を繰り返しているが、2020(令和2)年は63事業所と前年と比較して上昇した。
- ▶ 従業者数は2014(平成26)年以降大きく上昇したが2020(令和2)年では減少し2,802人となっている。
- ▶ 製造品出荷額等は近年減少の傾向にあり2020(令和2)年は493億円となっている。

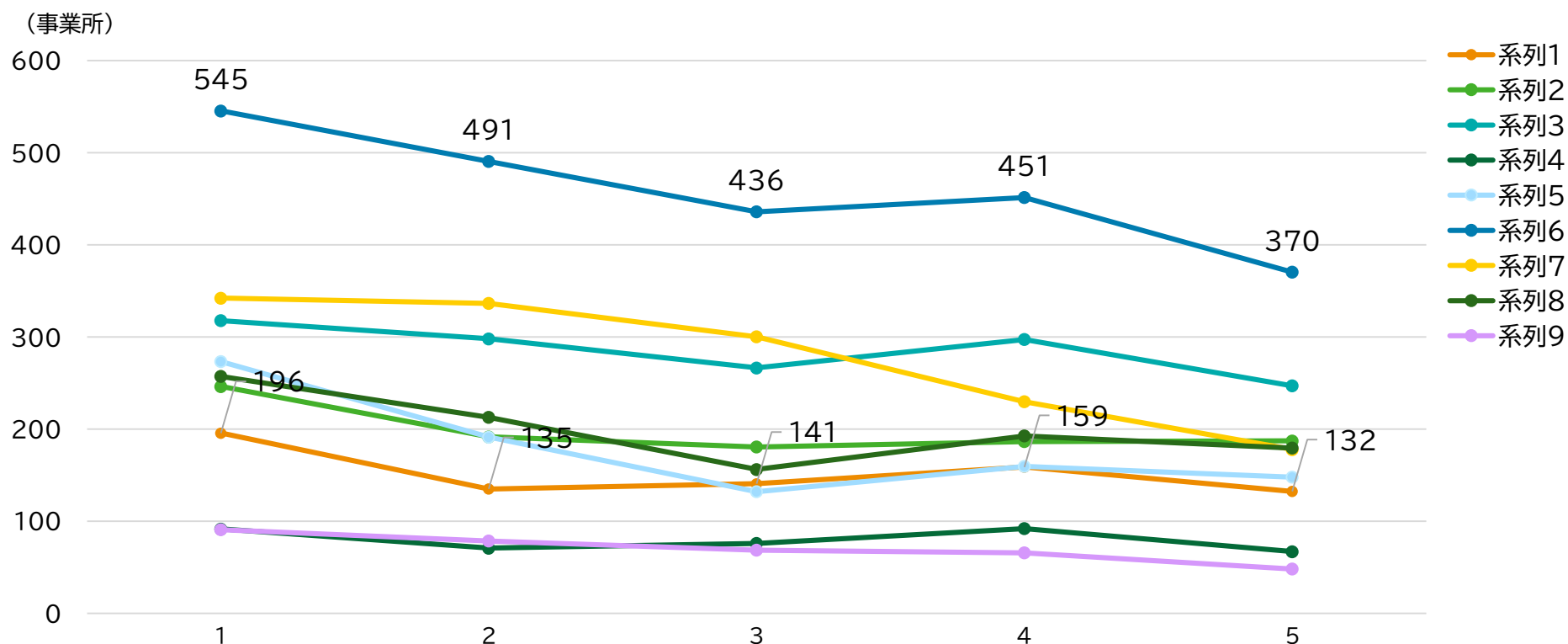


出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の10万人当たり事業所数の推移と比較(1/2)

- ▶ 粕屋町はベンチマーク都市と比べて人口当たりの製造業事業所数は少なく、2020(令和2)年では10万人当たり132事業所となっている。最も人口当たりの事業所数が多いのは須恵町で、2020(令和2)年に10万人当たり370事業所となっている。
- ▶ 2000(平成12)年以降は減少傾向となっている市町が多く、2015(平成27)年から2020(令和2)年にかけて大きく減少している市町もいくつか見受けられる。

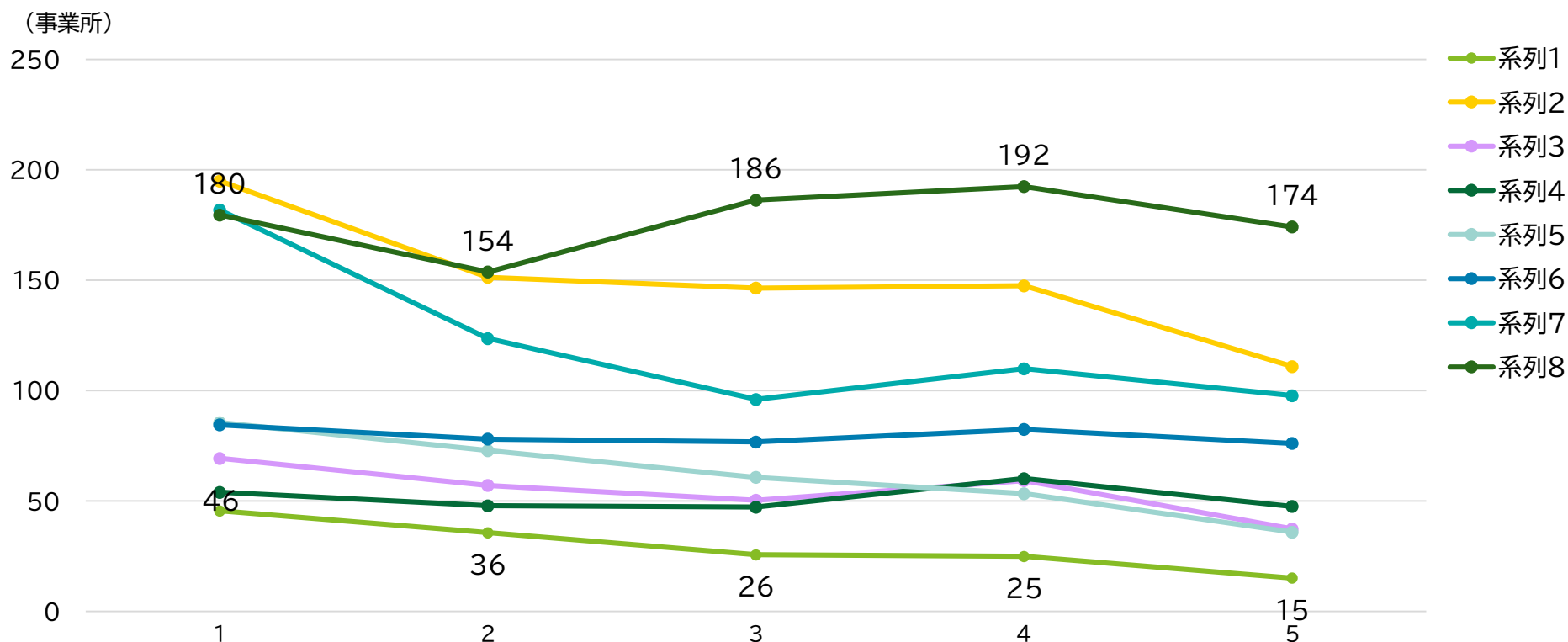


出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の10万人当たり事業所数の推移と比較(2/2)

- 粕屋町はベンチマーク都市と比べて人口当たりの製造業事業所数は少なく、2020(令和2)年では10万人当たり132事業所となっている。最も人口当たりの事業所数が多いのは須恵町で、2020(令和2)年に10万人当たり370事業所となっている。
- 2000(平成12)年以降は減少傾向となっている市町が多く、2015(平成27)年から2020(令和2)年にかけて大きく減少している市町もいくつか見受けられる。

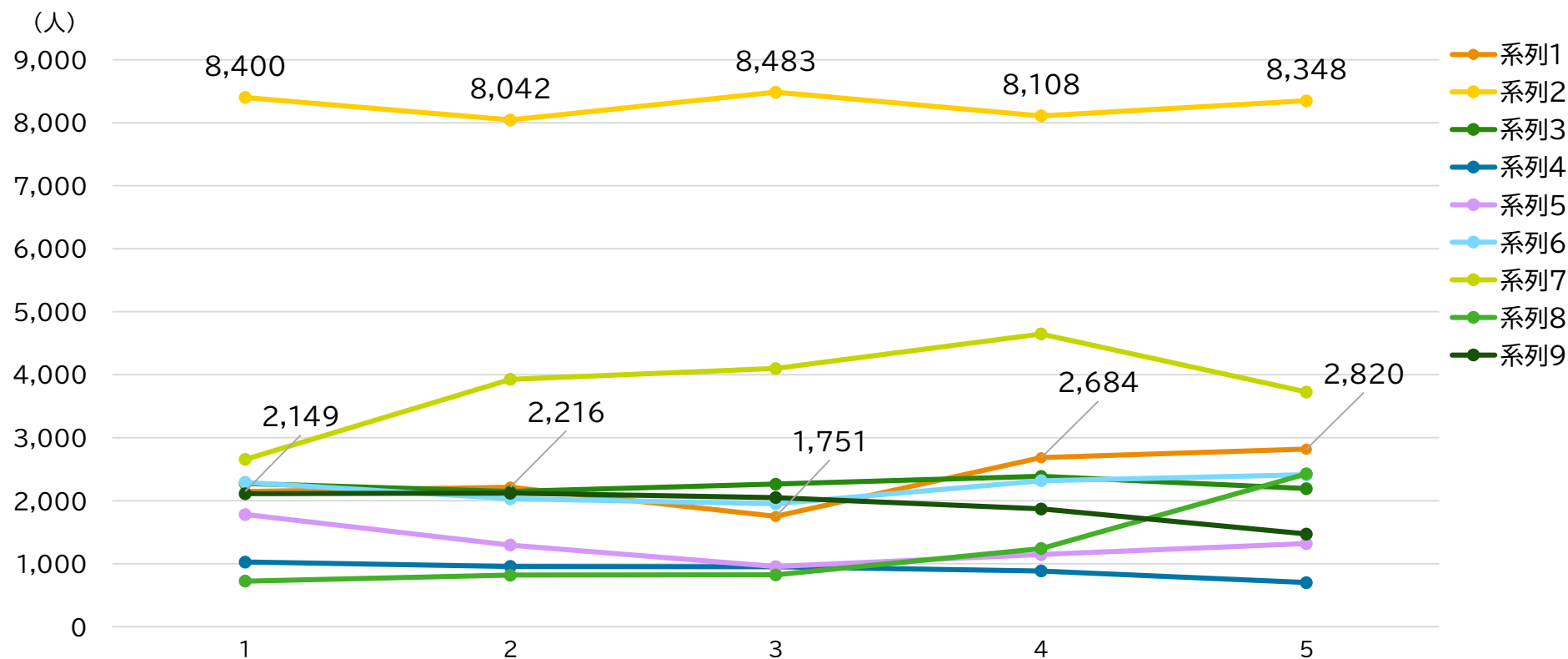


出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の従業者数の推移と比較(1/2)

- ▶ 粕屋町の製造業の従業者数は2010(平成22)年に大きく減少したものの、それ以降は微増し、2020(令和2)年には2,820人となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では古賀市が最も多く、8,000人前後を推移している。
- ▶ 従業者数は事業所数とは異なり横ばい推移もしくは増加傾向となっている市町が多く見受けられる。

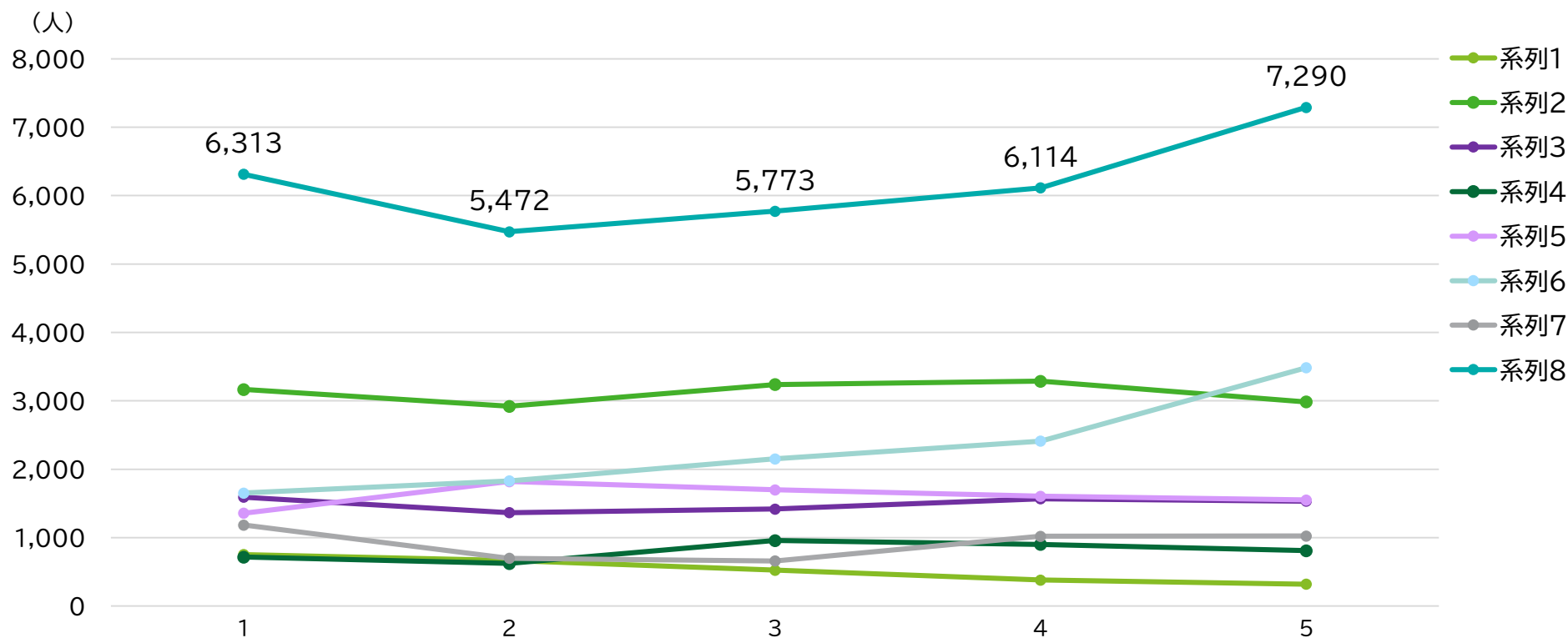


出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の従業者数の推移と比較(2/2)

- ▶ 粕屋町の製造業の従業者数は2010(平成22)年に大きく減少したものの、それ以降は微増し、2020(令和2)年には2,820人となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では古賀市が最も多く、8,000人前後を推移している。
- ▶ 従業者数は事業所数とは異なり横ばい推移もしくは増加傾向となっている市町が多く見受けられる。

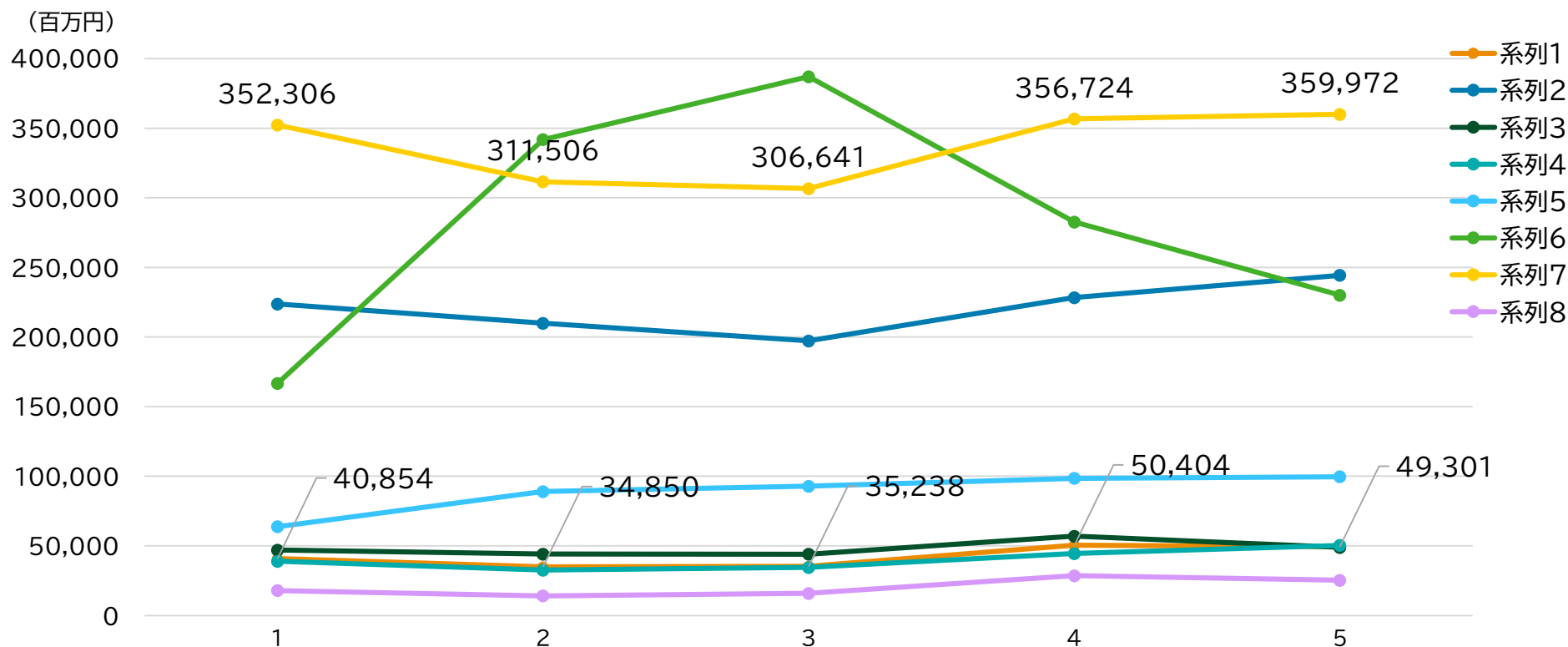


出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造品出荷額等の推移と比較(1/2)

- ▶ 粕屋町の製造品出荷額等は2005(平成17)年にかけて減少するが、その後は増加し、2020(令和2)年には約490億円となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では2020(令和2)年に阿見町が最も高くなっており、3,500億円前後を推移している。
- ▶ 大野城市、久山町、糸島市など、近年大きく増加している市町も見受けられる。

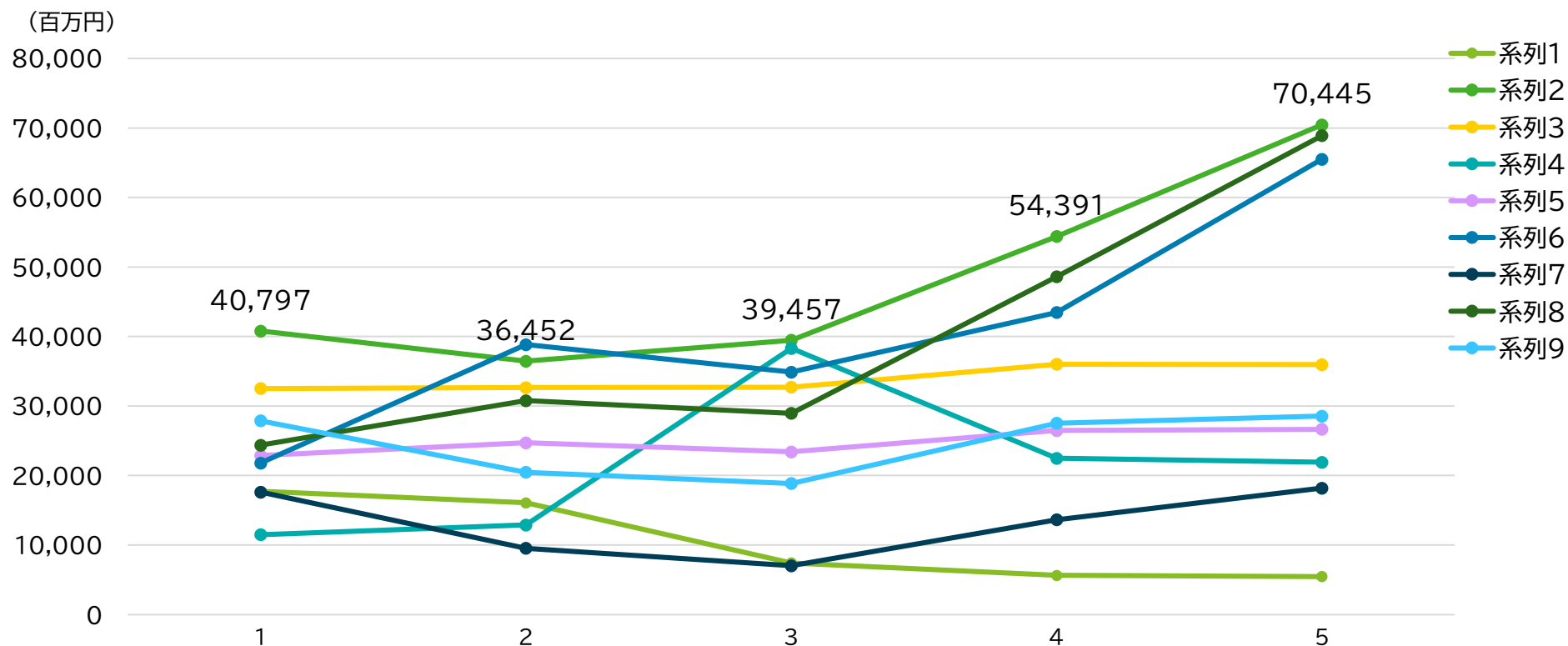


出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造品出荷額等の推移と比較(2/2)

- ▶ 粕屋町の製造品出荷額等は2005(平成17)年にかけて減少するが、その後は増加し、2020(令和2)年には約490億円となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では2020(令和2)年に阿見町が最も高くなっており、3,500億円前後を推移している。
- ▶ 大野城市、久山町、糸島市など、近年大きく増加している市町も見受けられる。

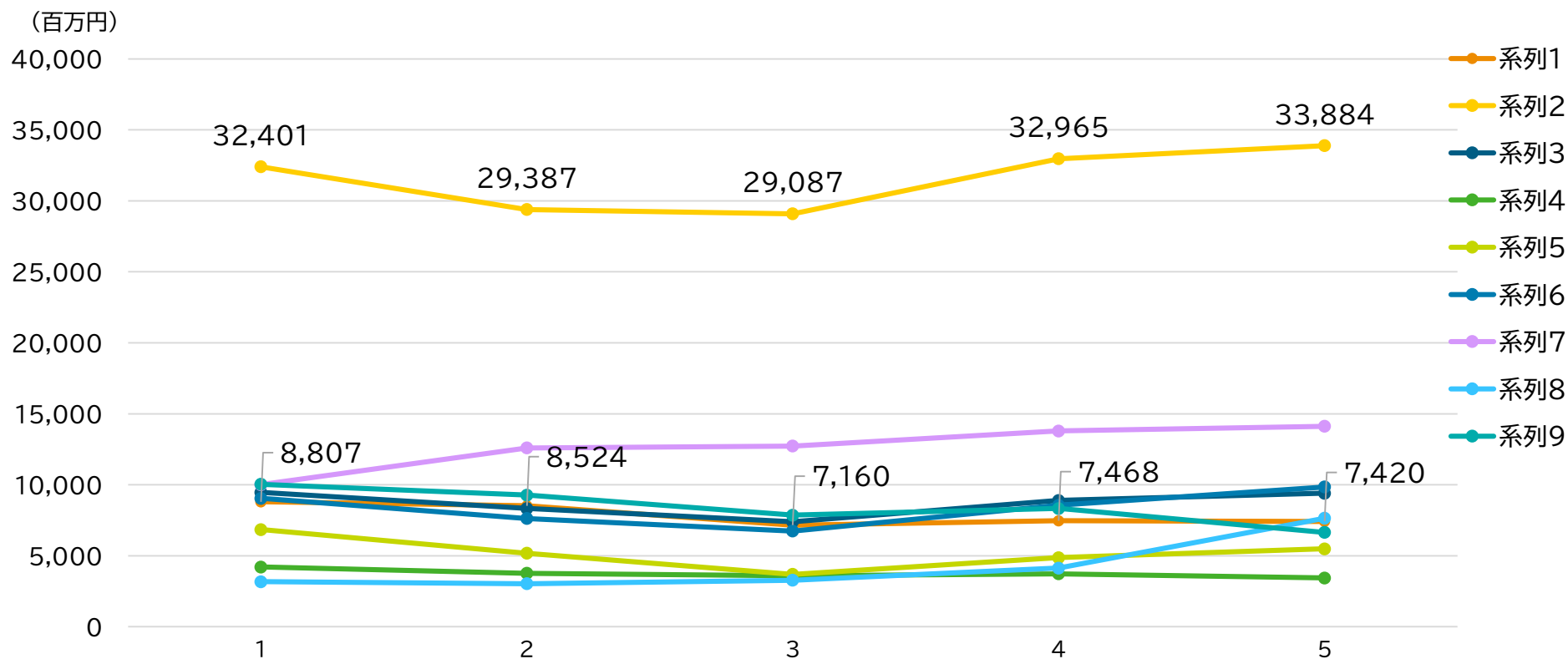


出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の現金給与額の推移と比較(1/2)

- ▶ 粕屋町の製造業の現金給与額は2020(令和2)年では約74億円であり、ベンチマーク都市の中では平均よりやや低い水準である。
- ▶ ベンチマーク都市で高い水準となっているのは古賀市、阿見町であり、どちらも200億円を超えている。阿見町は粕屋町と人口が同規模であるが、製造業の規模が粕屋町や福岡県内の他市と比較しても大きいことがわかる。



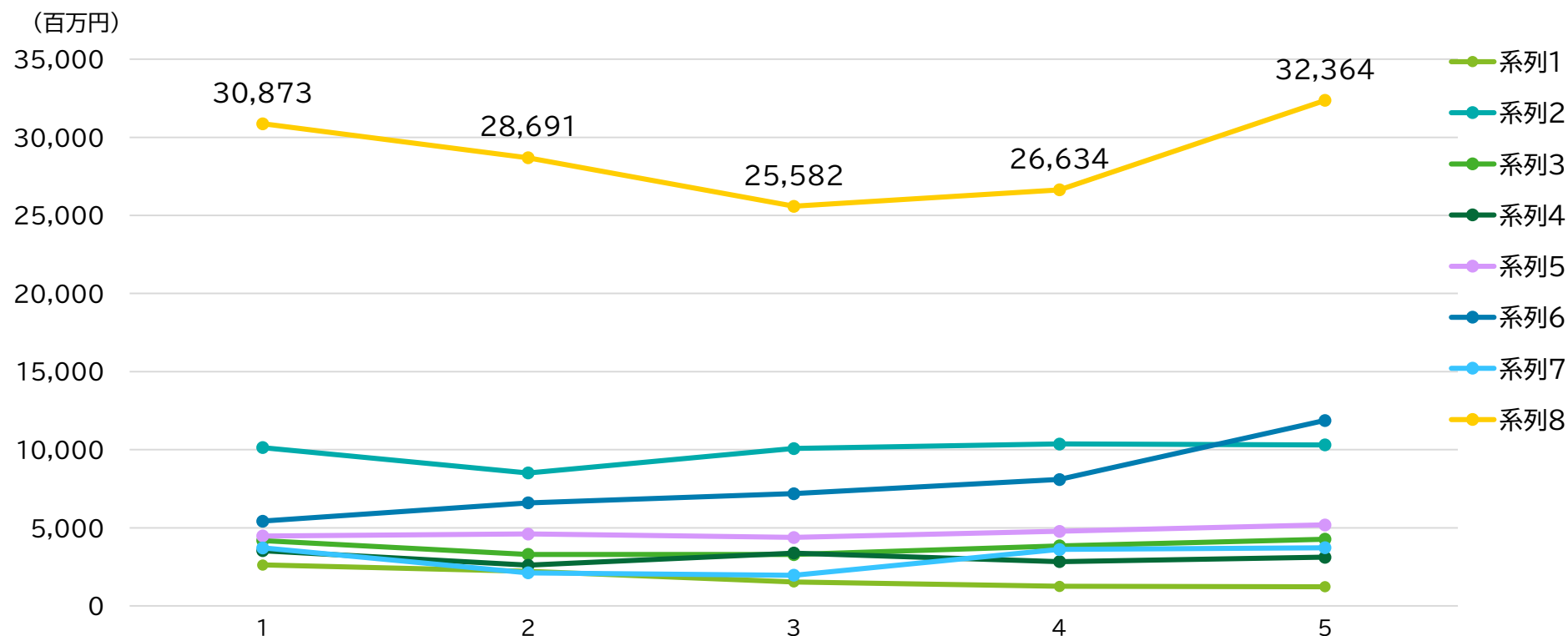
出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」



## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の現金給与額の推移と比較(2/2)

- ▶ 粕屋町の製造業の現金給与額は2020(令和2)年では約74億円であり、ベンチマーク都市の中では平均よりやや低い水準である。
- ▶ ベンチマーク都市で高い水準となっているのは古賀市、阿見町であり、どちらも200億円を超えている。阿見町は粕屋町と人口が同規模であるが、製造業の規模が粕屋町や福岡県内の他市と比較しても大きいことがわかる。



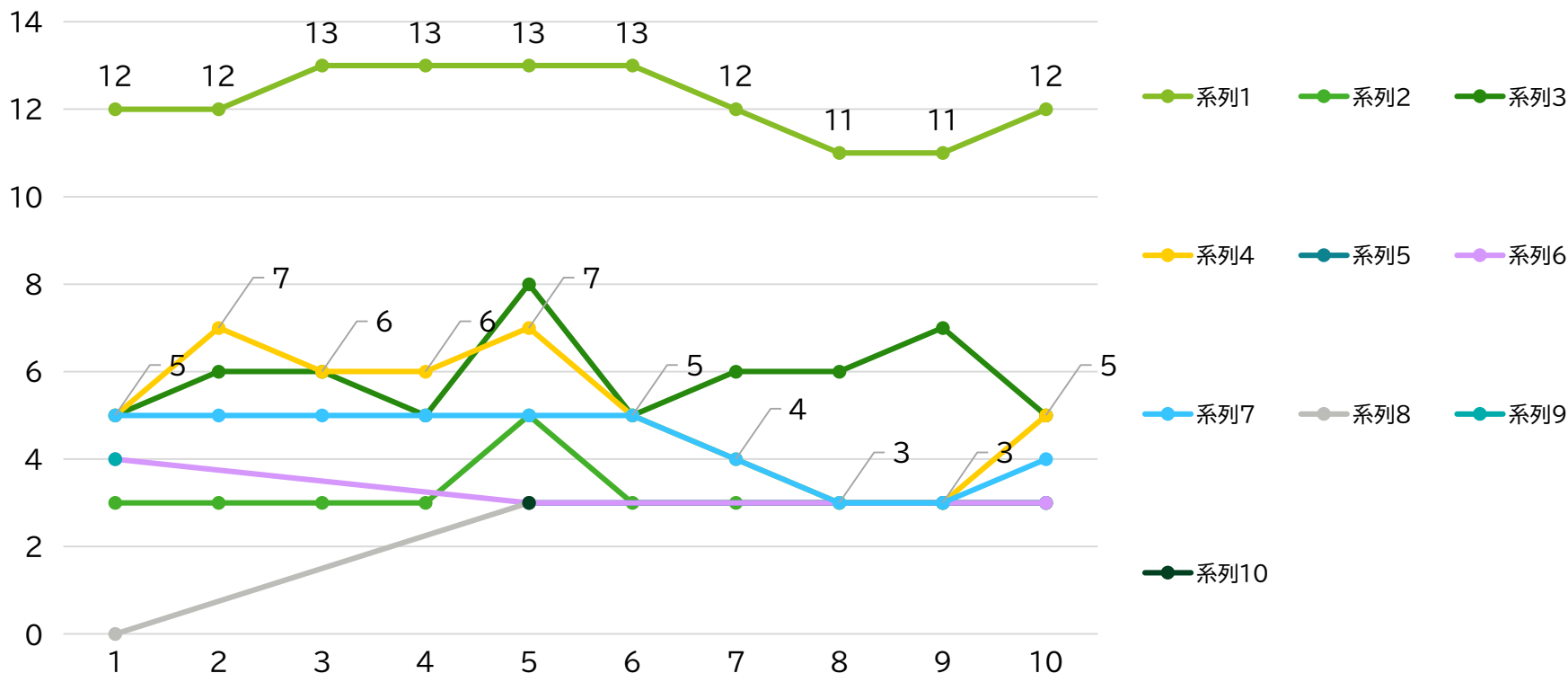
出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の産業中分類別事業所数の推移

- ▶ 産業中分類別の事業所数では食品製造業が最も多く、変動もあるものの比較的安定しており、今後も粕屋町において重要な産業となっていくことが推察される。
- ▶ 印刷・同関連業は2015(平成27)年以降減少の傾向であったが、2020(令和2)年は増加に転じている。

(事業所)

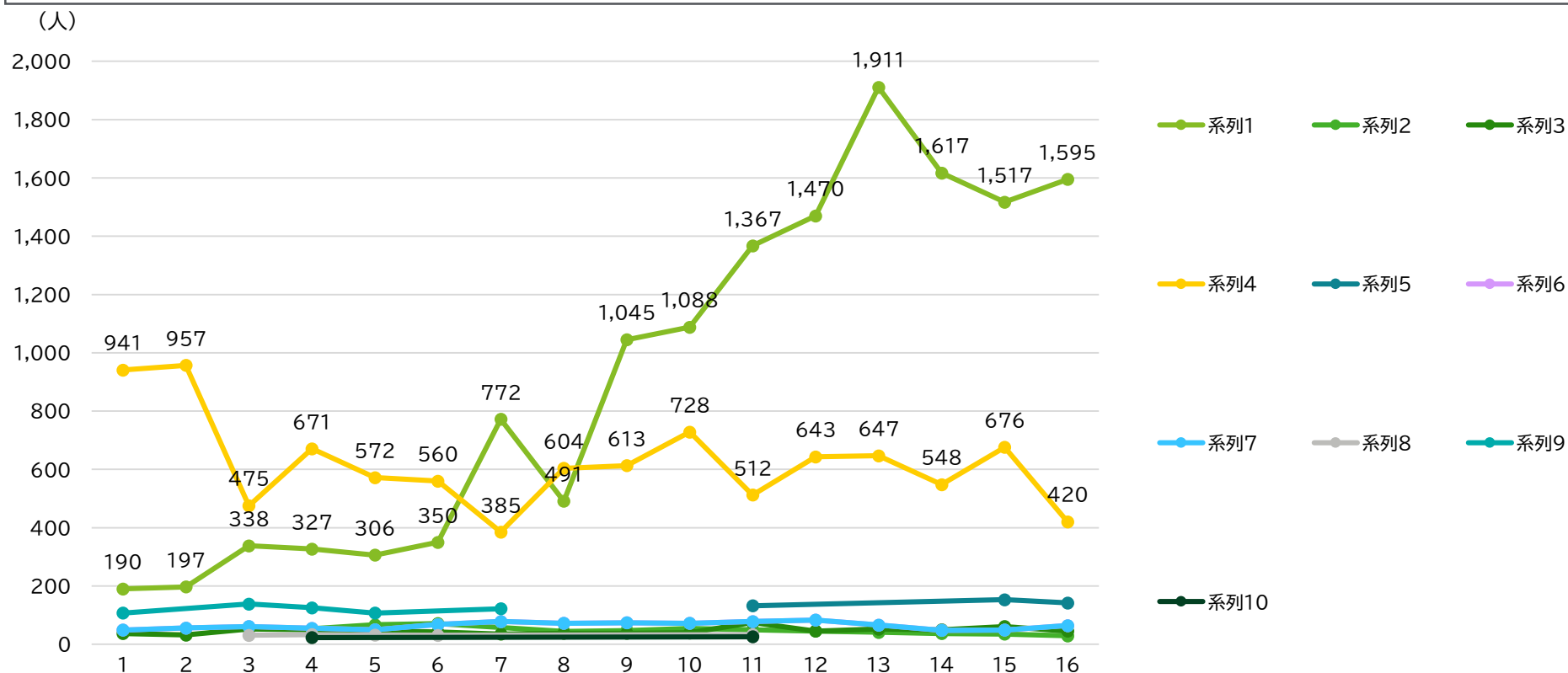


出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の産業中分類別従業員数の推移

- ▶ 従業者数は、食品製造業が2020(令和2)年時点で最も高い水準となっている。
- ▶ 印刷・同関連業は比較的従業者数が多いが、2019(令和元)年から2020(令和2)年にかけては減少している。

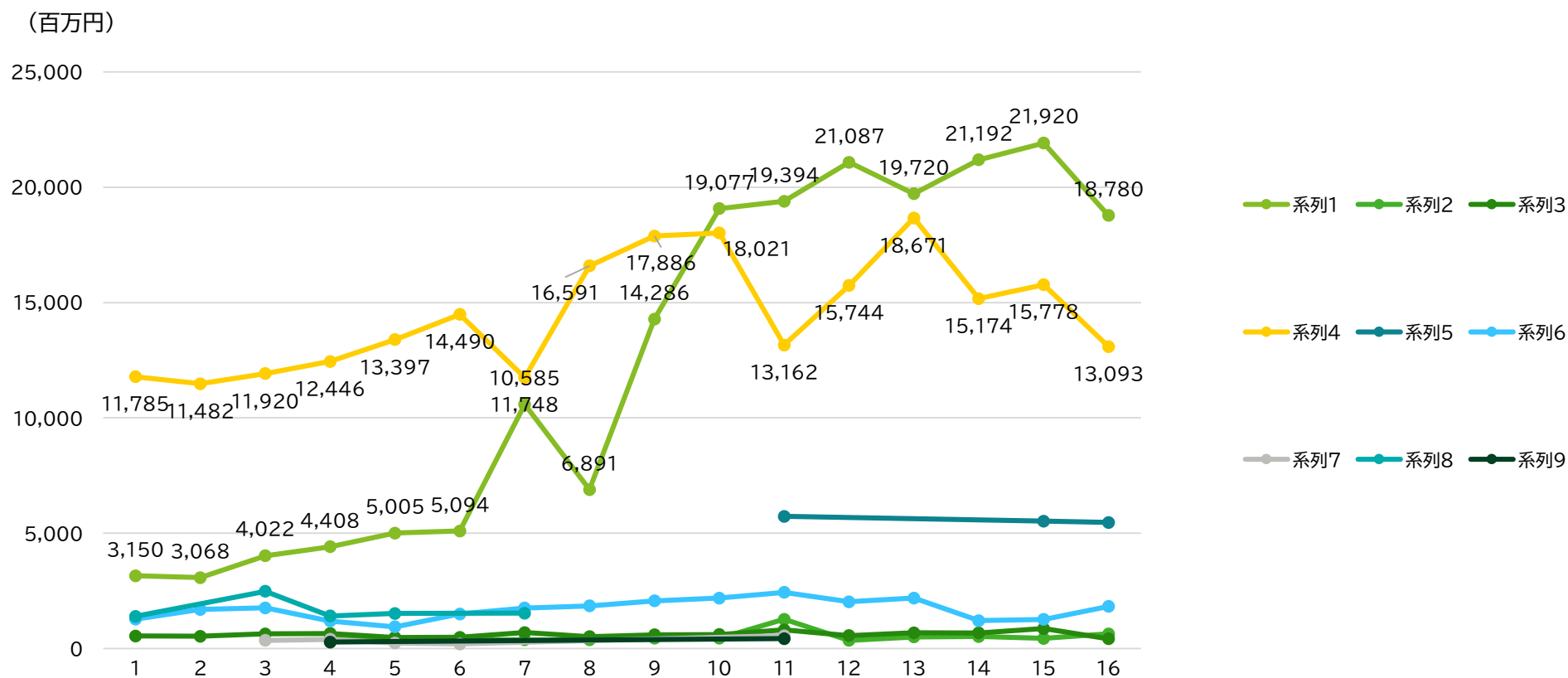


出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造業の産業中分類別製造品出荷額等の推移

▶ 食品製造業、印刷・同関連業の製造品出荷額等が高く、食品製造業は2010(平成22)年以降大きく増加しているものの、2019(令和元)年から2020(令和2)年にかけては減少している。印刷・同関連業についても、増減を繰り返しながら微増傾向にあったが、2019(令和元)年から2020(令和2)年にかけては減少となっている。

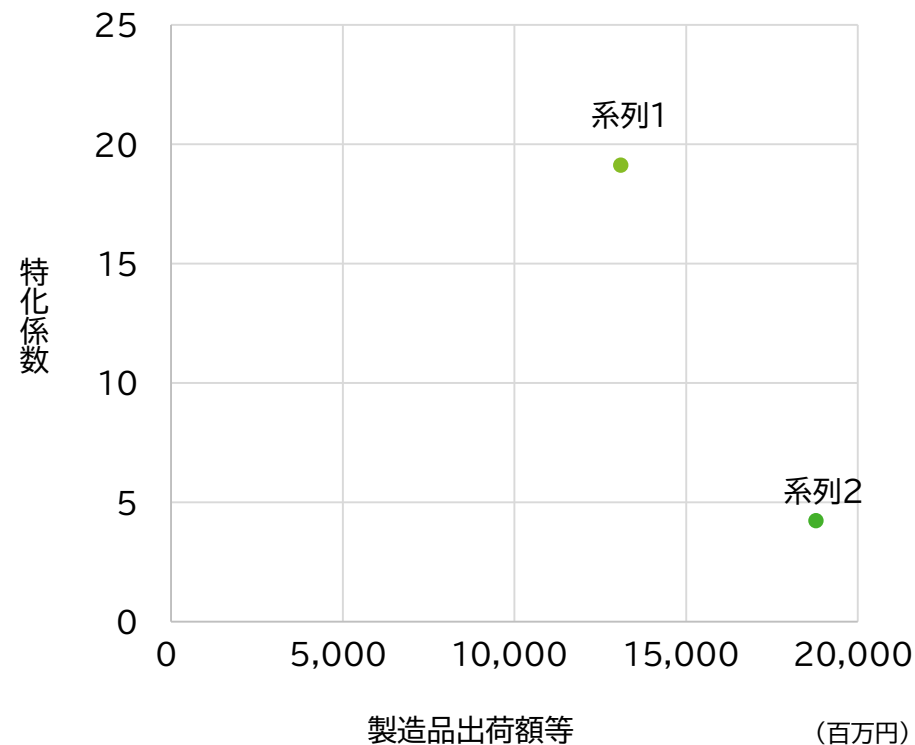
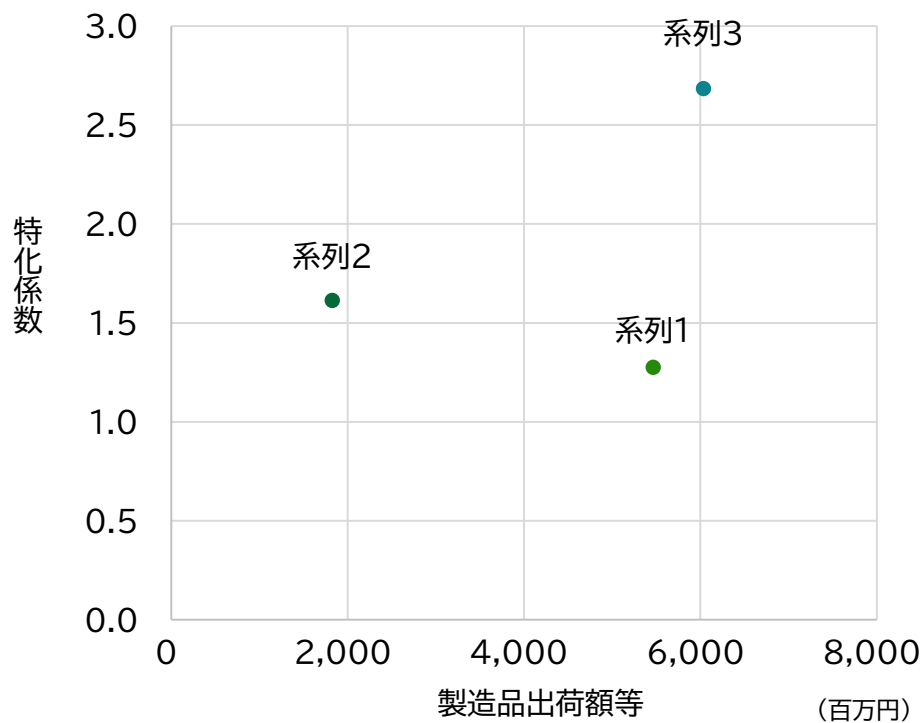


出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

### 製造品出荷額等と対全国特化係数(2020年)

- ▶ 2020(令和2)年の製造品出荷額等で見ると、特化係数1を超え全国に対して特化していると考えられる産業のうち、最も高いのが印刷・同関連業で、製造品出荷額等も100億円を超えており、粕屋町の強みの産業となっていることが推察される。
- ▶ 食料品製造業、金属製品製造業も特化係数2を超え、特に食料品製造業は出荷額も高いことから、重要な産業だと考えられる。

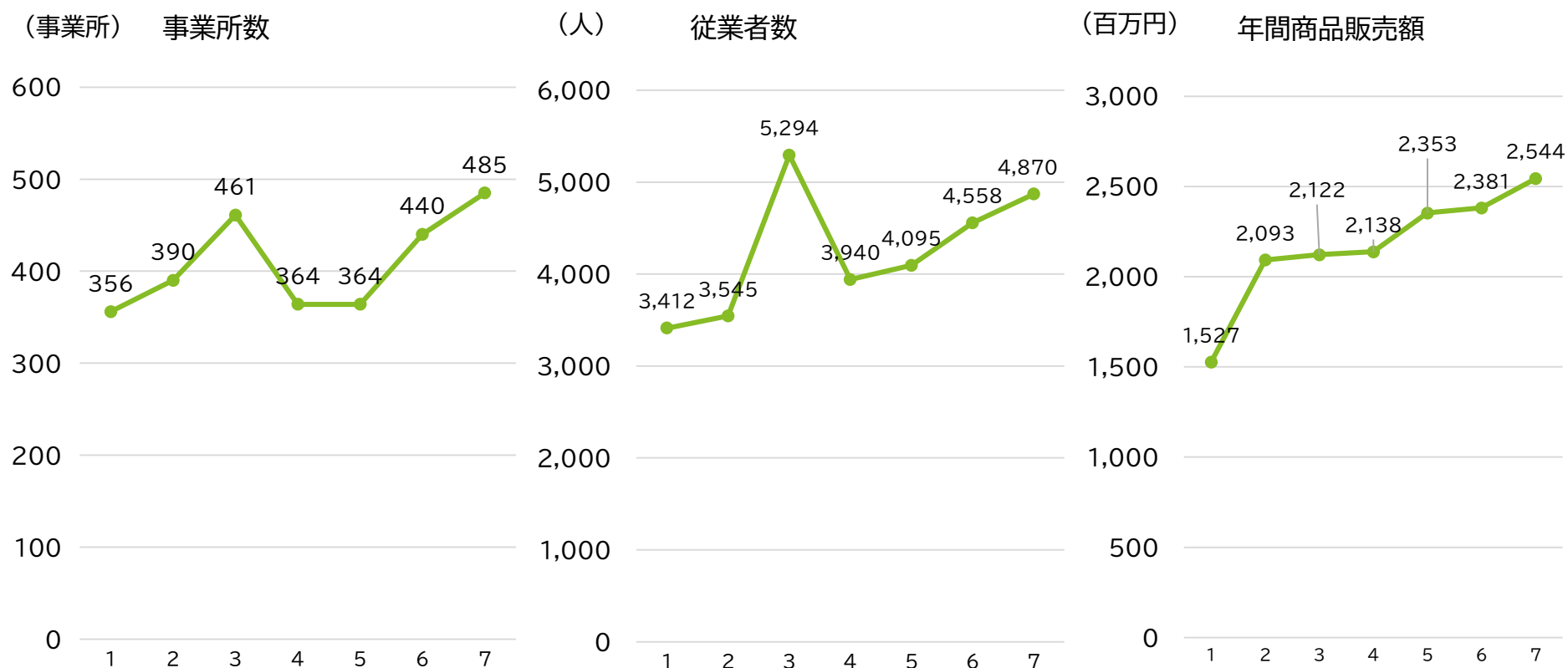


出典:総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 4.小売業

### 小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移

- ▶ 小売業の動向について、事業所数、従業者数は2007(平成19)年に大幅に増加したが、2012(平成24)年には2004(平成16)年以前の水準まで減少しており、その後は以前と同程度の増加幅で少しずつ増加している。
- ▶ 一方で年間商品販売額は一貫して増加傾向にあり、2002(平成14)年から2021(令和3)年にかけて10億円増加している。

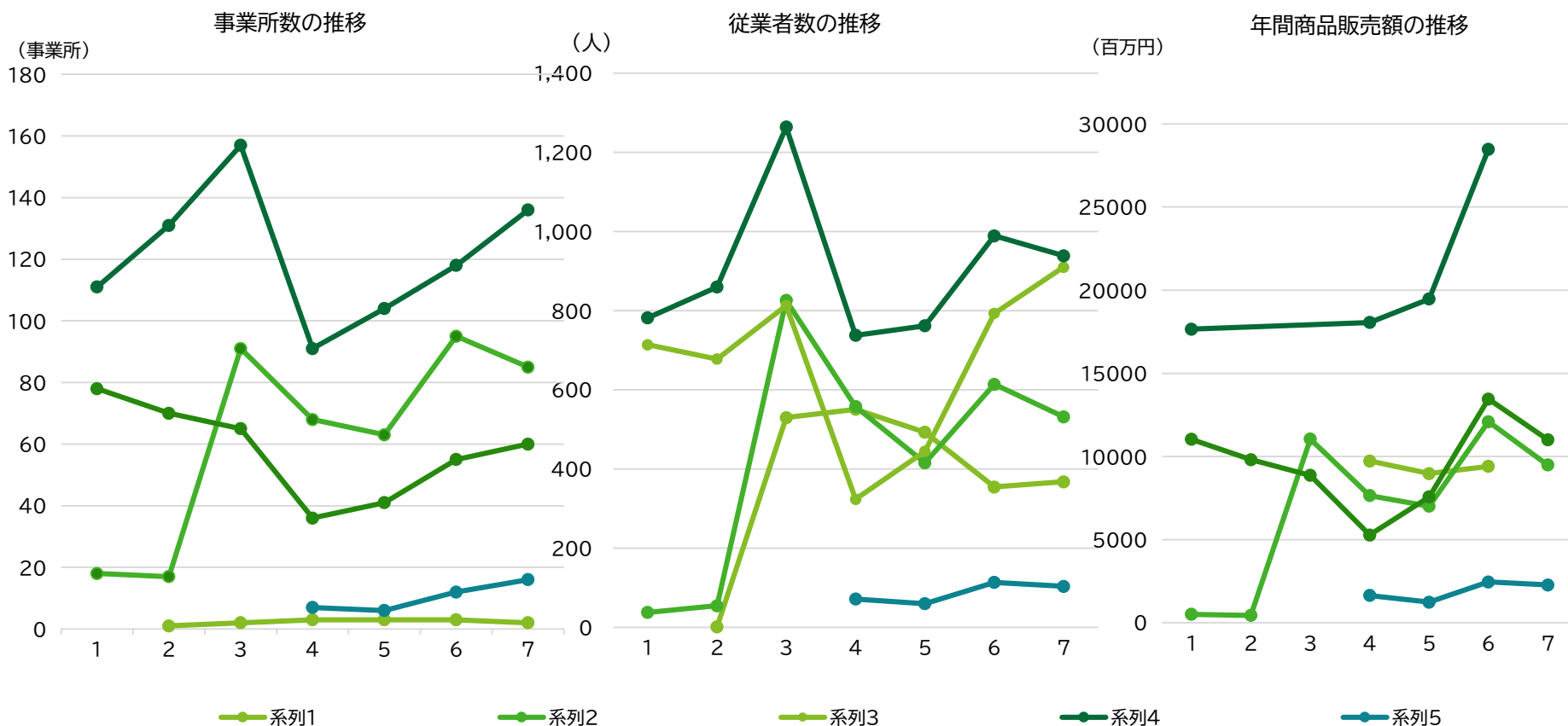


出典:総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 4.小売業

### 小売業の産業中分類別事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移

- ▶ 小売業を産業分類別にみると、いずれの産業においても増減が激しいが、最も高い水準となっているのは機械器具・その他の小売業であり、2012(平成24)年から2021(令和3)年にかけては事業所数・従業者数・販売額ともに増加傾向にあることがわかる。
- ▶ 2016(平成28)年から2021(令和3)年にかけて従業者数は減少傾向にあるが、飲食料品小売業のみ、2012(平成24)年以降大幅に増加しており、2021(令和3)年には機械器具・その他の小売業とほぼ同水準となっている。



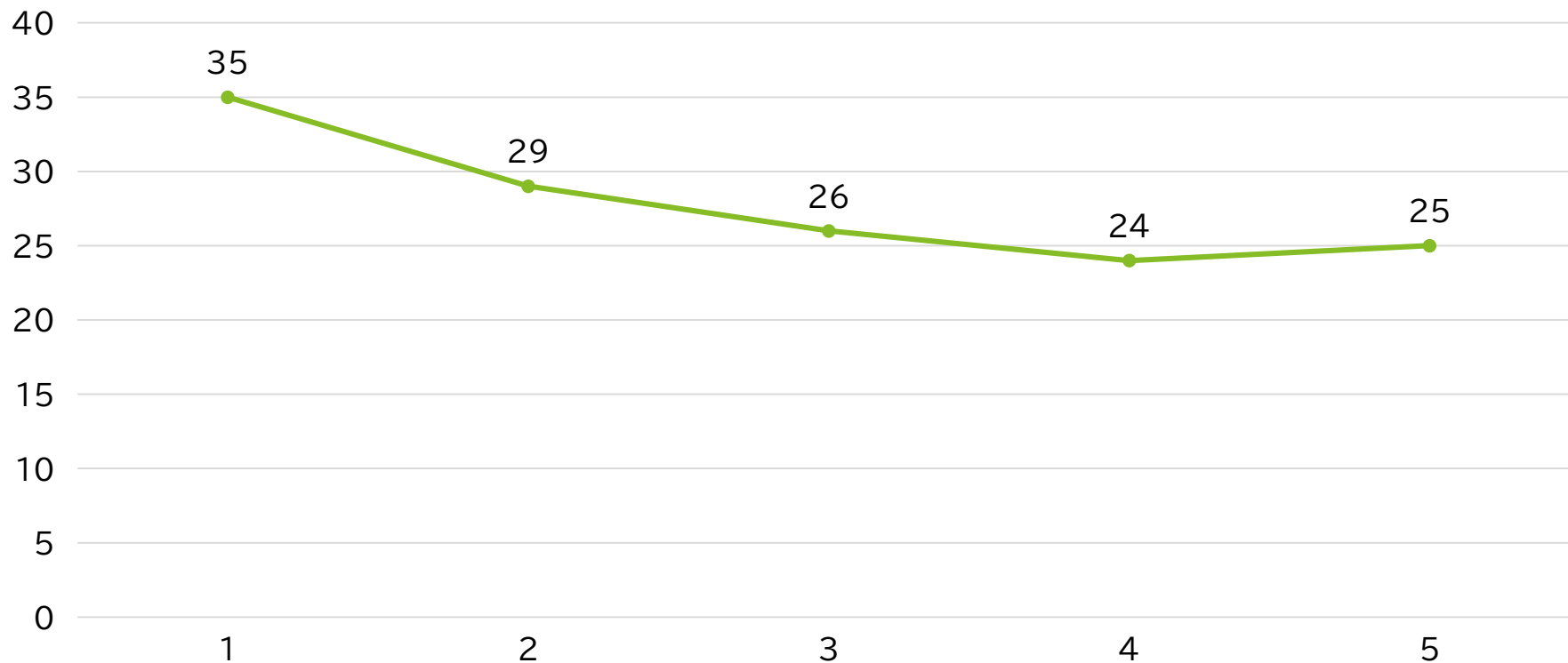
出典:総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 農業産出額の推移

- 粕屋町における2022(令和4)年の農業産出額は25億円であった。
- 農業産出額について、2021(令和3)年と比較して1千万円の増加となったが、2018(平成30)年から2022(令和4)年の5年間では、減少傾向にある。

(千万円)



出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

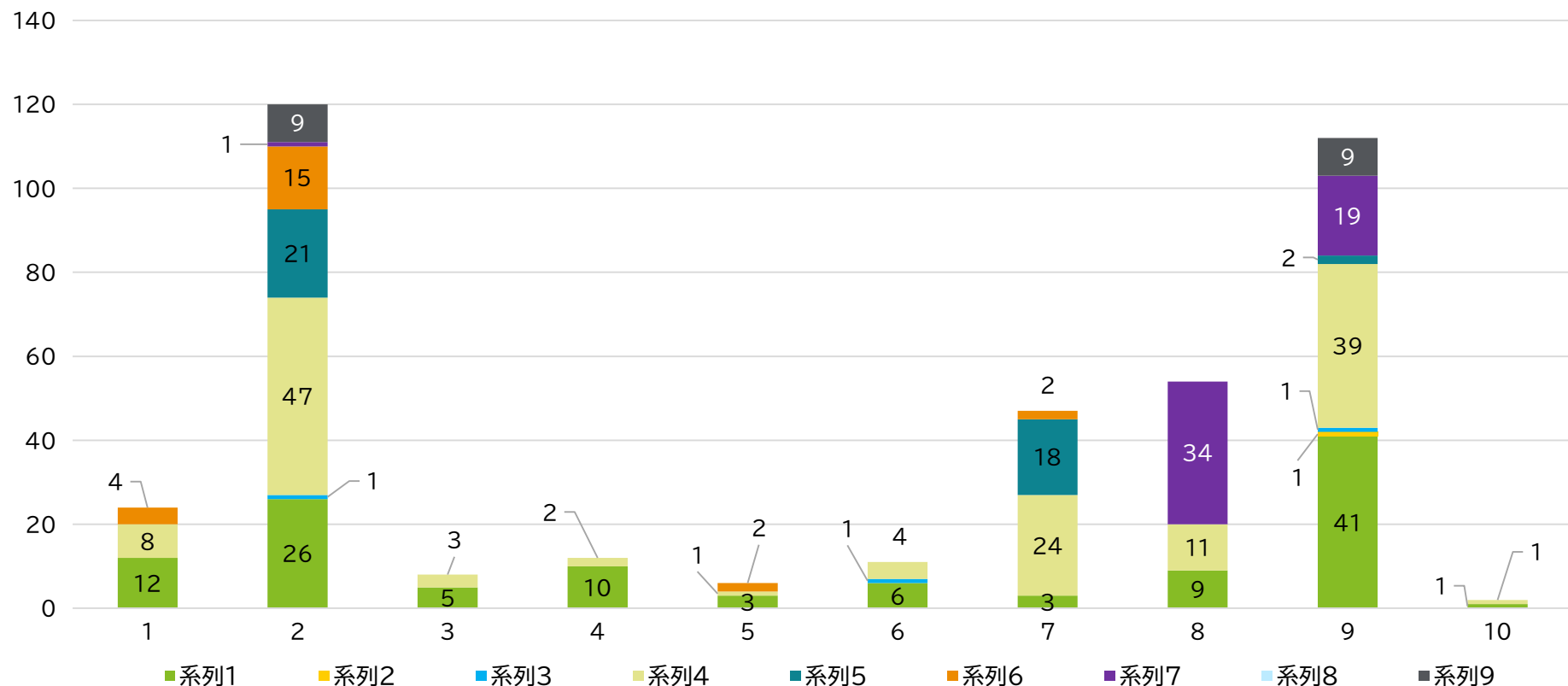


## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 品目別農業産出額の比較(2021年)(1/2)

- ▶ 粕屋町の品目別農業産出額をみると、米が1.2億円、野菜が0.8億円、花きが0.4億円となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では古賀市、筑紫野市、糸島市の農業産出額が高く、米の生産額だけで粕屋町の農業産出額全体を上回っている。
- ▶ 人口同規模の志免町よりは粕屋町の方が農業産出額が高いが、同じく人口が同規模の阿見町は粕屋町を大きく上回っている。

(千万円)

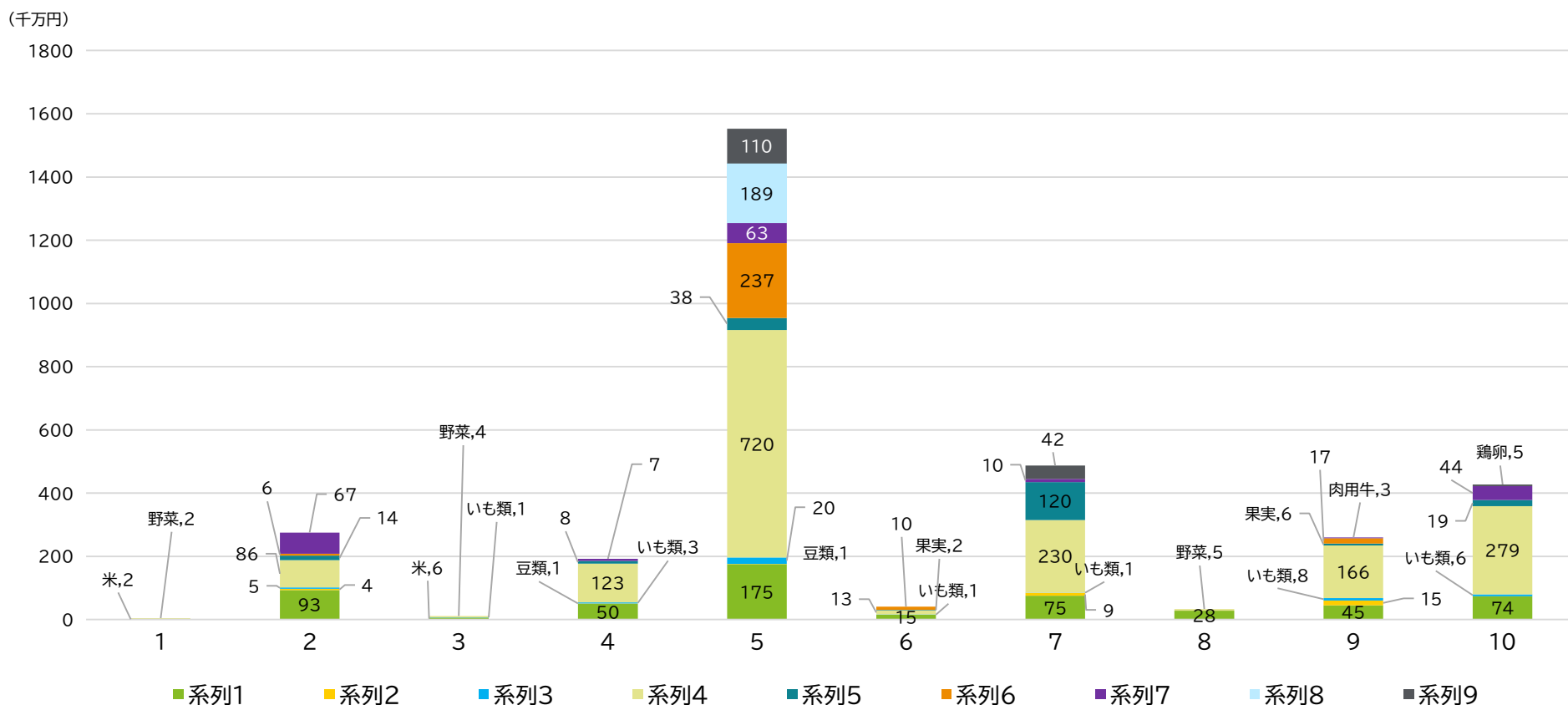


出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 品目別農業産出額の比較(2021年)(2/2)

- ▶ 粕屋町の品目別農業産出額をみると、米が1.2億円、野菜が0.8億円、花きが0.4億円となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では古賀市、筑紫野市、糸島市の農業産出額が高く、米の生産額だけで粕屋町の農業産出額全体を上回っている。
- ▶ 人口同規模の志免町よりは粕屋町の方が農業産出額が高いが、同じく人口が同規模の阿見町は粕屋町を大きく上回っている。

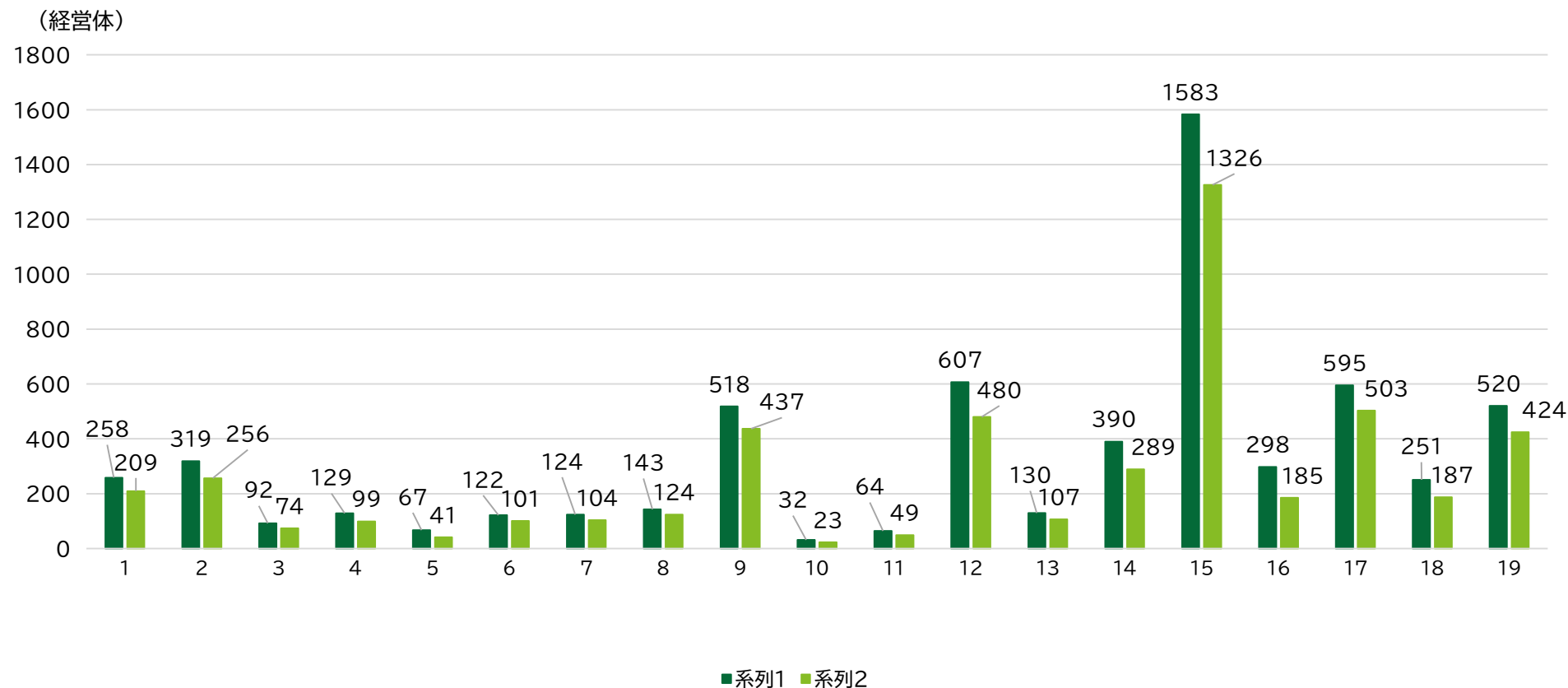


出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 農業経営体数の推移の比較

- 2020(令和2)年において、粕屋町の農業経営体数は209経営体であり、2015(平成27)年と比較して51経営体減少した。
- 2015(平成27)年と2020(令和2)年と比較すると、すべてのベンチマーク都市で農業経営体数が減少している。

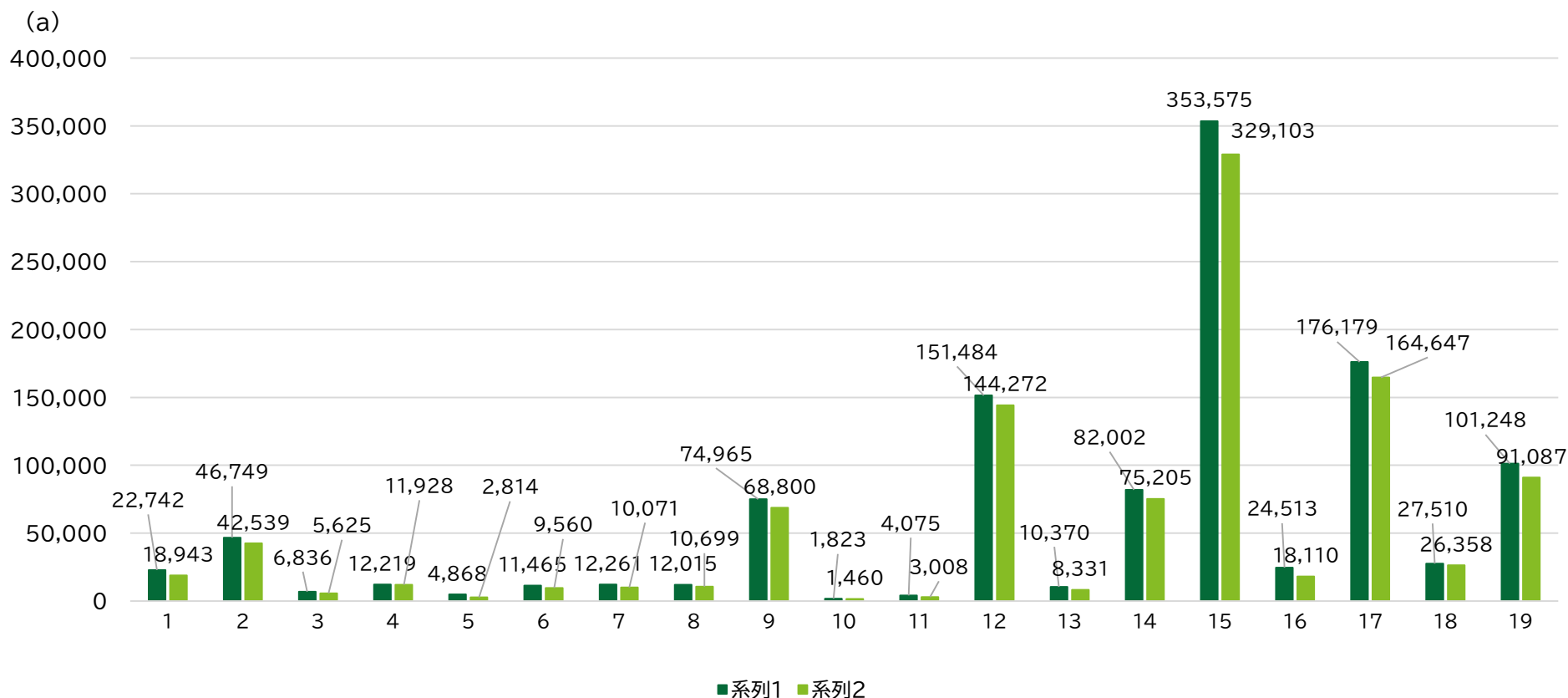


出典:農林水産省「農林業センサス」再編加工

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 経営農業耕地面積の推移の比較

- 2020(令和2)年において、粕屋町の経営農業耕地面積は18,943aであり、2015(平成27)年から3,797a減少した。
- 2015(平成27)年と2020(令和2)年と比較すると、すべてのベンチマーク都市で経営農業耕地面積が減少している。

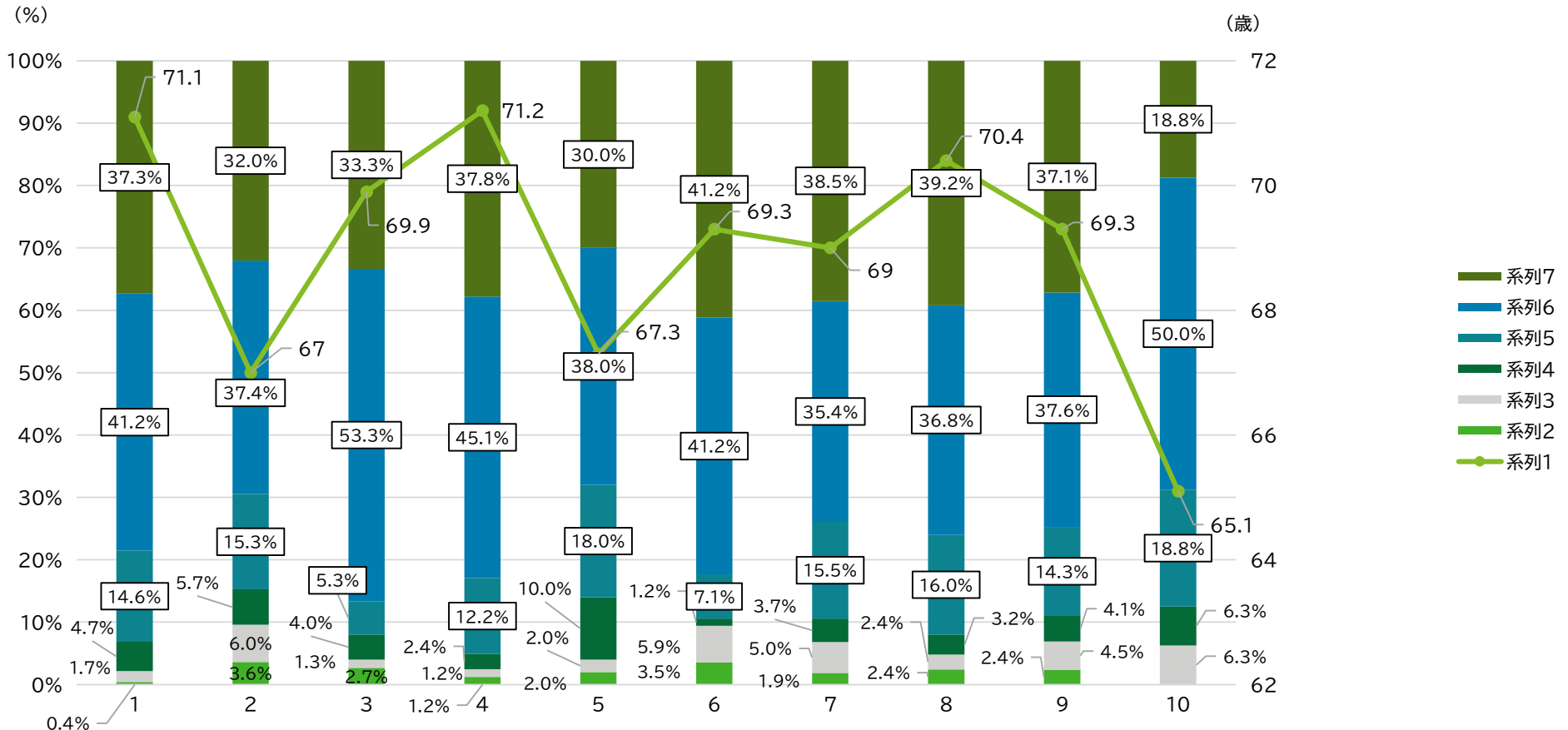


出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 年齢階級別基幹的農業従事者比率と平均年齢の比較(2020年)(1/2)

- ▶ 粕屋町における基幹的農業従事者の平均年齢は71.1歳とベンチマーク都市の中で4番目に高い。平均年齢の最も低い筑後市で63.5歳であることから、農業における高齢化が深刻化していることが推察される。
- ▶ 基幹的農業従事者比率については、最も割合の多い65～74歳が41.2%であり、25～34歳の割合は0.4%であることから農業の担い手の確保が重要であると推察される。

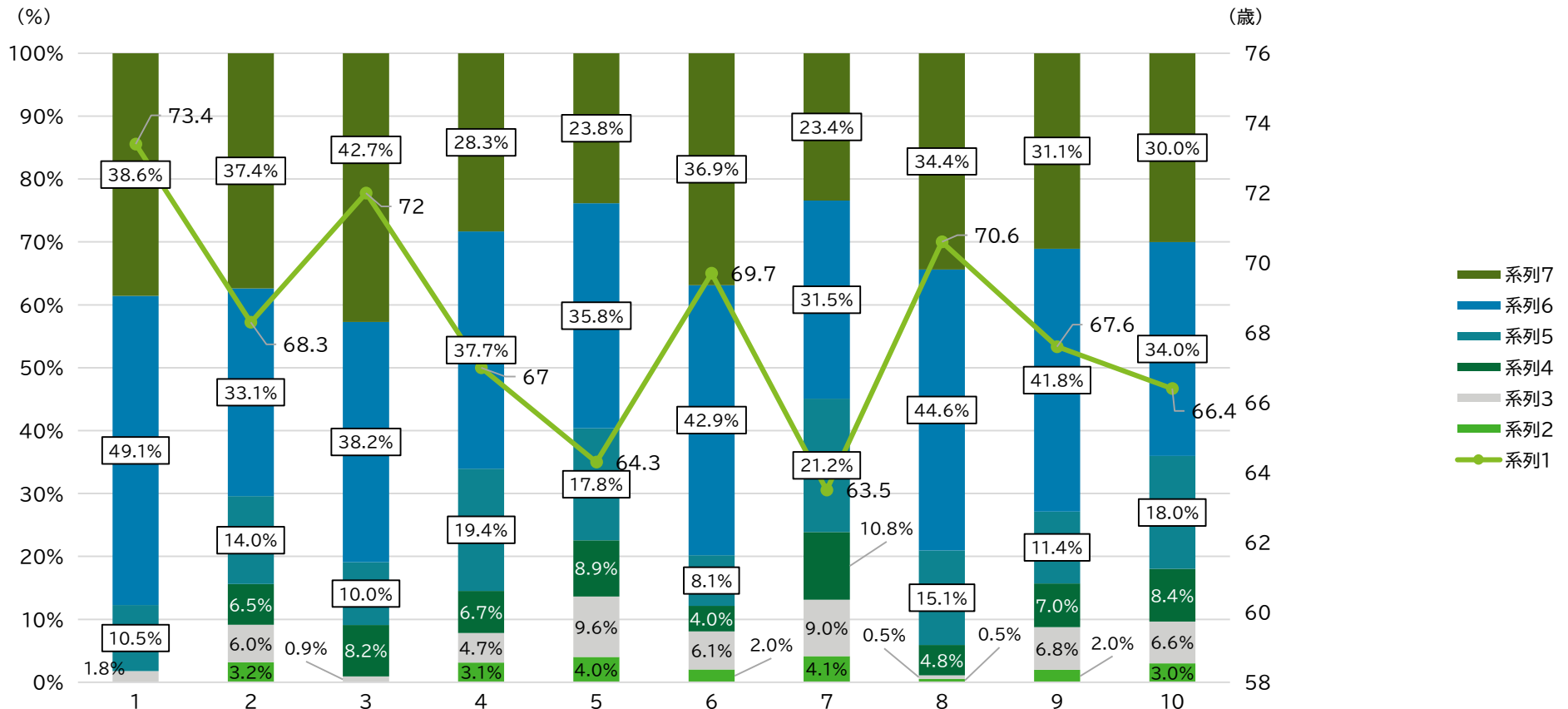


出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 年齢階級別基幹的農業従事者比率と平均年齢の比較(2020年) (2/2)

- ▶ 粕屋町における基幹的農業従事者の平均年齢は71.1歳とベンチマーク都市の中で4番目に高い。平均年齢の最も低い筑後市で63.5歳であることから、農業における高齢化が深刻化していることが推察される。
- ▶ 基幹的農業従事者比率については、最も割合の多い65～74歳が41.2%であり、25～34歳の割合は0.4%であることから農業の担い手の確保が重要であると推察される。

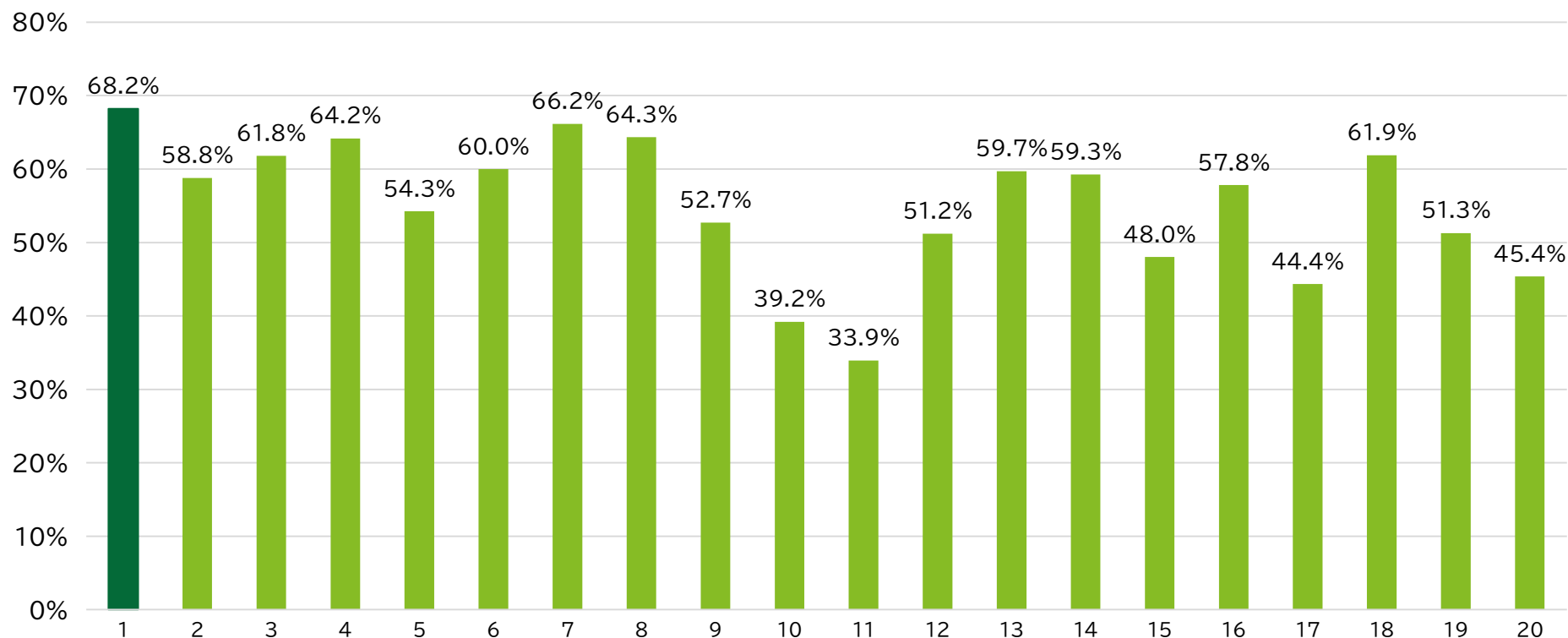


出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工

## Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

### 農業就業者数に占める65歳以上の就業者割合の比較(2020年)

- 粕屋町の農業就業者数に占める65歳以上の就業者割合は、68.2%でベンチマーク都市の中で最も高い。
- 粕屋町全体の高齢人口割合は他市と比較して少ないが、農業分野では高齢化の影響を受けていると考えられる。



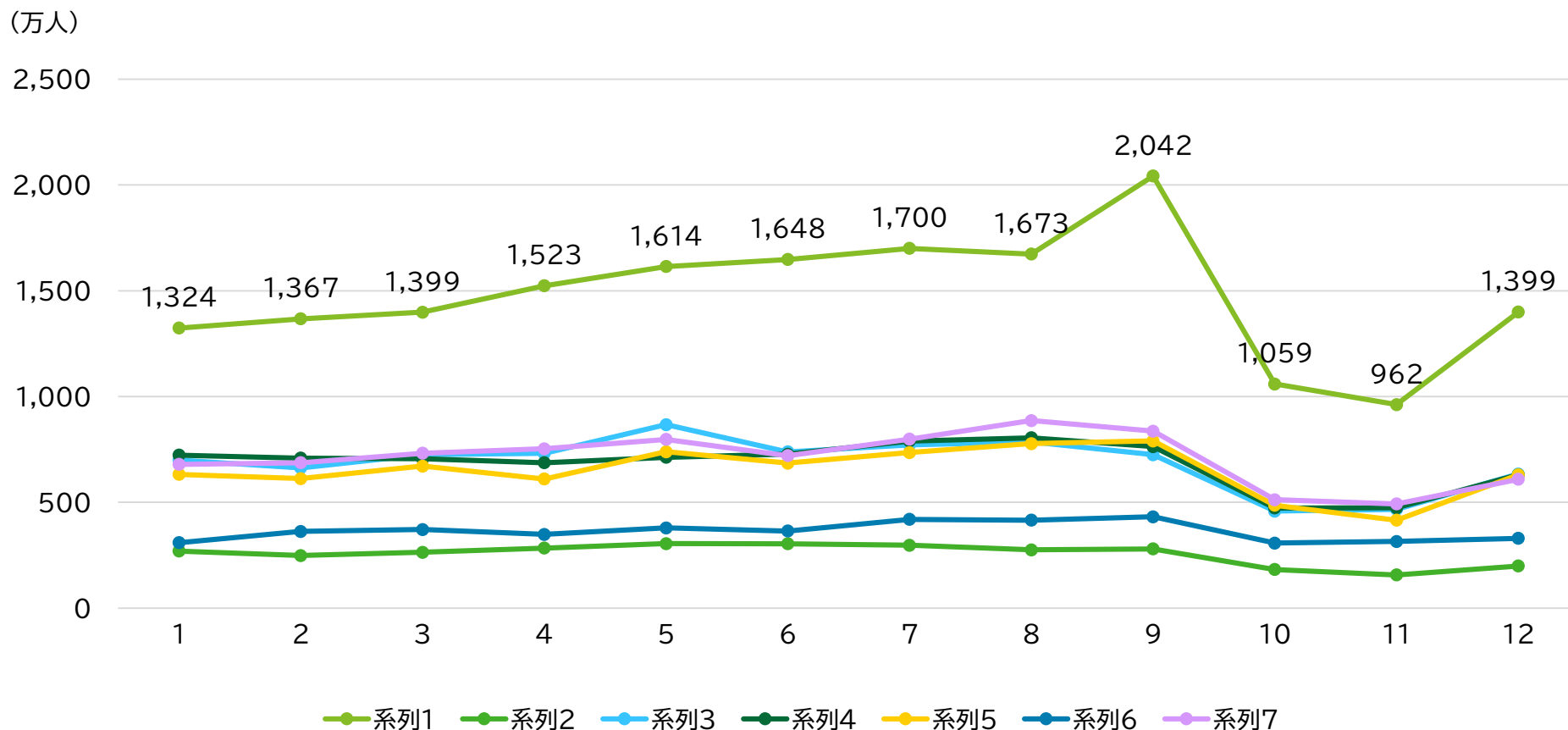
※就業者とは、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入など収入(現物収入を含む)を伴う仕事を少しでもした人のこと  
家族の人が自家営業(個人経営の農業や工場・店の仕事など)の手伝いをした場合、無給であっても収入を伴う仕事をしたこととして就業者に含めている

出典:総務省「国勢調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 6.観光

### 県の延べ宿泊者数の推移と比較

▶ 九州内では福岡県の延べ宿泊者数が最も多く、2011(平成23)年以降、一貫して他県を大きく上回る水準で推移している。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

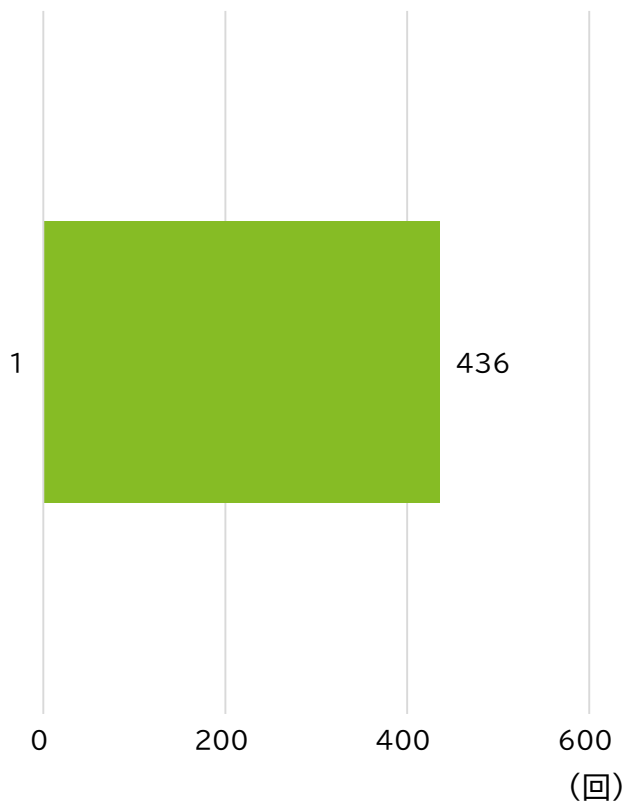


## Ⅱ.産業・経済 | 6.観光

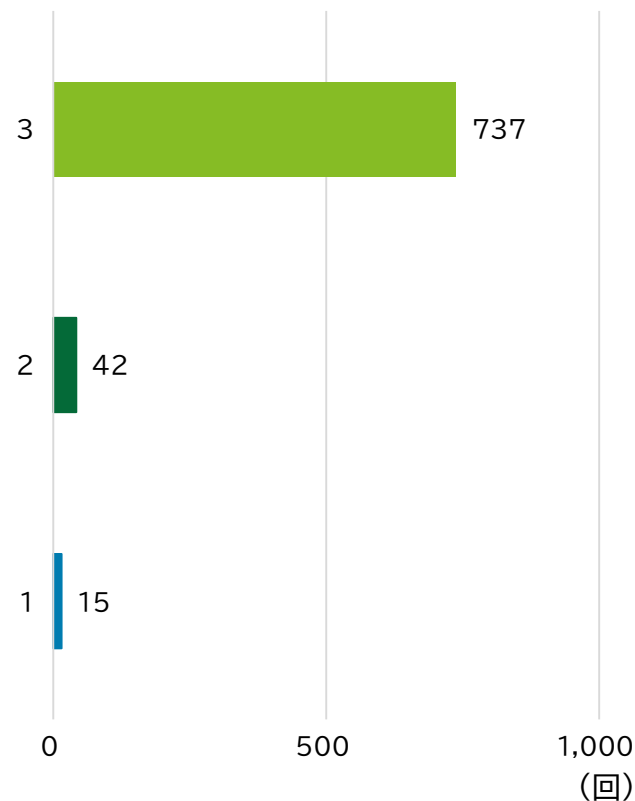
### 町内の目的地別経路検索回数(2022年4月~2023年3月)

- 粕屋町において、最も多く経路検索されている目的地はイオンモール福岡であり、福岡県内でもトップクラスの大きさを誇るイオンモールということもあり、町内外から多くの人を訪れている場所であると推察される。
- 公共交通利用者の検索はイオンモール福岡のみであったが、自動車利用者は駕与丁公園や生涯学習センターサンレイクかすやへの経路検索も行っており、一定数人が訪れている場所であると捉えることができる。

公共交通利用者の直近1年間の検索回数



自動車利用者の直近1年間の検索回数



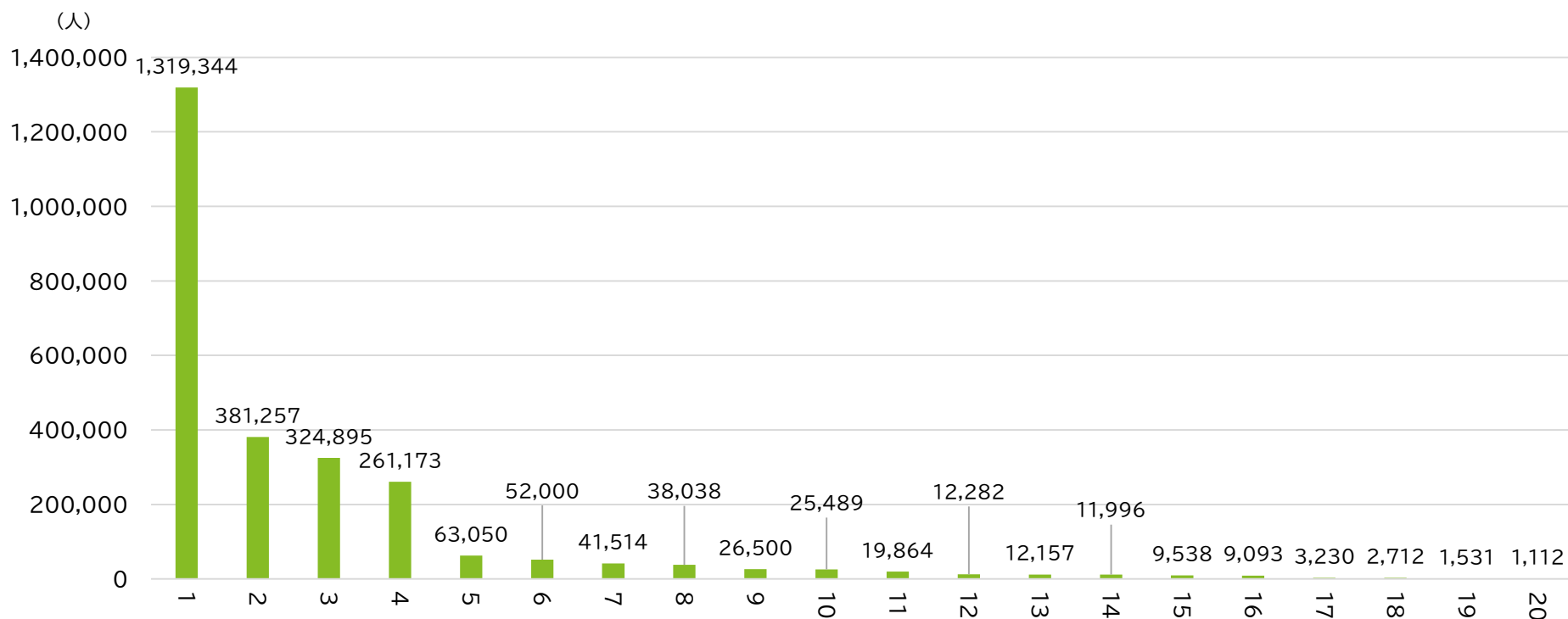
※検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。上位5位の目的地のみ表示している。

出典:株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

## Ⅱ.産業・経済 | 6.観光

### 福岡県へ訪問した外国人の国・地域別訪問客数(2019年)

- 2019(令和元)年に福岡県を訪れた外国人のうち、韓国からの来訪客が最も多く、次いで台湾、中国、香港の順に多い。
- 韓国からの来訪客が多いのは、福岡・韓国間の距離が近く、行き来が航空機だけでなく船でも可能であることが要因の一つであると推察される。

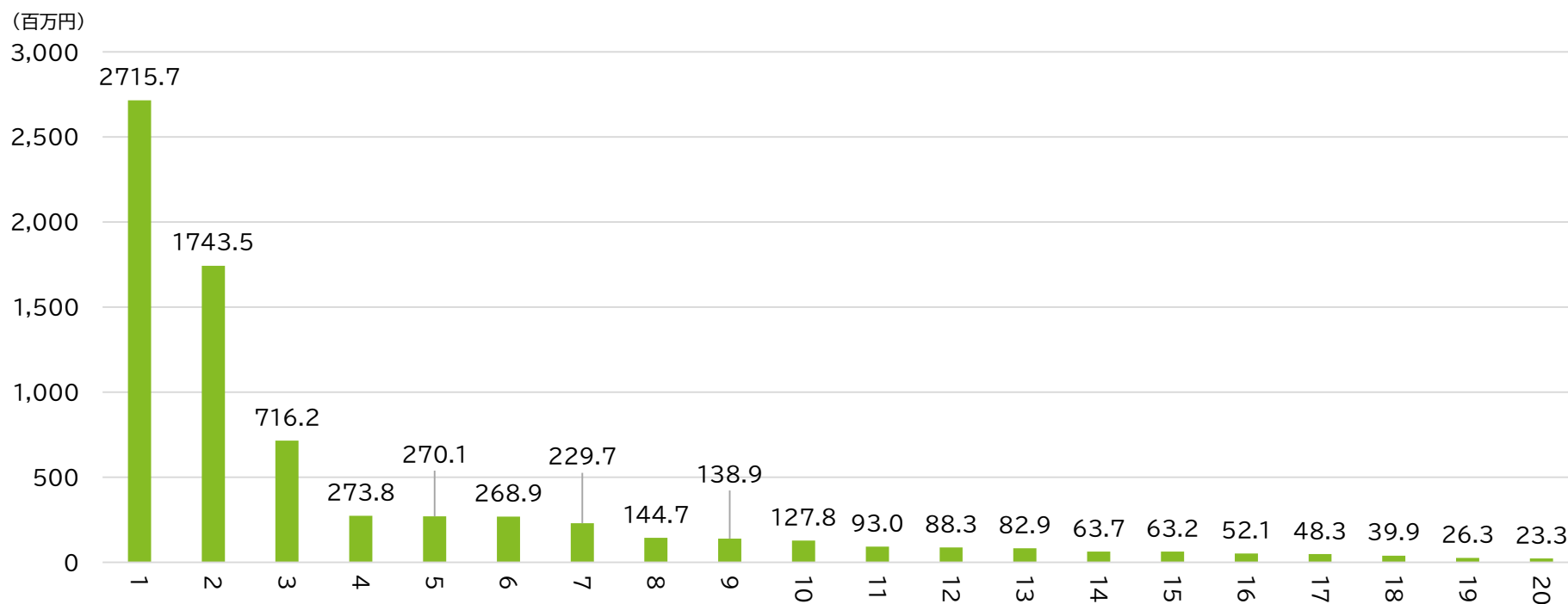


出典:観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」

## Ⅱ.産業・経済 | 6.観光

### 福岡県内での外国人における国・地域別消費額(2019年)

- ▶ 福岡県内での外国人消費額は、中国、米国、韓国、香港の順に多く、1位の中国は2位以下を大きく引き離し、25億円を超えている。
- ▶ 中国は、訪問者数が韓国の約4分の1であるにもかかわらず消費額が韓国の約4倍となっており、中国人観光客一人当たりの消費額が高いことがわかる。



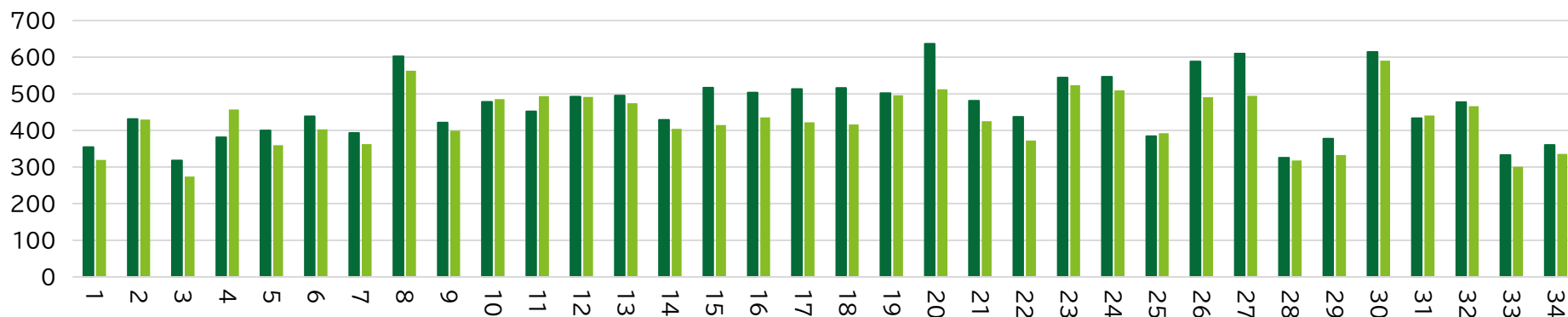
出典:ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社のカードデータを再編加工

## Ⅱ.産業・経済 | 7.雇用

### 県の産業別1人当たり賃金(2022年)

- ▶ 福岡県の1人当たり賃金は、学校教育が最も高い。その他の教育、学習支援業については全国平均を上回っているため、福岡県が教育分野に力を入れていることが推察される。
- ▶ 木材・木製品製造業及び窯業・土石製品製造業についても全国平均を大きく上回っており、福岡県において盛んな産業であると考えられる。

(万円)



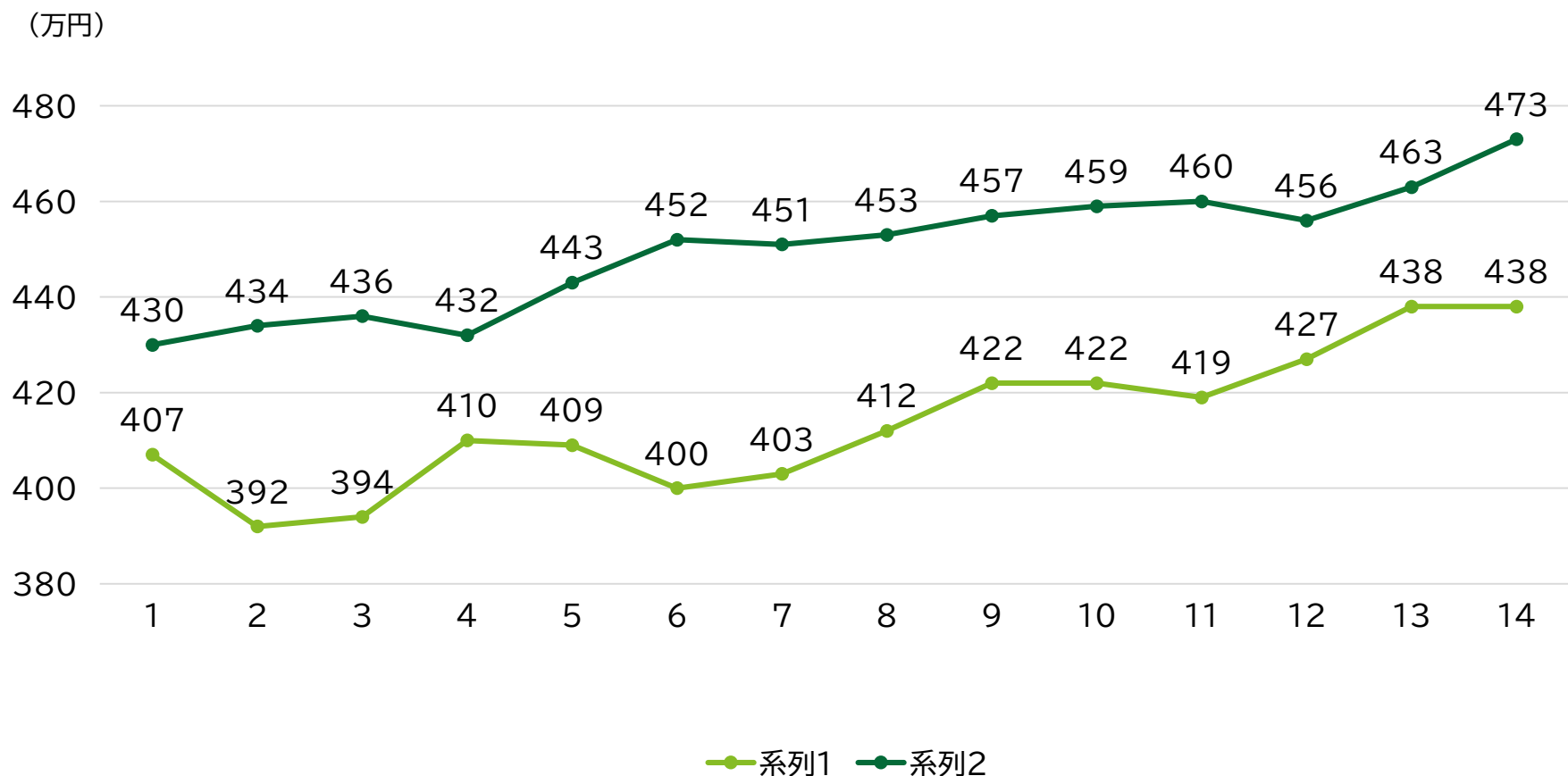
■ 系列1 ■ 系列2

出典:厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

## Ⅱ.産業・経済 | 7.雇用

### 県の1人当たり賃金の推移

- ▶ 福岡県の1人当たり賃金は、全国の傾向と同様に増加傾向にある。
- ▶ 全国水準より約30万円低い状態が続いており、昨今の経済情勢を踏まえれば今後も継続した増加が見込まれるものの、全国水準との差を少なくするための取り組みは今後も必要になると考えられる。

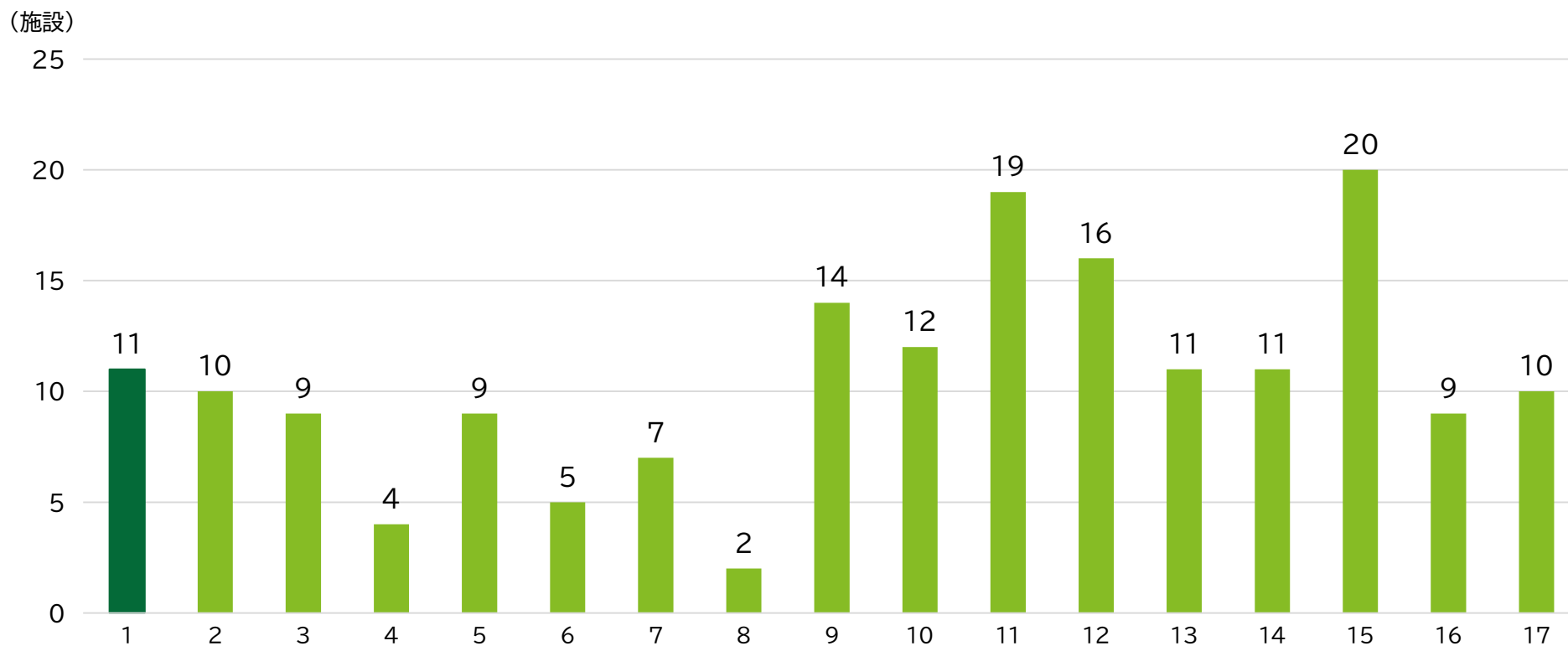


出典:厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

# III.子育て・教育 | 1.保育所等

## 保育所等数の比較(2022年)

➤ 2022(令和4)年において、粕屋町には保育所等が11施設あり、ベンチマーク都市の中では、平均的な水準であると考えられる。



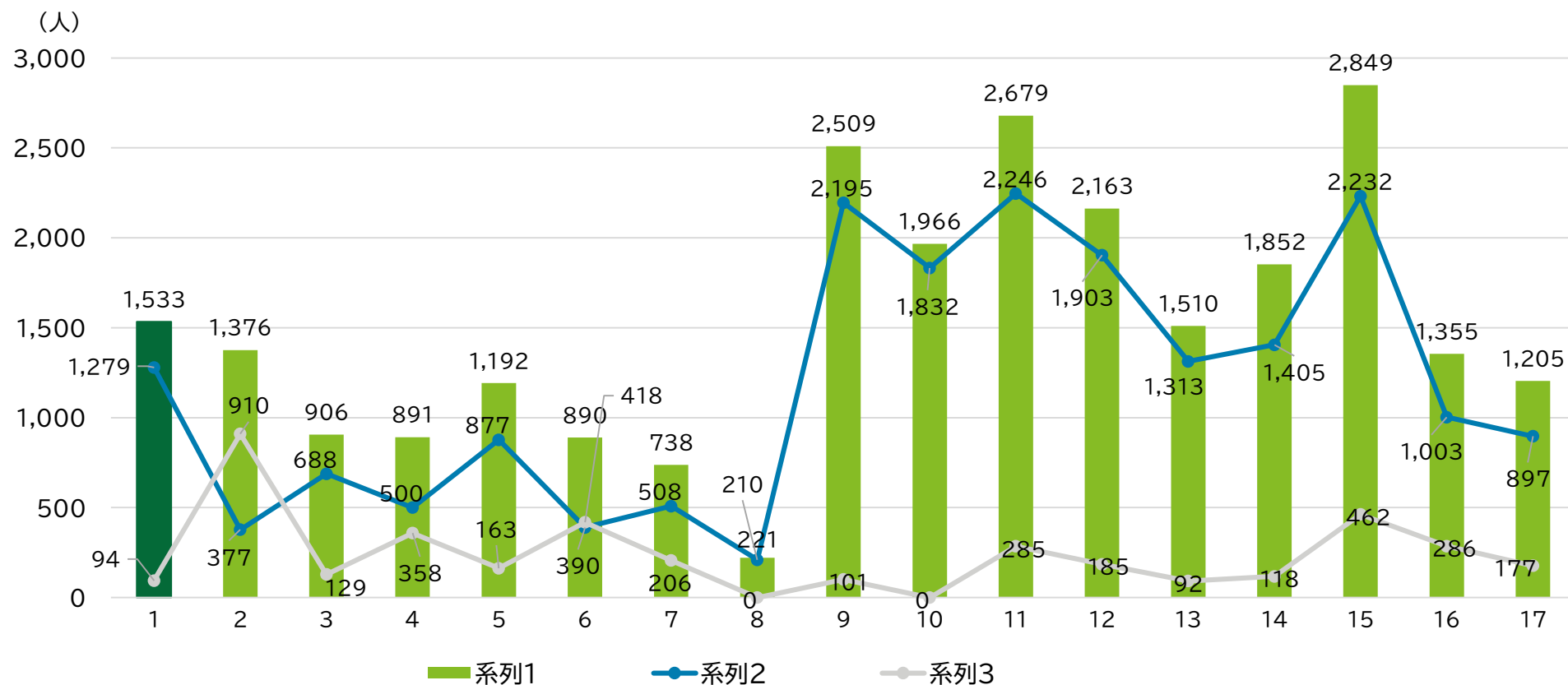
※幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園、保育所の合計

出典:厚生労働省「社会福祉施設等調査」

# III.子育て・教育 | 1.保育所等

## 保育所等申込者数・利用者数の比較(2023年)

- 粕屋町における保育所等申込者数は1,533人であり、そのうち保育所利用者数は1,279人、認定こども園利用者数は94人であった。
- 糟屋地域の中では最も高い水準であり、人口が同規模の志免町、那珂川市、阿見町を上回っていることから、保育所等の利用を希望している人が多いと推察される。



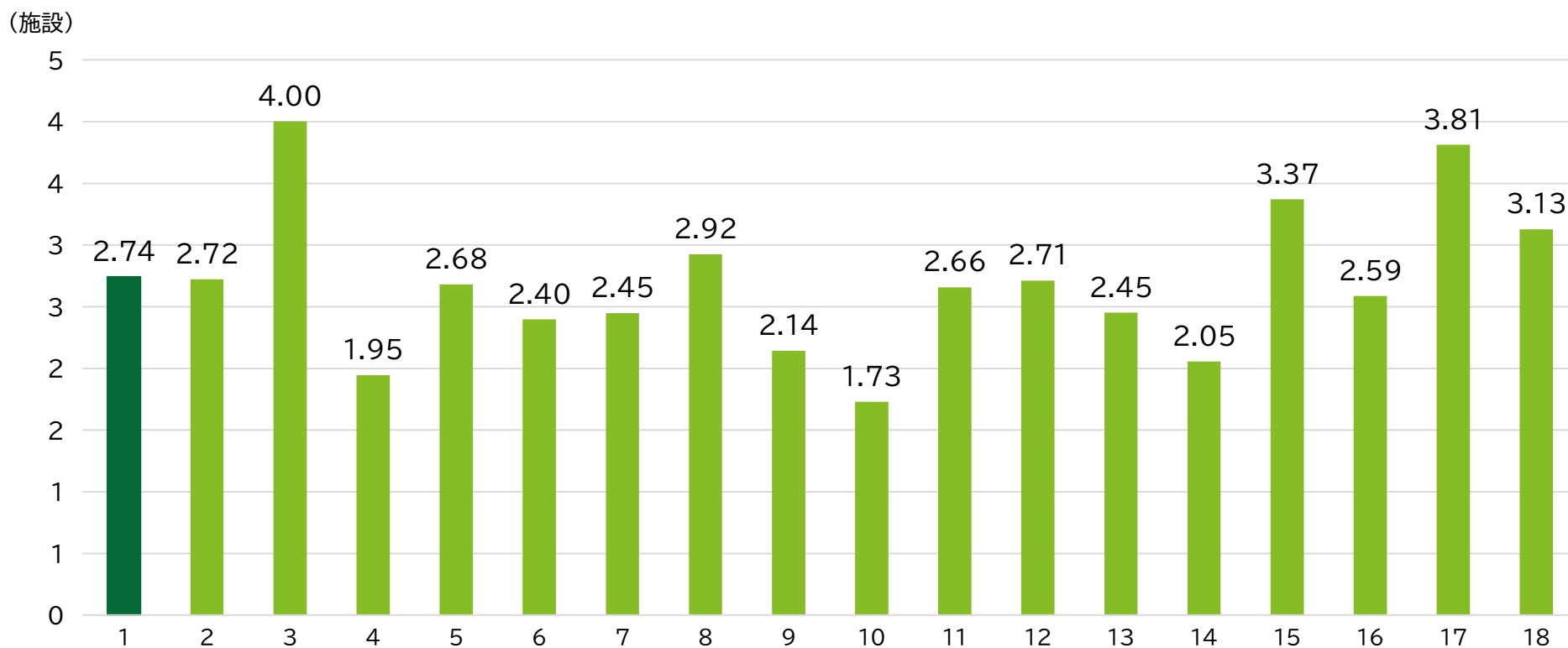
※申込者の中には、保育所・認定こども園の利用者の他に、地域型保育事業や特例保育等を利用している者もいる。

出典: 子育て家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ」

# III.子育て・教育 | 1.保育所等

## 0～6歳人口千人当たりの保育所等数の比較(2022年)

▶ 粕屋町の0～6歳人口千人当たりの保育所等数は、2.74であり、ベンチマーク都市の中では平均的な水準であると考えられる。



※幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園、保育所の合計

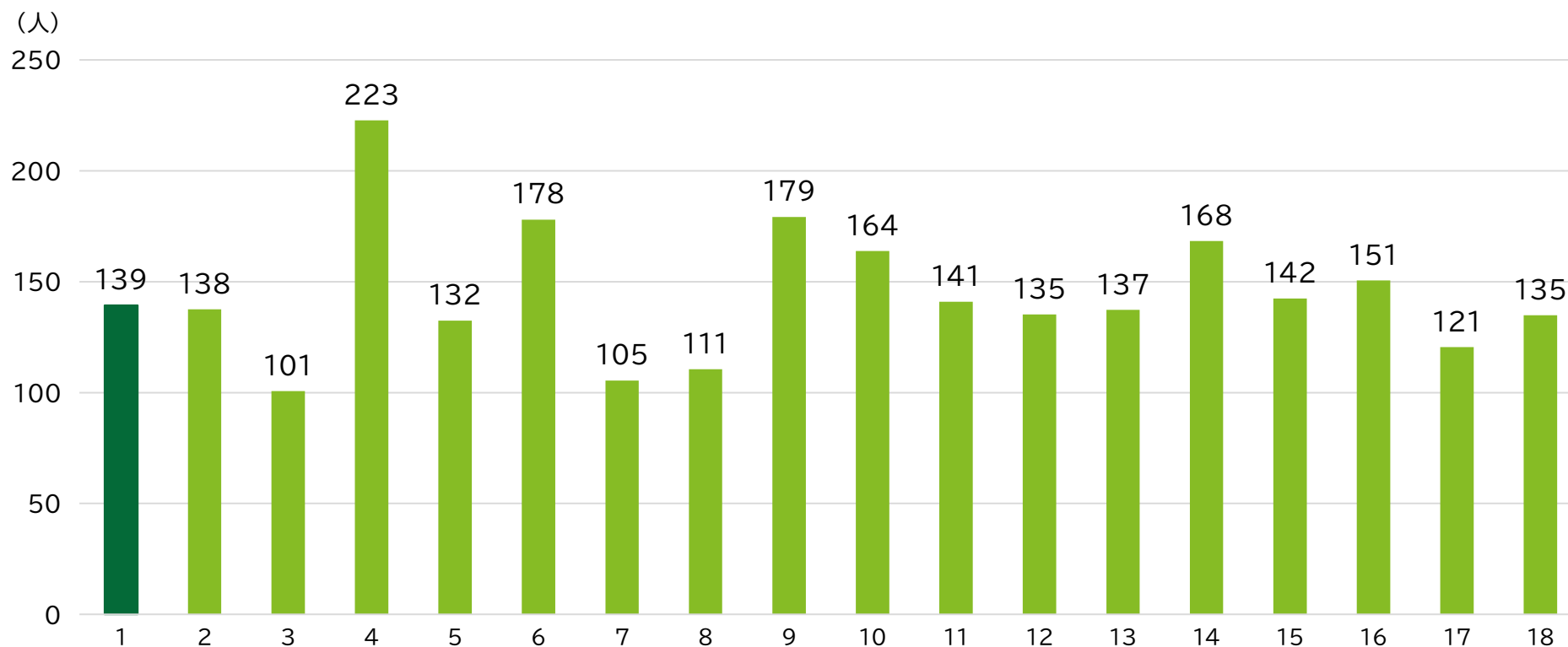
出典:厚生労働省「社会福祉施設等調査」



# III.子育て・教育 | 1.保育所等

## 保育所等数当たりの保育所等申込者数の比較(2022年)

▶ 粕屋町の保育所等数当たりの保育所等申込者数は、139人であり、ベンチマーク都市の中では平均的な水準であると考えられる。



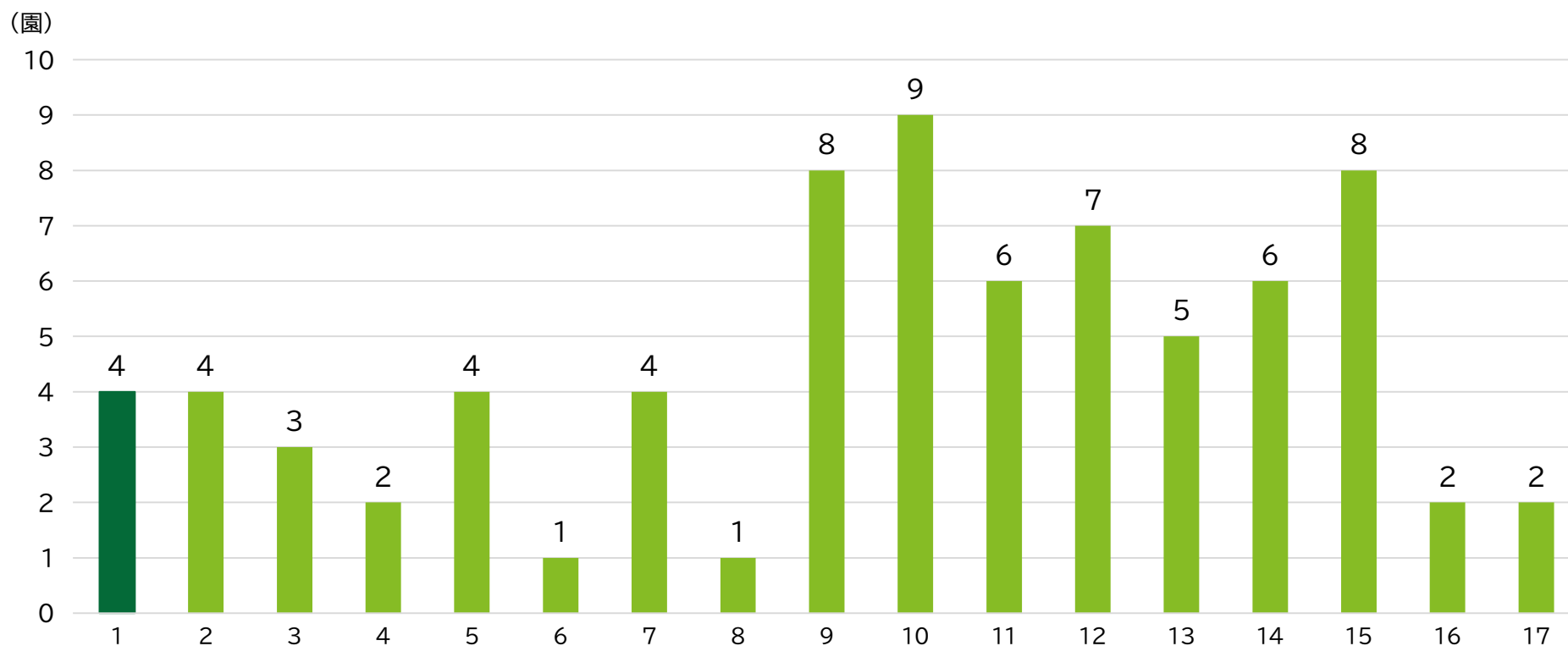
※保育所等数は幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園、保育所の合計

出典:厚生労働省「社会福祉施設等調査」、こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ」

# III.子育て・教育 | 2.幼稚園

## 幼稚園数の比較(2023年)

- 粕屋町には幼稚園が4園あり、ベンチマーク都市である春日市や筑紫野市、糸島市と比較すると、幼稚園数はおよそ2分の1である。
- 一方、糟屋地域の中では最も高い水準であり、粕屋町より人口規模の大きい古賀市とも同数となっている。



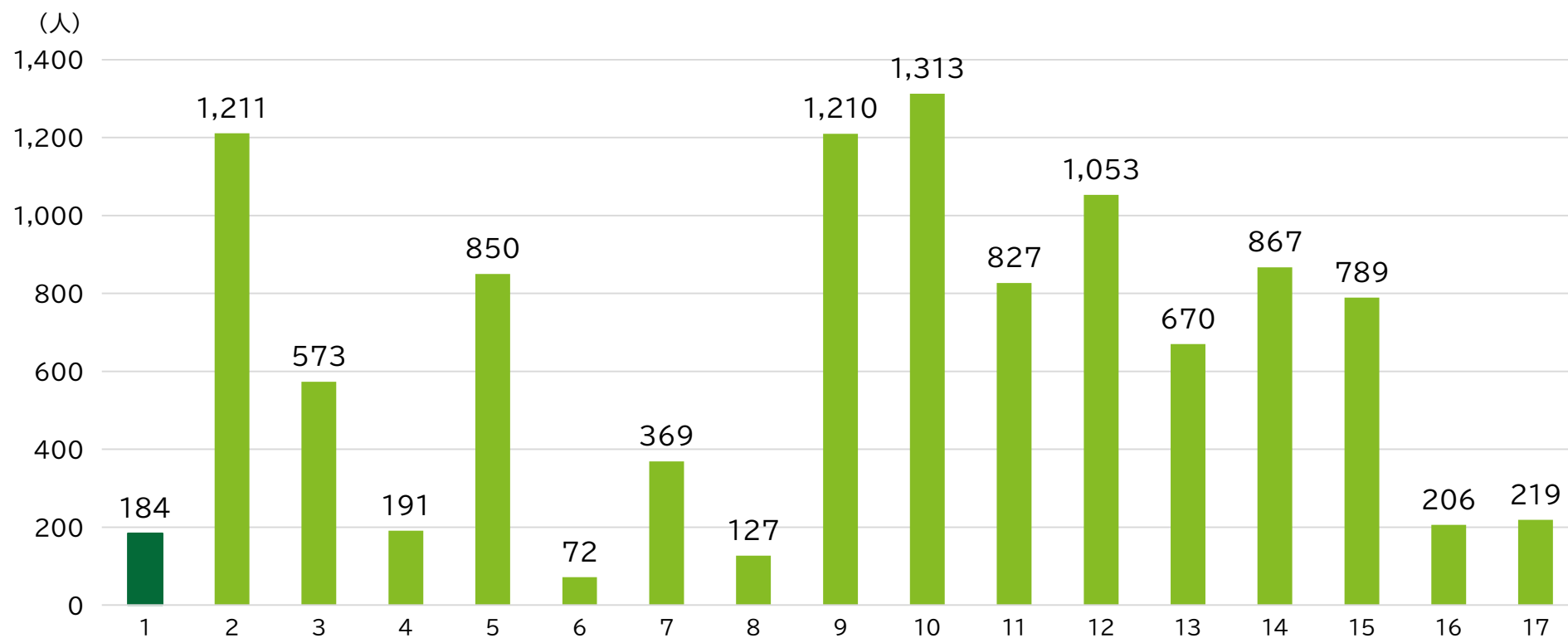
※幼保連携型認定こども園を含まない

出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 2.幼稚園

## 幼稚園在園者数の比較(2023年)

- 粕屋町における幼稚園在園者数は184人であり、ベンチマーク都市の中で3番目に少ない。
- 粕屋町に住む園児の多くは、保育所等を利用していると推察される。



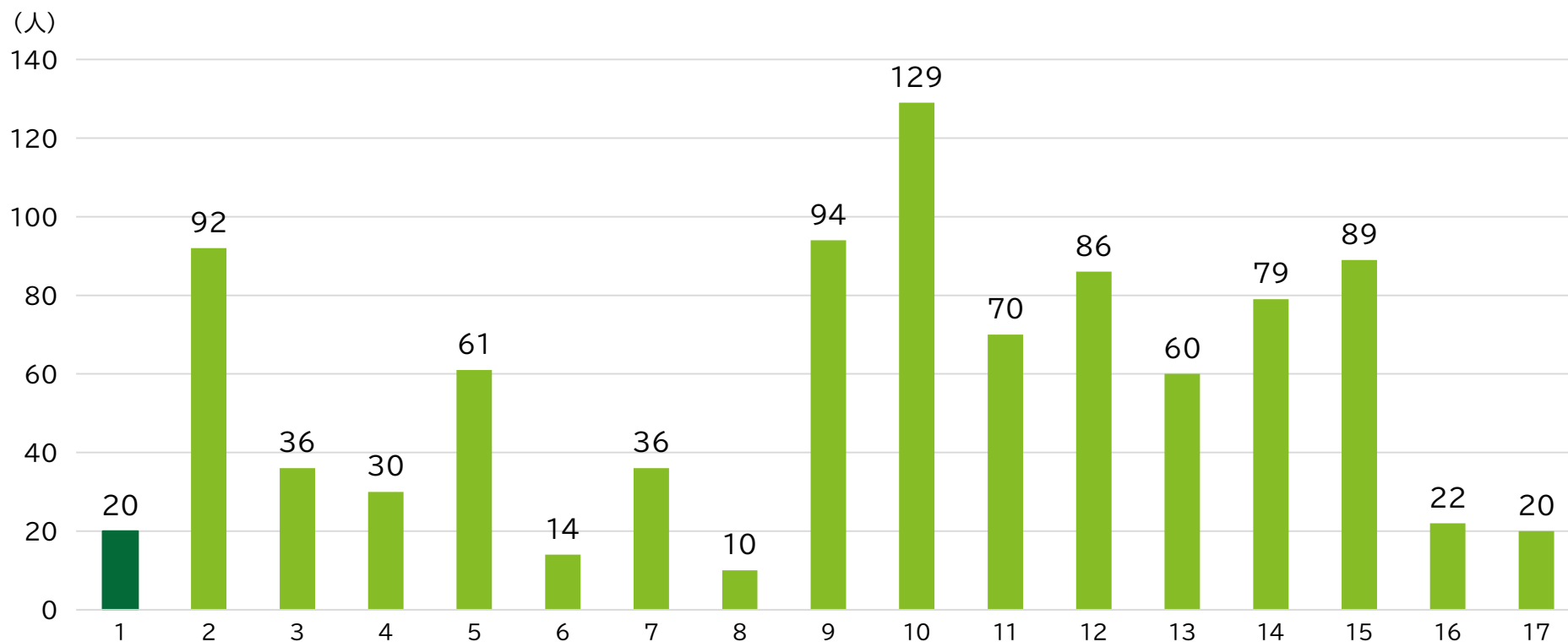
※幼保連携型認定こども園を含まない

出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 2.幼稚園

## 幼稚園教員数の比較(2023年)

- 粕屋町における幼稚園教員数は20人であり、ベンチマーク都市の中で3番目に少ない。
- 幼稚園数及び幼稚園在園者数に比例して教員数も少ないものと推察される。



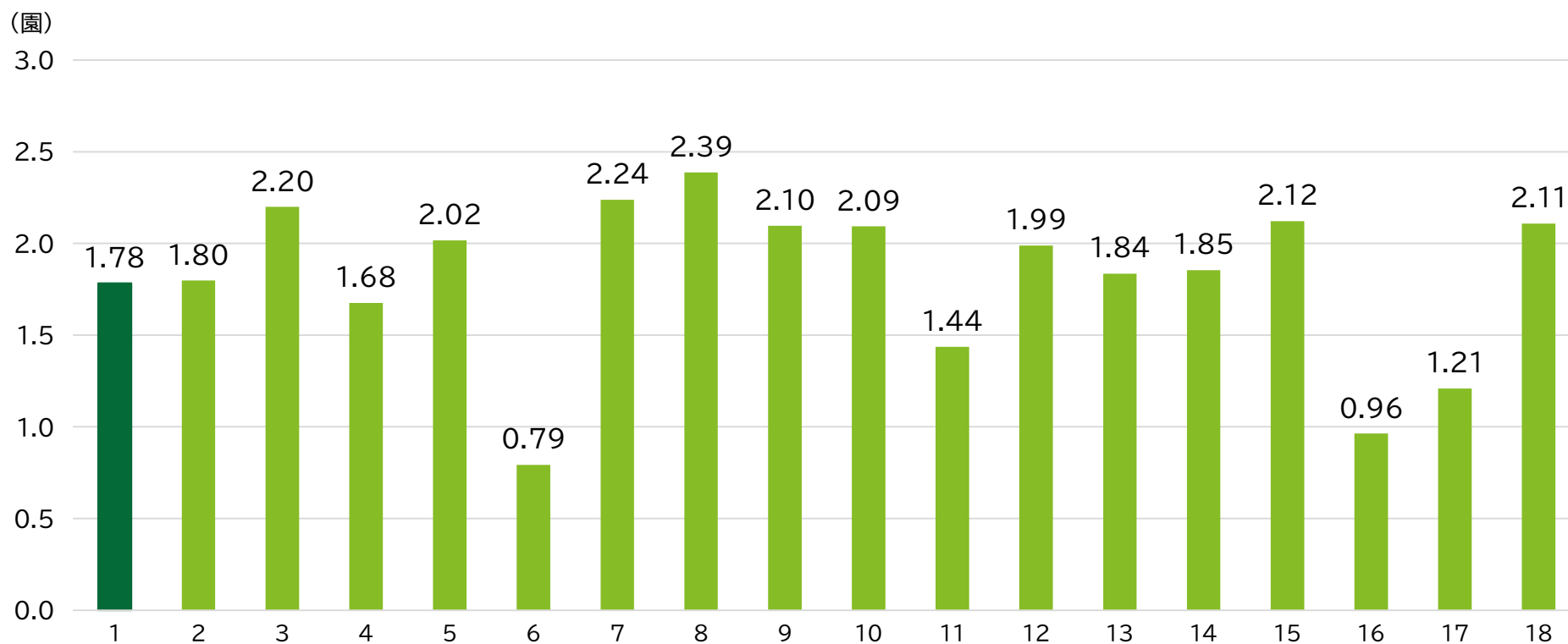
※幼保連携型認定こども園を含まない

出典: 文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 2.幼稚園

## 3～6歳人口千人当たりの幼稚園数の比較(2023年)

▶ 粕屋町における3～6歳人口千人当たりの幼稚園数は1.78園であり、ベンチマーク都市の中では6番目に少なく、2園を下回っている。



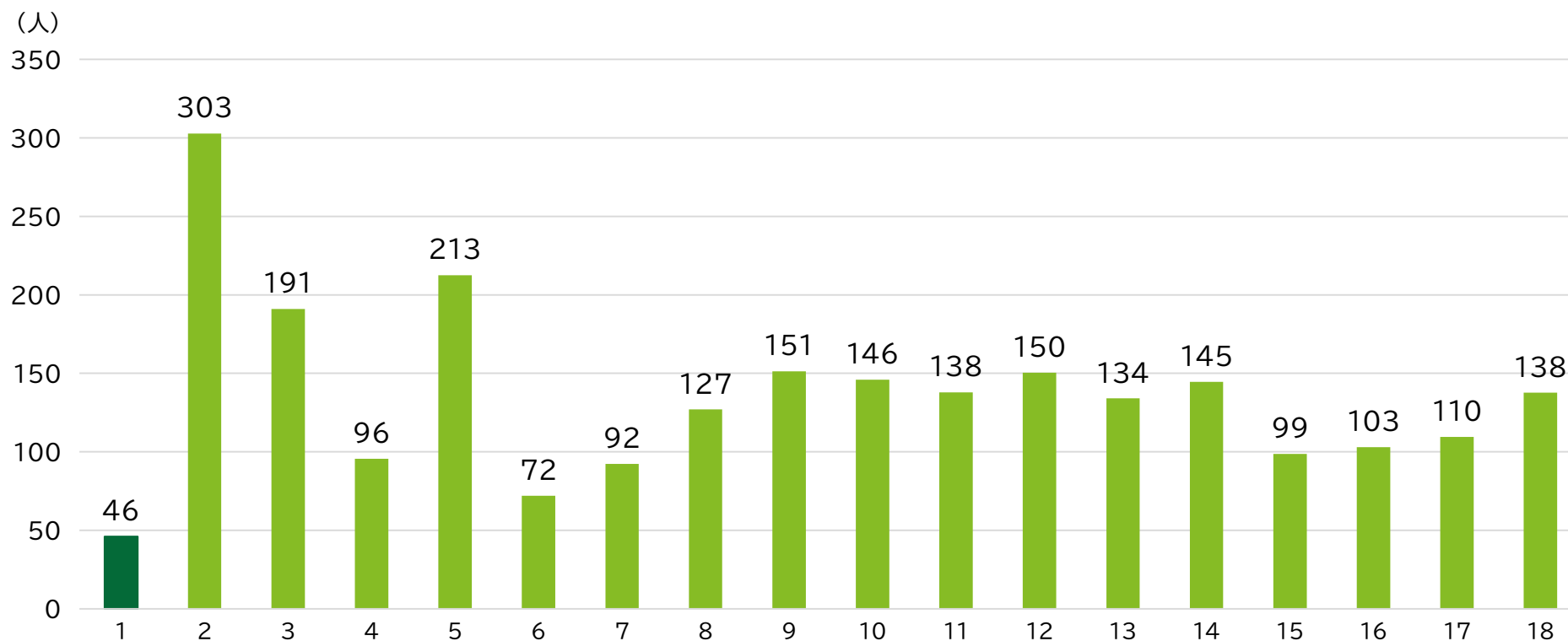
※幼保連携型認定こども園を含まない

出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 2.幼稚園

## 幼稚園数当たりの幼稚園在園者数の比較(2023年)

▶ 粕屋町における幼稚園数当たりの幼稚園在園者数は46人であり、ベンチマーク都市の中では最も少ない。



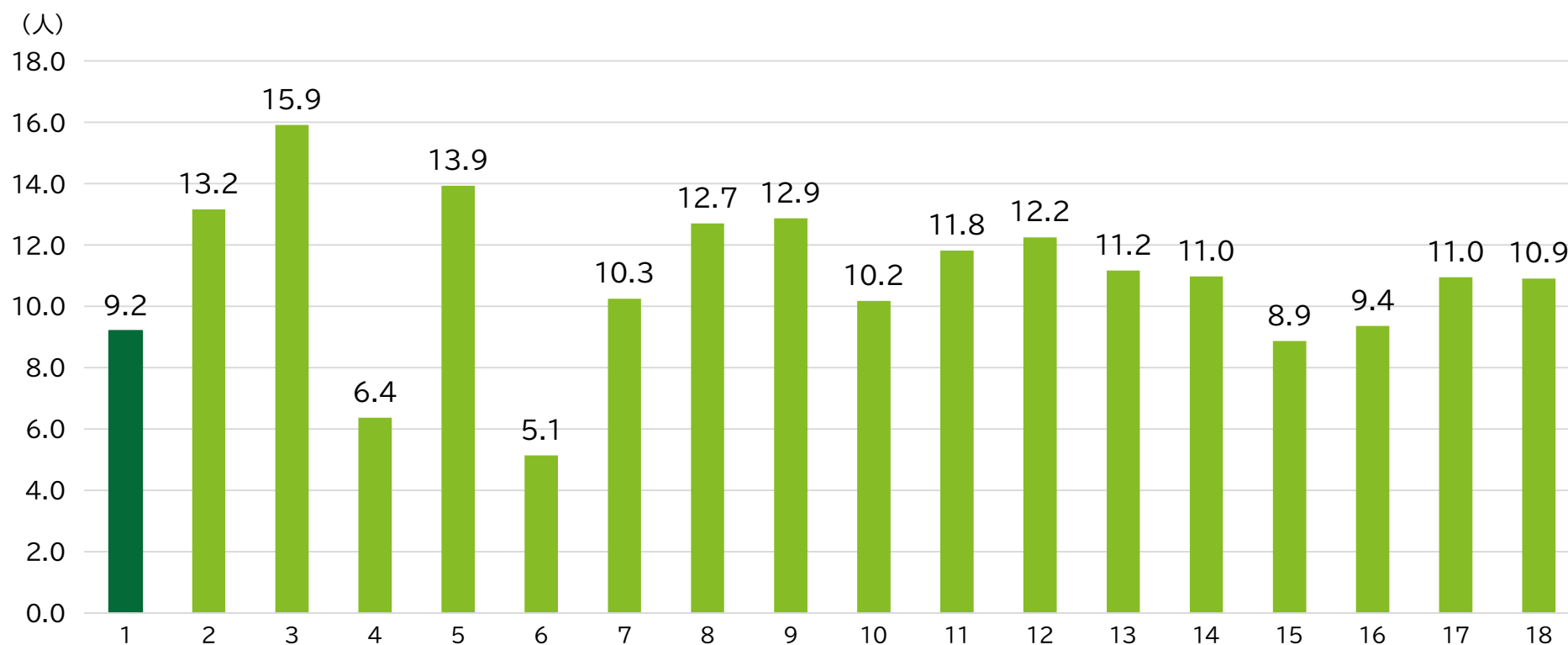
※幼保連携型認定こども園を含まない

出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 2.幼稚園

## 幼稚園教員数当たりの幼稚園在園者数の比較(2023年)

▶ 粕屋町における幼稚園教員数当たりの幼稚園在園者数は9.2人であり、ベンチマーク都市の中では4番目に少ない。

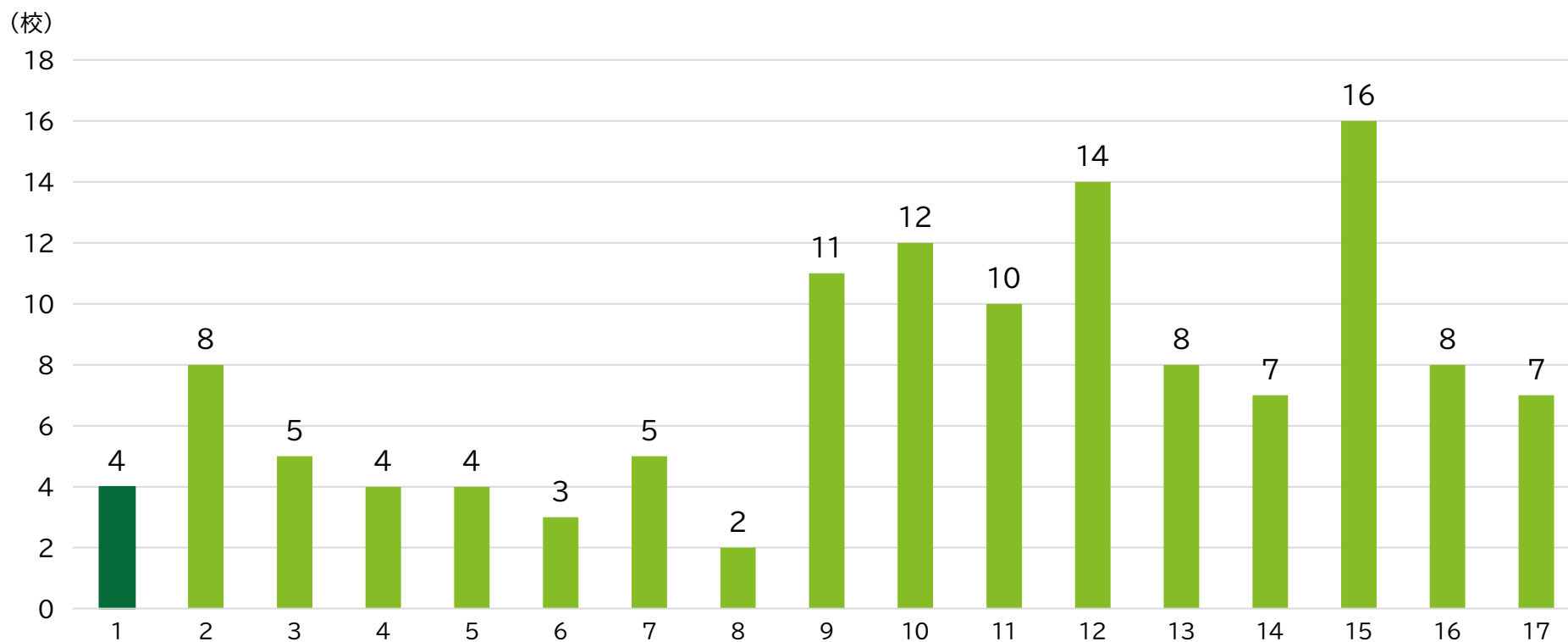


※幼保連携型認定こども園を含まない  
出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 小学校数の比較(2023年)

▶ 粕屋町には小学校が4校あり、ベンチマーク都市の中では3番目に少ない。



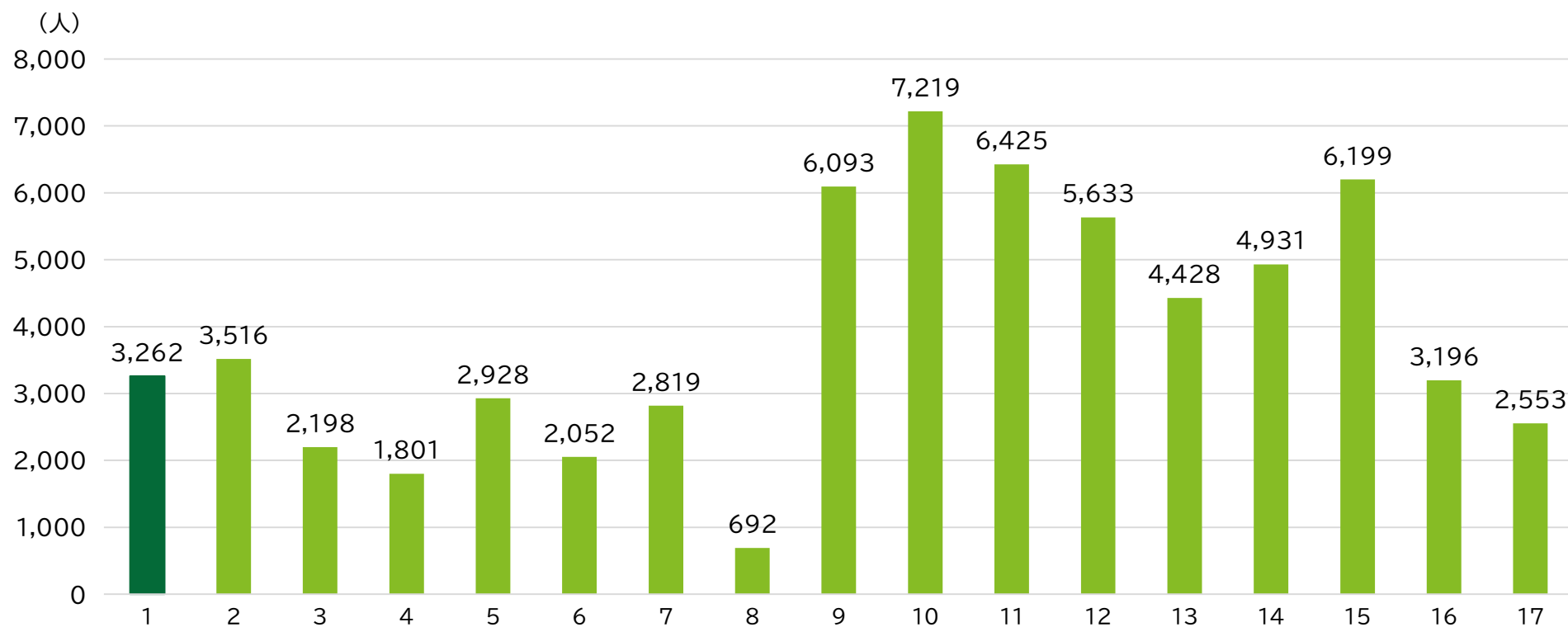
出典:文部科学省「学校基本調査」



# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 小学校児童数の比較(2023年)

- 粕屋町における小学校児童数は3,262人であり、最も多い春日市とは2倍以上の差がある。
- 志免町や篠栗町、須恵町といった周辺の町よりも、児童数は多いと考えられる。

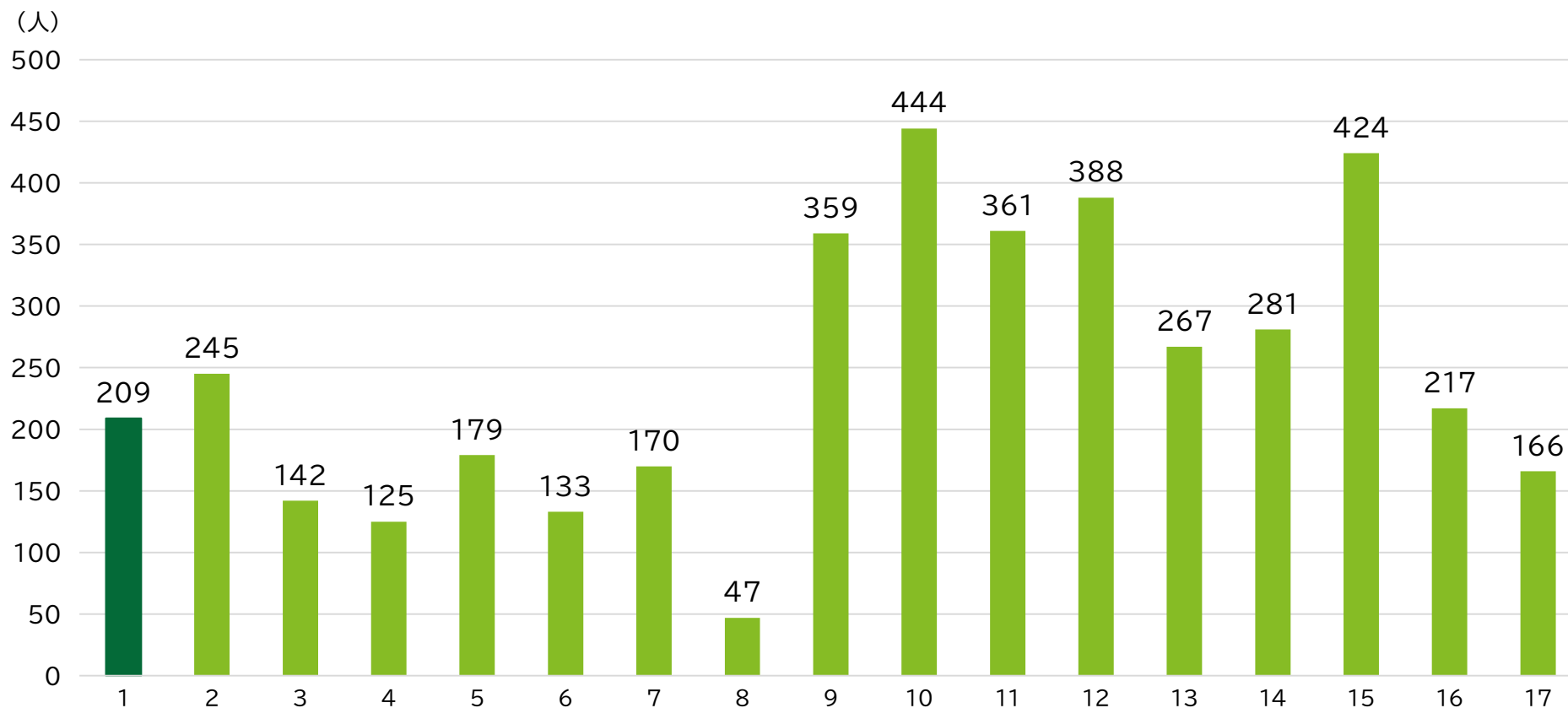


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 小学校教員数の比較(2023年)

- 粕屋町における小学校教員数は209人であり、ベンチマーク都市全体では低い水準にあると考えられる。
- 一方で、児童数と同様に、ベンチマーク都市である周辺の町よりは教員数についても高い水準にあると考えられる。

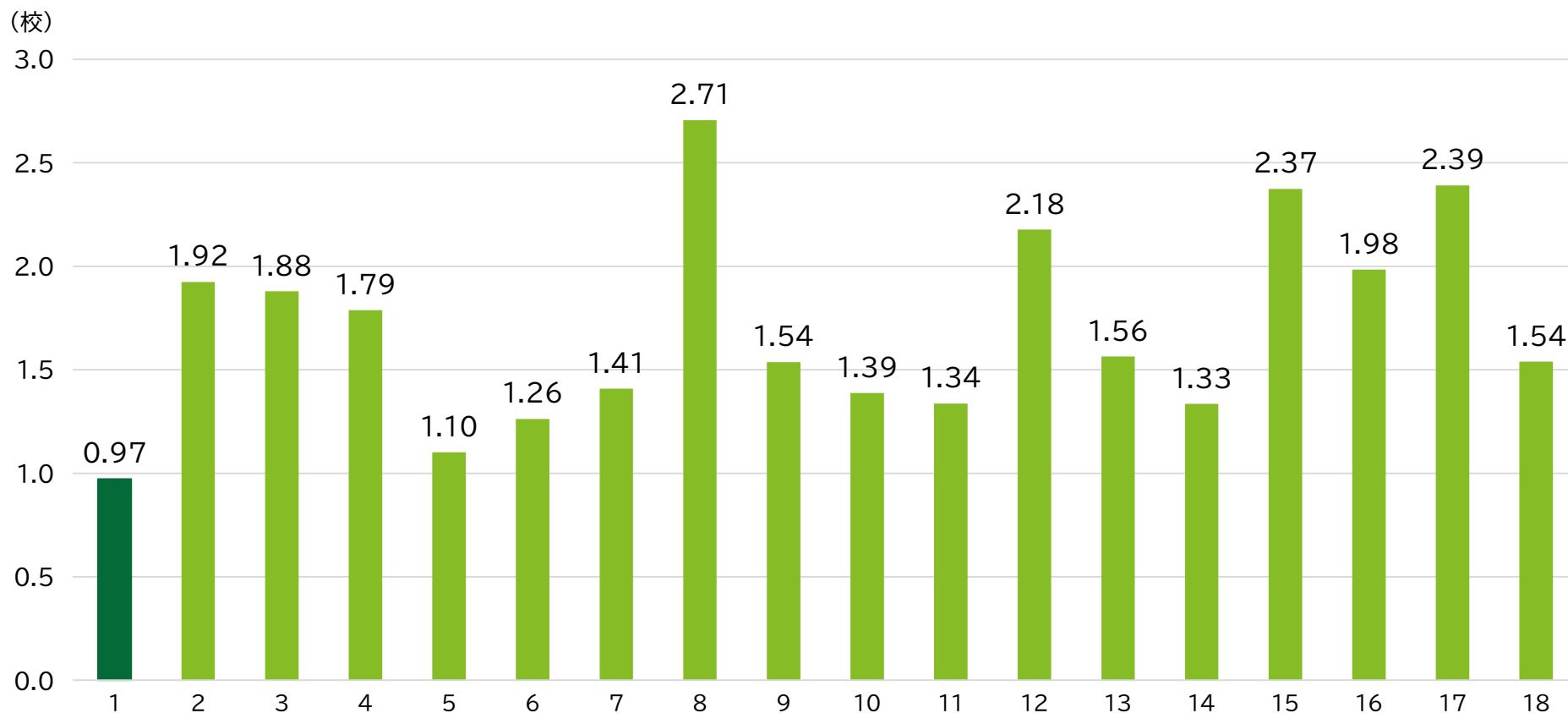


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 6～12歳人口千人当たりの小学校数の比較(2023年)

▶ 粕屋町における6～12歳人口千人当たりの小学校数は0.97校であり、ベンチマーク都市の中で最も少ない。

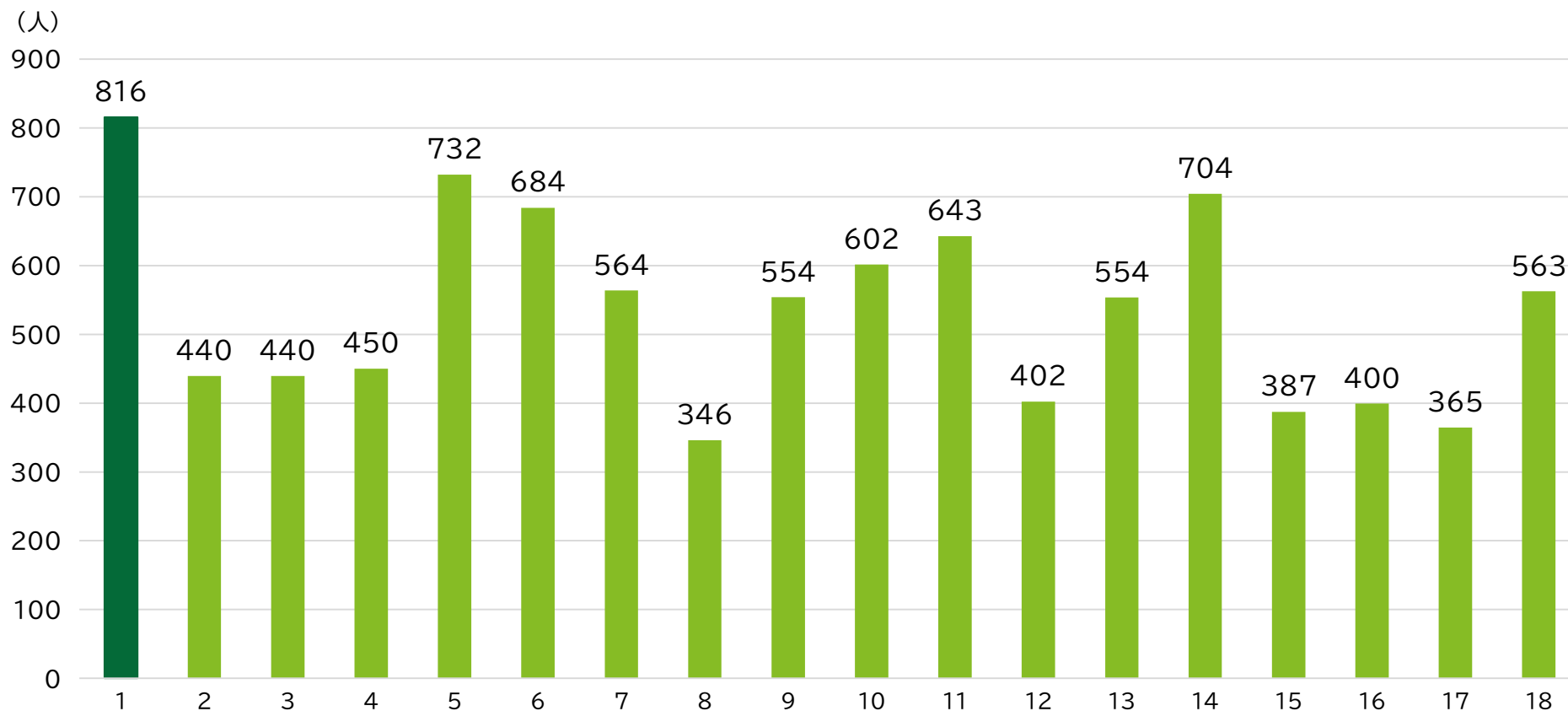


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 小学校数当たりの小学校児童数の比較(2023年)

- 粕屋町における小学校数当たりの小学校児童数は816人であり、ベンチマーク都市の中で最も多い。
- 児童数に対して小学校数が少ないことが推察される。

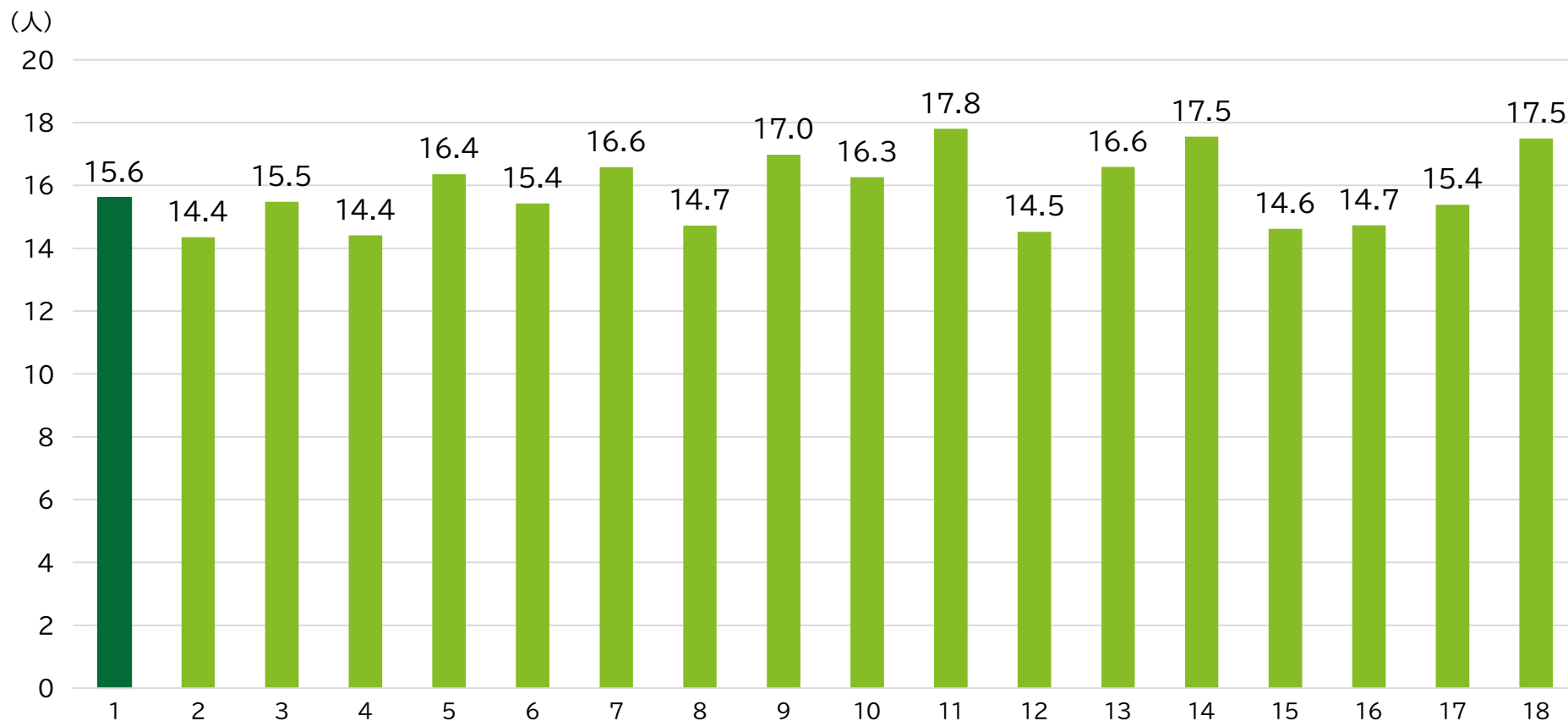


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 小学校教員数当たりの小学校児童数の比較(2023年)

▶ 粕屋町における小学校教員数当たりの小学校児童数は15.6人であり、ベンチマーク都市と比較しても平均的な水準である。

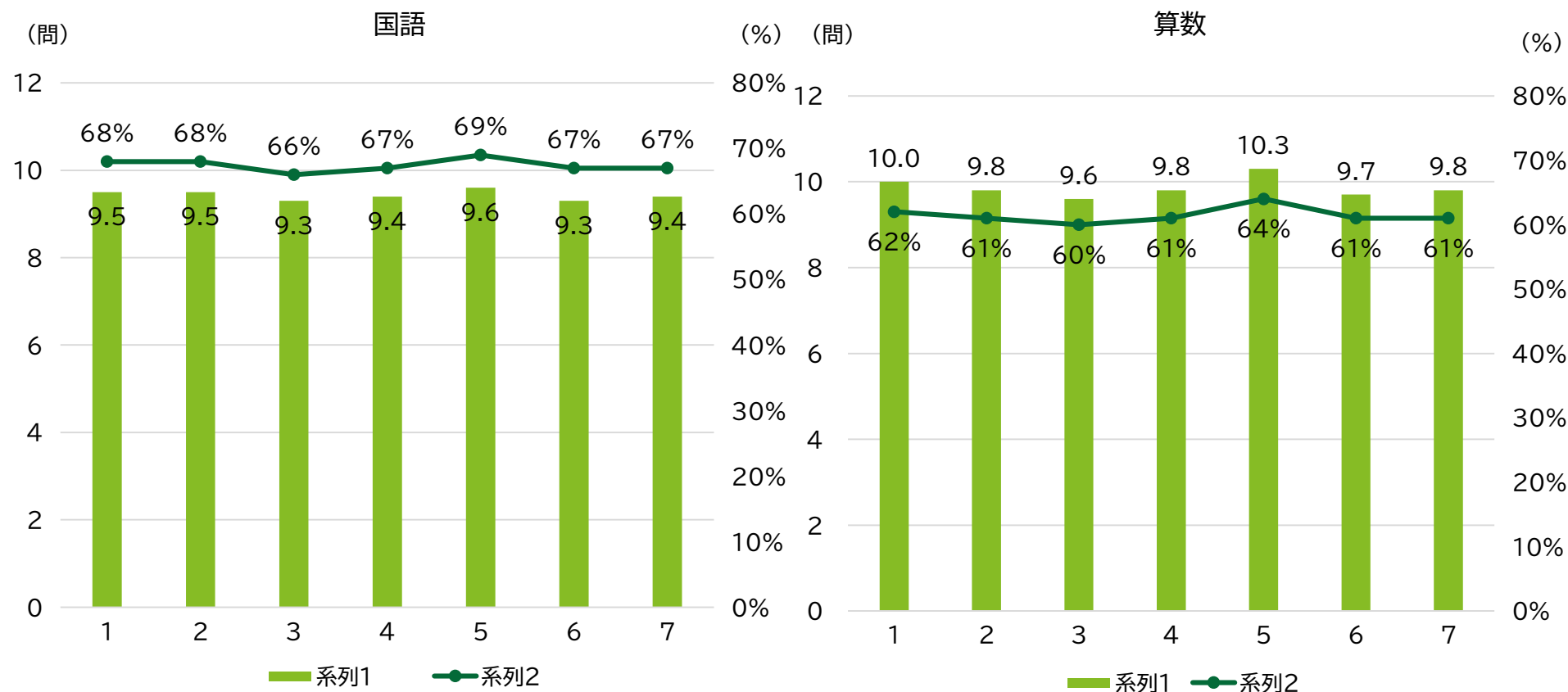


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 3.小学校

## 県の学力テスト結果の比較(2023年)

- ▶ 小学校における九州地方7県の学力テストの結果を比較すると、最も正答率が高いのは国語、算数どちらも大分県であるが、7県に大きな差は見られない。
- ▶ 7県すべてにおいて、算数より国語の正答率が高くなっている。

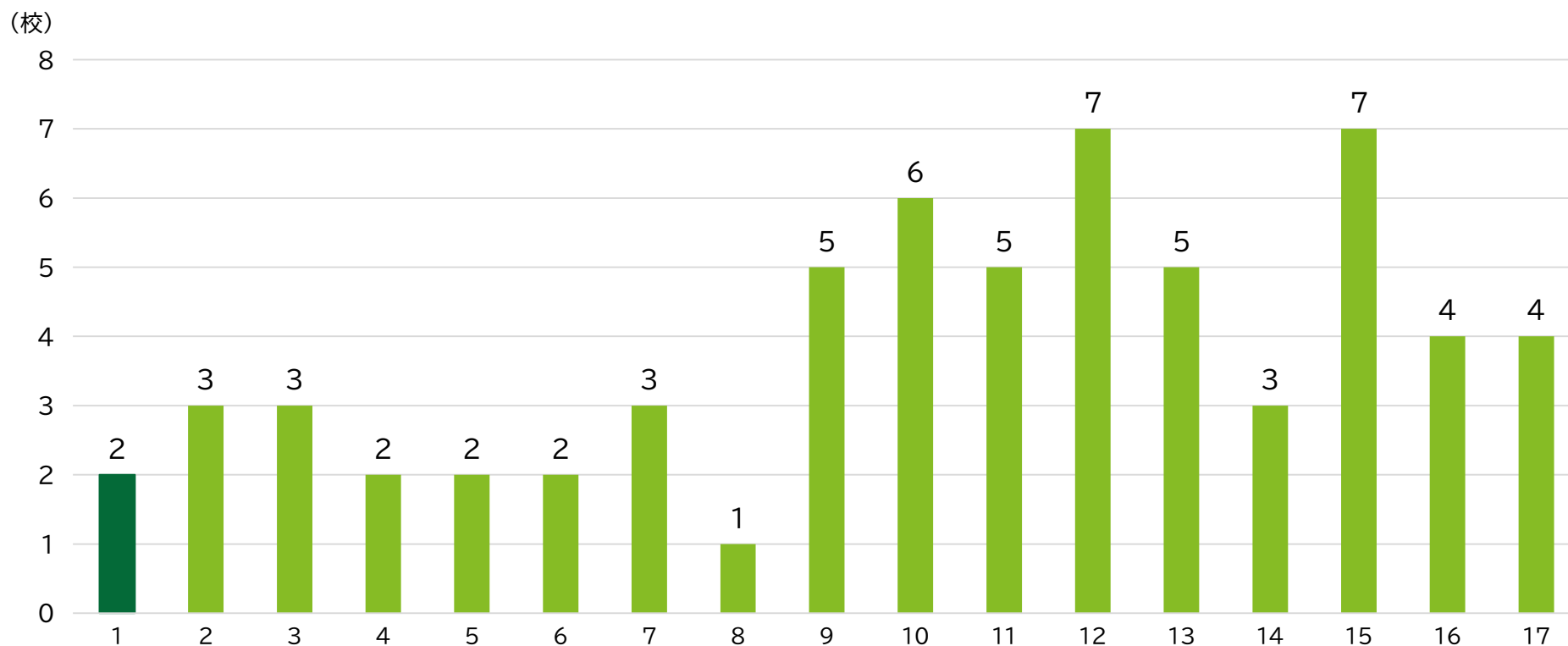


出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 中学校数の比較(2023年)

▶ 粕屋町には中学校が2校あり、ベンチマーク都市の中では2番目に少なく、周辺の町である篠栗町、志免町、須恵町と同数である。

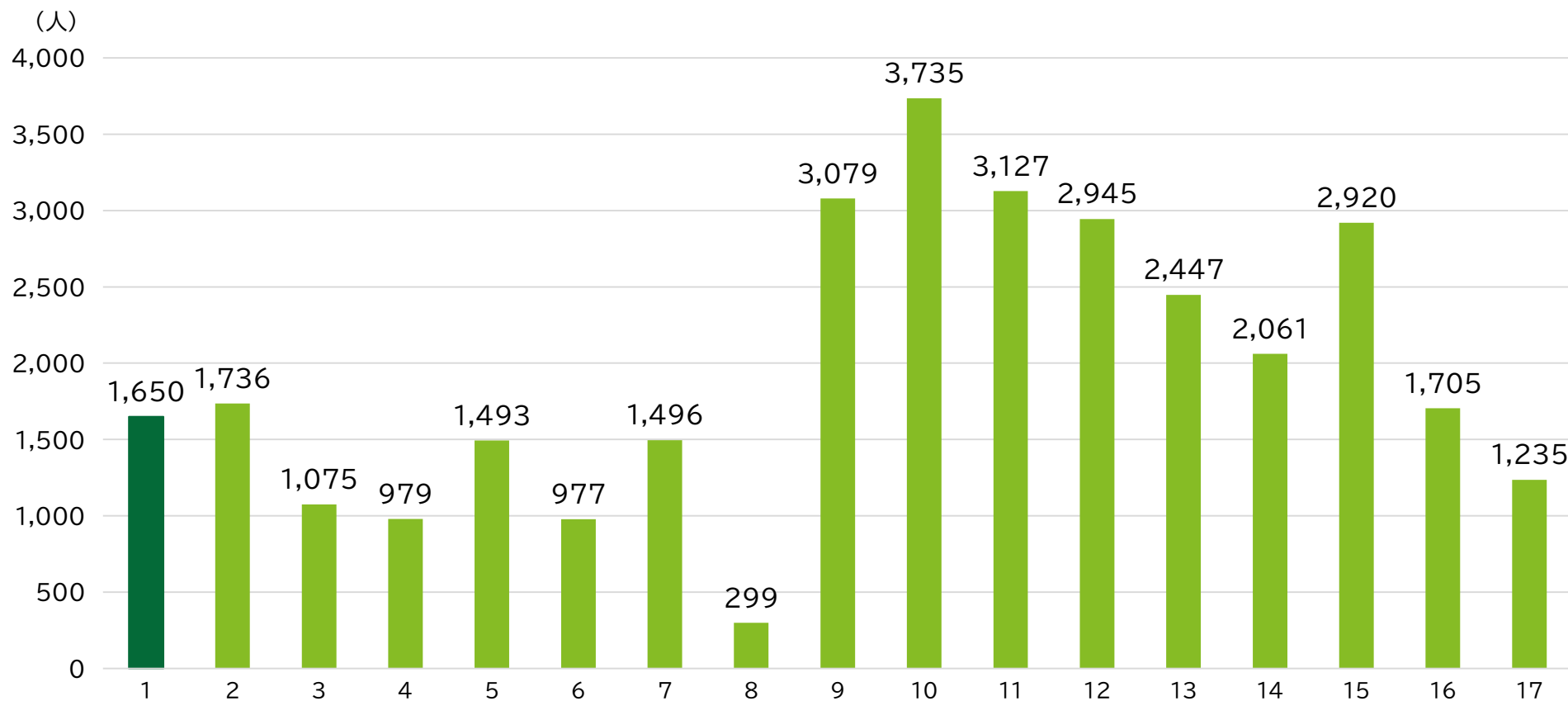


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 中学校生徒数の比較(2023年)

- 粕屋町における中学校生徒数は1,650人であり、ベンチマーク都市の中では低い水準であると推察される。
- 一方で、篠栗町や志免町、須恵町といった周辺の町と比較すると、生徒数は多い。



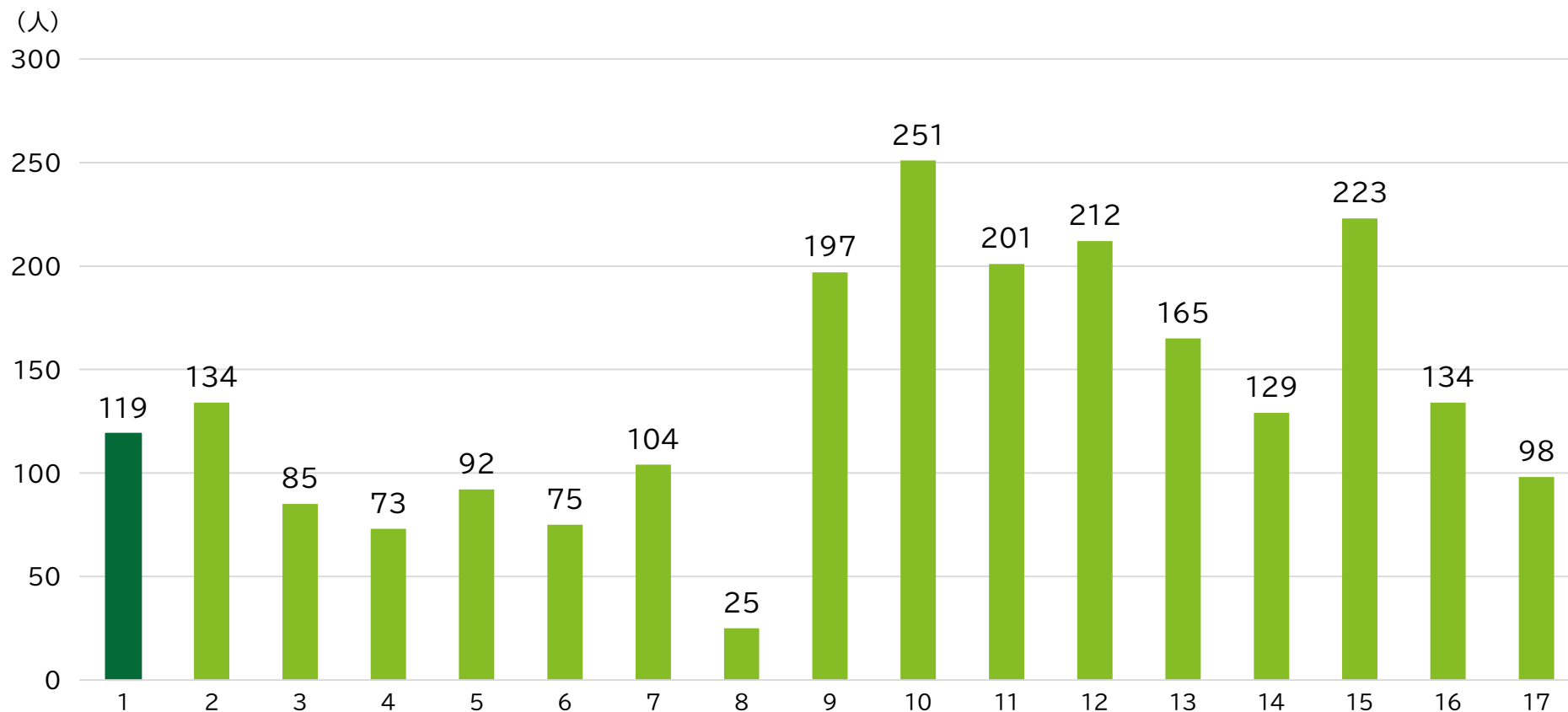
出典:文部科学省「学校基本調査」



# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 中学校教員数の比較(2023年)

- 粕屋町における中学校教員数は119人であり、最も多い春日市と比較すると2倍以上の差がある。
- 一方で、篠栗町や志免町、須恵町といった周辺の町と比較すると、生徒数と同様に教員数も多い。

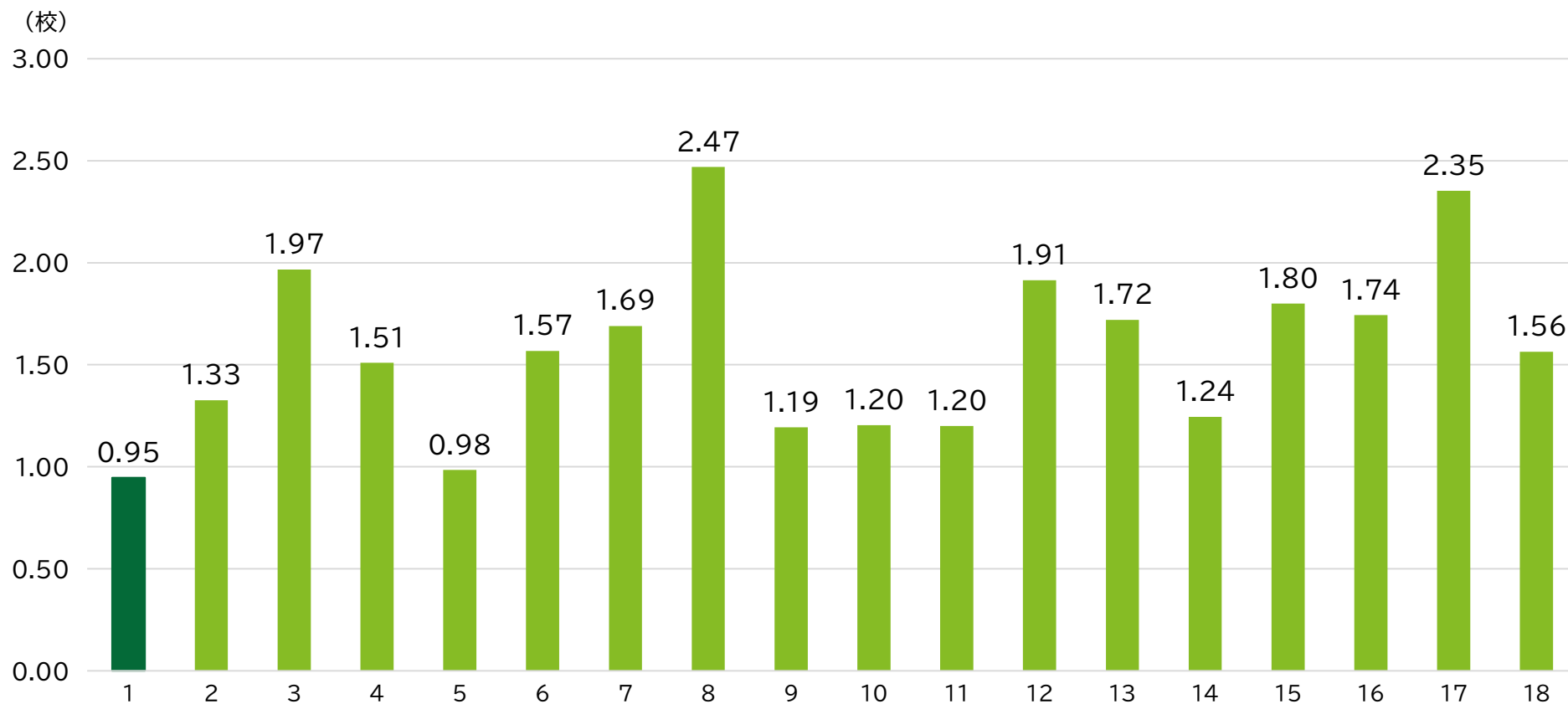


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 12～15歳人口千人当たりの中学校数の比較(2023年)

- 粕屋町における12～15歳人口千人当たりの中学校数は0.95校であり、ベンチマーク都市の中で最も少ない。
- 1校あたりの生徒数が多いと推察される。

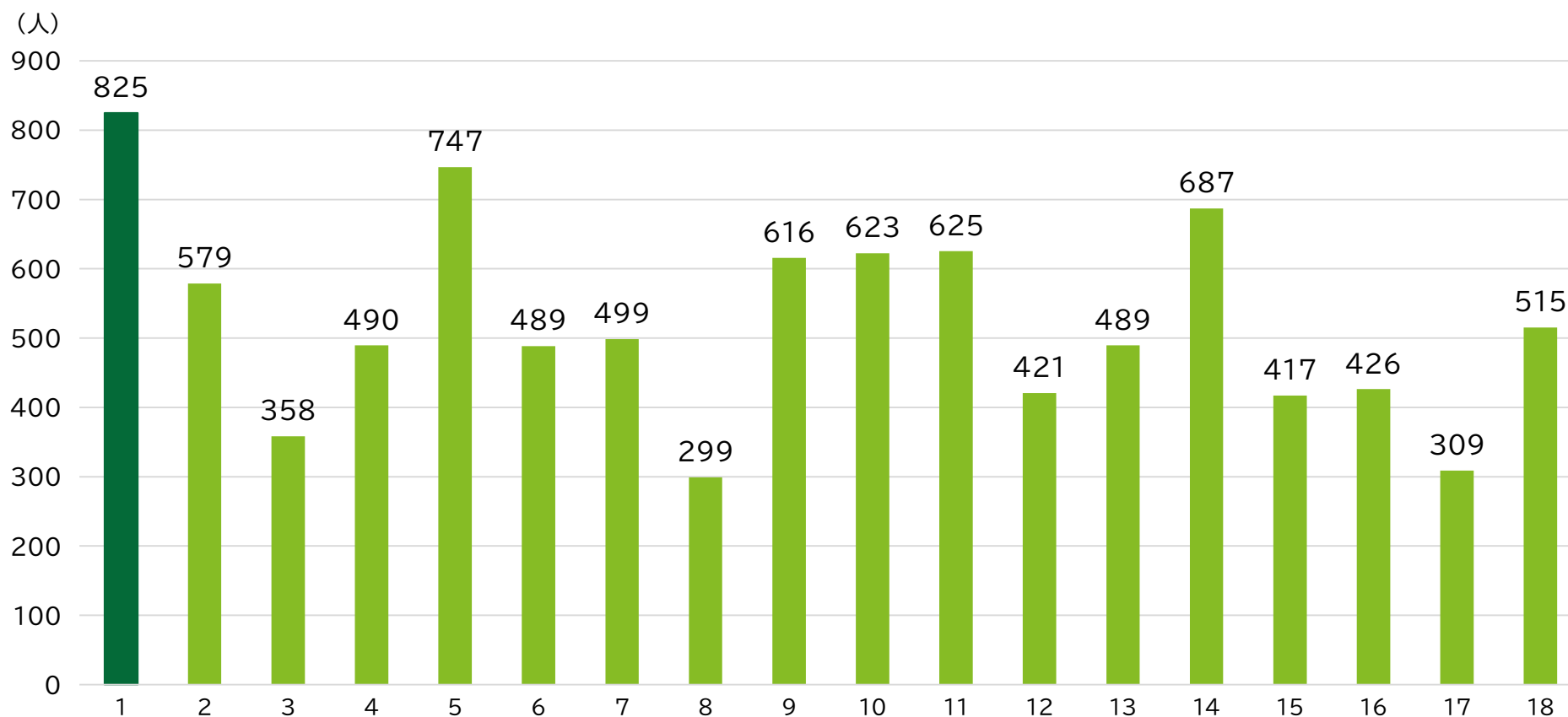


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 中学校数当たりの中学校生徒数の比較(2023年)

- 粕屋町における中学校数当たりの中学校生徒数は825人であり、ベンチマーク都市の中で最も多い。
- 粕屋町にある中学校は2校であるため、生徒数に対して中学校数が少ないと考えられる。

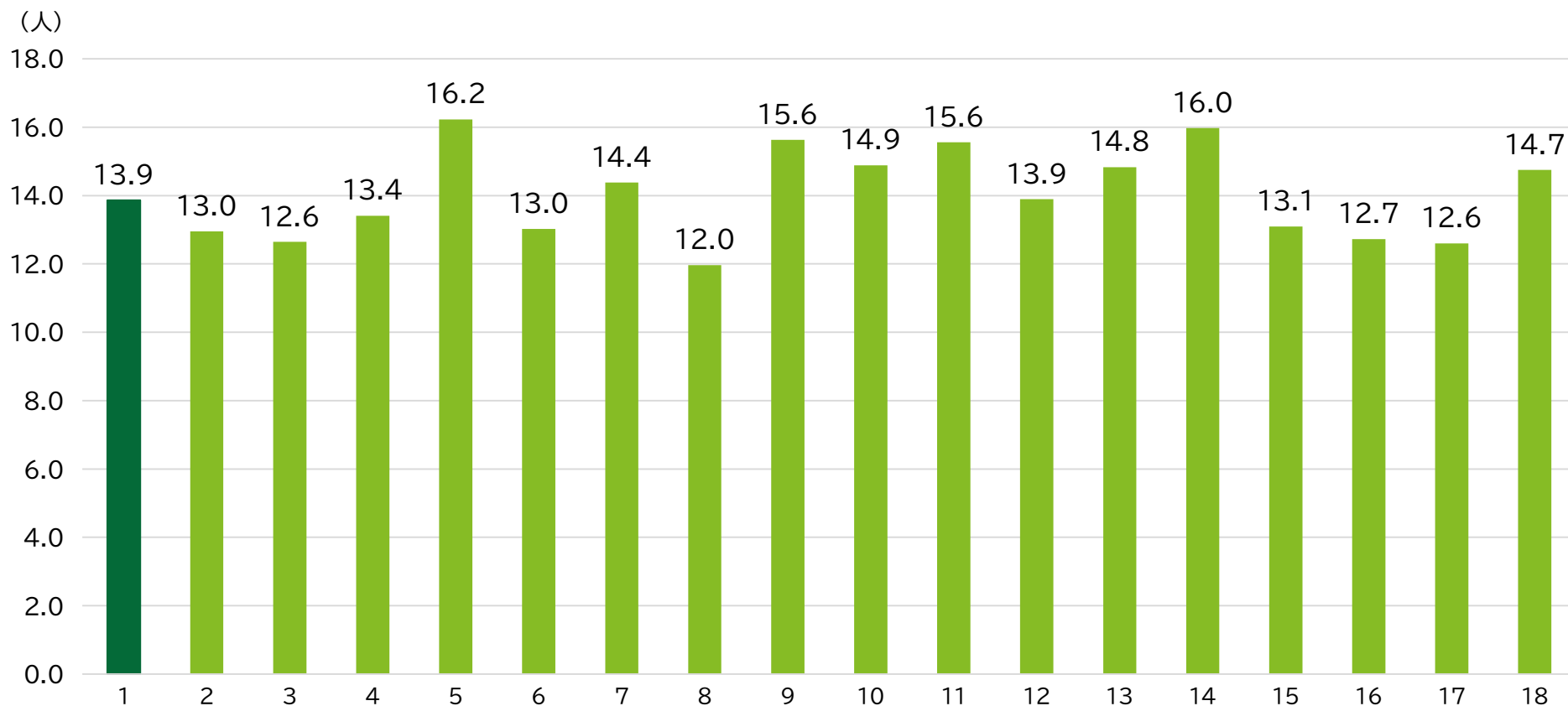


出典: 文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 中学校教員数当たりの中学校生徒数の比較(2023年)

- 粕屋町における中学校教員数当たりの中学校生徒数は13.9人であり、ベンチマーク都市の中で平均的な水準であると考えられる。
- 粕屋町においては、1校当たりの教員数が多い可能性が考えられる。

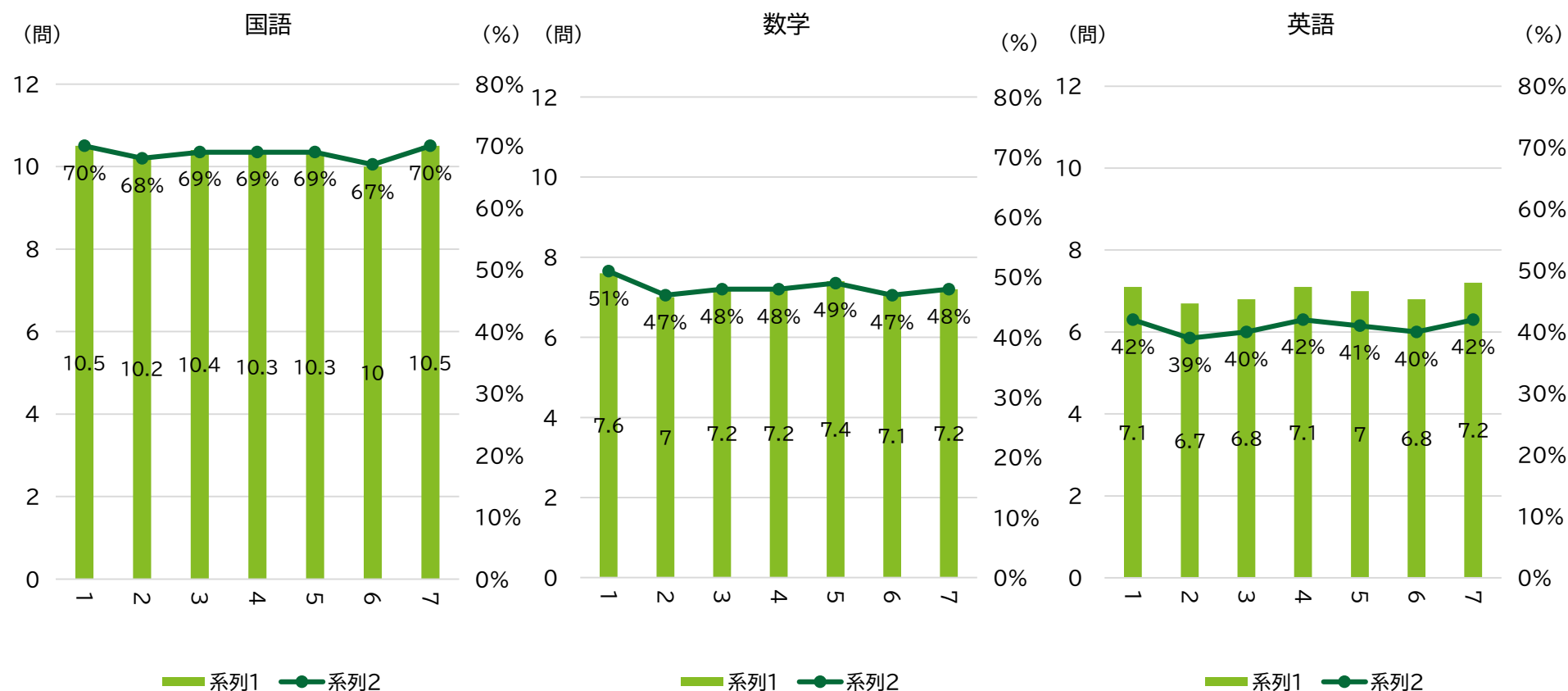


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 4.中学校

## 県の学力テスト結果の比較(2023年)

- 中学校における九州7県の学力テストの結果を比較すると、国語、数学、英語ともに大きな差は見られない。
- 数学については、平均正答率が50%を上回っている県は福岡県のみであり、英語については、7県すべて正答率が50%を下回っている。

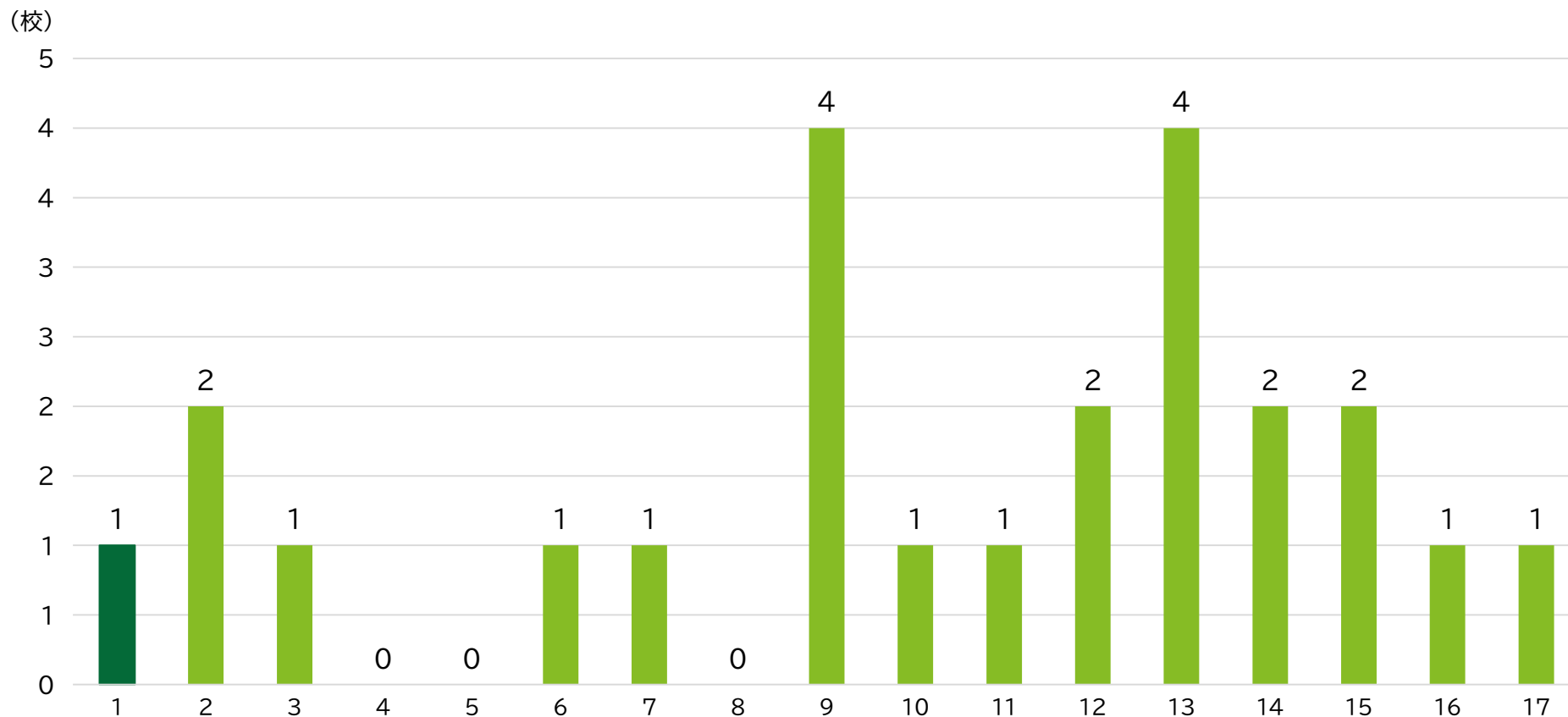


出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

# III.子育て・教育 | 5.高等学校

## 高等学校数の比較(2023年)

➤ 粕屋町には福岡県立福岡魁誠高等学校が1校あり、ベンチマーク都市の宇美町、須恵町、新宮町、春日市、大野城市、那珂川市、阿見町は同数となっている。

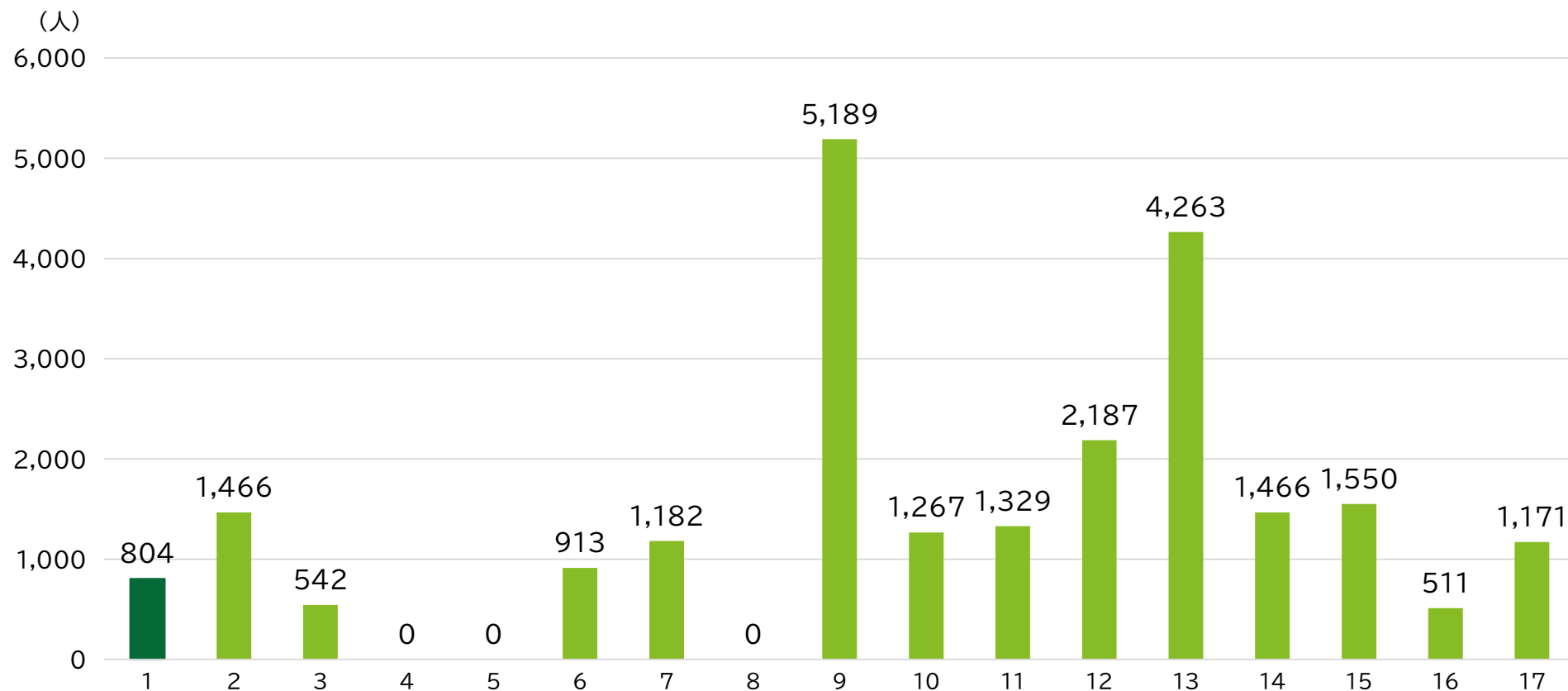


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 5.高等学校

## 高等学校生徒数の比較(2023年)

▶ 粕屋町の高等学校生徒数は804人であり、ベンチマーク都市の中では市町内に高等学校がない市町村を除き、3番目に少ない。

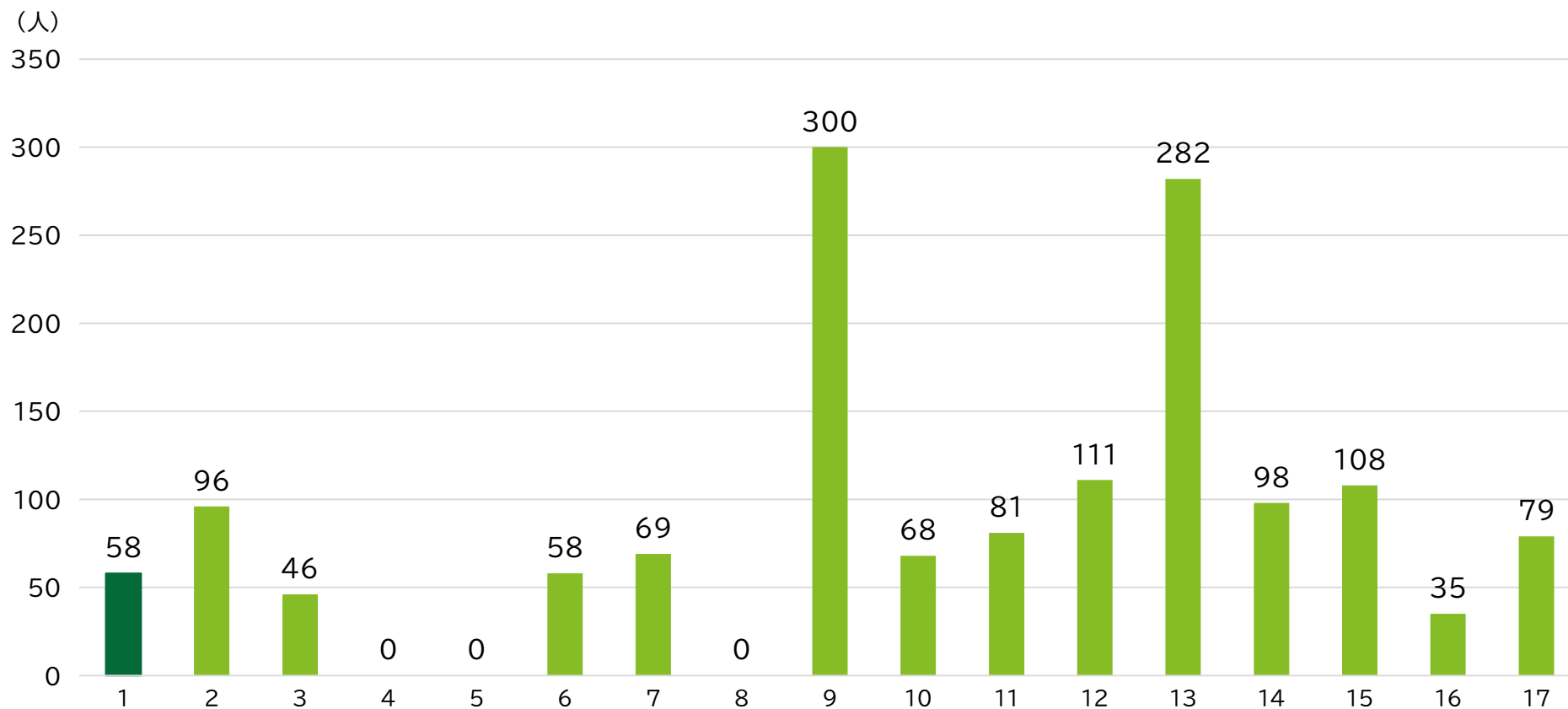


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 5.高等学校

## 高等学校教員数の比較(2023年)

- 粕屋町の高等学校教員数は58人であり、ベンチマーク都市の中では須恵町と同数で、那珂川市、宇美町に次いで少ない。
- ベンチマーク都市間の差は、生徒数のものと大きく変わらない。



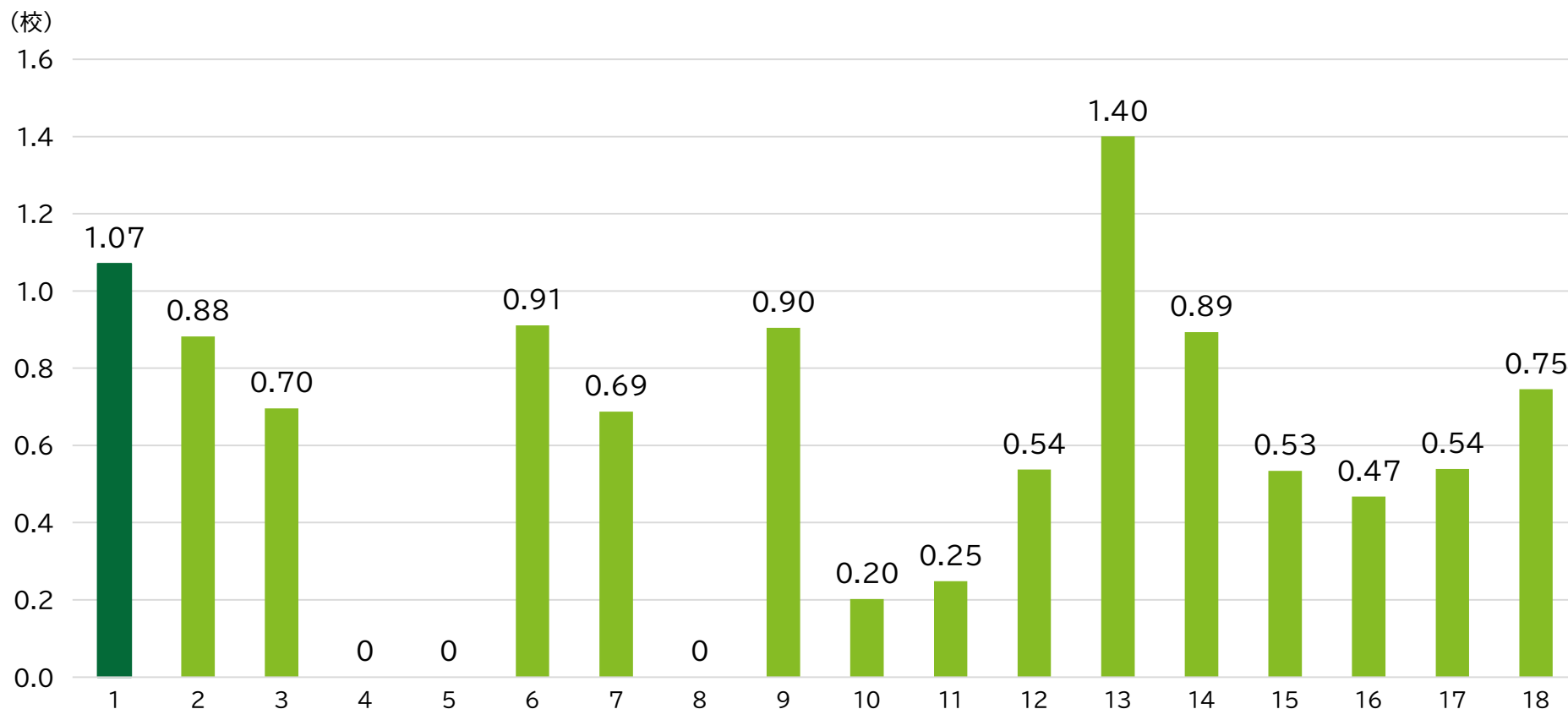
出典:文部科学省「学校基本調査」



# III.子育て・教育 | 5.高等学校

## 15～18歳人口千人当たりの高等学校数の比較(2023年)

▶ 15～18歳人口当たりの高等学校数を比較すると、粕屋町は千人当たり1.07校であり、ベンチマーク都市の中では、2番目に多い。

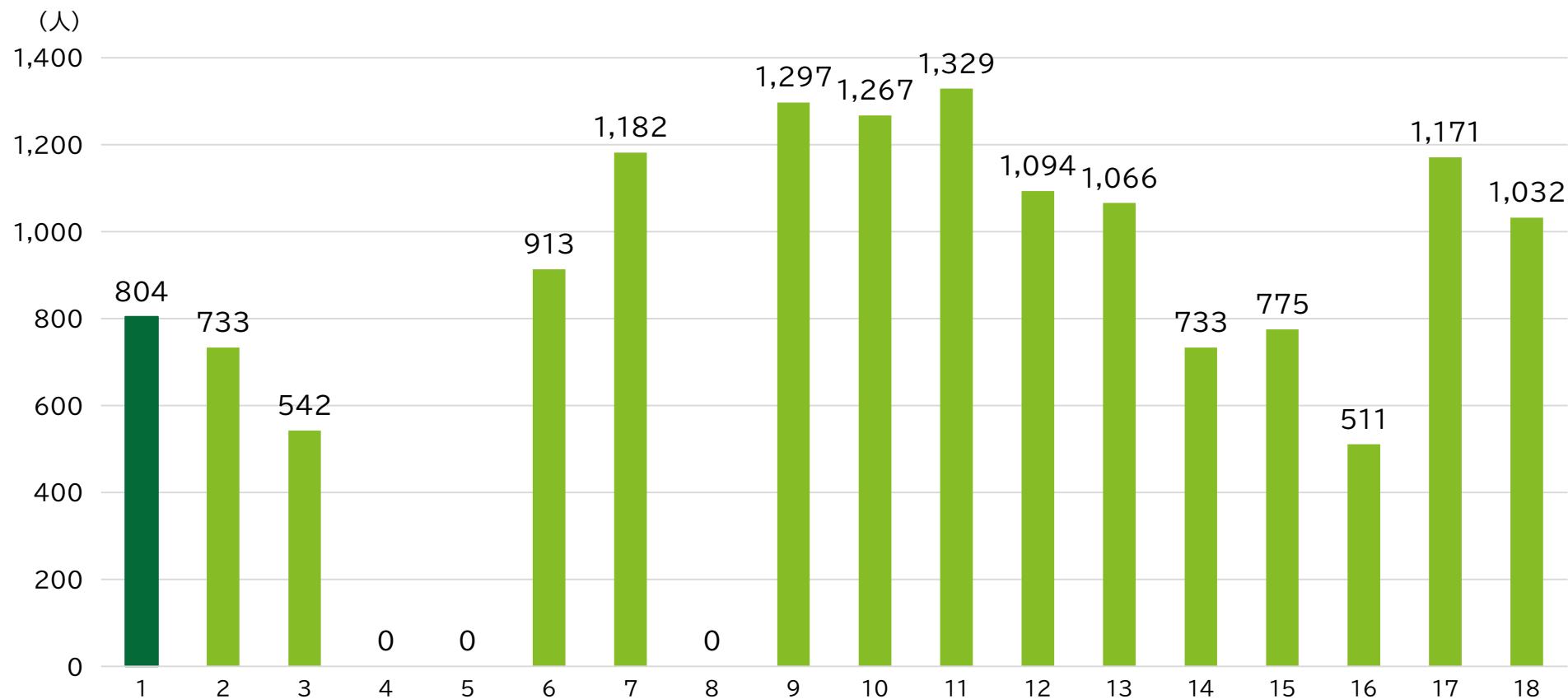


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 5.高等学校

## 高等学校数当たりの高等学校生徒数の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町の高等学校1校当たりの生徒数は804人である。
- ▶ 粕屋町には高等学校が1校しかないため、全校生徒の人数が1校あたりの生徒数となっている。

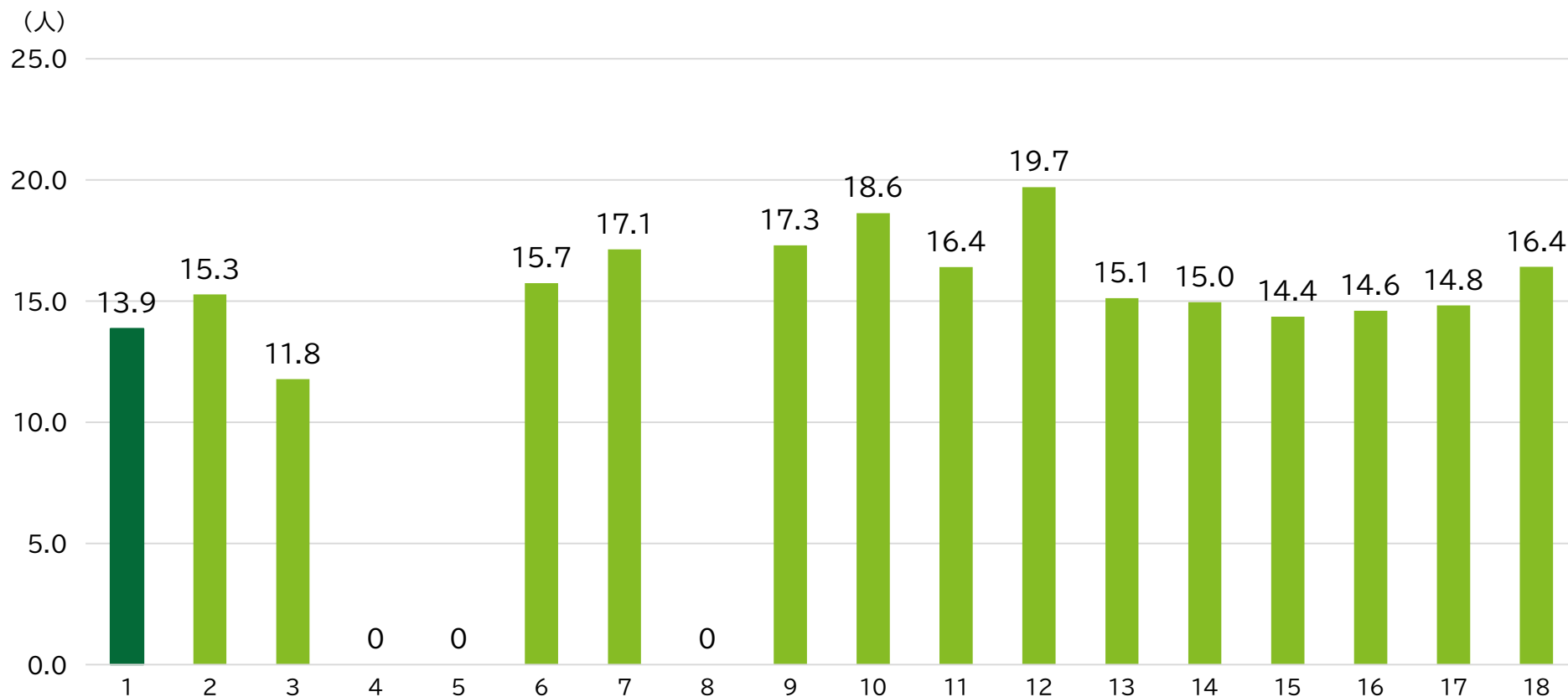


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 5.高等学校

## 高等学校教員数当たりの高等学校生徒数の比較(2023年)

- 粕屋町の教員1人当たりの高等学校生徒数は、13.9人でベンチマーク都市の中では宇美町に次いで2番目に少ない。
- 粕屋町は須恵町より生徒数が100人少ない一方で教員数が須恵町と同数であり、教員1人当たりの生徒数は比較的少なくなっている。

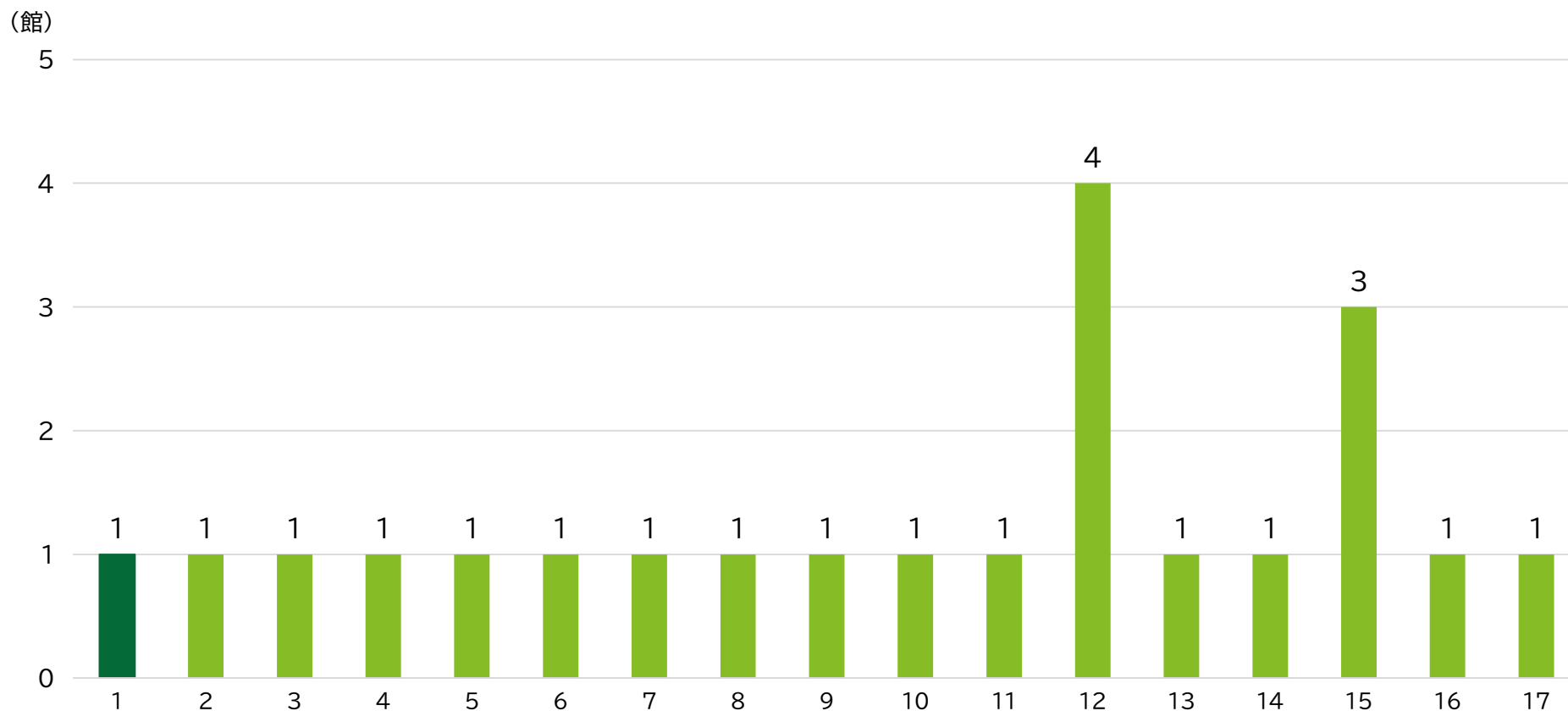


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育 | 6.教育施設

## 図書館数の比較(2021年)

▶ 粕屋町には粕屋町立図書館が1館あり、4館の宗像市、3館の糸島市を除くすべてのベンチマーク都市において、市町内にある図書館は1館となっている。

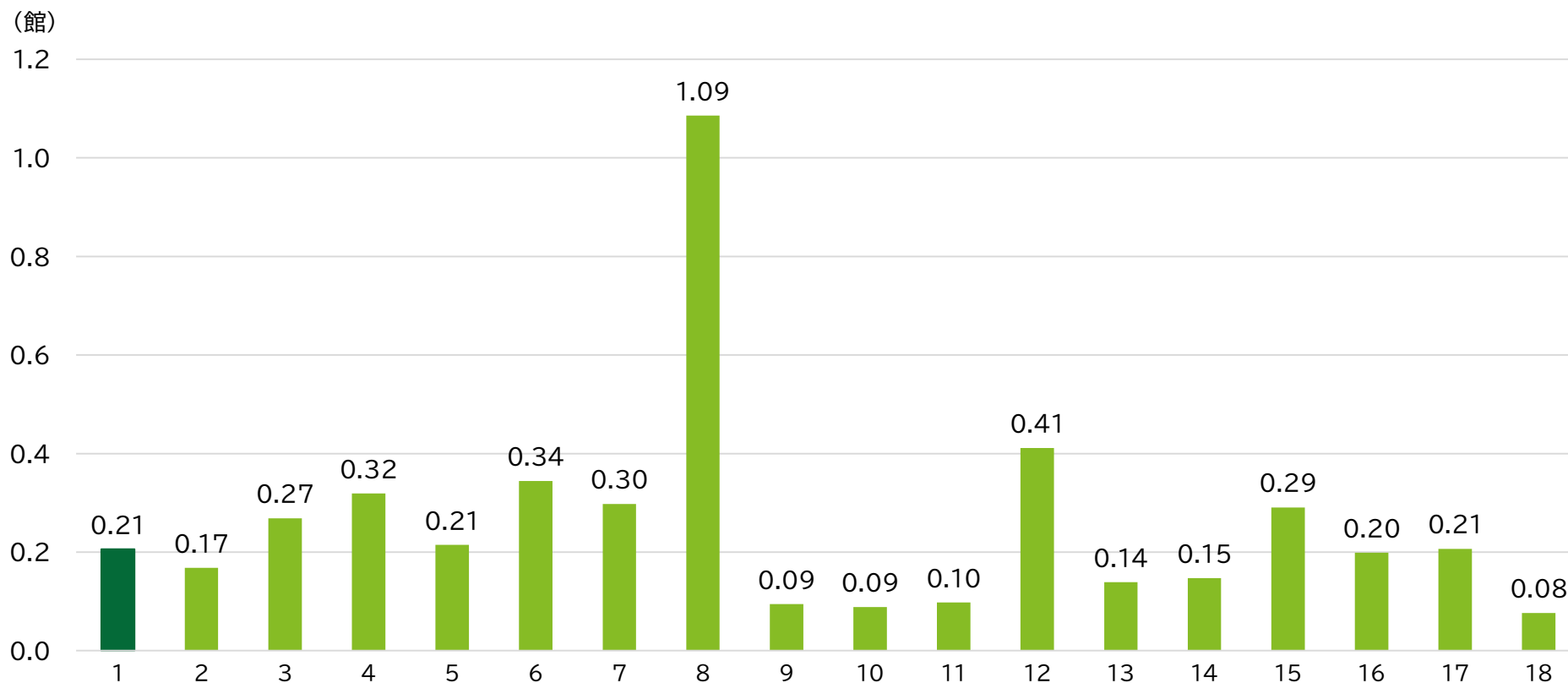


出典:文部科学省「社会教育調査」

# III.子育て・教育 | 6.教育施設

## 人口1万人当たりの図書館数の比較(2021年)

- 図書館数を人口当たりで見ると、粕屋町は0.21館である。
- 宗像市、糸島市以外のベンチマーク都市は図書館数が1館のため、人口規模によって値が異なっている。



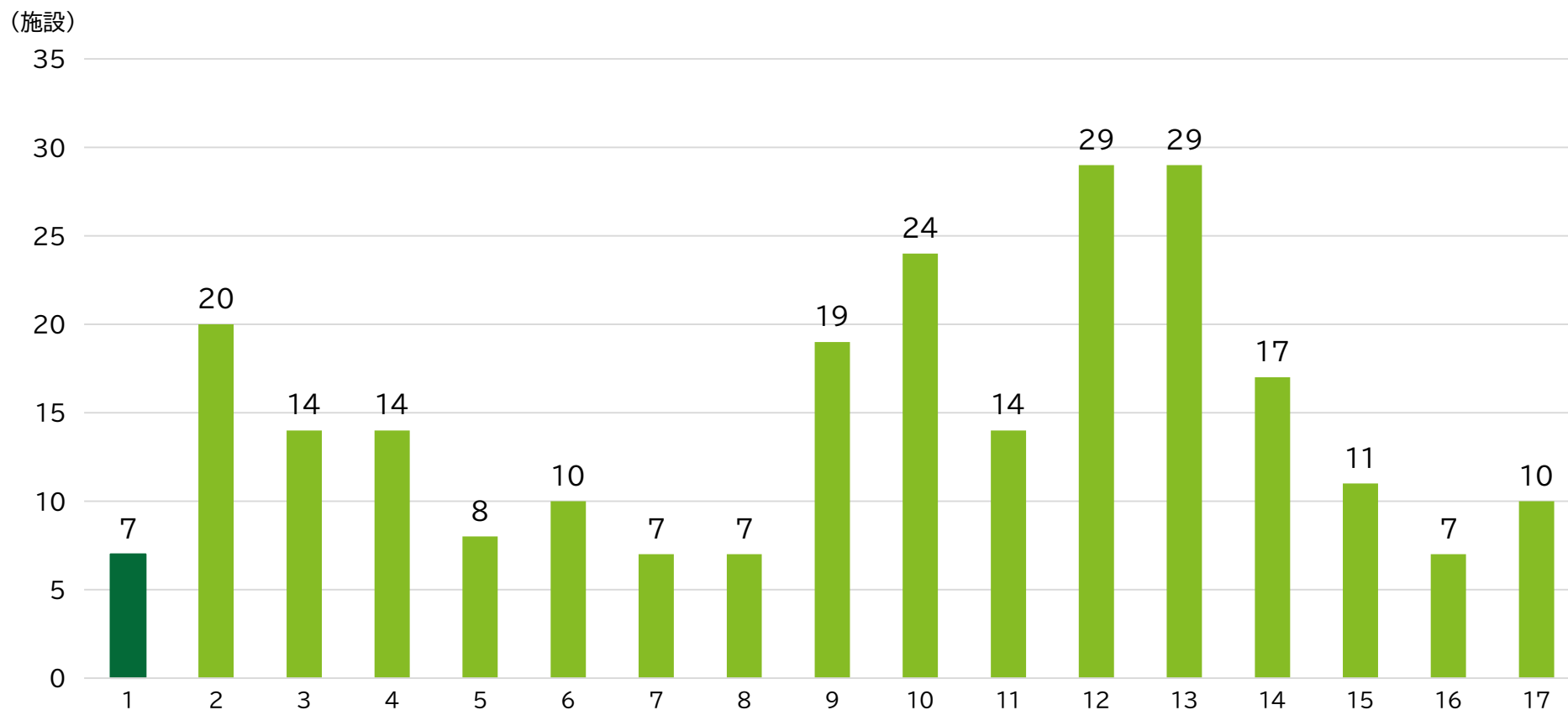
※2021(令和3)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出

出典:文部科学省「社会教育調査」

# III.子育て・教育 | 6.教育施設

## 社会体育施設数の比較(2021年)

➤ 粕屋町の社会体育施設数は7施設であり、ベンチマーク都市の中では新宮町、久山町、那珂川市と同数で、最も少ない。

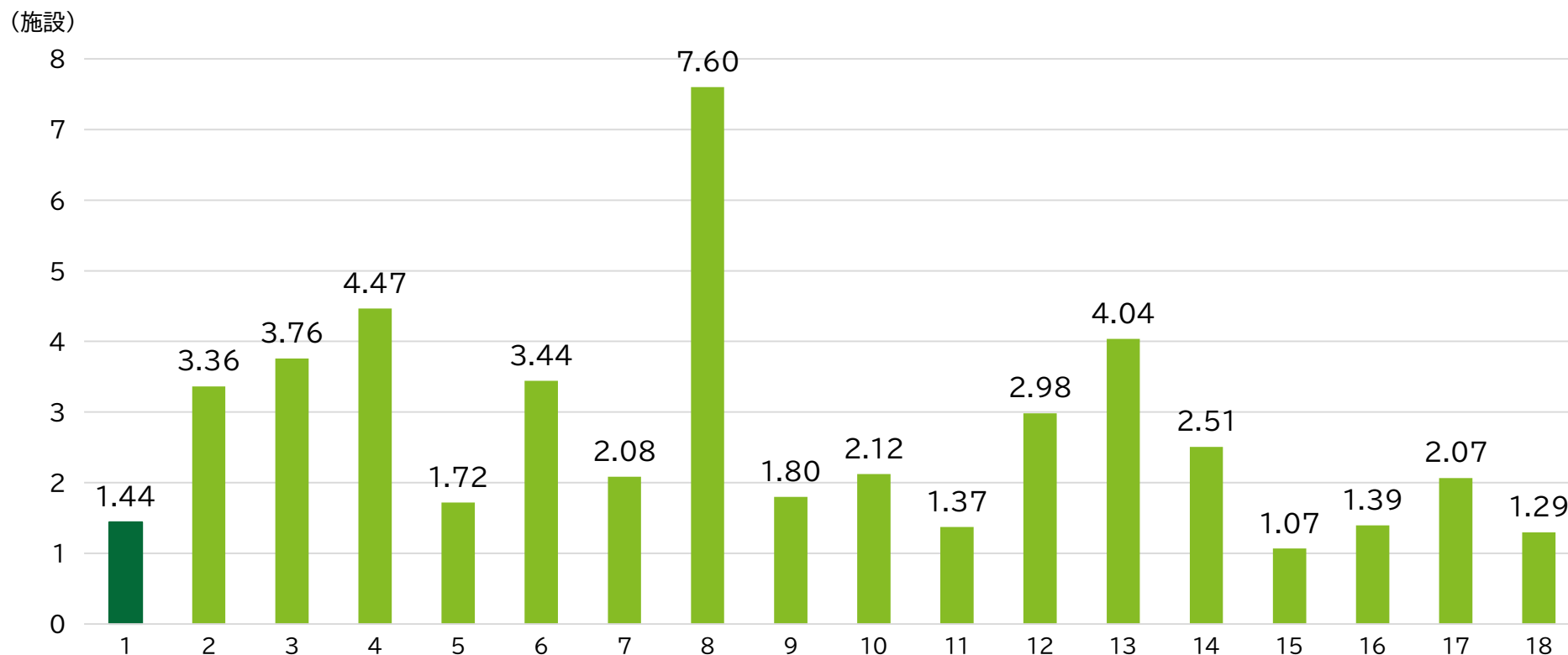


出典:文部科学省「社会教育調査」

# III.子育て・教育 | 6.教育施設

## 人口1万人当たりの社会体育施設数の比較(2021年)

- ▶ 社会体育施設数を人口当たりで見ると、粕屋町は1.44でベンチマーク都市の中では比較的少ない方であることがわかる。
- ▶ 人口が粕屋町より少ない宇美町や篠栗町は粕屋町の倍の施設数であるため人口当たりの施設数も多くなっており、粕屋町における社会体育施設の整備については検討の余地があると考えられる。



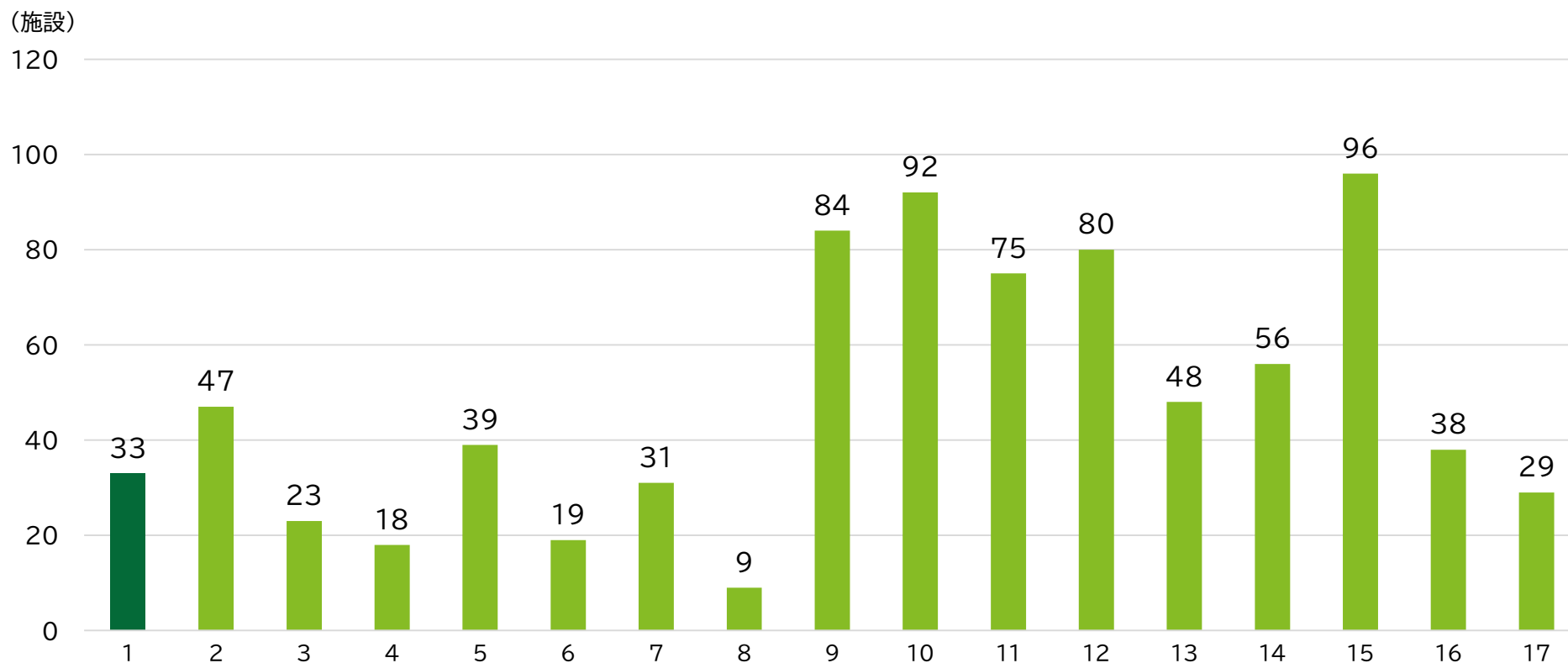
※社会体育施設とは、一般の利用に供する目的で地方公共団体、独立行政法人又は民間が設置した体育館、水泳プール、運動場等のスポーツ施設  
人口当たりの数値は2021(令和3)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出

出典:文部科学省「社会教育調査」

## IV.医療・福祉 | 1.医療

### 医療機関(病院・一般診療所)数の比較(2022年)

- 粕屋町の病院数、一般診療所数の合計は33施設であり、新宮町や阿見町と同水準である。
- 糟屋地域は10～50施設程度、福岡都市圏の地域は50～100施設程度となっている。



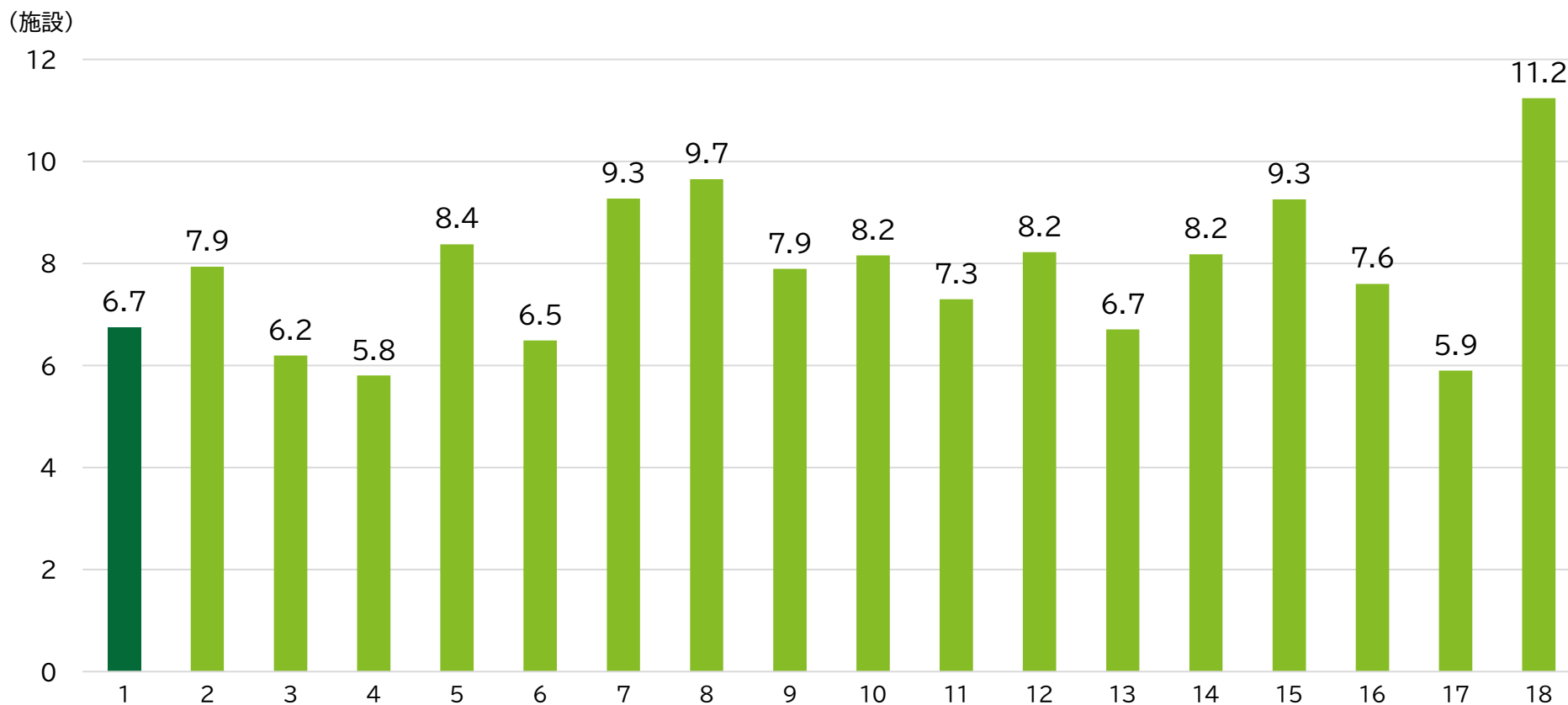
出典:厚生労働省「医療施設調査」



## IV.医療・福祉 | 1.医療

### 人口1万人当たりの医療機関(病院・一般診療所)数の比較(2022年)

- ▶ 人口当たりの医療機関数を比較すると、粕屋町は1万人当たり6.7施設で、ベンチマーク都市の中では篠栗町、阿見町、宇美町、須恵町に次いで5番目に少なく、太宰府市と同水準である。
- ▶ 糟屋地域の中では久山町や新宮町などが比較的高く、人口が同規模の志免町とは1施設以上の差がある。

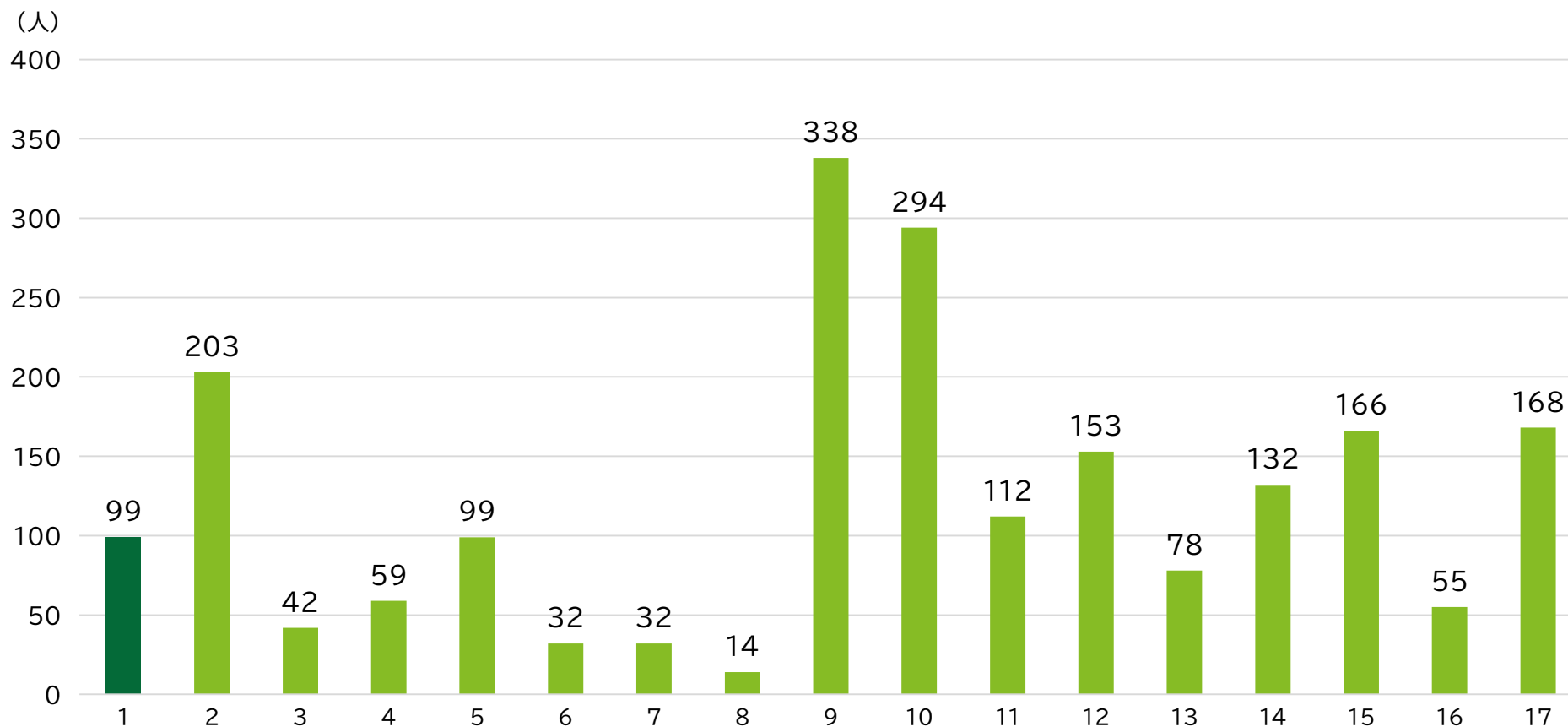


※2022(令和4)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出  
出典:厚生労働省「医療施設調査」

## IV.医療・福祉 | 1.医療

### 医療施設従事医師数の比較(2022年)

▶ 粕屋町の医療施設従事医師数は99人であり、糟屋地域の中では古賀市に次いで多く、志免町と同数である。

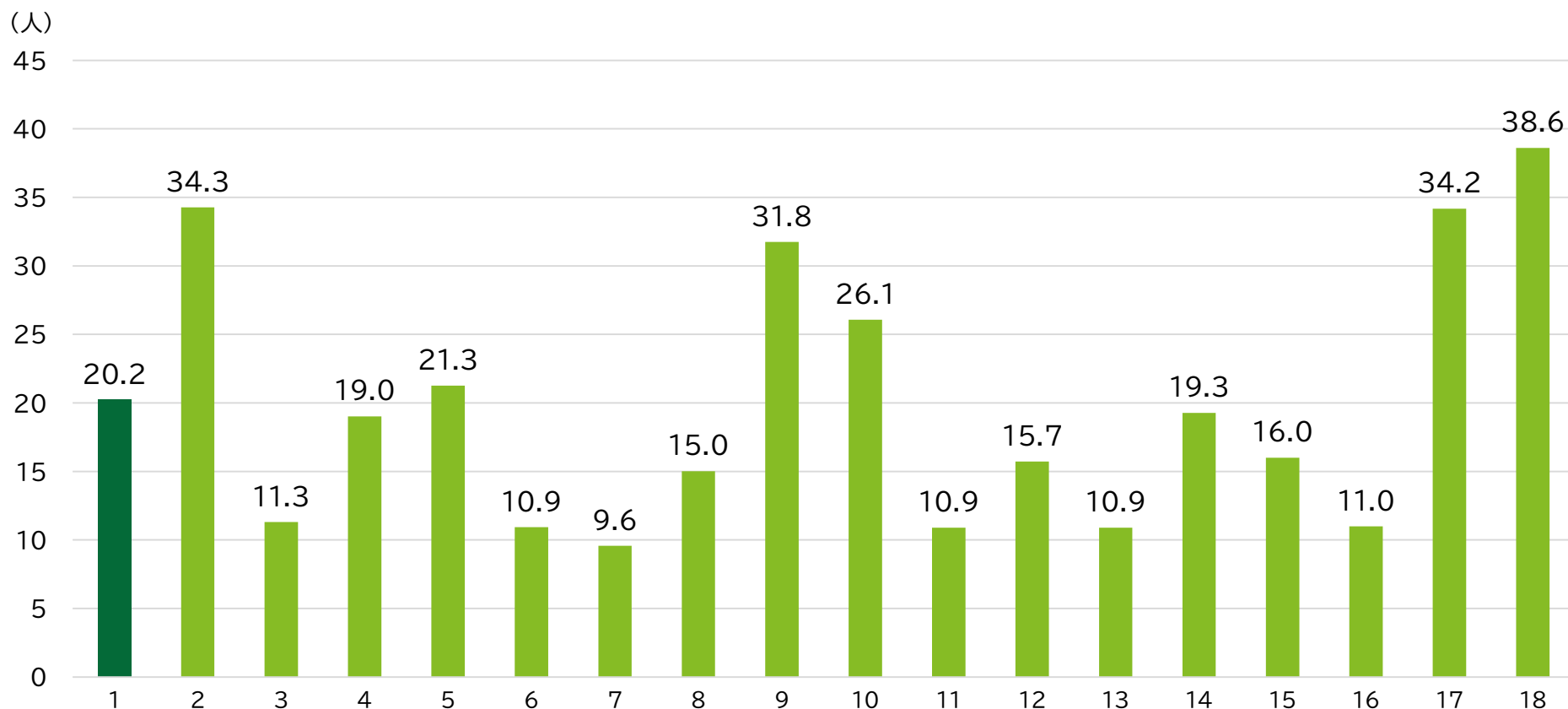


出典:厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

## IV.医療・福祉 | 1.医療

### 人口1万人当たりの医療施設従事医師数の比較(2022年)

- 人口当たりの医療施設従事医師数を比較すると、粕屋町は1万人当たり20.2人で、ベンチマーク都市の中では平均的な水準である。
- 糟屋地域においては古賀市を大きく下回るが、篠栗町、志免町と同水準である。福岡都市圏の地域と比較すると大野城市や太宰府市、那珂川市を10人程度上回っており、福津市と同水準となっている。
- 阿見町は人口規模が粕屋町と同程度であるが人口当たり医師数は10人以上上回っており、医療体制に差があると推察される。

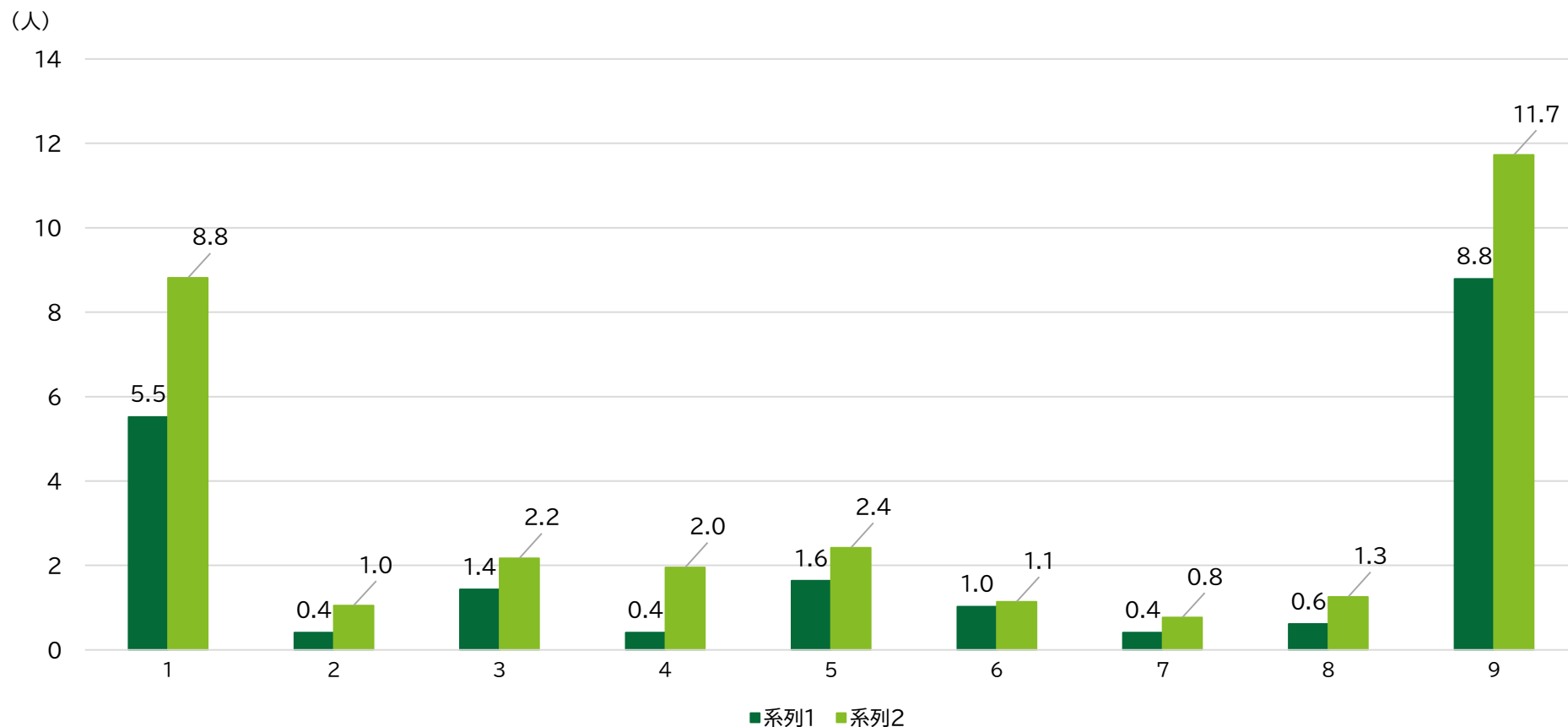


※2022(令和4)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出  
出典:厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

## IV.医療・福祉 | 1.医療

### 人口1万人当たりの診療科目別医療施設従事医師数(2022年)

- ▶ 粕屋町の人口当たり医師数を診療科目別にみると、内科が5.5人と最も多く、他の診療科目を大きく上回っている。
- ▶ 福岡県全体の水準と比較すると、眼科が同程度となっており、その他は福岡県の水準を下回っており、内科については3人以上下回っている。



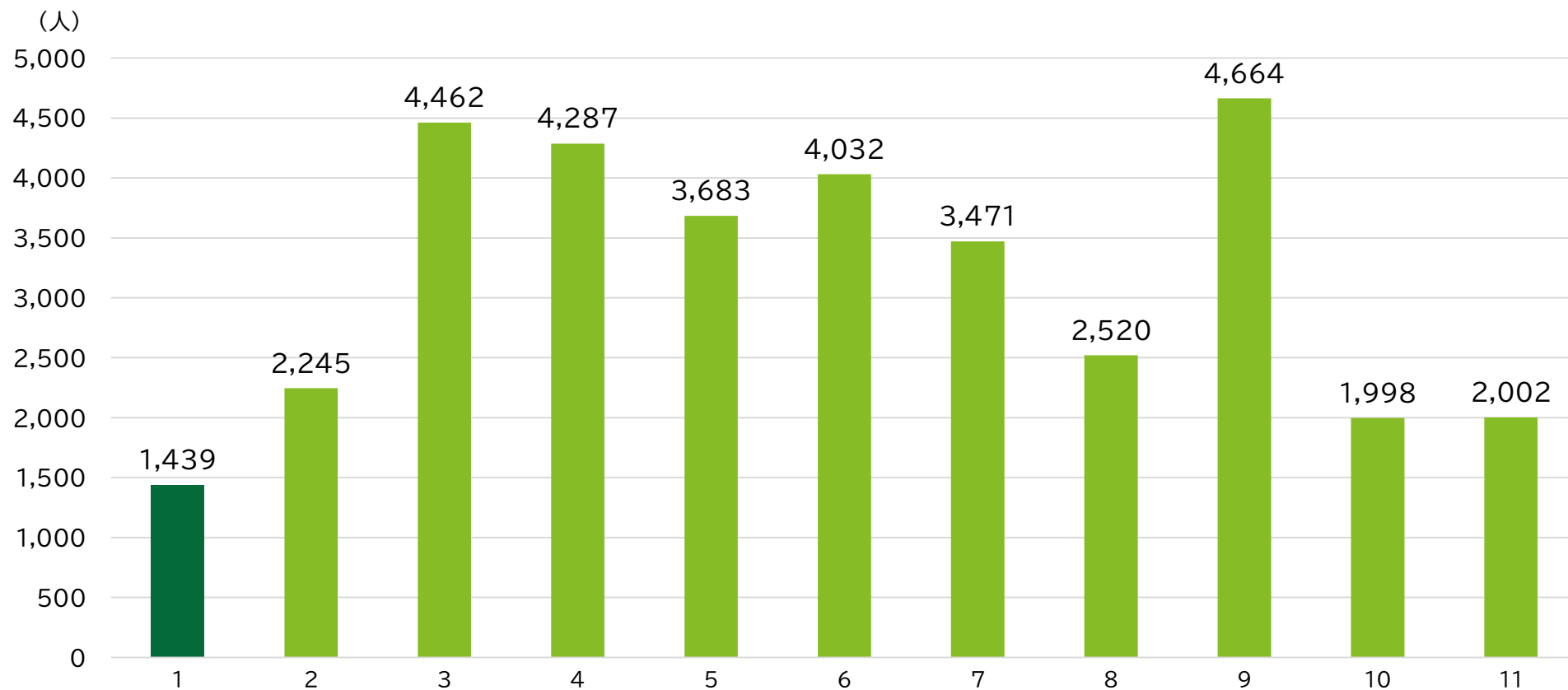
※産婦人科は産科・婦人科・産婦人科の合計値。2022年12月末の住民基本台帳人口を基に算出。

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

## IV.医療・福祉 | 2.介護

### 要支援・要介護認定者数の比較(2022年)

- 粕屋町の要支援・要介護認定者数の合計は1,439人であり、ベンチマーク都市の中では最も少ない。
- ベンチマーク都市の中で最も多いのは糸島市で4,500人を超えている。

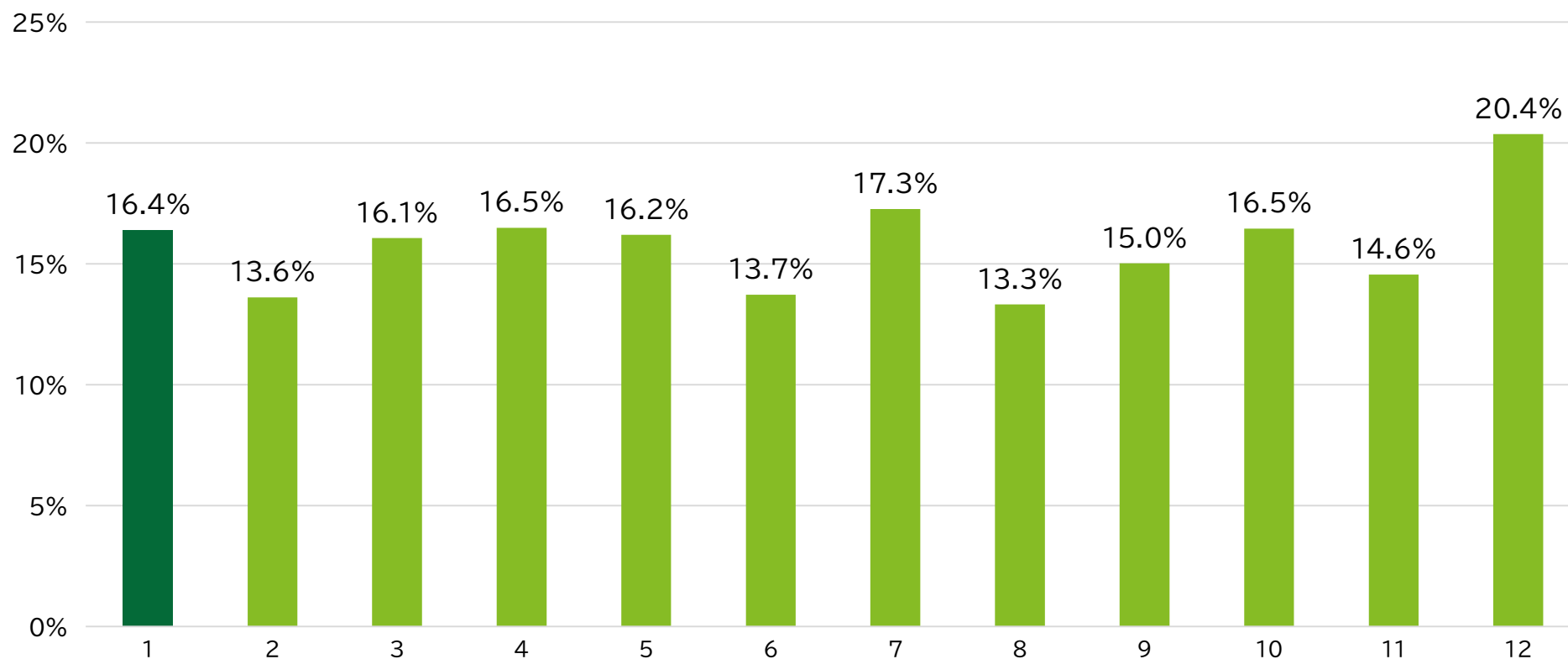


※宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町はデータなし  
出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」

## IV.医療・福祉 | 2.介護

### 65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者数の割合の比較(2022年)

- ▶ 粕屋町の65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者数の割合は16.4%であり、ベンチマーク都市の中では春日市や那珂川市と同水準で、古賀市や宗像市、福津市などを大きく上回っている。
- ▶ 粕屋町は実数で見ると少ないが、人口当たりで比較すると他市町と同程度の水準であり、要支援・要介護者の課題は今後どの地域においても共通で重要なテーマとなっていくことが推察される。

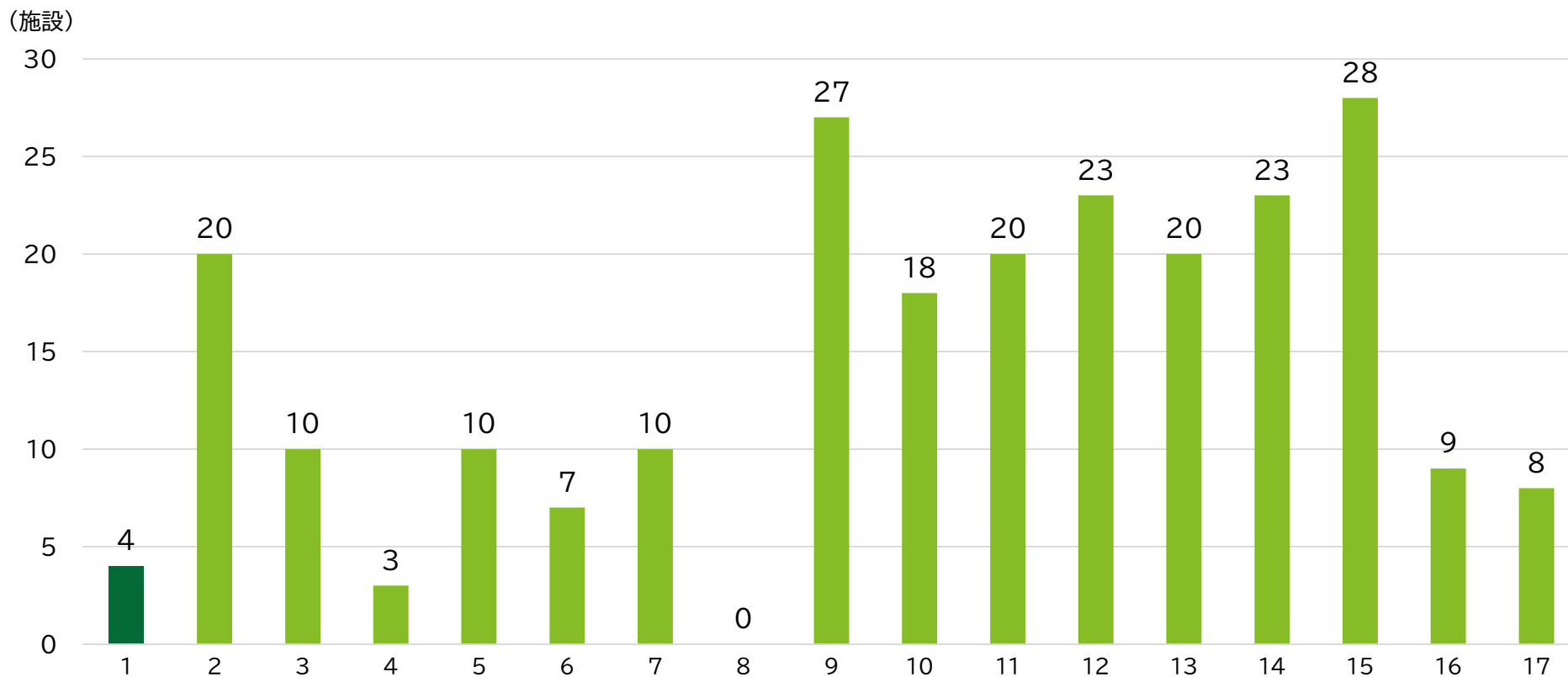


※宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町はデータなし。2022(令和4)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出  
出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」

## IV.医療・福祉 | 2.介護

### 老人福祉施設・有料老人ホーム(サ高住含む)数の比較(2022年)

- 粕屋町には4つの老人福祉施設と有料老人ホームがあり、ベンチマーク都市の中では久山町、篠栗町に次いで3番目に少ない。
- 那珂川市や阿見町のような要支援・要介護認定者の人数が比較的少なかった市町においても粕屋町の倍以上の施設があり、特に古賀市は福岡都市圏の地域と同程度の施設数となっている。



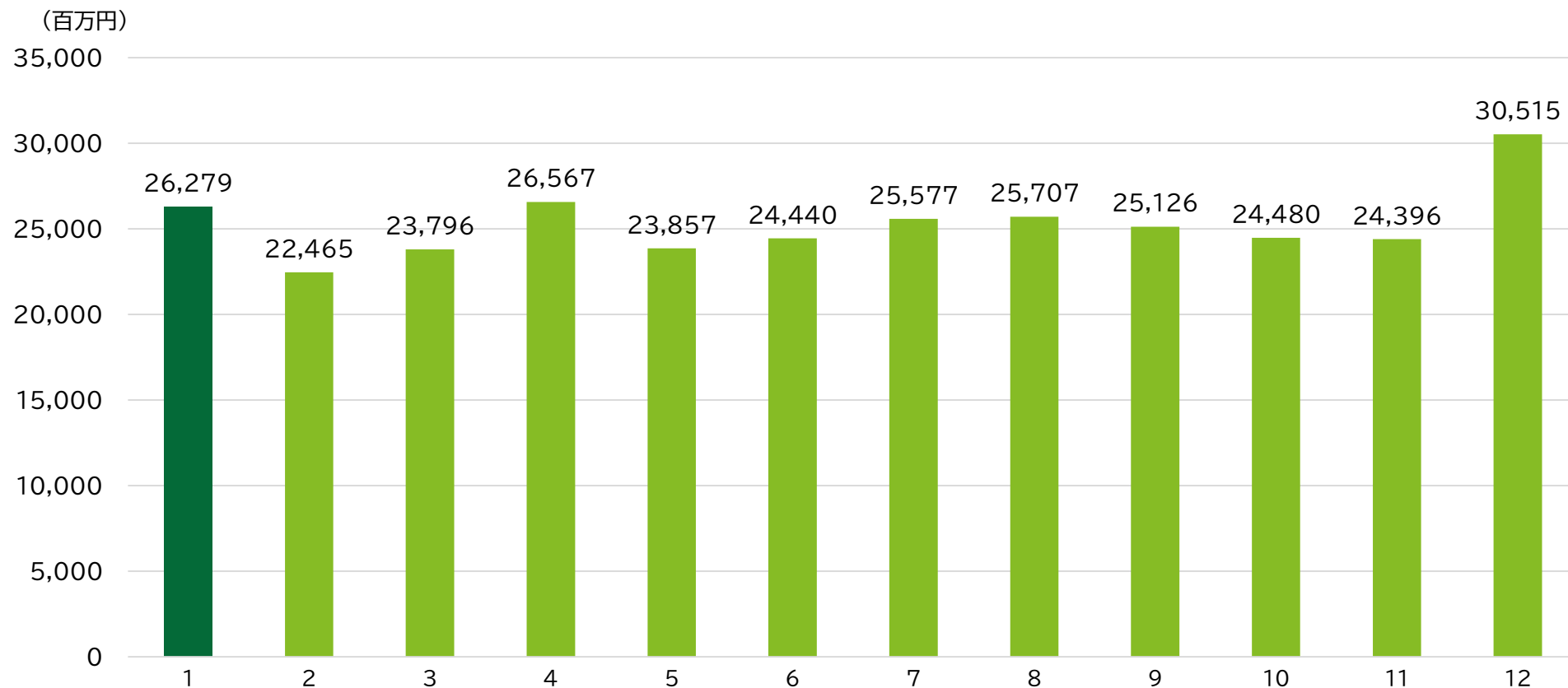
※老人福祉施設とは、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センターを指す  
サ高住＝サービス付き高齢者向け住宅

出典：厚生労働省「社会福祉施設等調査」

## IV.医療・福祉 | 2.介護

### 65歳以上人口10万人当たりの介護費用(2021年)

- ▶ 粕屋町の65歳以上人口10万人当たりの介護費用は約260億円であり、ベンチマーク都市の中では福岡市、春日市に次いで3番目に高い。
- ▶ 福岡市を除くベンチマーク都市はほぼ同水準であるが、粕屋町と古賀市では約40億円の差があり、粕屋町の介護費用の負担は比較的高いと考えられる。



※宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町はデータなし

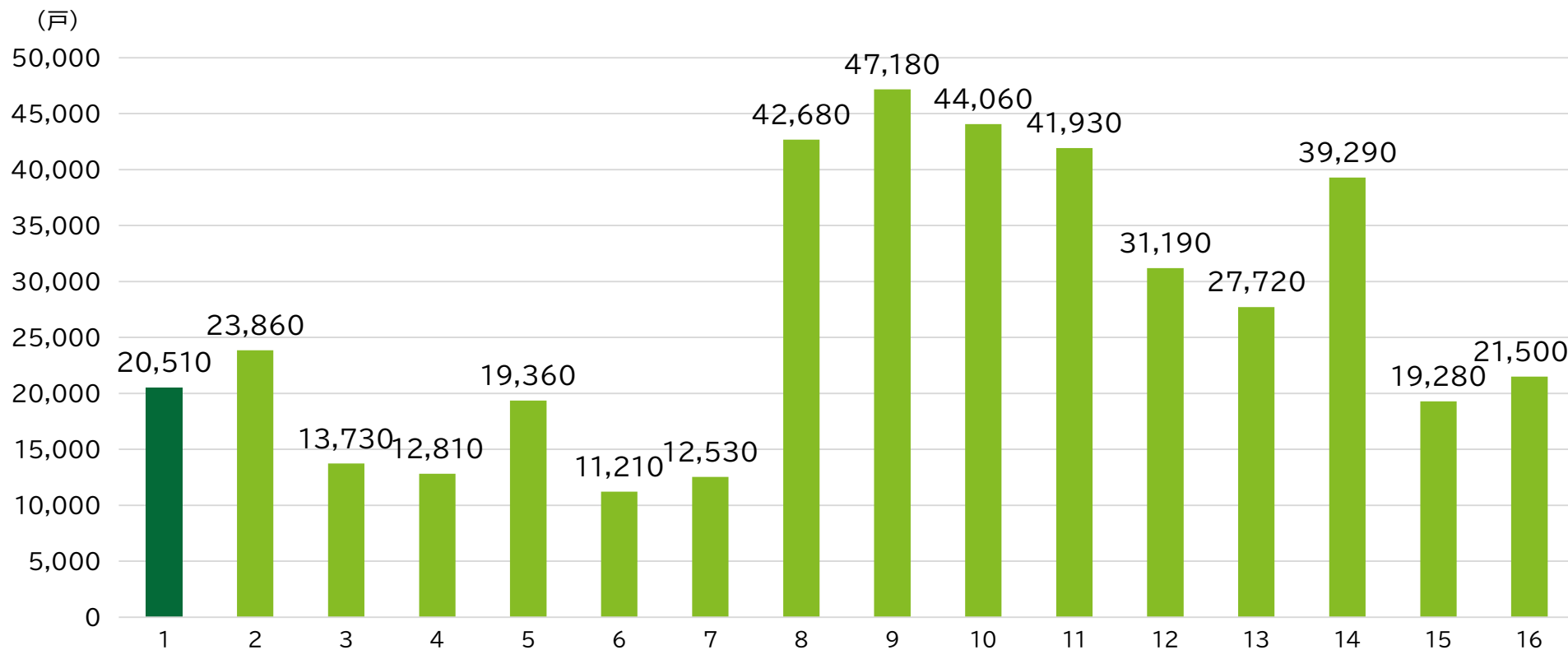
出典:厚生労働省「地域包括ケア『見える化』システム」、総務省「国勢調査」、「人口推計」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」



# V.生活環境 | 1.住宅

## 総住宅数の比較(2023年)

- 粕屋町の総住宅数は約2万戸で、糟屋地域のベンチマーク都市の中では古賀市に次いで多くなっている。
- 福岡都市圏の地域は4万近くの住宅数をもつ市が多く、那珂川市、阿見町は粕屋町と同水準となっている。



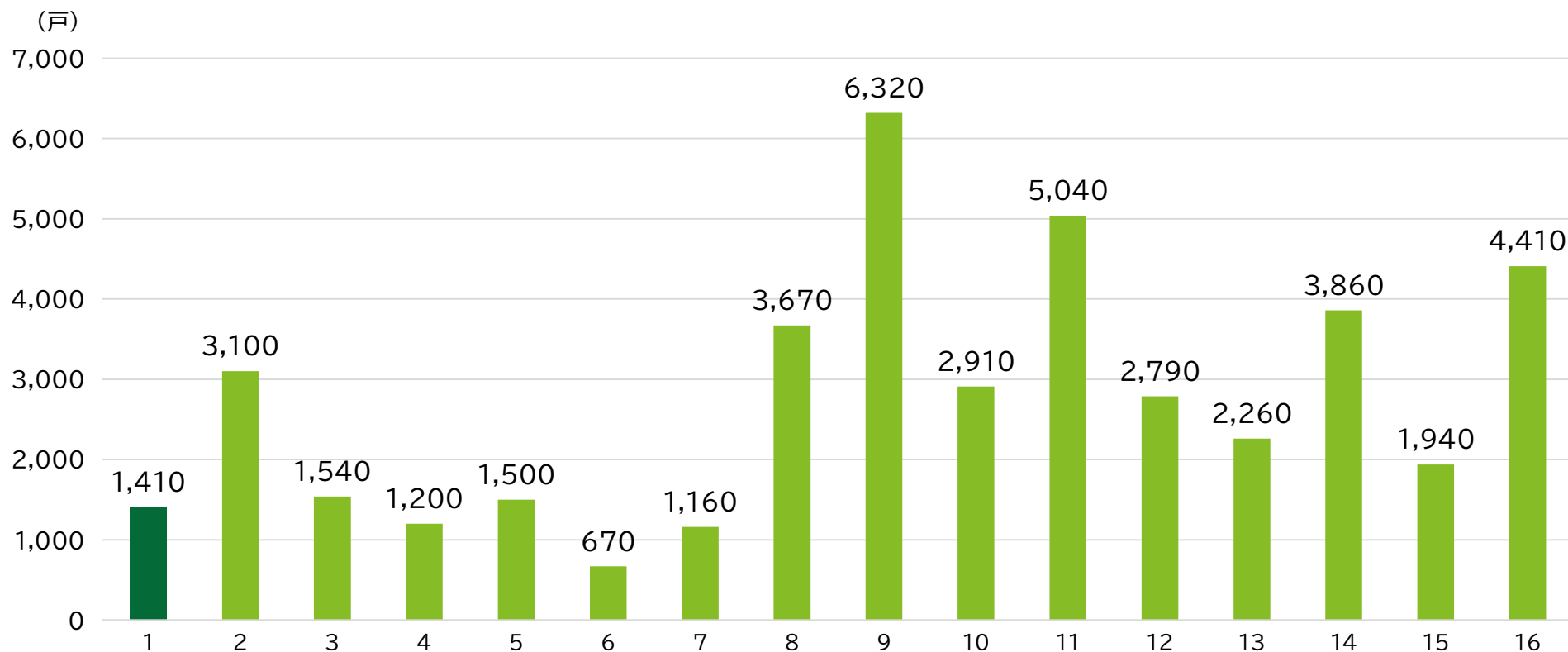
※久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 空家数の比較(2023年)

- 粕屋町の空家数は約1,400戸で、糟屋地域のベンチマーク都市の中では中間的な水準である。
- 福岡都市圏の地域は市によって大きく差が開いており、大野城市、太宰府市、福津市は糟屋地域の古賀市より少ないのに対し、春日市は古賀市の倍以上の空家数となっている。
- 総住宅数が粕屋町と同水準であった阿見町は空家数が約4,400戸と、粕屋町を3,000戸上回っている。



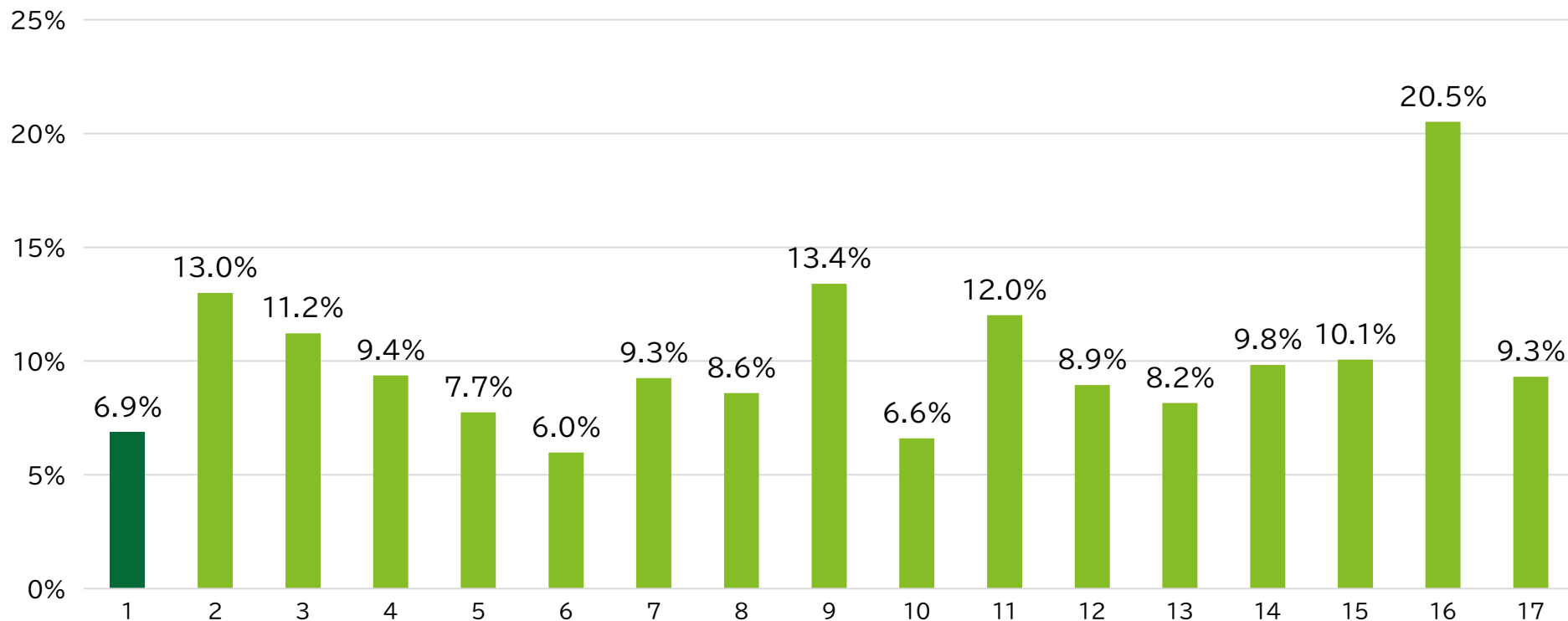
※久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 総住宅数に占める空家数の割合の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町の空家率は6.9%で、ベンチマーク都市の中では須恵町、大野城市に次いで3番目に少ない。
- ▶ 福岡県内で最も空家率が高いのは春日市の13.4%であるが、阿見町は20.5%と、かなり高い水準となっている。
- ▶ 粕屋町は福岡県内において空家率が低い方であると推察される。



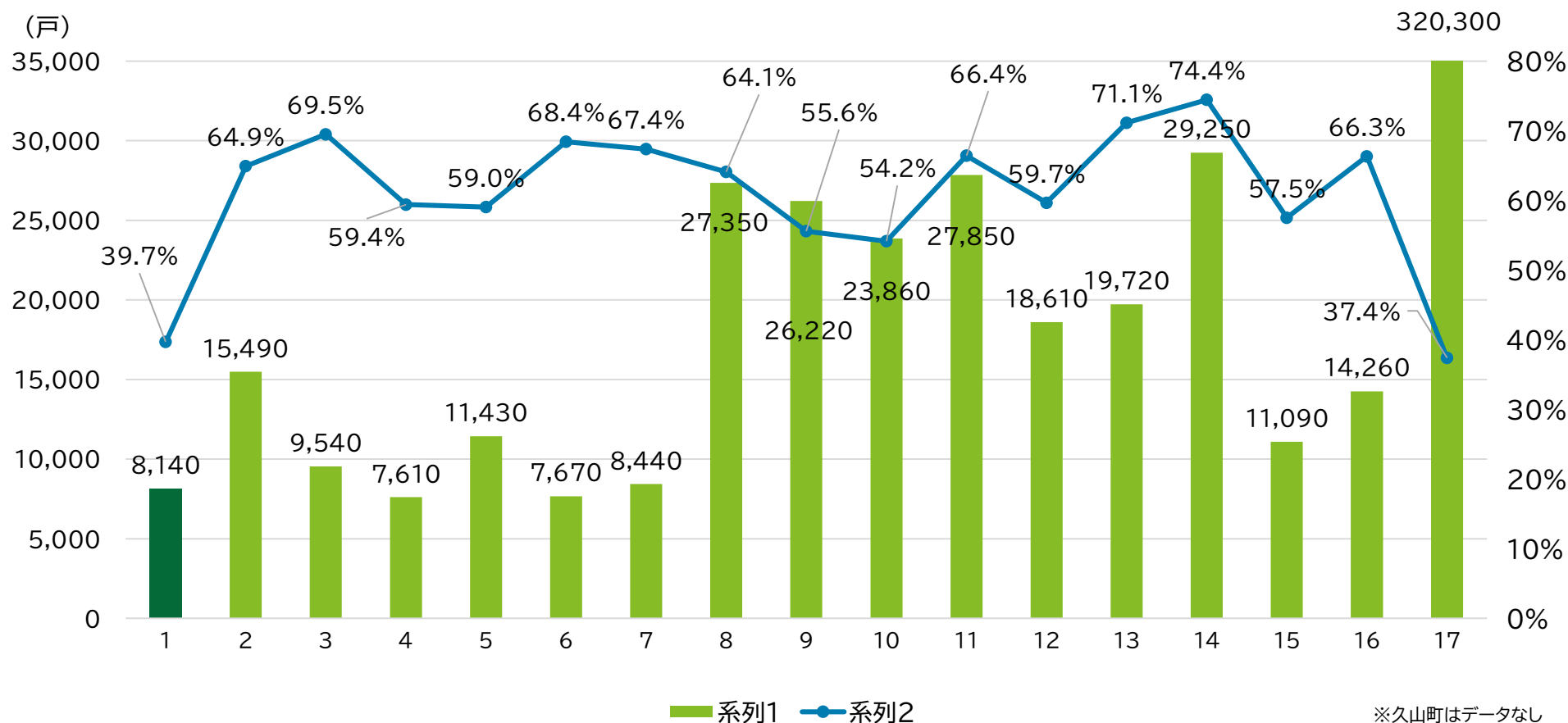
※久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 持ち家数と、総住宅数に占める割合の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町の持ち家数は約8,000戸で、ベンチマーク都市の中では篠栗町、須恵町に次いで3番目に少ない。
- ▶ 一方、割合で見ると粕屋町は39.7%で福岡市に次いで2番目に低く、篠栗町や須恵町を含む糟屋地域はすべての市町で約60%となっていることから、粕屋町は持ち家数が比較的少ないといえる。
- ▶ 福岡都市圏の市、阿見町においても持ち家数の割合が50%以上となっており、福津市や糸島市は70%を超えている。

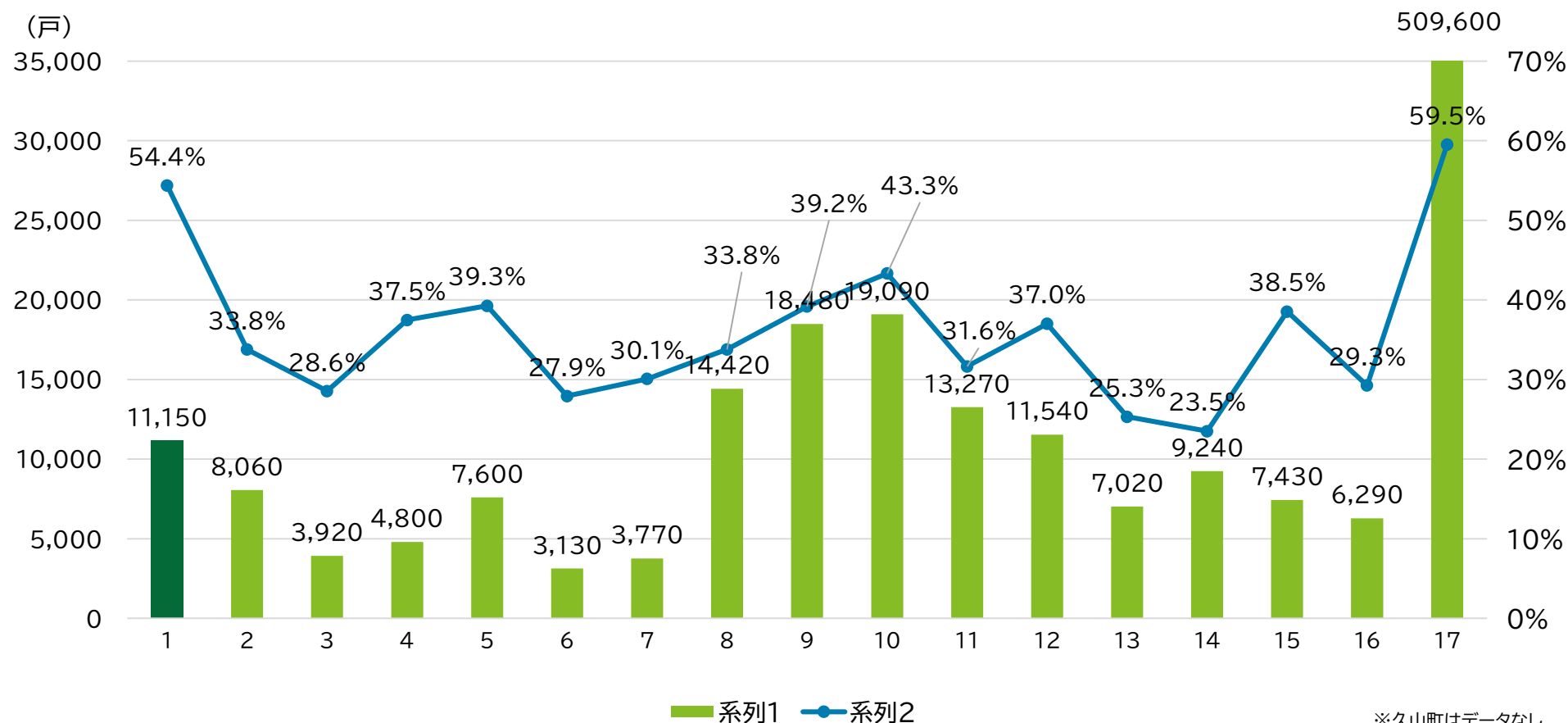


出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 借家数と、総住宅数に占める割合の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町の借家数は約11,000戸で、糟屋地域のベンチマーク都市の中では最も多い。
- ▶ 割合で見ると粕屋町は54.4%で福岡市に次いで2番目に高く、その他の市町はすべて50%を下回っていることから、粕屋町の借家数の割合が比較的高いことがわかる。
- ▶ 持ち家数が少ない分、借家数が多くなっていると推察され、粕屋町には借家で暮らしている人の割合が多いことがよみとれる。



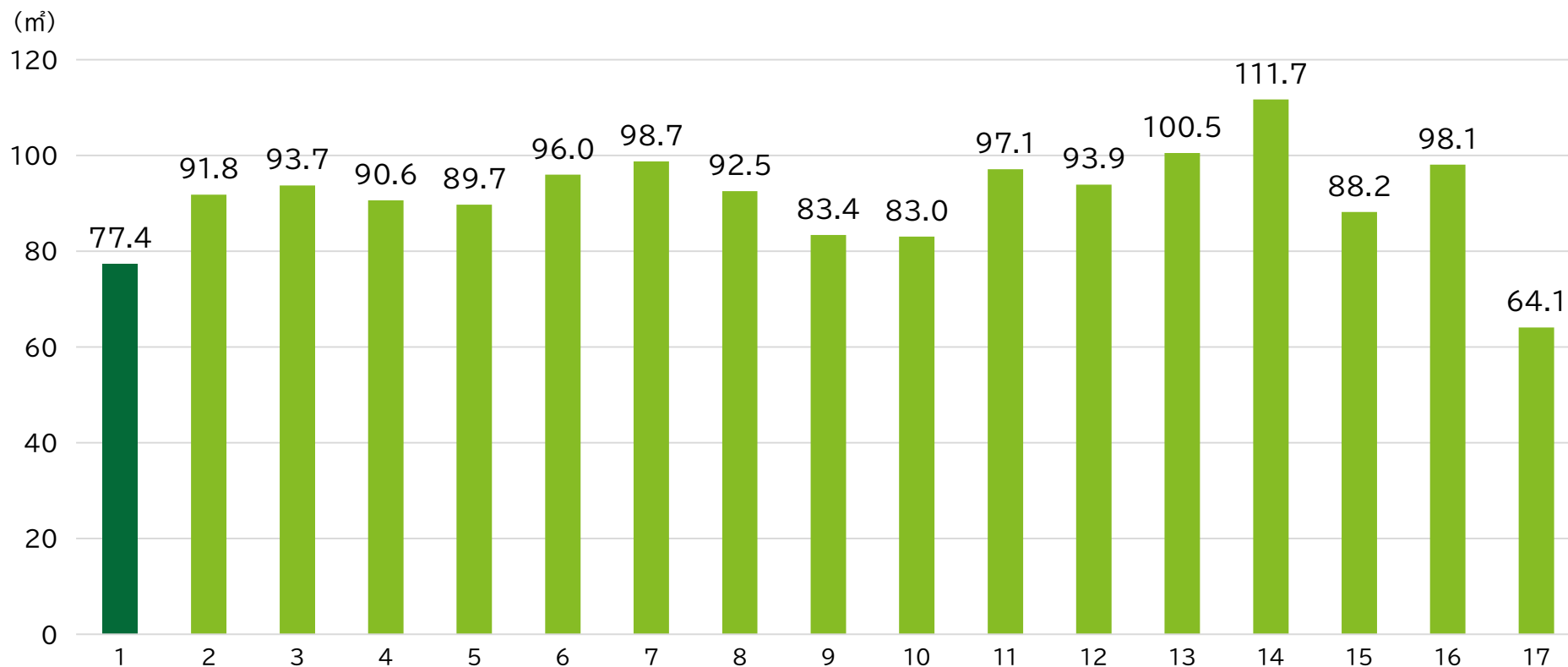
※久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 1住宅当たり延べ面積の比較(2023年)

- 粕屋町の1住宅当たり延べ面積は77.4平方メートルで、ベンチマーク都市の中では福岡市に次いで2番目に狭い。
- 福岡市を除く他のすべてのベンチマーク都市は80平方メートル以上となっており、福津市や糸島市は100平方メートルを超えていることから、粕屋町の住宅当たり面積が低い水準であることがわかる。



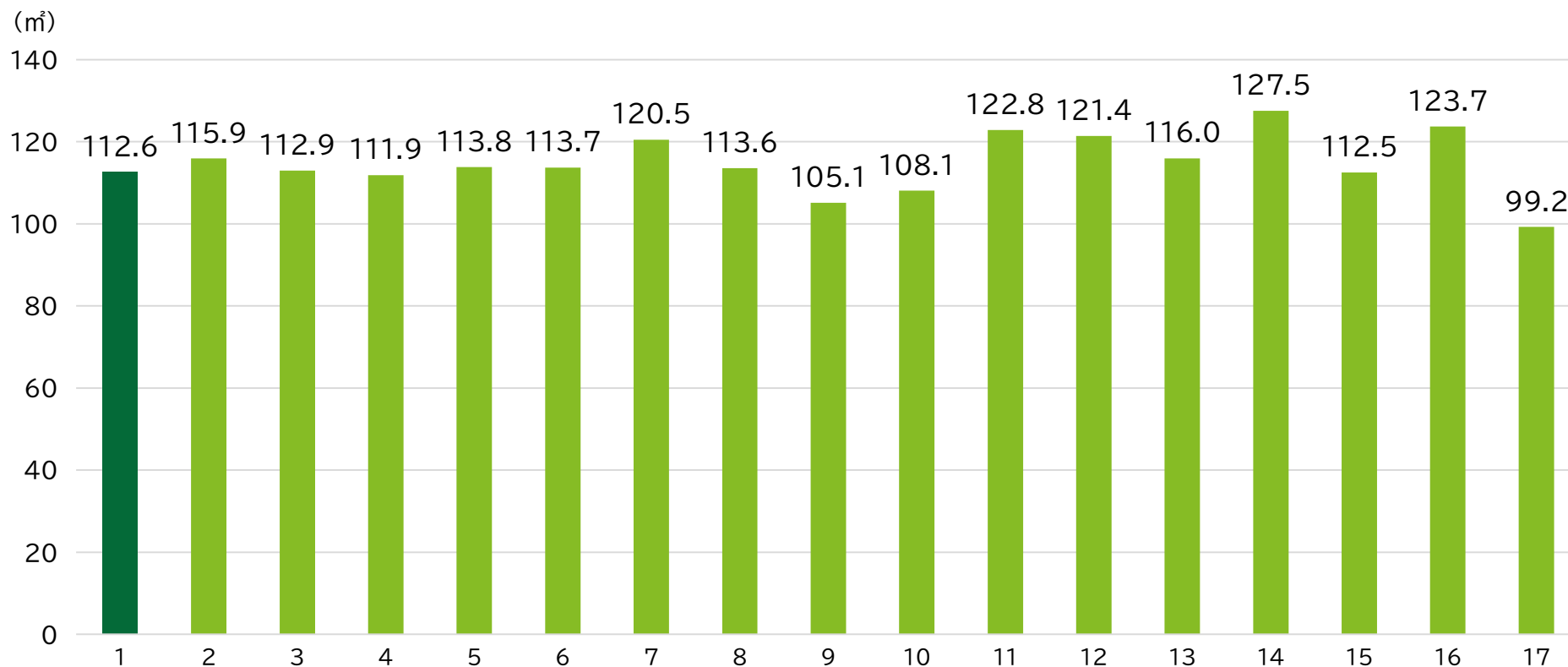
※久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 持ち家の1住宅当たり延べ面積の比較(2023年)

- 粕屋町の持ち家の1住宅当たり延べ面積は112.6平方メートルで、ベンチマーク都市の中では平均よりやや低い程度水準である。
- 福岡市は100平方メートルを下回っているが他のベンチマーク都市はほとんどが110平方メートル以上となっており、糸島市や阿見町、宗像市は少し外れるものの、ほとんど同水準で持ち家数の面積に大きな差はないといえる。



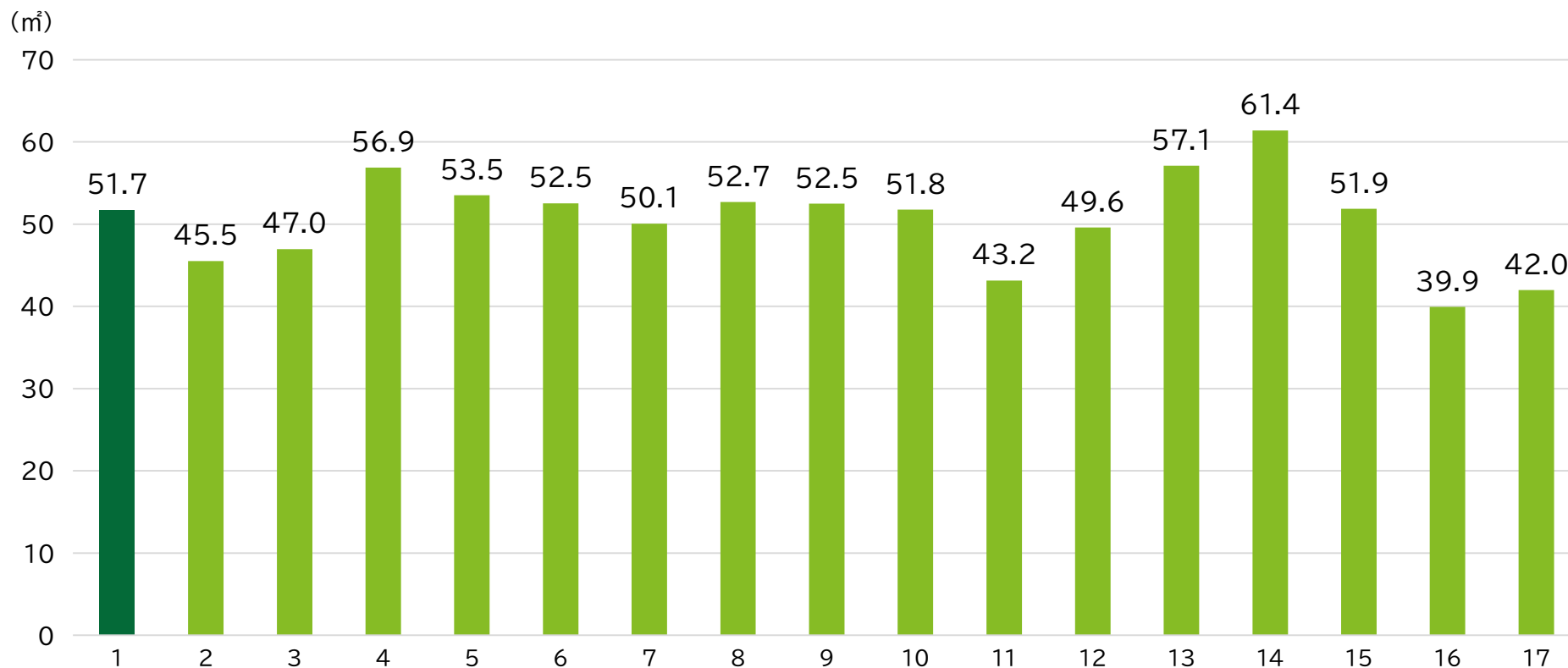
※久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 借家の1住宅当たり延べ面積の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町の借家の1住宅当たり延べ面積は51.7平方メートルで、ベンチマーク都市の中では平均よりやや高い程度水準である。
- ▶ 粕屋町は他市町に比べ借家数が多かったが、面積で見ると宗像市や阿見町など粕屋町を大きく下回る市町もあり、借家数が多いために1戸当たりの面積が他市町より狭い状況ではないといえる。



※久山町はデータなし

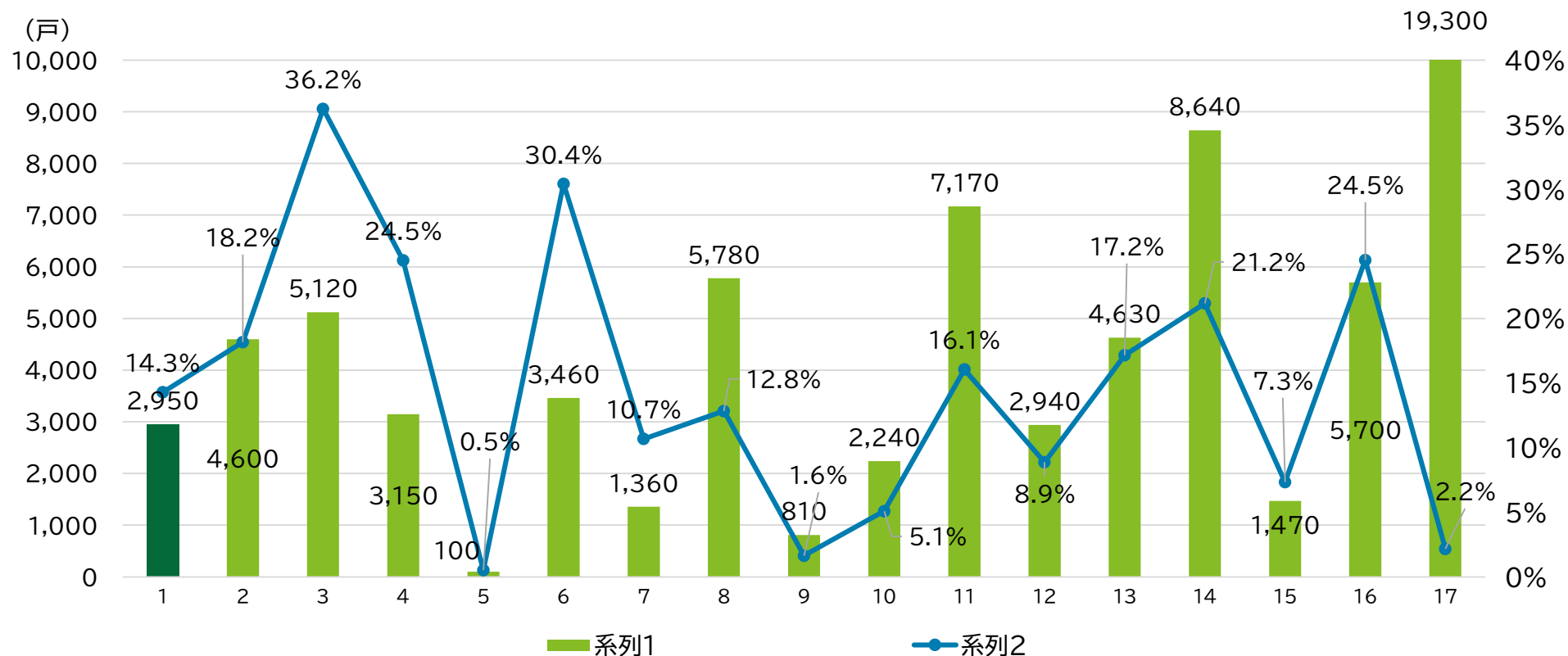
出典:総務省「住宅・土地統計調査」



# V.生活環境 | 1.住宅

## 最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数と、 総住宅数に占める割合の比較(2018年)

- 粕屋町の住宅のうち、14.3%が最寄りの医療機関まで距離のある場所に位置している。
- 糟屋地域の中では志免町、新宮町に次いで低く、福岡都市圏の宗像市、福津市、糸島市を下回る水準である。
- 阿見町よりは低い但那珂川市を大きく上回っており、医療機関へのアクセスはまだ少し改善の余地があると考えられる。

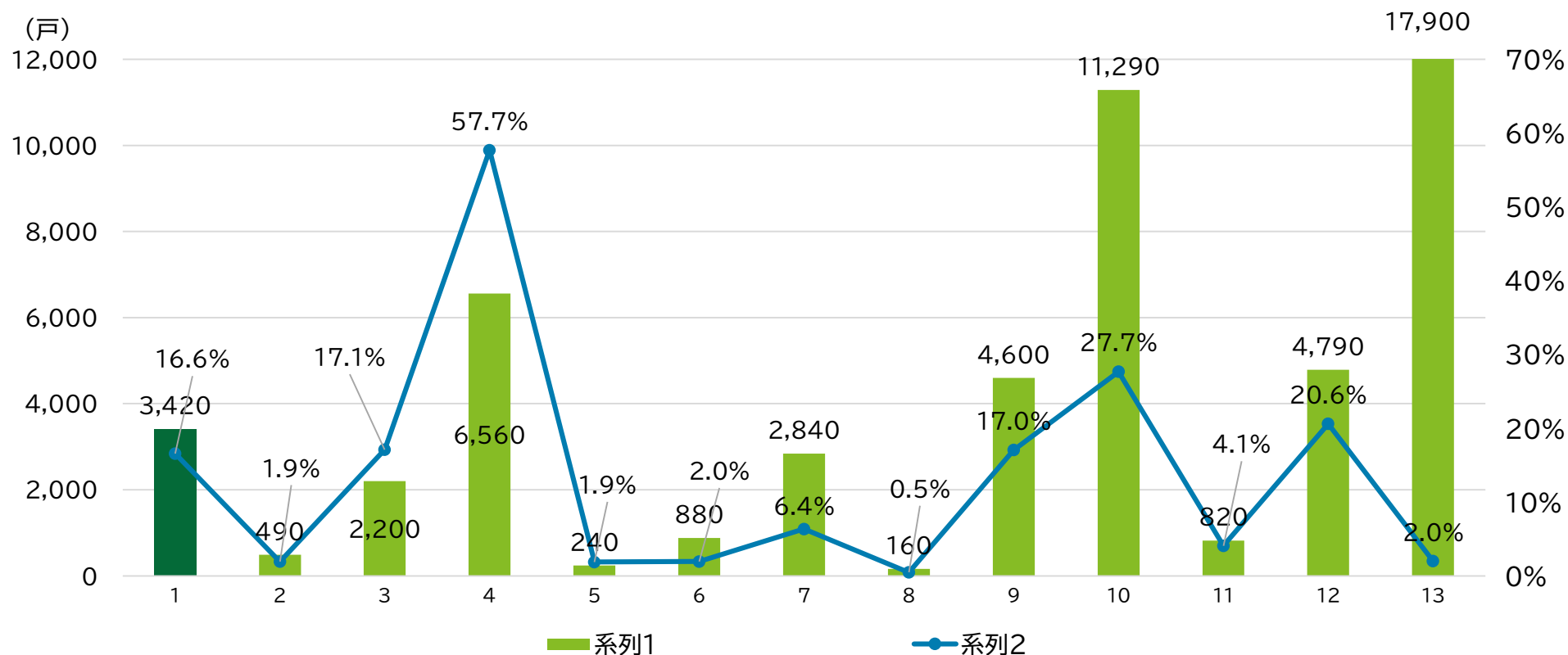


※久山町はデータなし  
出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 最寄りの公園まで1,000m以上の住宅数と、 総住宅数に占める割合の比較(2018年)

- 粕屋町の住宅のうち、16.6%が最寄りの公園まで1,000m以上離れた場所に位置している。
- 糟屋地域の中では須恵町、篠栗町に次いで高く、他市町と比べても比較的高い割合であることがわかる。
- 医療機関に比べ、公園へのアクセスは今後課題となる可能性があるかと推察される。

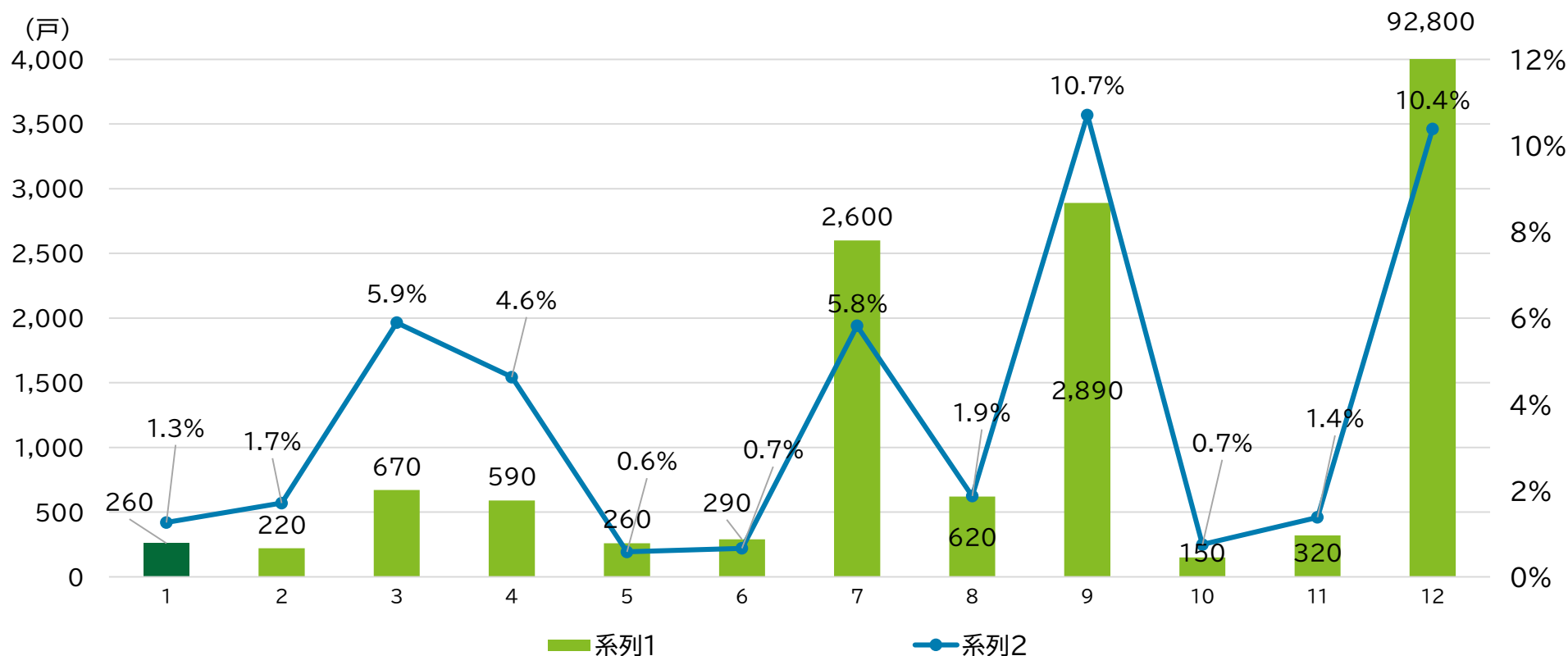


※宇美町、志免町、久山町、春日市、大野城市はデータなし  
出典：総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 最寄りの公民館・集会所まで1,000m以上の住宅数と、 総住宅数に占める割合の比較(2018年)

- 粕屋町の住宅のうち、1.3%が最寄りの公民館・集会所まで1,000m以上離れた場所に位置している。
- 糟屋地域の中では最も低く、ベンチマーク都市全体でも筑紫野市、大野城市・那珂川市に次いで3番目に低い。
- 医療機関や公園と比べると、公民館・集会所へのアクセスは大きな課題とはなっていないと推察される。

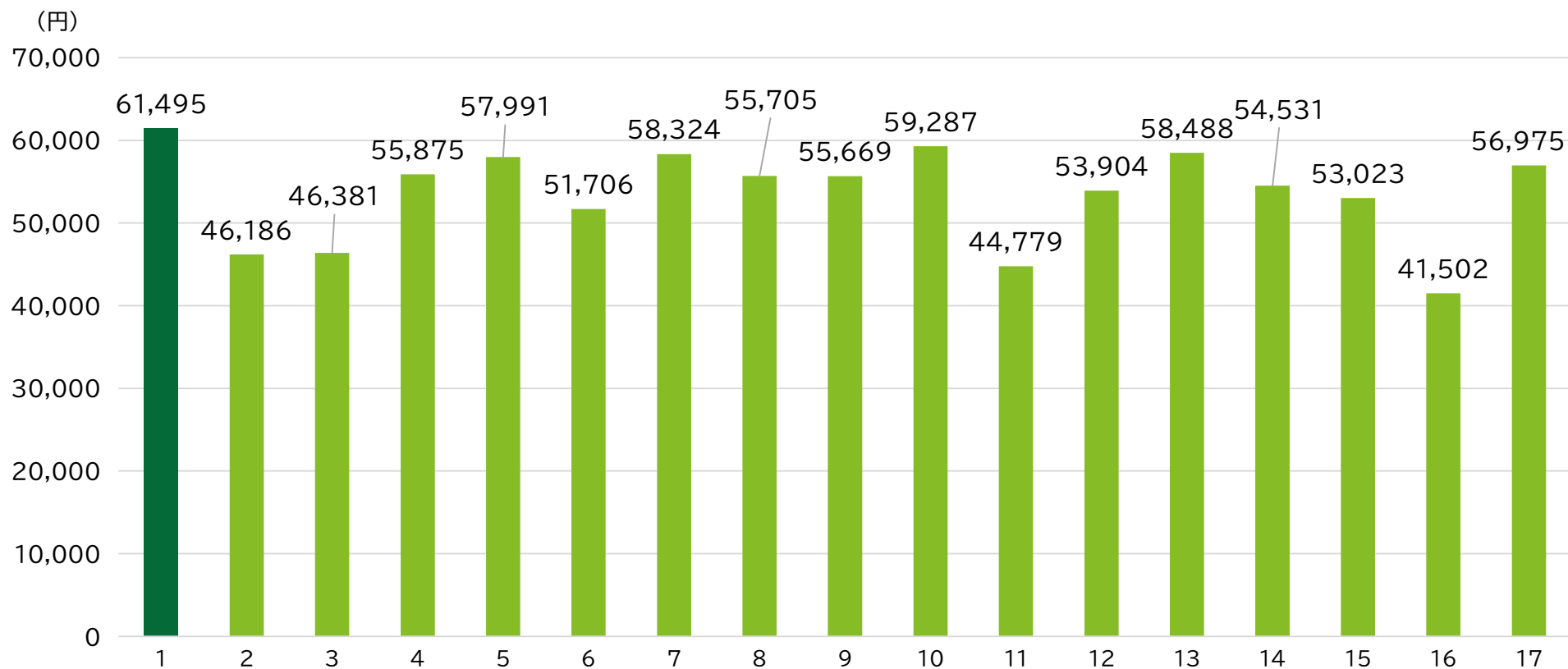


※古賀市、宇美町、志免町、久山町、春日市、糸島市はデータなし  
出典：総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 世帯の1か月当たりの家賃平均の比較(2023年)

- 粕屋町の世帯当たり家賃平均は1か月約61,000円で、ベンチマーク都市の中で最も高い。
- 福岡市を上回る水準で唯一6万円を超えており、粕屋町の家賃は他市町より高いことがわかる。



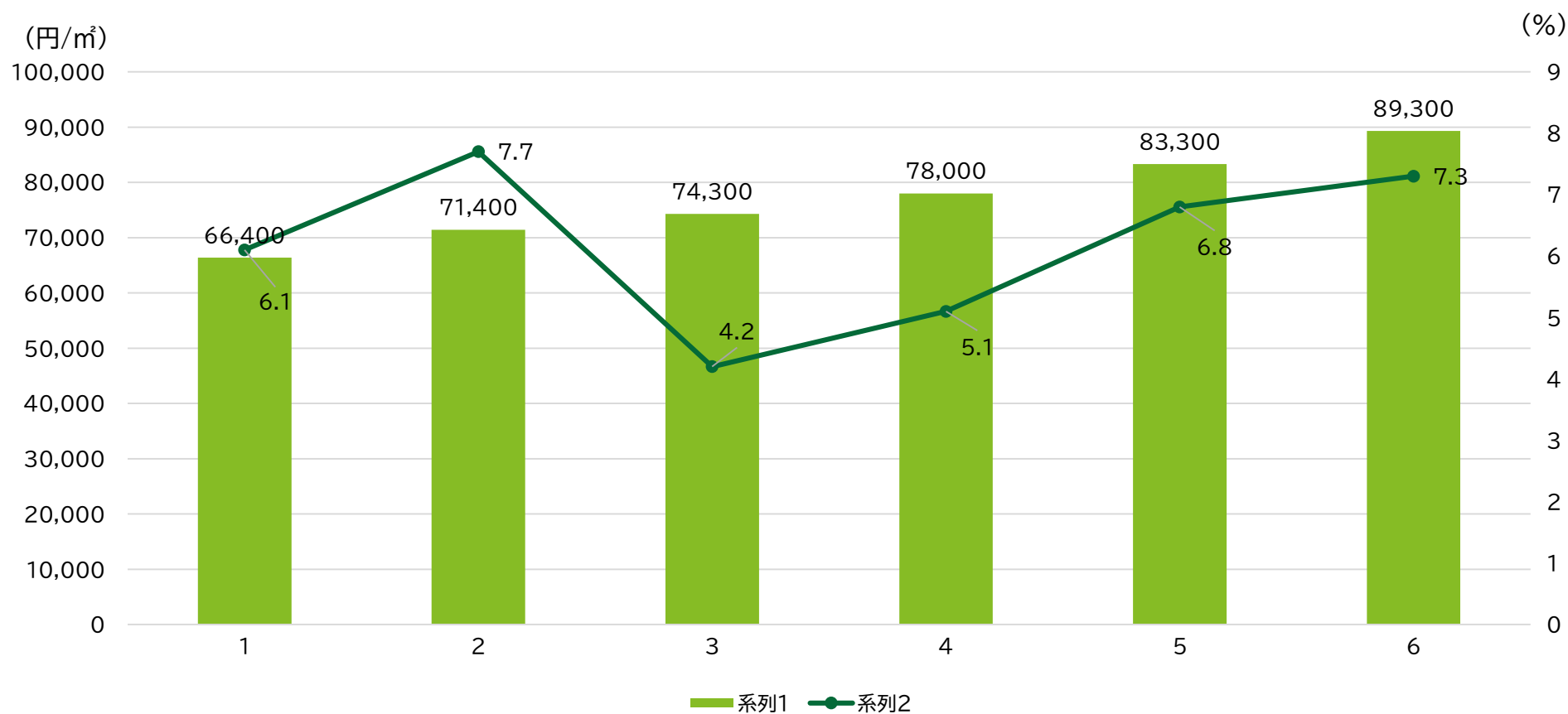
※家賃0円を含まない。久山町はデータなし

出典:総務省「住宅・土地統計調査」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 住宅地平均価格の推移

- 粕屋町の住宅地の1平方メートル当たり平均価格は、2019(令和元)年以降一貫して増加しており、増加率も4~7%台と、年々大きく増加していることがわかる。
- 直近5年間で2万円以上増加しており、粕屋町の住宅地価格は急激に高騰しているといえる。

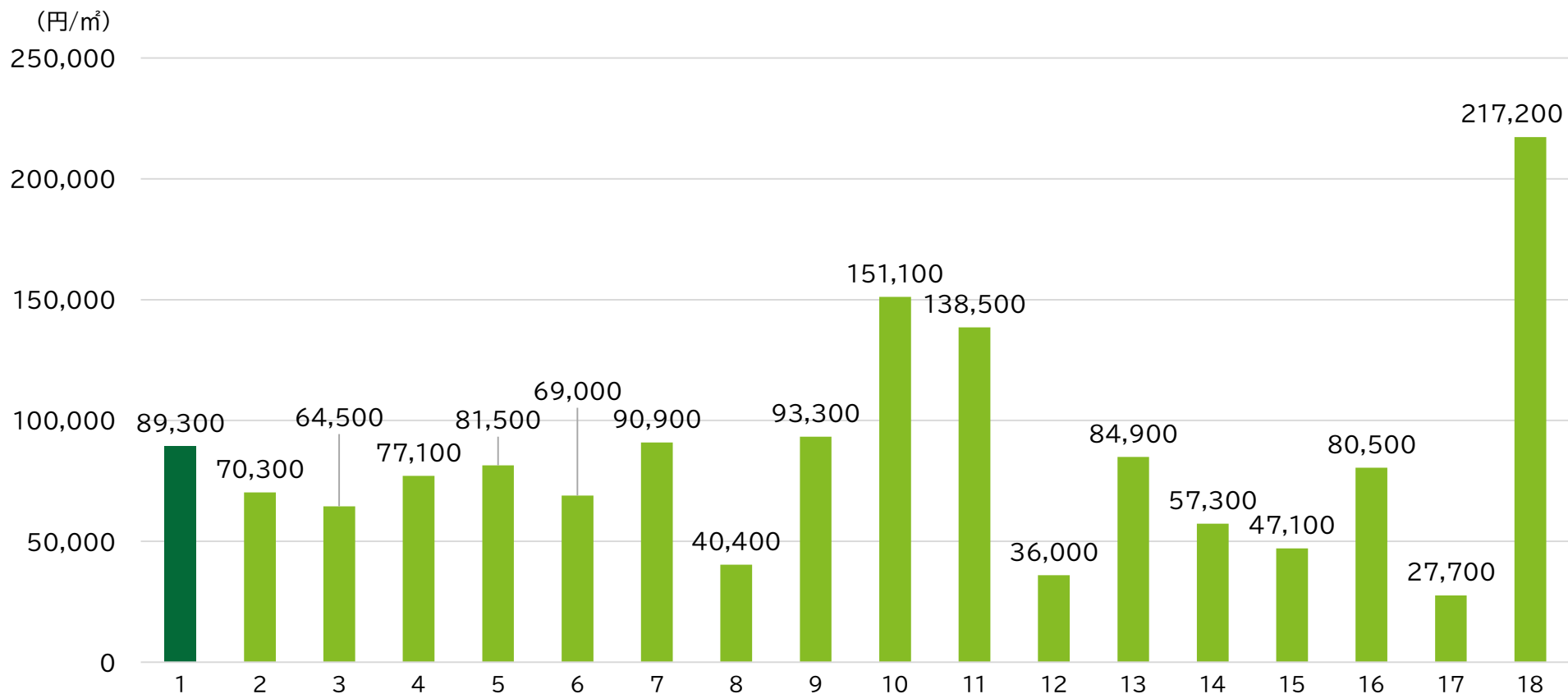


出典:国土交通省「地価公示」

# V.生活環境 | 1.住宅

## 住宅地平均価格の比較(2024年)

- 粕屋町の1平方メートル当たりの住宅地平均価格は2024(令和6)年に89,300円となっており、ベンチマーク都市の中では比較的高い方である。糟屋地域の中では新宮町に次いで高く、福岡都市圏の宗像市、太宰府市、福津市、糸島市、那珂川市を上回っている。
- 福岡市や春日市と比べると低い水準ではあるが、同規模の自治体と比較しても粕屋町の土地価格は比較的高いといえる。

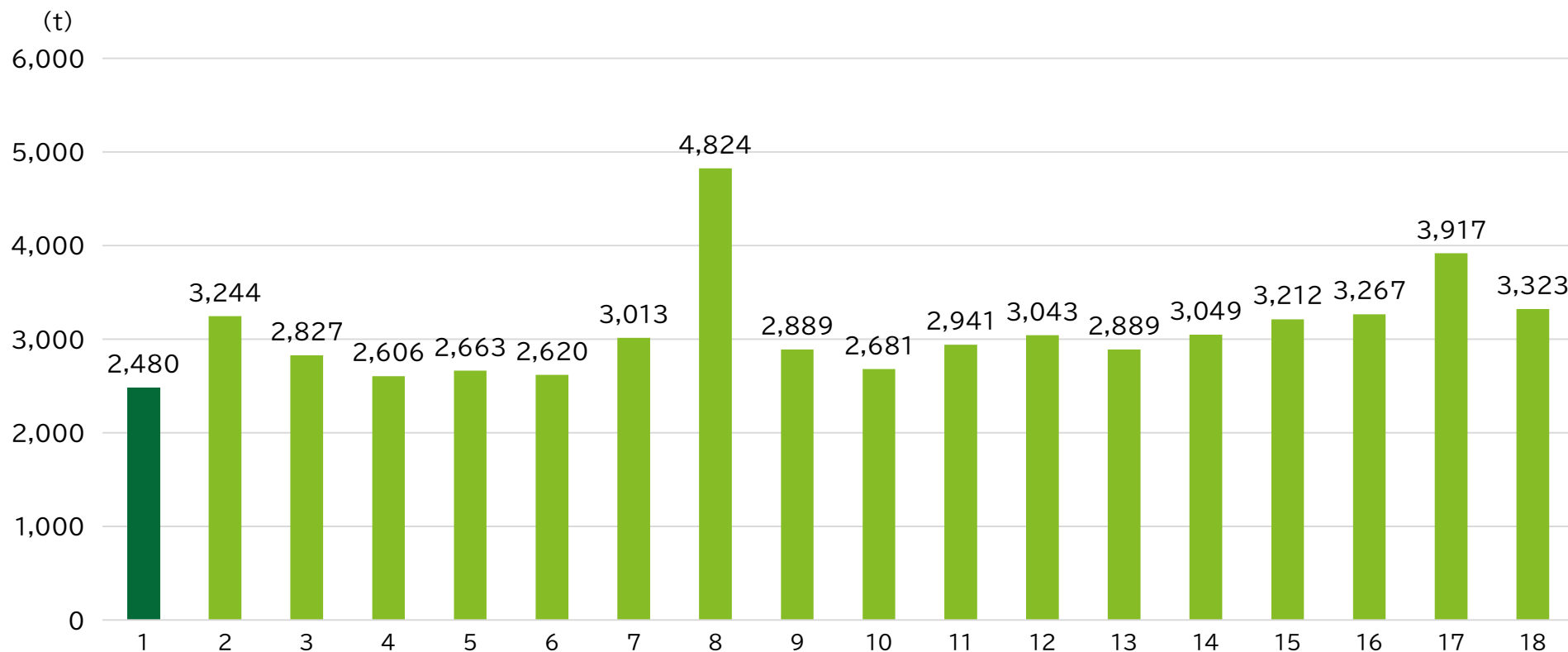


出典:国土交通省「地価公示」

# V.生活環境 | 2.環境

## 1万人当たりのごみ総排出量の比較(2022年)

- 粕屋町の人口1万人当たりのごみ総排出量は2,480tで、ベンチマーク都市の中で最も少ない。
- 2,500tを下回っているのは粕屋町のみで、他市町は3,000tに近いもしくはそれ以上のごみ総排出量となっている。
- 粕屋町は他都市と比べてごみの排出量が少なく、環境負荷が比較的少なく抑えられていると推察される。



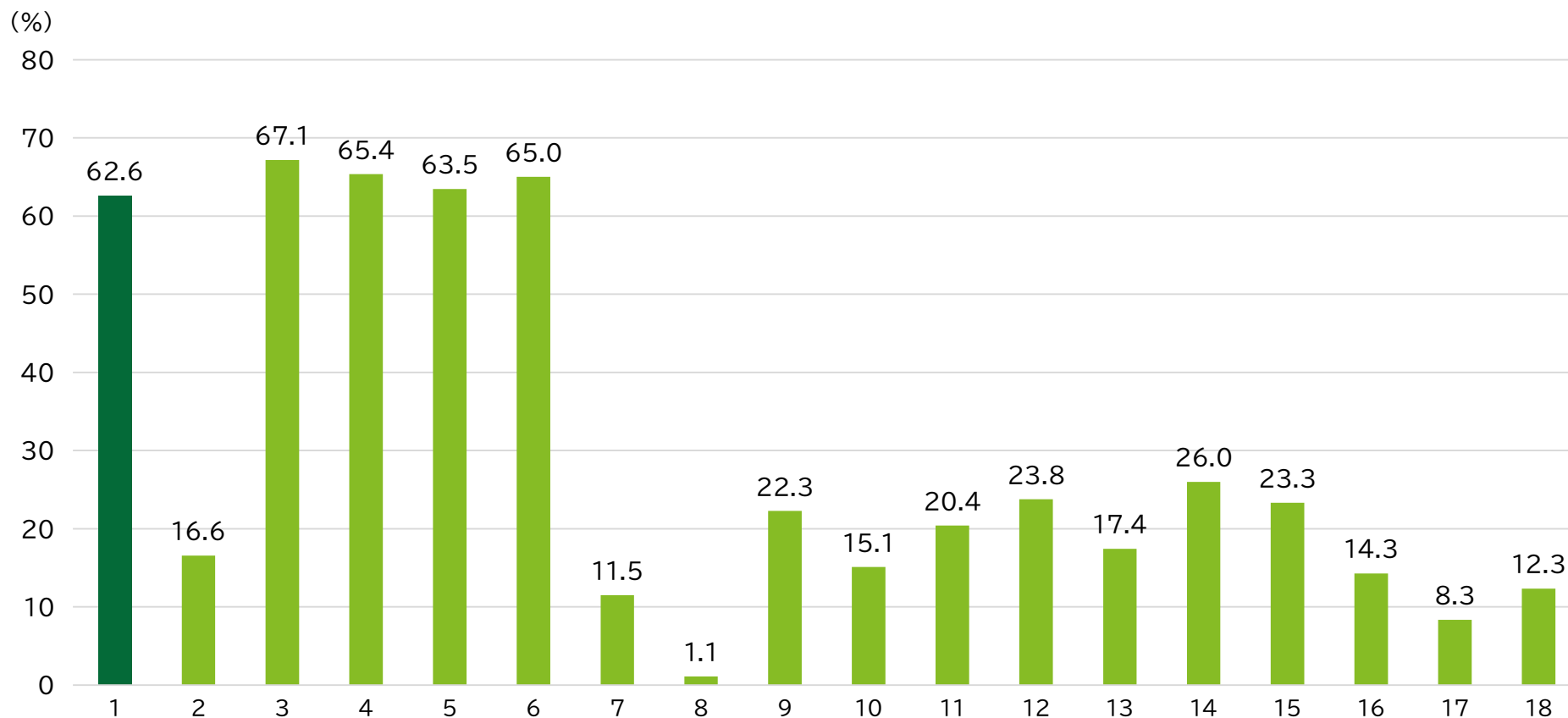
※ごみ総排出量:計画収集量+直接搬入量+集団回収量

出典:環境省「一般廃棄物処理実態調査」

# V.生活環境 | 2.環境

## リサイクル率の比較(2022年)

- 粕屋町のリサイクル率は62.6%で、ベンチマーク都市の中では宇美町、篠栗町、須恵町、志免町に次いで5番目に高い。
- 古賀市、新宮町、久山町を除く糟屋地域はリサイクル率が60%を超えており、福岡都市圏の地域や阿見町などと比べてもかなり高いことから、糟屋地域のリサイクルに関する取り組みは他地域より進んでいる状況であると考えられる。



出典:環境省「一般廃棄物処理実態調査」

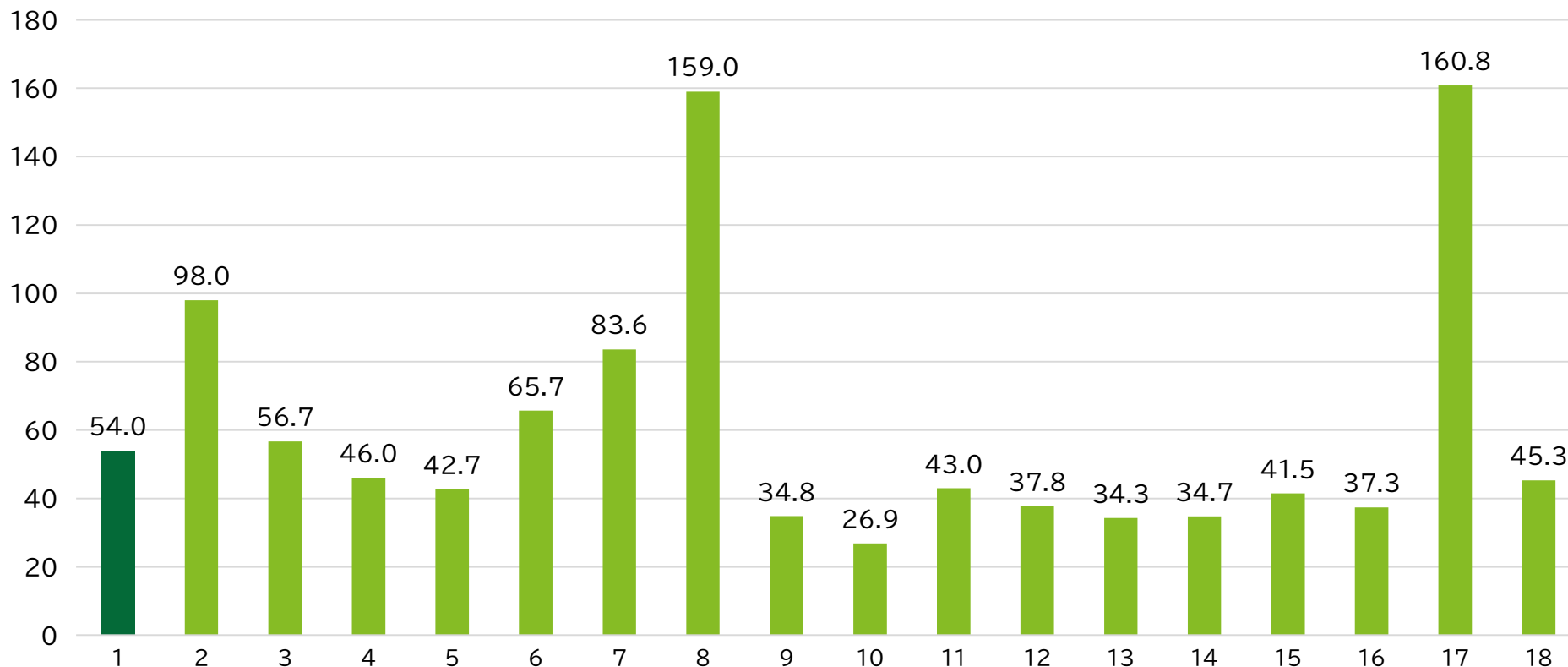


# V.生活環境 | 2.環境

## 1万人当たりの二酸化炭素排出量の比較(2021年)

- 粕屋町の人口1万人当たり二酸化炭素排出量は5万4,000tCO<sub>2</sub>で、糟屋地域のベンチマーク都市の中では志免町、篠栗町に次いで3番目に少ないが、福岡都市圏の地域と比較するとほぼすべての市町を1万tCO<sub>2</sub>以上上回っている。
- 糟屋地域の市町は比較的人口当たりの二酸化炭素排出量が多く、久山町は15万9,000tCO<sub>2</sub>とかなり高いが、阿見町はさらにそれを上回り、16万tCO<sub>2</sub>の二酸化炭素排出量となっている。

(千tCO<sub>2</sub>)

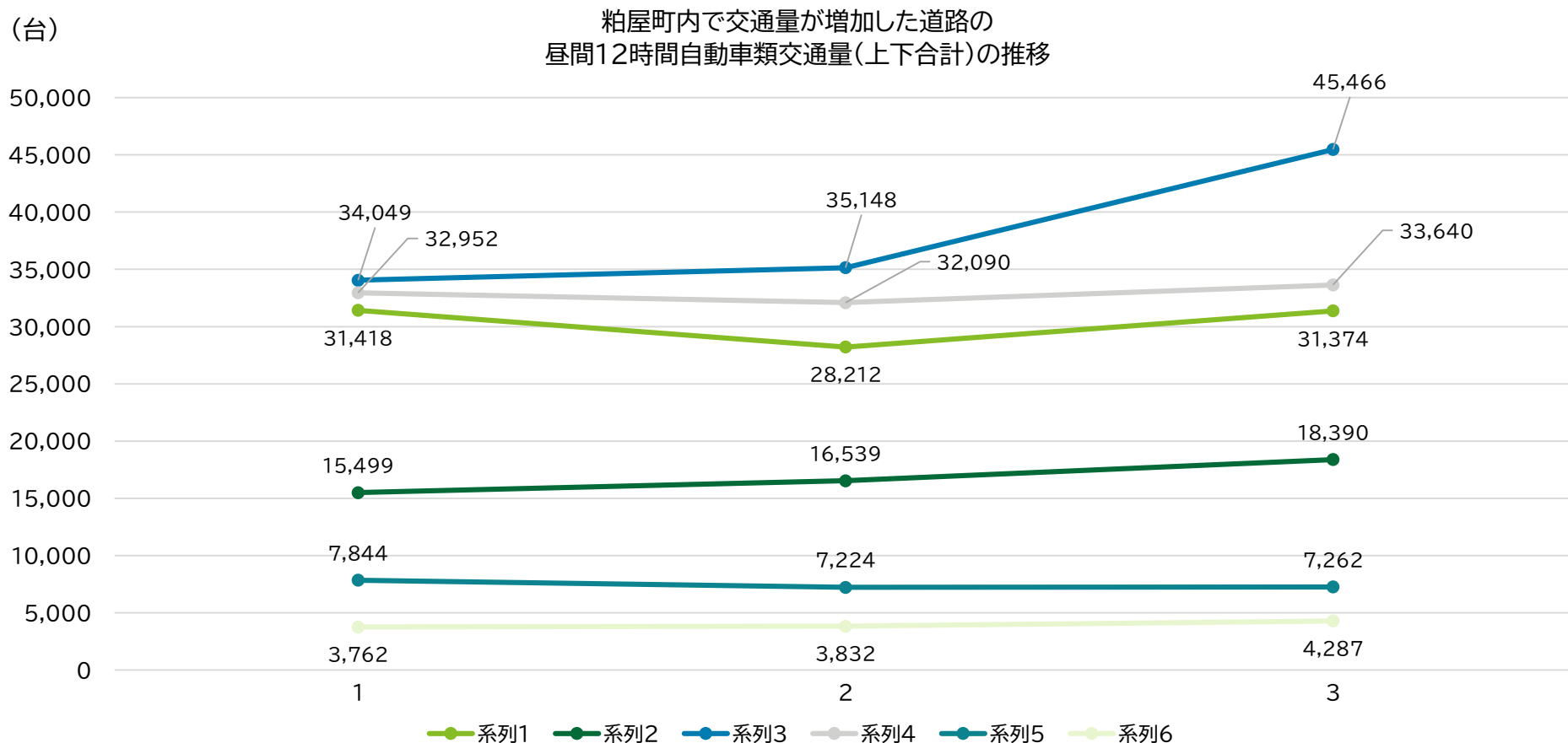


出典:環境省「部門別CO<sub>2</sub>排出量の現況推計」

# V.生活環境 | 3.交通

## 主要道路の交通量推移

- 2015(平成27)年から2021(令和3)年にかけて昼間の自動車交通量の増加がみられたのは、以下の道路であった。
- 一般国道201号(区間1)の交通量が最も多く、2015(平成27)年から2021(令和3)年までに大幅な増加となっている。
- その他の道路は、微増しているものの、2010(平成22)年から大きくは変化していない。

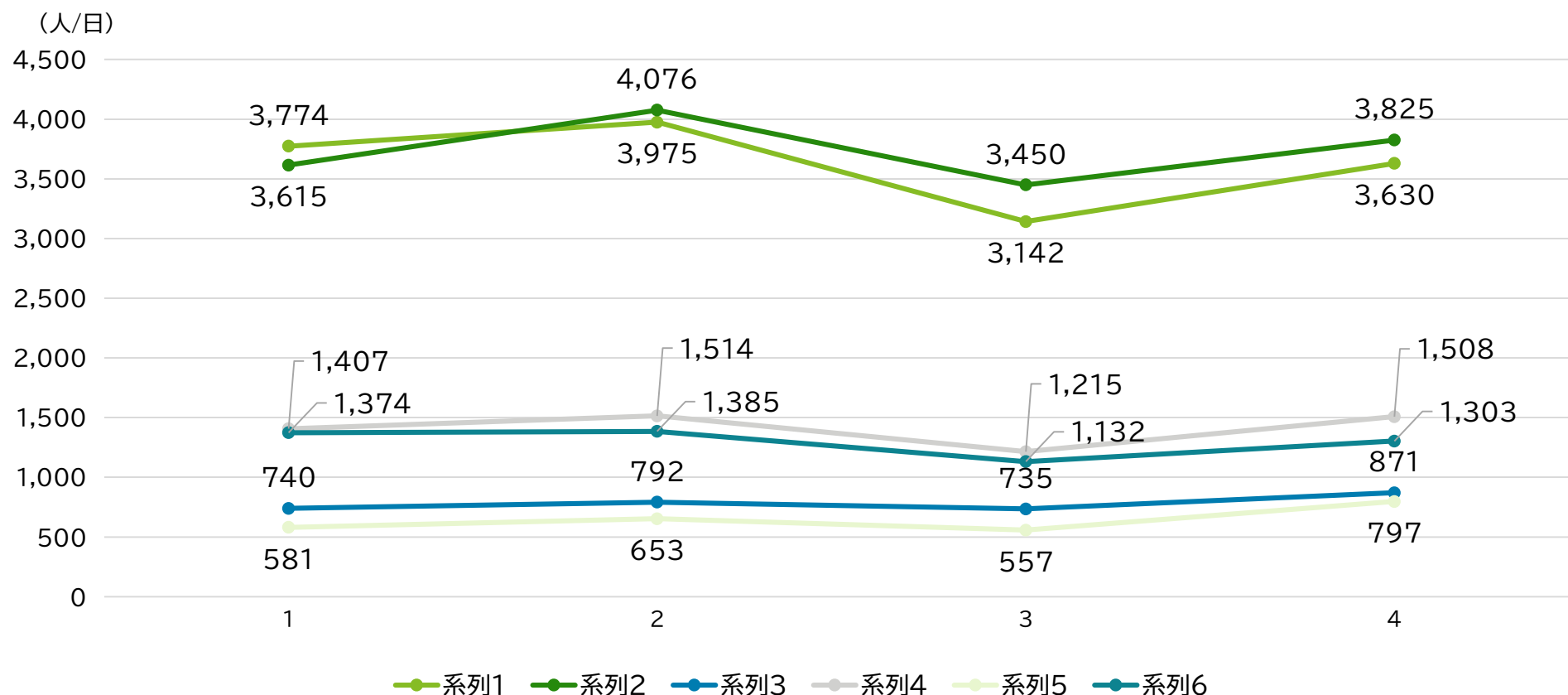


出典:国土交通省「全国道路・街路交通情勢調査」

# V.生活環境 | 3.交通

## 粕屋町内のJR駅乗車人員の推移

- ▶ 粕屋町内のJR駅のうち、2022(令和4)年に最も乗車人員が多いのは柚須駅である。2016(平成28)年時点では長者原駅の方が多かったが、その後逆転し、2022(令和4)年時点では1日当たり200人程度の差がある。
- ▶ どの駅においても2020(令和2)年に一度乗車人員が大きく減少しており、これは新型コロナウイルス感染症によるものと考えられる。その後は回復傾向にあるが、伊賀駅、酒殿駅は2022(令和4)年に2018(平成30)年を大きく上回る乗車人員になったのに対し、長者原駅、柚須駅はコロナ以前の水準には戻っていない。

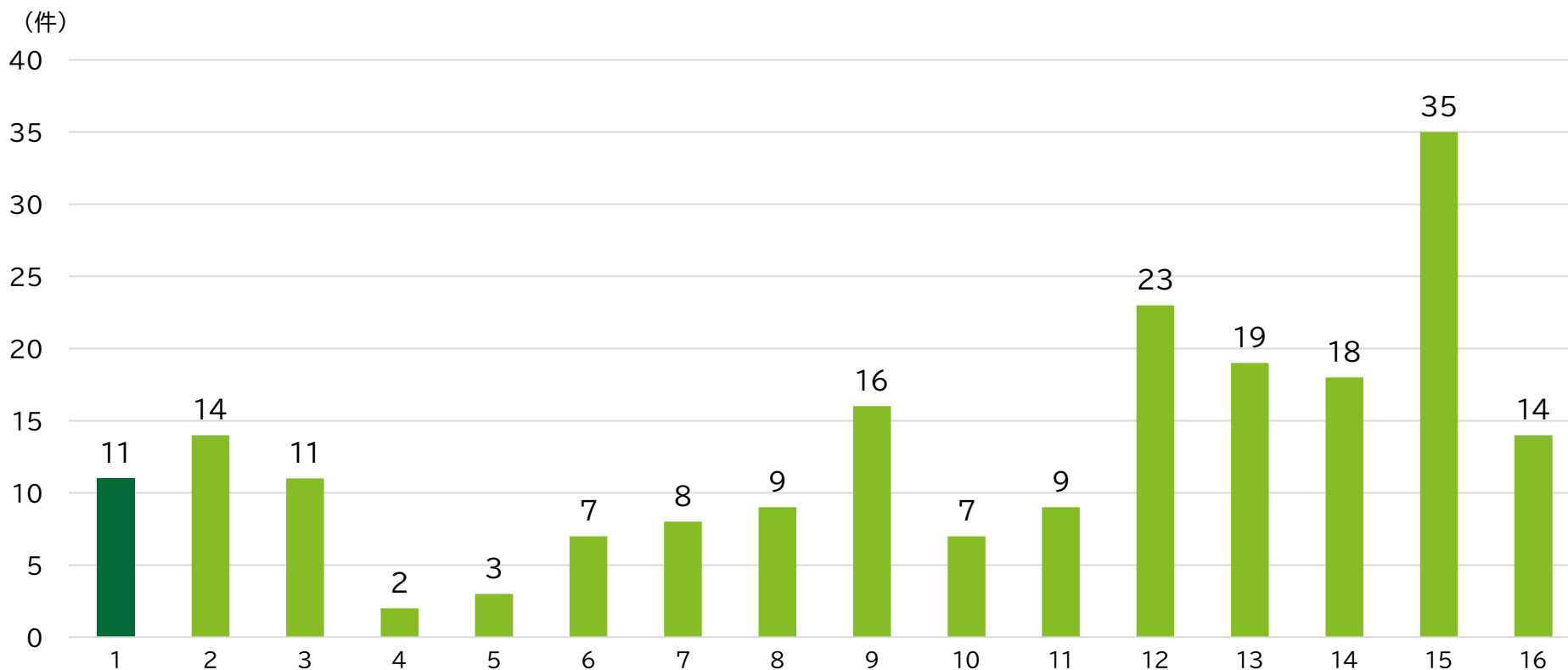


出典: JR九州「駅別乗車人員上位300駅」

# V.生活環境 | 4.防災・防犯

## 火災発生件数の比較(2021年)

- 2021(令和3)年の1年間に福岡県内で発生した火災件数をみると、粕屋町は11件で、県内のベンチマーク都市の中では平均よりやや少ない件数である。一方、糟屋地域の中では古賀市に次いで多く、篠栗町や志免町を大きく上回っている。
- 粕屋町よりも人口規模の大きい春日市や大野城市の方が少ない火災発生件数となっており、改善の余地はあると考えられる。

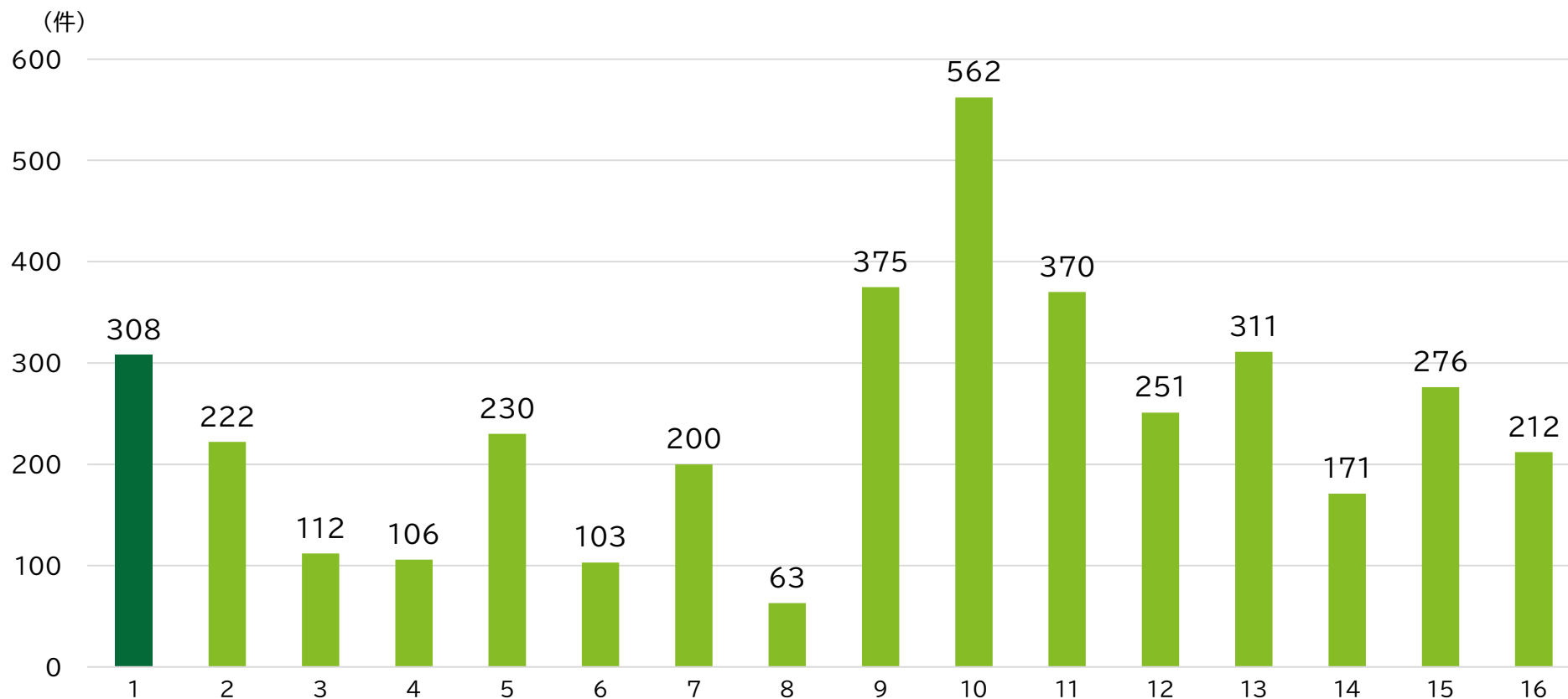


※福岡県出典のため、阿見町は調査なし  
出典:福岡県「消防年報」

# V.生活環境 | 4.防災・防犯

## 交通事故発生件数の比較(2023年)

- 2023(令和5)年の1年間に福岡県内で発生した交通事故件数をみると、粕屋町は308件で糟屋地域の中では最も多い。
- 糟屋地域の中で2番目に多い志免町とは80件程度の差があり、福岡都市圏の地域と比較しても、宗像市や福津市、糸島市、那珂川市は粕屋町より事故件数が少なくなっていることから、粕屋町の交通事故発生件数は比較的多い方だと考えられる。

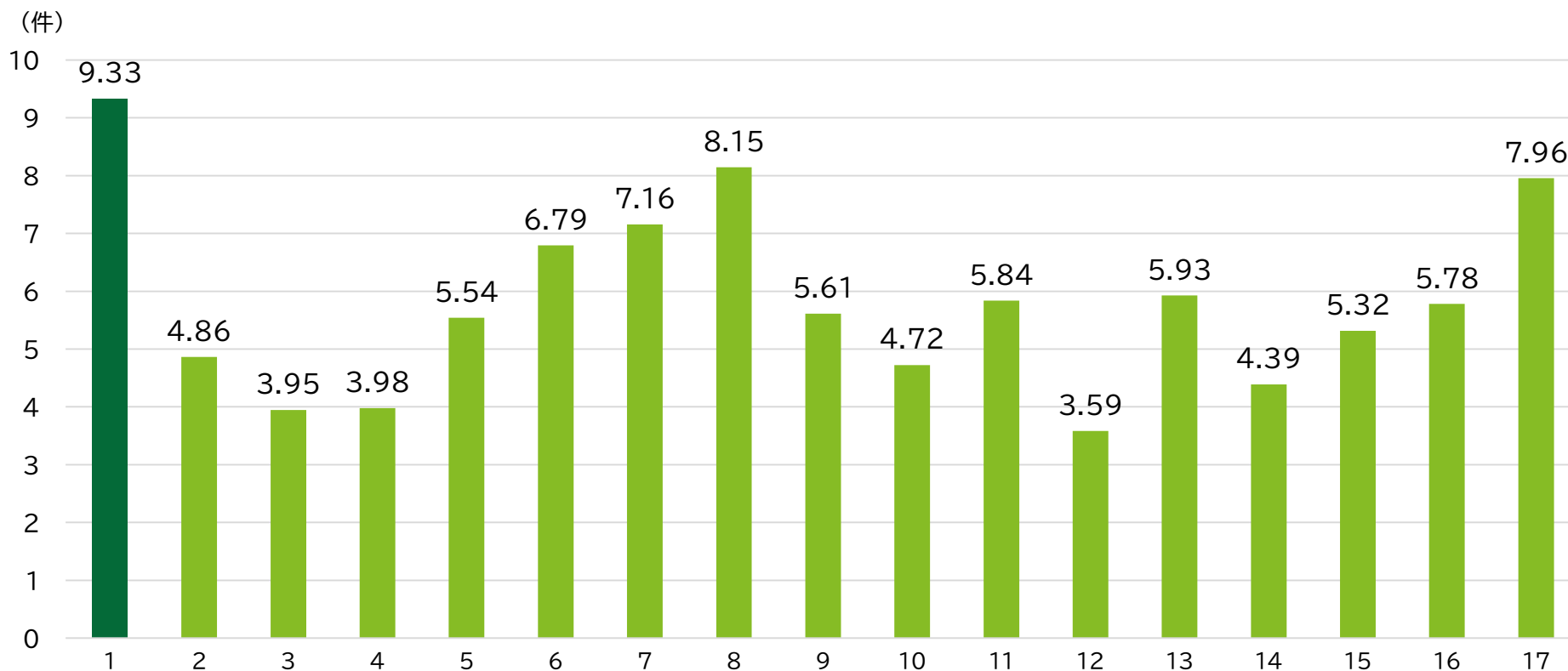


※福岡県出典のため、阿見町は調査なし  
出典:福岡県警察「事故統計」

# V.生活環境 | 4.防災・防犯

## 人口千人当たりの犯罪認知件数の比較(2023年)

- 粕屋町の2023(令和5)年の人口当たり犯罪認知件数は9.33件で、県内のベンチマーク都市の中では最も多く唯一9件を超えている。
- 人口が同規模の志免町、那珂川市を3.5件程度上回っており、粕屋町の犯罪発生率はかなり高いと考えられる。



※福岡県出典のため、阿見町は調査なし  
出典:福岡県警察「刑法犯市区町村別認知件数」

# VI.行政 | 1.行政組織

## 町の部門別職員数の推移

- ▶ 粕屋町の職員数は2018(平成30)年以降一貫して増加傾向にあり、2023(令和5)年は254人で2018(平成30)年より30人以上増加している。特に一般行政部門の増加幅が大きく、教育部門と合わせた普通会計部門の職員数が大きく増加している。
- ▶ 一方、公営企業等会計部門の職員数は2021(令和3)年以降1人ずつ減少している。

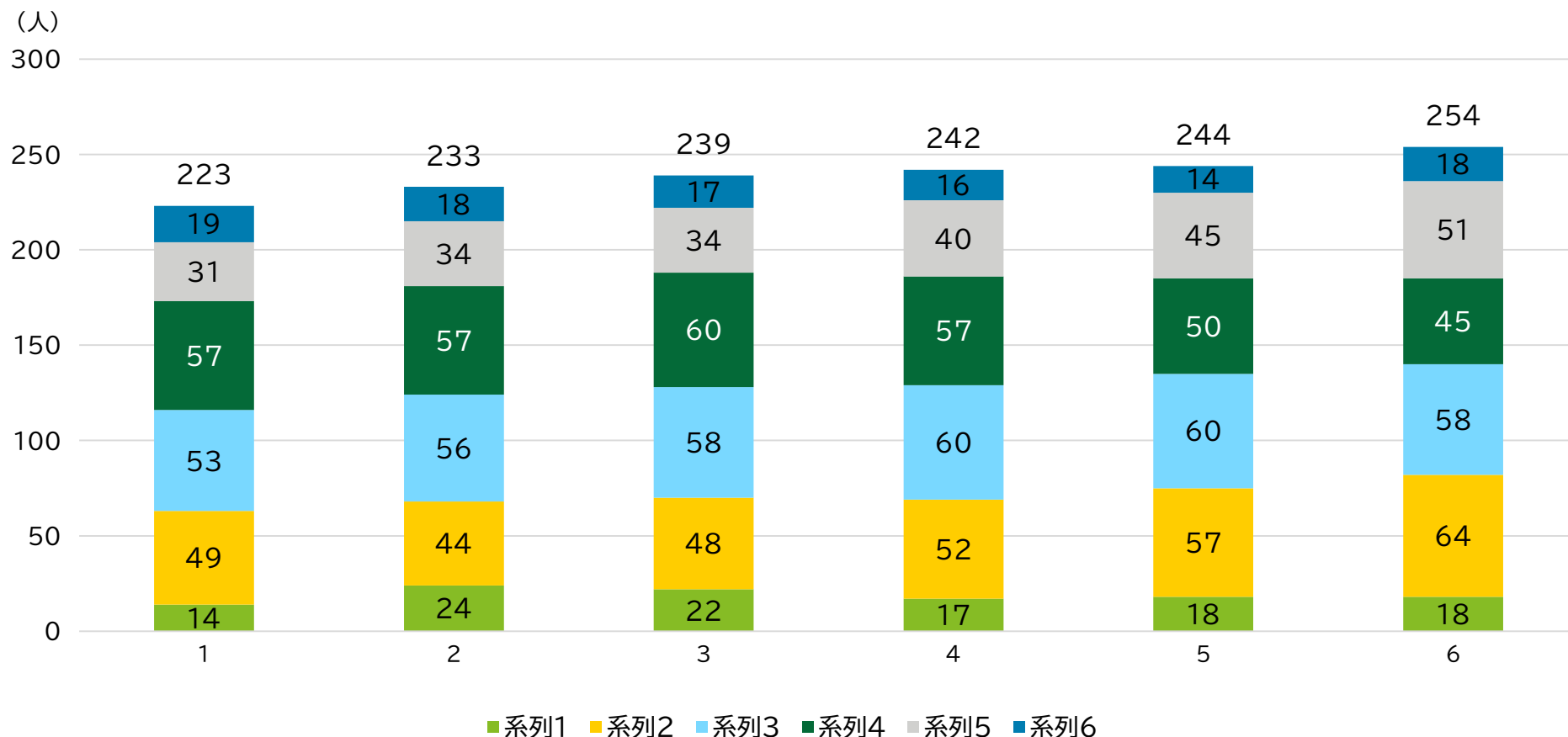


出典:粕屋町ホームページ

# VI.行政 | 1.行政組織

## 町の年齢構成別職員数の推移

- ▶ 粕屋町の職員数を年齢別にみると、2018(平成30)年から2020(令和2)年までは最も多い年齢階級が40～47歳であったが、2021(令和3)年と2022(令和4)年は32～39歳の代が最も多くなり、2023(令和5)年には24～31歳の代が最も多くなっている。
- ▶ 24～31歳の代は2018(平成30)年から2023(令和5)年で15人増えており、若手職員が増加傾向にあると考えられる。



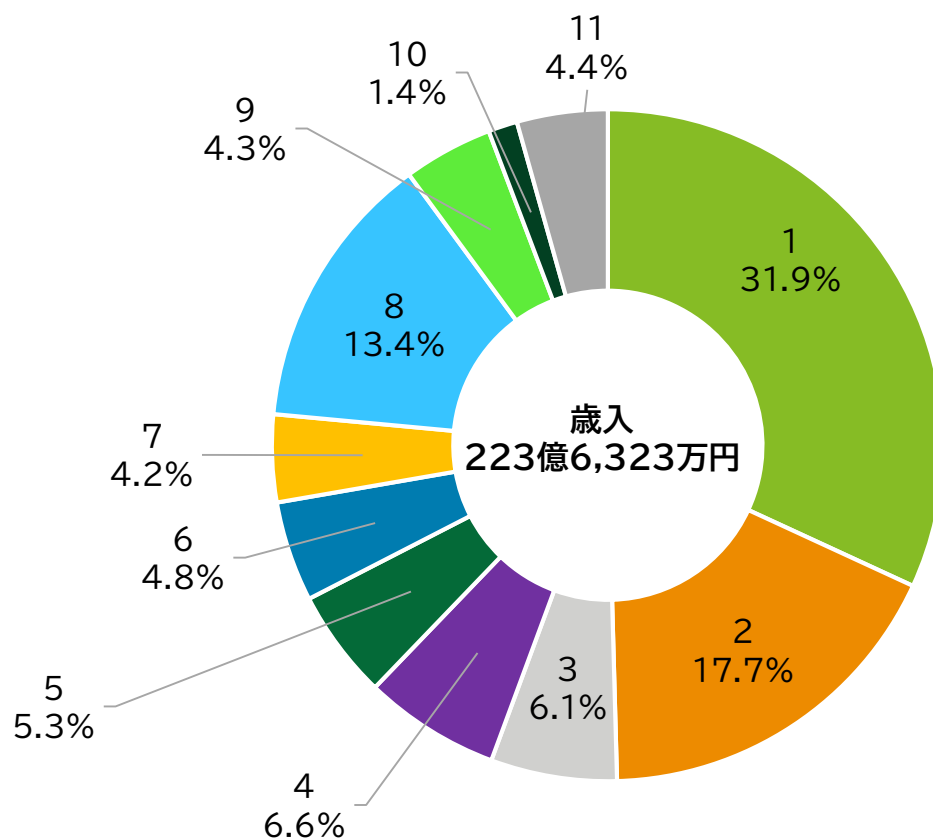
出典:粕屋町ホームページ



# VI.行政 | 2.財政

## 一般会計歳入決算額(2022年度)

➤ 2022年(令和4)度の歳入決算額は223億6,323万円で、最も高い割合を占めているのは地方税である。

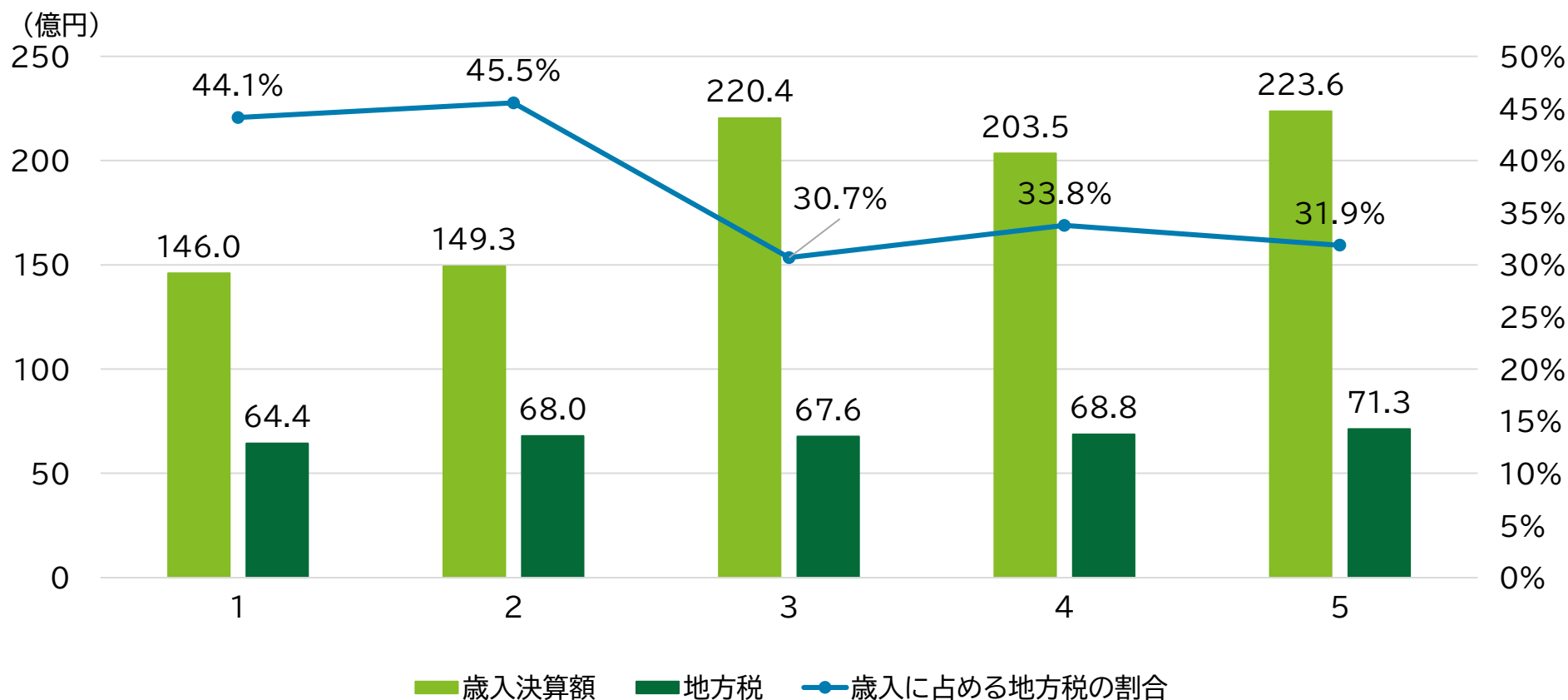


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 歳入決算額と地方税の推移

- 歳入決算額は2020(令和2)年度に大きく増加し、2021(令和3)年度に一度減少するが2022(令和4)年度には再度増加している。2022(令和4)年度は2018(平成30)年度以降では最も高い歳入決算額となっている。
- 地方税は2018(平成30)年度以降微増傾向にあり、2022(令和4)年度には70億円を超えている。

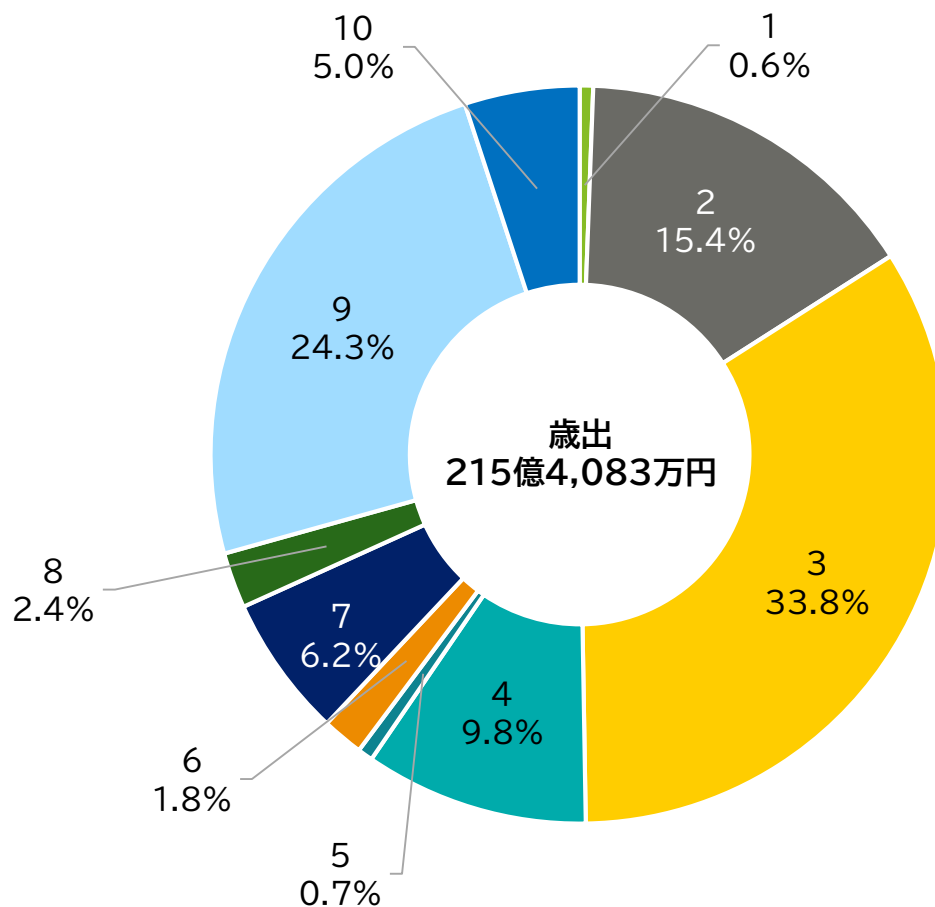


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 一般会計歳出決算額(目的別)(2022年度)

- 2022(令和4)年度の歳出決算額は215億4,083万円で、目的別内訳で見ると最も高い割合を占めているのは民生費である。
- 民生費は、高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉・保育所運営など、主に福祉に関する費用を含んでおり、歳出全体の33.8%を占める。



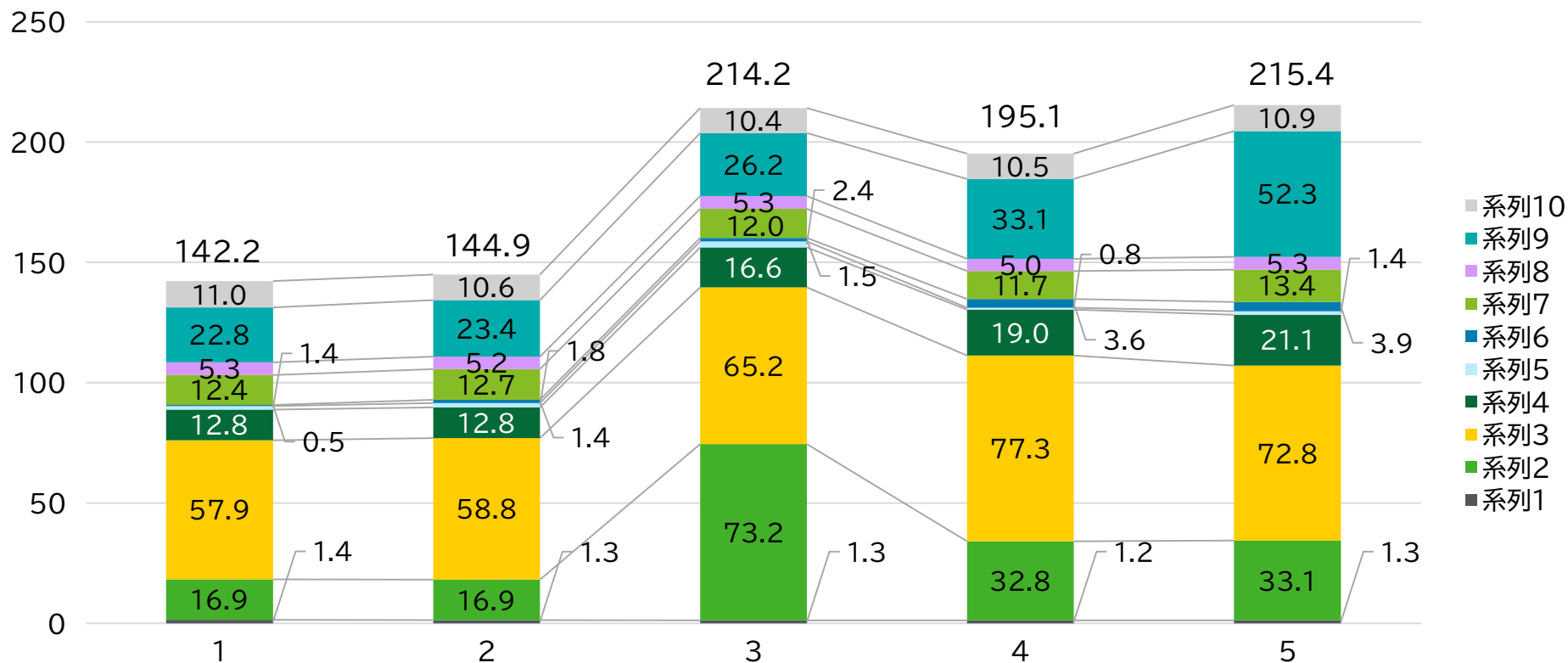
出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 歳出決算額と目的別内訳の推移

- 歳出決算額は歳入同様、2020(令和2)年度に大きく増加した後、2021(令和3)年度は減少するが2022(令和4)年度に再び増加し、2020(令和2)年度を上回る歳出決算額となっている。
- 目的別内訳で見ると、2020(令和2)年度に総務費が大きく増加するが、2021(令和3)年度には半分以下となっている。一方、2020(令和2)年度以降民生費と教育費が増加しており、これらが全体の決算額を押し上げていると考えられる。

(億円)

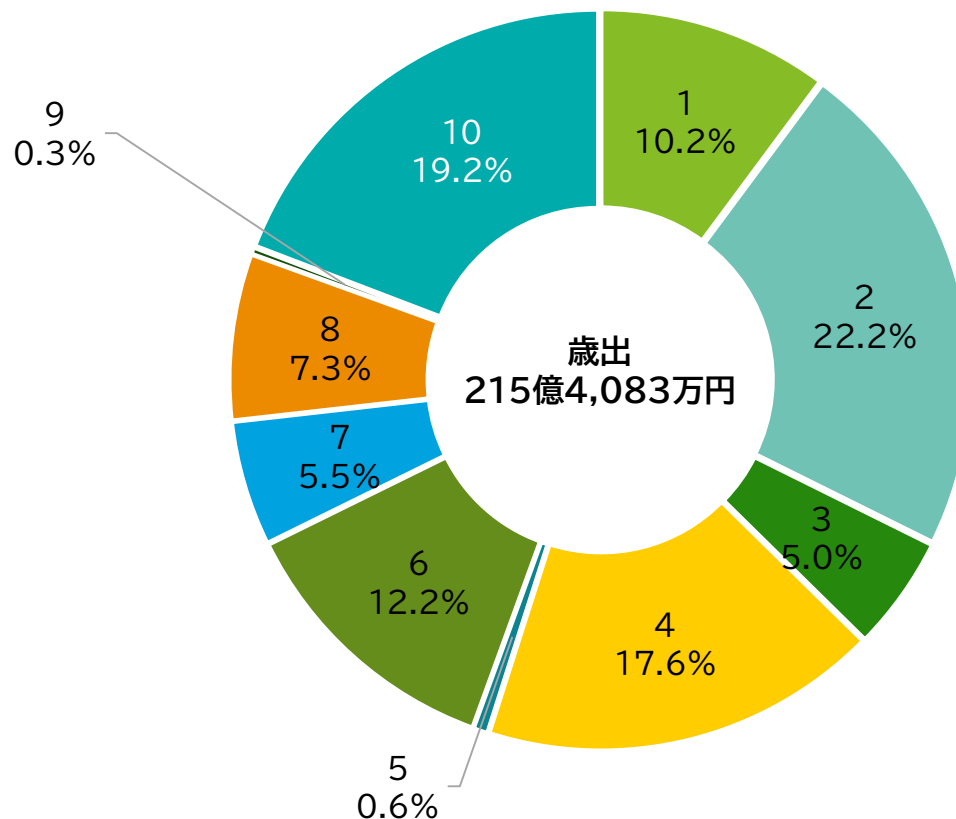


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 一般会計歳出決算額(性質別)(2022年度)

- 2022(令和4)年度の歳出決算額は215億4,083万円で、性質別内訳で見ると最も高い割合を占めているのは扶助費である。
- 扶助費は、児童や高齢者の被扶助者に対して支給する経費であり、歳出全体の22.2%を占める。

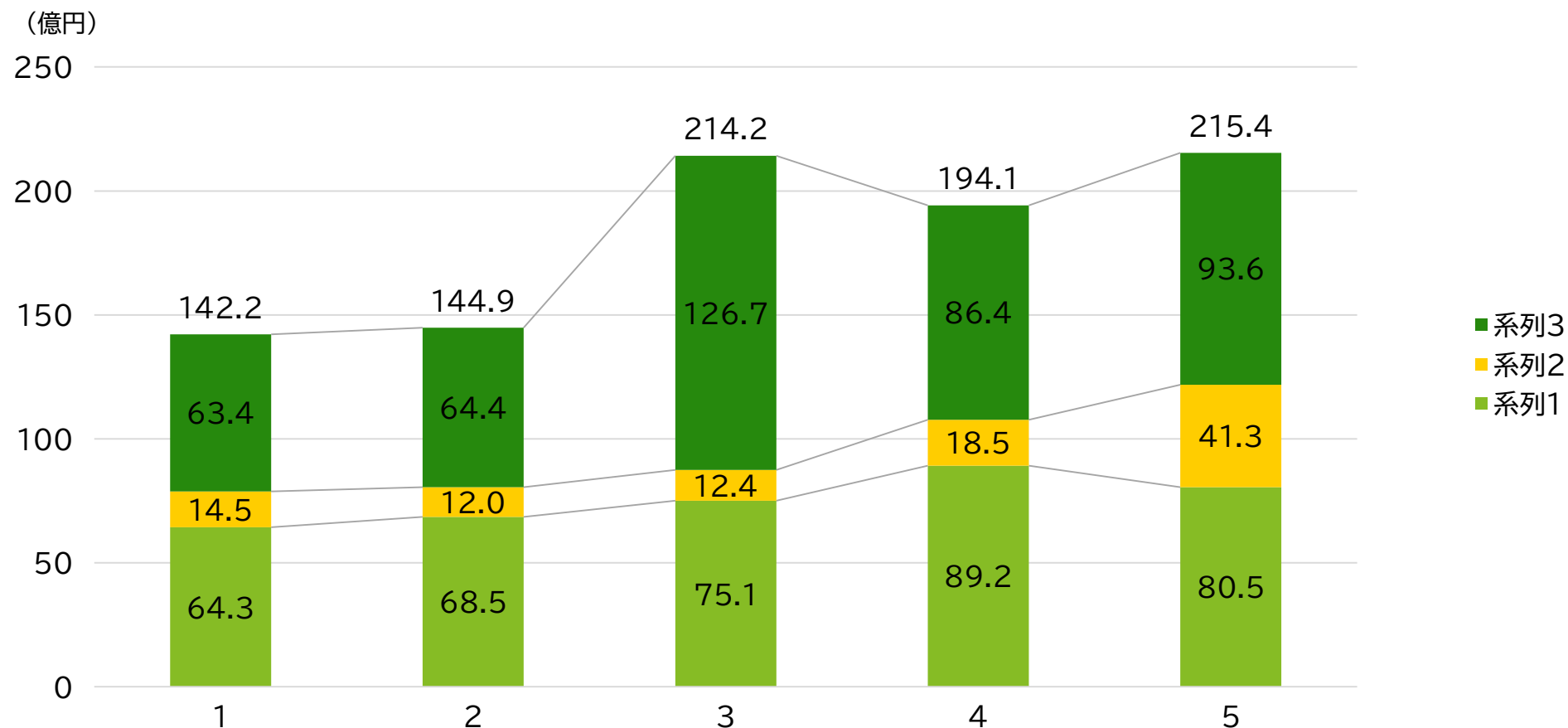


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 歳出決算額と性質別内訳の推移

- ▶ 性質別内訳で見ると、2020(令和2)年度にその他経費が大きく増加し、その後やや減少したが、2022(令和4)年度には再び増加し、2019(令和元)年度以前の水準より30億円程度高くなっている。
- ▶ 投資的経費は2021(令和3)年度以降大きく増加しており、2020(令和2)年度の約3.5倍の決算額となっている。
- ▶ 義務的経費も2018(平成30)年度と比べると増加しており、近年は歳出額が全体的に増加傾向にあることがわかる。

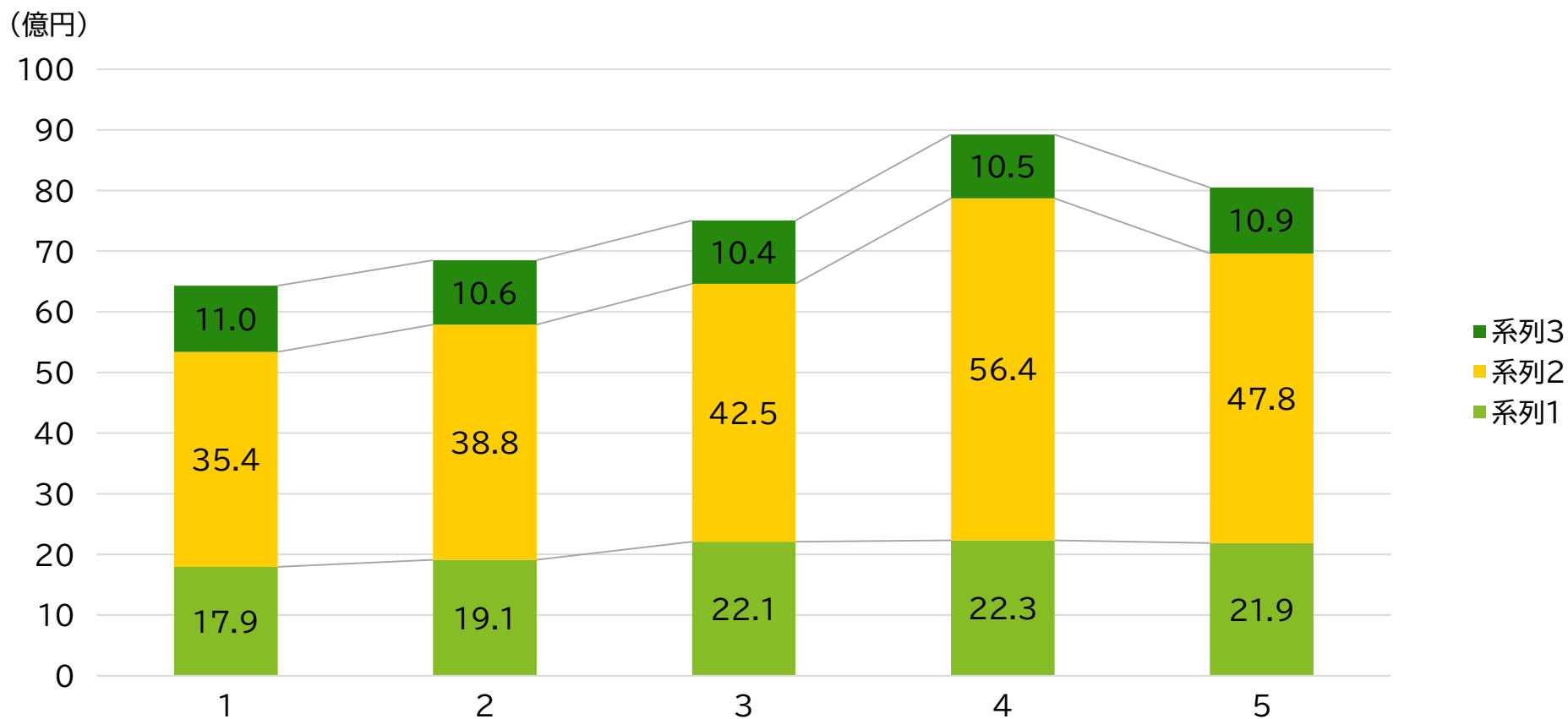


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 義務的経費の推移

▶ 義務的経費の内訳でみると、2021(令和3)年度にかけて扶助費が大幅に増加したが、2022(令和4)年度には減少しており、新型コロナウイルス感染症関連の国の給付金事業が拡大したことが影響していると考えられる。



出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 町民1人当たりの一般会計歳入歳出決算額(2022年度)

➤ 歳入・歳出決算額を市民1人当たりに換算すると、歳入で45万7,195円、歳出で44万382円となった。

### 歳入

項目	市民1人当たりの決算額(円)
地方税	145,736
国庫支出金	80,869
地方交付税	27,768
都道府県支出金	29,954
地方消費税交付金	24,031
繰入金	22,063
繰越金	19,236
地方債	61,438
寄付金	19,729
諸収入	6,409
その他	19,961
<b>歳入合計</b>	<b>457,195</b>

### 歳出

項目	市民1人当たりの決算額(円)
人件費	44,726
扶助費	97,646
公債費	22,191
物件費	77,313
維持補修費	2,743
補助費等	53,599
繰出金	24,185
積立金	32,205
投資・出資・貸付金	1,257
普通建設事業費	84,516
<b>歳出合計</b>	<b>440,382</b>

※2022(令和4)年12月末の住民基本台帳人口で算出  
小数点以下の端数は四捨五入している

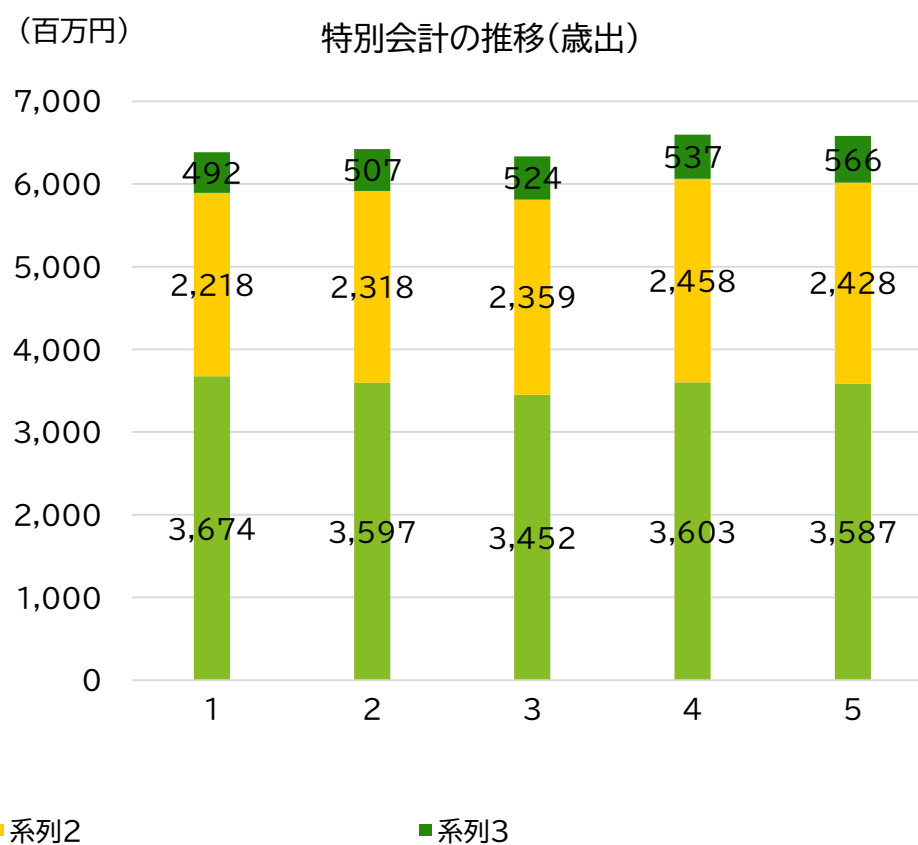
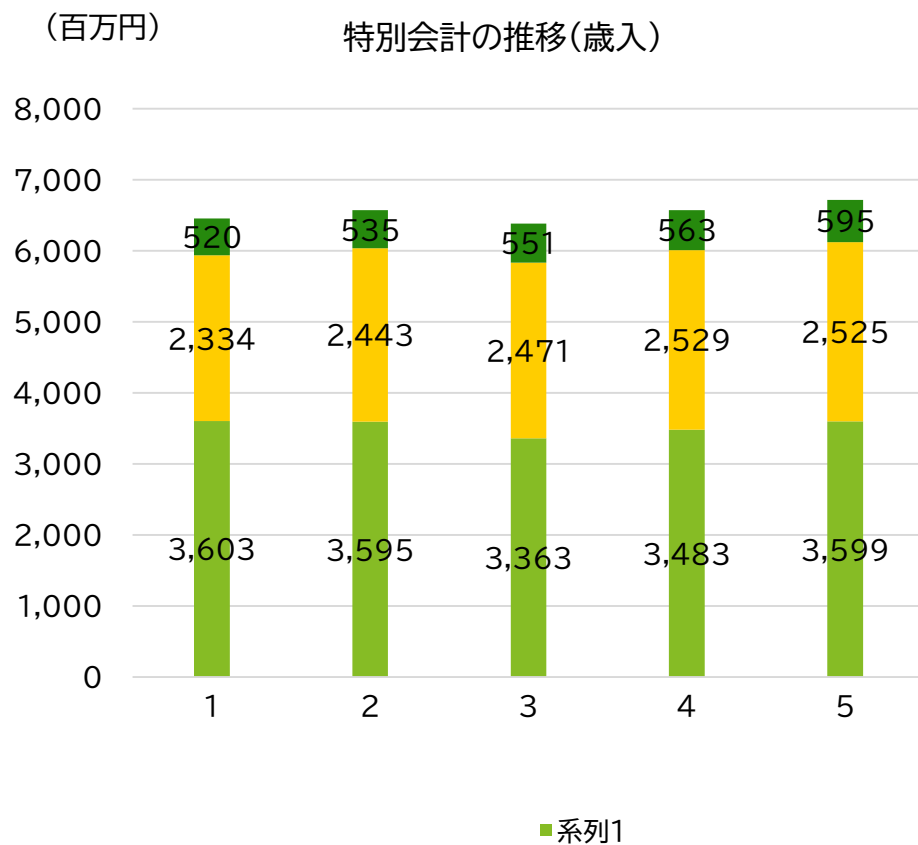
出典:総務省「財政状況資料集」



# VI.行政 | 2.財政

## 特別会計の歳入・歳出決算額の推移

- 歳入・歳出ともに国民健康保険特別会計が最も多くを占めている。
- 後期高齢者医療特別会計の決算額が一貫して増加傾向にあり、超高齢社会の影響を少なからず受けていることが推察される。

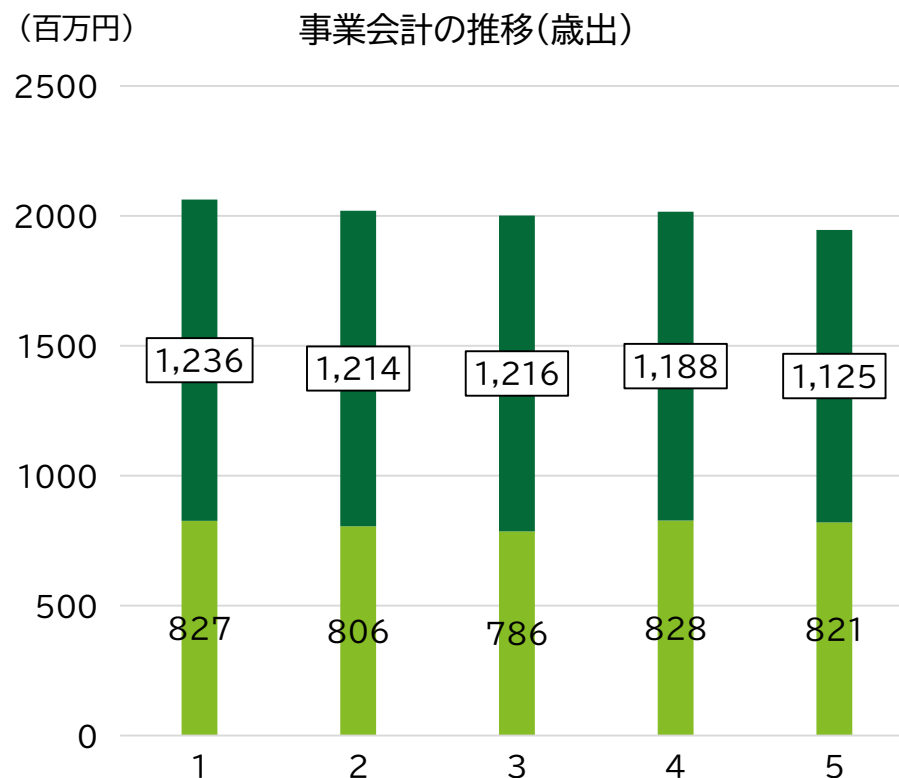
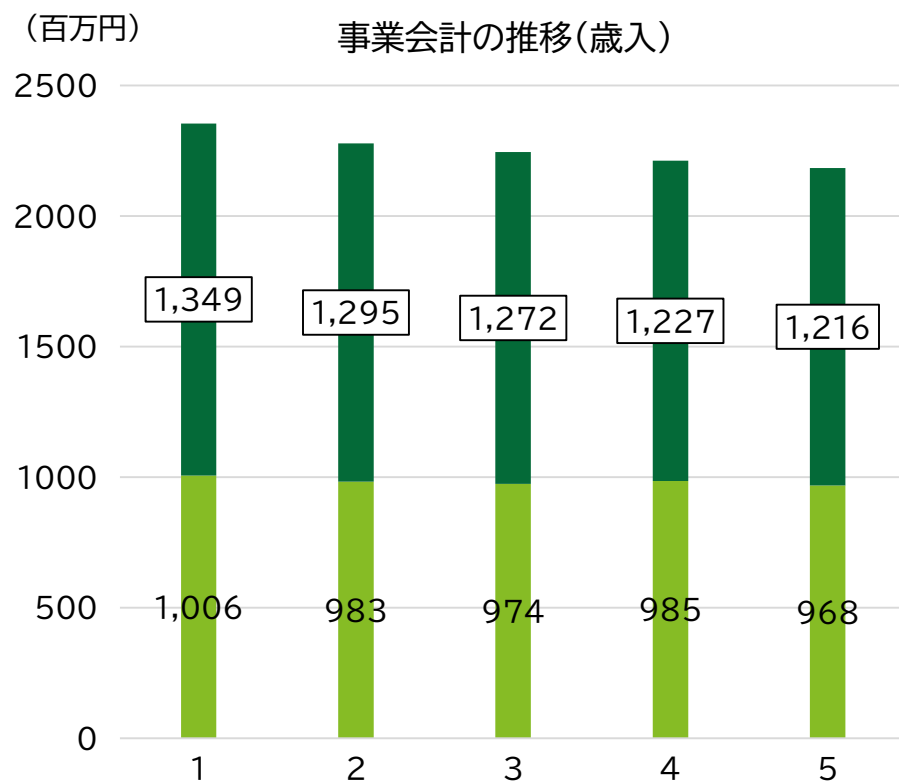


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 事業会計の歳入・歳出決算額の推移

- ▶ 流域関連公共下水道事業会計が多くを占めているが、近年は微減傾向にある。
- ▶ 水道事業会計においても2018(平成30)年度と比べると歳入・歳出ともに減少している。



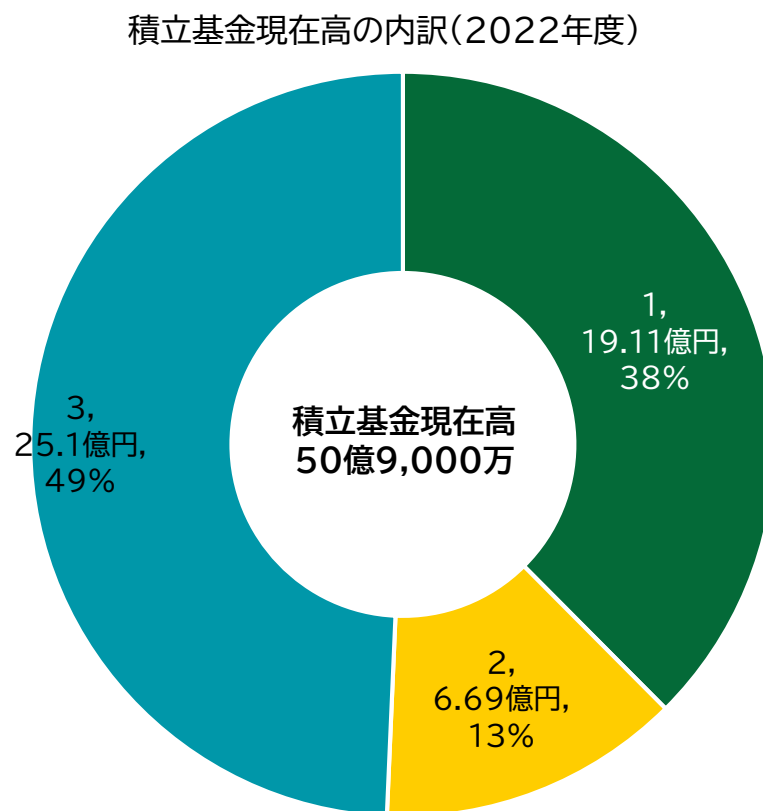
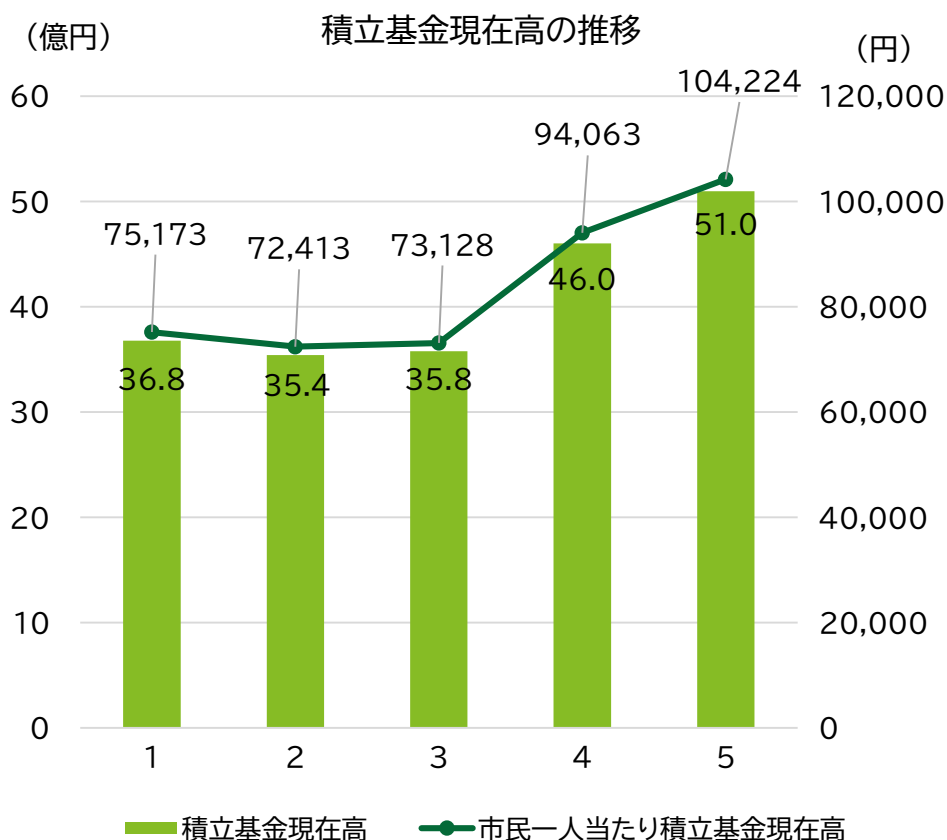
■系列1 ■系列2

出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 積立基金現在高の推移と内訳

- 積立基金現在高は2020(令和2)年度までは横ばい推移であったが、2021(令和3)年度以降急激に増加し、2022(令和4)年度には50億円を超えている。
- 内訳としてはその他特定目的基金が最も多く、約半分を占めている。

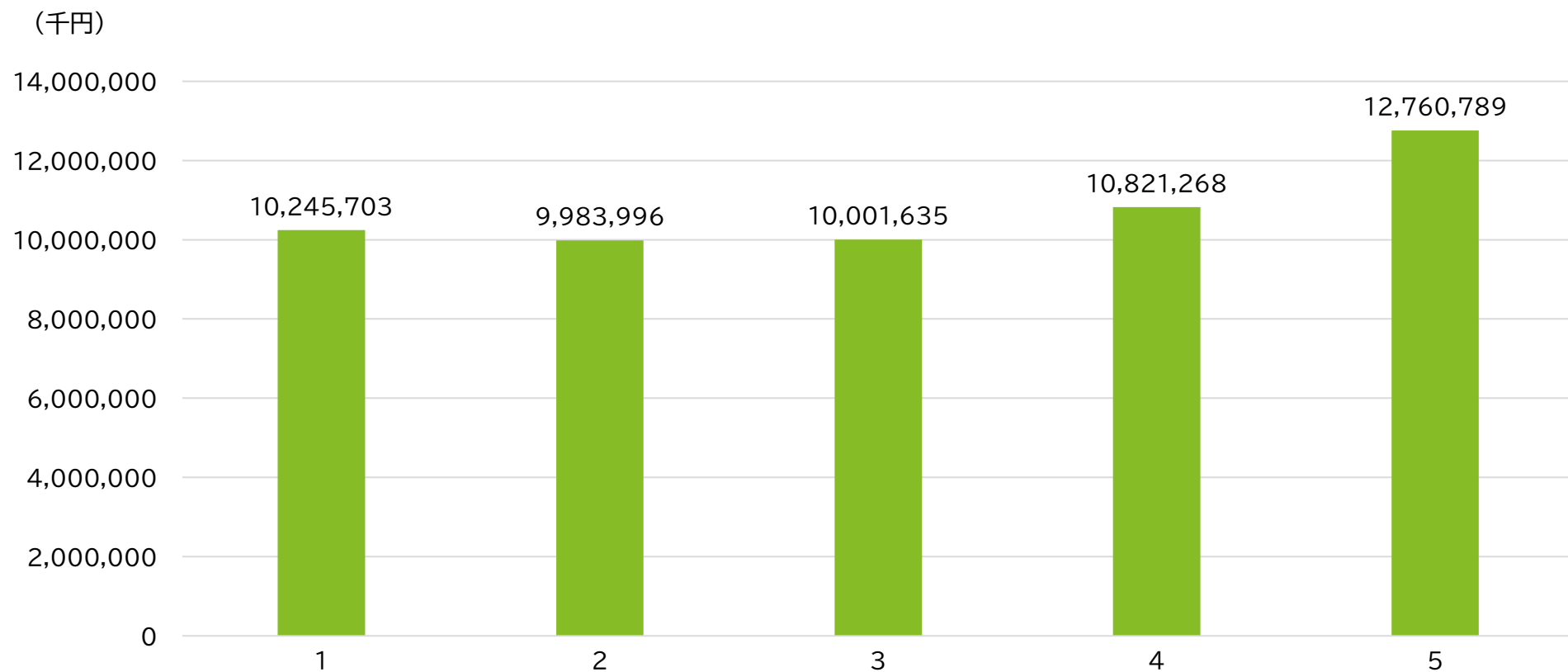


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 町債現在高の推移

▶ 町債は、2020(令和2)年度までは横ばい推移であったが、2021(令和3)年度以降大幅に増加し、2022(令和4)年度には2020(令和2)年度より20億円以上高くなっている。

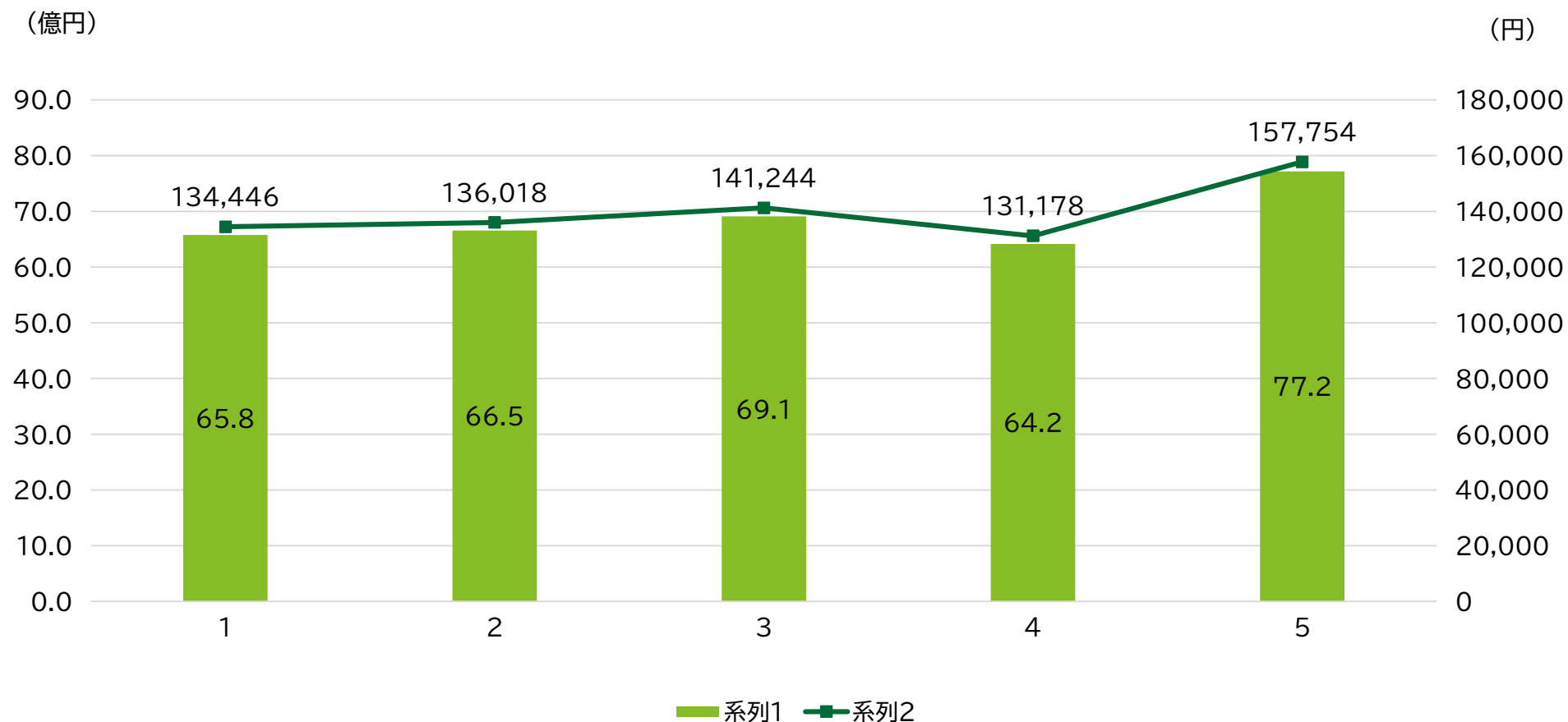


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 債務負担行為額の推移

➤ 債務負担行為額は2021(令和3)年度まで横ばい推移であったが、2022(令和4)年度に大幅に増加し、約77億円となっている。

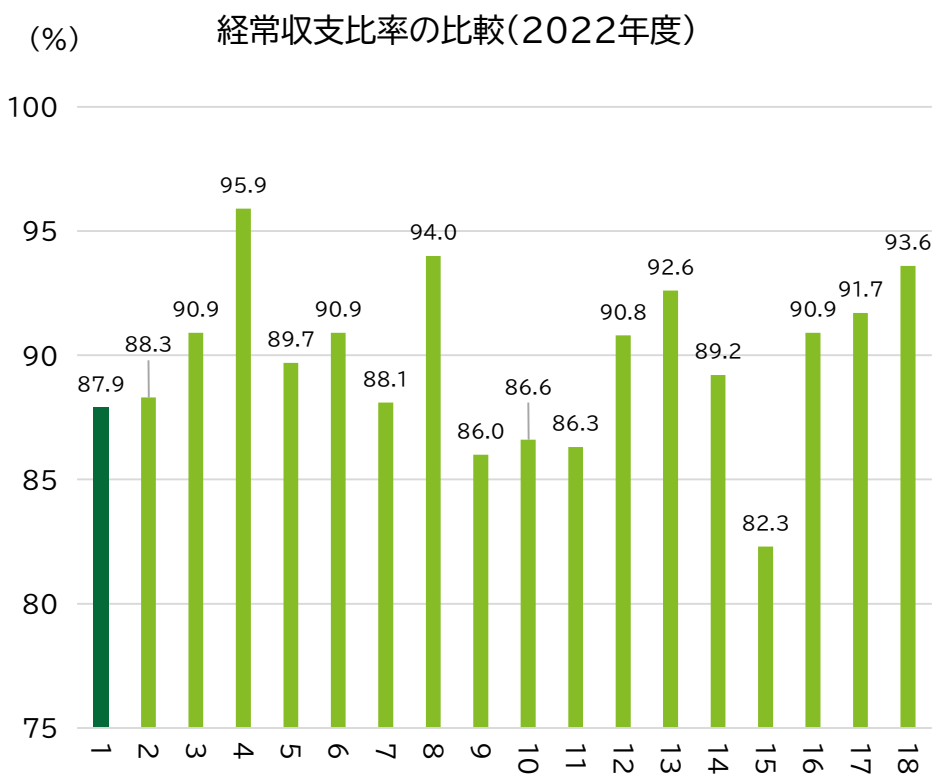
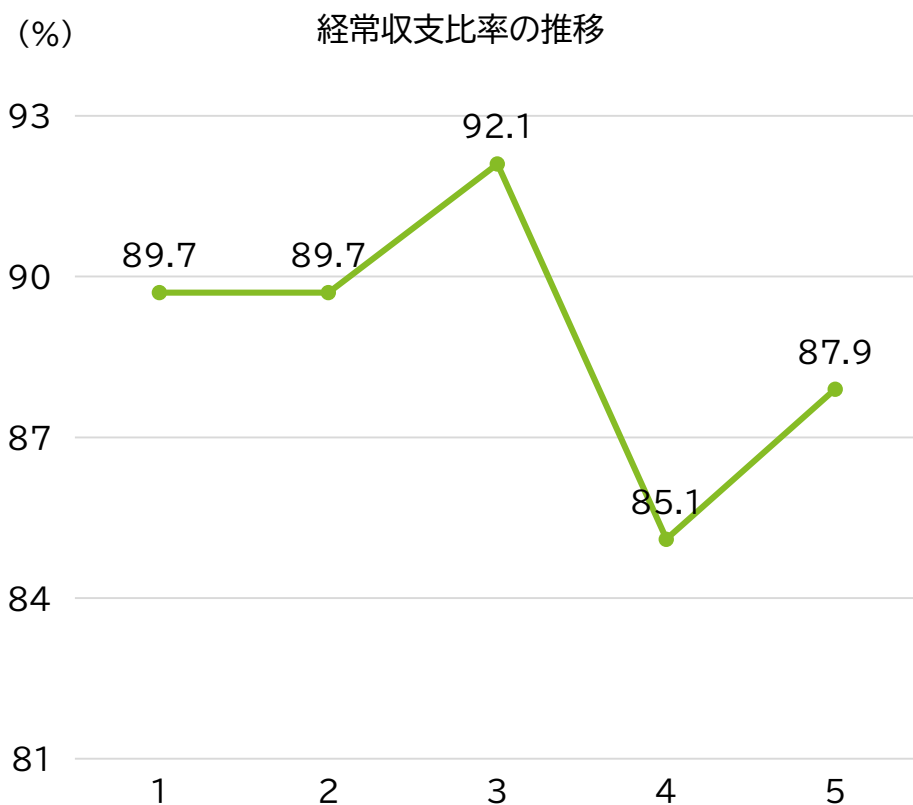


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 | 2.財政

## 経常収支比率の推移と比較

- ▶ 粕屋町の経常収支比率は2020(令和2)年度に90%を超えるものの2021(令和3)年度には85%まで下がっており、2022(令和4)年度には87.9%となった。
- ▶ ベンチマーク都市と比較すると、糸島市、筑紫野市、大野城市、春日市に次いで低く、比較的財政の硬直性は低いと考えられる。

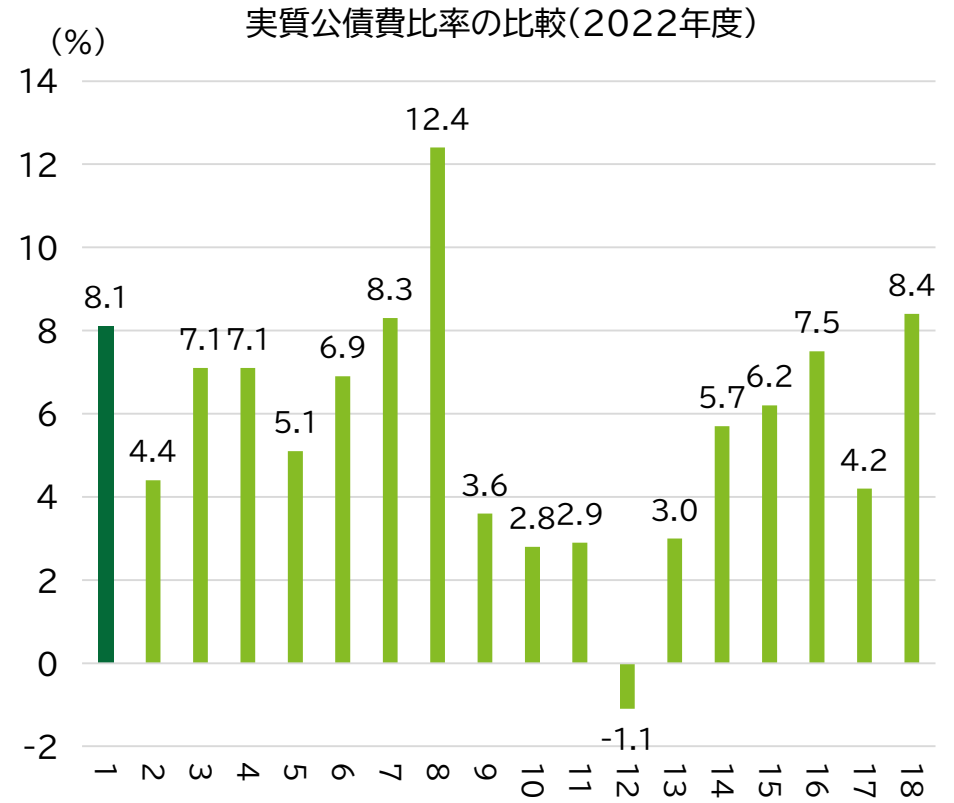
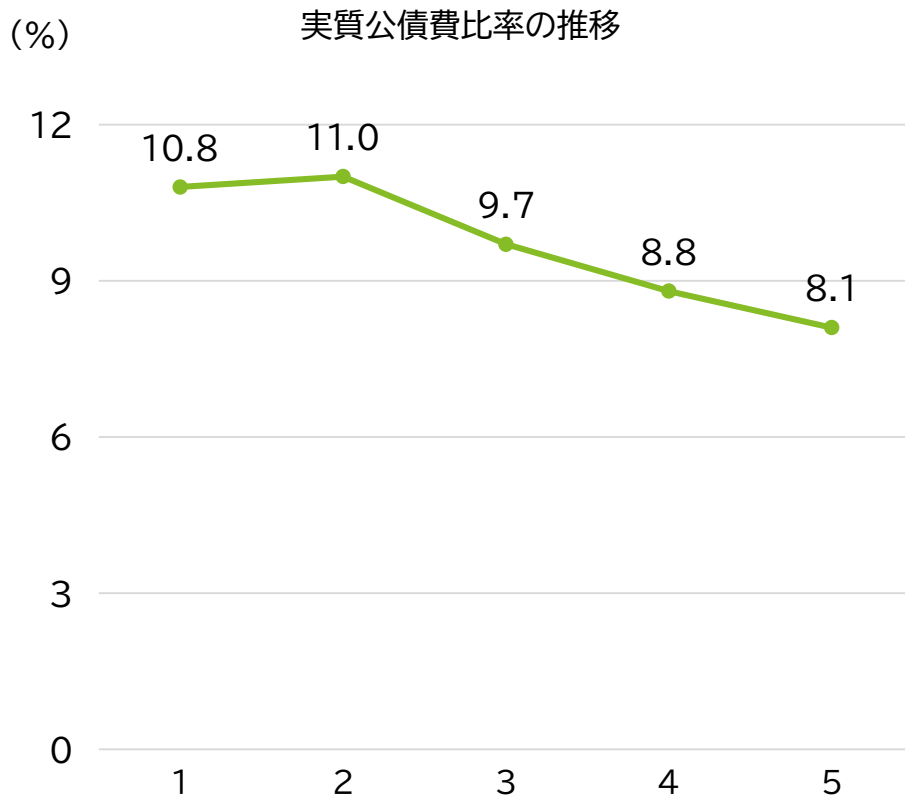


出典：総務省「財政状況資料集」、「市町村別決算状況調」

# VI.行政 | 2.財政

## 実質公債費比率の推移と比較

- ▶ 実質公債費比率は2019(令和元)年度以降減少傾向にあり、2022(令和4)年度には8.1%となっている。
- ▶ ベンチマーク都市の中では久山町、福岡市、新宮町に次いで4番目に高く、公債費の比率は比較的高くなっていることがわかる。



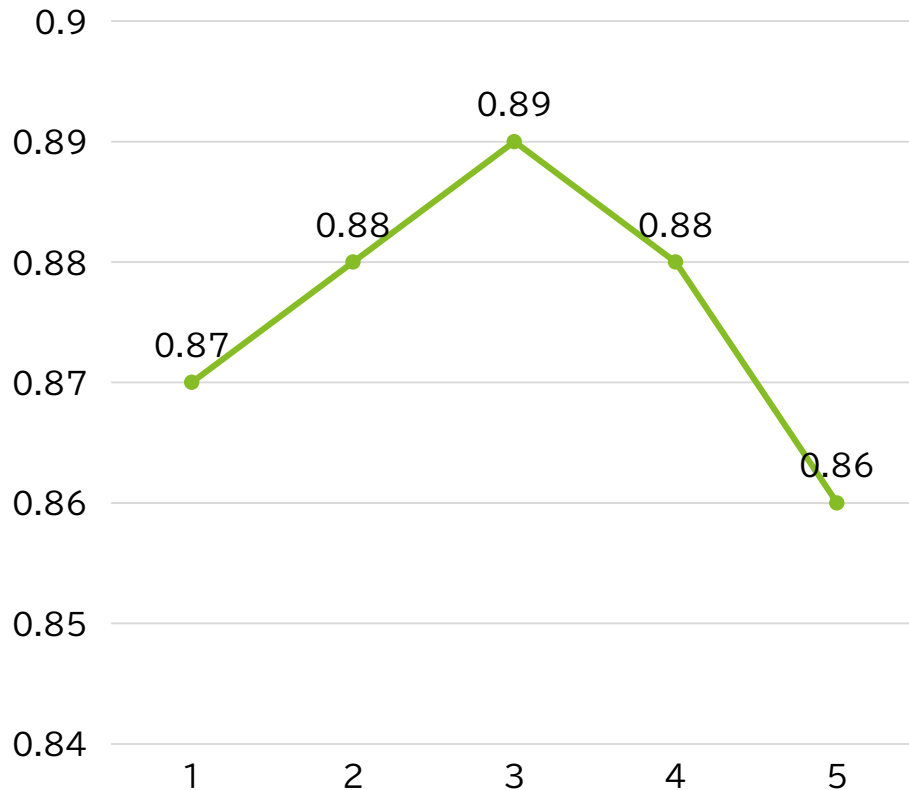
出典: 総務省「財政状況資料集」、「市町村別決算状況調」

# VI.行政 | 2.財政

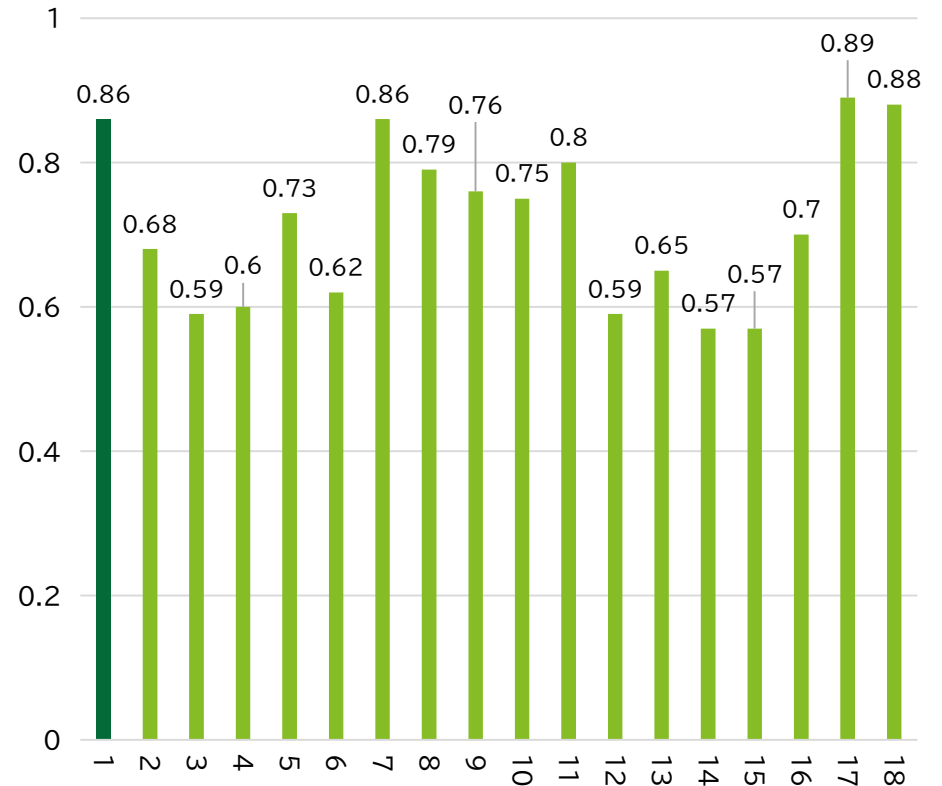
## 財政力指数の推移と比較

- 財政力指数は0.88前後を推移しており、2022(令和4)年度には0.86となっている。
- ベンチマーク都市の中では阿見町、福岡市に次いで高く、新宮町と同数である。
- 粕屋町の財政力には喫緊で大きな課題はないと捉えることができる。

財政力指数の推移



財政力指数の比較(2022年度)



出典：総務省「財政状況資料集」、「市町村別決算状況調」